

# 紀 要

## 第 3 号

- 美作地域における弥生時代の磨製石器生産・・・・・・・・・・米田 克彦  
雄町遺跡出土の分銅形土製品（資料紹介）・・・・・・・・・・柴田 英樹  
岡山県における弥生・古墳時代の刀剣類集成・・・・・・・・・・石田 爲成  
岡山県内出土古墳時代人骨の集成と子ども墓について・・・・・・・・四田 寛人  
総社市こうもり塚古墳出土の金属製品（補遺）・・・・・・・・藤井 雅大・金田 善敬  
倉敷市矢部南向遺跡の発掘調査・・・・・・・・・・澤山 孝之  
岡山市百間川原尾島遺跡の発掘調査・・・・・・・・・・山磨 康平・高田恭一郎

2024年 3 月

岡山県古代吉備文化財センター

# 目 次

美作地域における弥生時代の磨製石器生産	1
雄町遺跡出土の分銅形土製品（資料紹介）	15
岡山県における弥生・古墳時代の刀剣類集成	23
岡山県内出土古墳時代人骨の集成と子ども墓について	45
総社市こうもり塚古墳出土の金属製品（補遺）	55
倉敷市矢部南向遺跡の発掘調査	61
岡山市百間川原尾島遺跡の発掘調査	77



# 美作地域における弥生時代の磨製石器生産

米田 克彦

## 1 はじめに

岡山県北部の美作地域は中国山地山間部の津山盆地や吉井川・旭川上流域にあたり、両河川を介して県南部の瀬戸内海沿岸、北に峠を越えれば山陰の日本海沿岸、盆地や平野を伝って東は播磨、西は備中北部や備後とも繋がり、時代を越えて東西南北の交流の結節点となった。

美作地域に稲作が伝播すると、弥生時代に農耕社会が形成された。その実像は長年にわたる遺跡の発掘調査成果の蓄積によって具体的に解明されつつある<sup>(1・2)</sup>。大陸系磨製石器は稲作に伴って伝わり、生業や手工業生産の作業効率を高めた。そして、弥生時代は石器が石器から青銅器や鉄器に転換された時代でもある。

岡山県の弥生時代石器の研究は1980年代から深められた。まず、瀬戸内海沿岸を中心とした中・四国地方の弥生時代石器については、平井典子氏が器種組成や消長、石包丁の類型と地域性を概観したうえ、石器の流通について全体像を示した<sup>(3)</sup>。その後、平井勝氏が列島規模で各器種を網羅的に概観し、地域的な動向や変遷を明らかにするなかで多くを取り上げて詳しく検討したほか、岡山県南部の石器組成の変遷もまとめた<sup>(4・5)</sup>。そして、県北部の石器については安川豊史氏<sup>(6)</sup>が石器組成の変遷をまとめたほか、佐藤寛介氏<sup>(7)</sup>が津山市域を対象に石包丁の地域的特徴や編年について検討を加えた。

吉備における弥生時代石器の生産と流通については、高田浩司氏がサヌカイト製石器を中心に製作技術や搬入形態の分析を通じて生産と流通について検討したうえ、畿内と比較することで社会構造に迫った<sup>(8)</sup>。その後、草原孝典氏は弥生時代前期～中期の石器組成を丹念に整理し、岡山平野における石器の生産と流通、集落間の関係性について論じた<sup>(9)</sup>。

また、山ノ奥遺跡では弥生時代中期の遺構から石器とその未成品が多く出土した。これをもとに筆者は集落構造に加えて、石器の石材、器種組成や各種の製作技術を検討し、同遺跡の石器生産についてまとめた<sup>(10)</sup>。

さらに、藤井翔平氏は吉備南部における縄文-弥生移

行期の収穫具の変遷を検討してその特質を明らかにし、農耕を主な生業とする社会的背景を論じた<sup>(11)</sup>。

美作地域では弥生時代の集落や墓の調査例が多く、弥生文化を形成する諸要素の調査研究が進められているが、弥生文化を特徴づける大陸系磨製石器の研究については、他の資料や地域に比べて低調な現状にある。

そこで本稿では美作地域の磨製石器を対象に、製作遺跡、組成や製作技術を検討することで、その生産の特徴や利器の鉄器化について考察したい。なお、本稿では発掘調査された遺跡を対象とし、表採資料は省略した。

## 2 磨製石器製作遺跡の分布と変遷

美作地域で弥生時代の磨製石器未成品が出土した遺跡は55か所あり、製作遺跡とみられる(第1表)。時期別にみると、前期～中期1、前期～後期2、中期20、中期～後期16、後期10、不明6に分けられる。

前期は遺跡が少なく、事例に限られる。津山盆地の高橋谷遺跡は前期後半から中期中葉を主体とする集落で、美作地域のなかでもいち早く磨製石器が製作された。

中期前葉は集落が少ないなか、高橋谷遺跡や吉井川上流域の久田原遺跡で製作されている。そして、中期中葉



※Noは第1表と対応。

第1図 美作地域における弥生時代の磨製石器製作遺跡の分布 (S=1/1,500,000)

第1表 美作地域における弥生時代の磨製石器未・完成品（製品）の出土数

第1図	所在地	遺跡名	主な時期	未 成 品						工 具			完 成 品 ・ 製 品					文献			
				原石素材	太型蛤刃石斧	扁平片刃石斧	柱状片刃石斧	環状石斧	磨製石包丁	石錐	叩石	砥石	太型蛤刃石斧	扁平片刃石斧	柱状片刃石斧	環状石斧	磨製石包丁		磨製石剣		
1	真庭市美甘	堂の前遺跡	後期														7	1			
2	真庭市福田	福田A遺跡	中～後期														4	2			
3	真庭市西河内	荒神風呂遺跡	中期後半			剥離1											2	3			
4	真庭市西河内	旦の原遺跡	中期後半～後期初頭			素材1 剥離2												5			
5	真庭市西原	西原遺跡	中期			剥離1											1	4			
6	真庭市檜西	上野遺跡	後期後半～末			剥離3 研磨1											2	6			
7	真庭市台金屋	大旦遺跡	(前期末～後期)															7			
8	真庭市中原	旦山遺跡	後期															8			
9	真庭市三崎	樋ヶ鼻遺跡	中期後葉～後期中葉		剥離2 敲打1	剥離2 研磨4											5	9			
10	鏡野町杉	杉遺跡	中期中葉														4	10			
11	鏡野町久田下原	岡遺跡	中期後葉、後期後葉			剥離3											1	11			
12	鏡野町久田下原	久田原遺跡	中期中葉～後葉			剥離2											13	(1) 12			
13	鏡野町久田下原	久田堀ノ内遺跡	中期後葉～後期前葉		敲打1												1	14			
14	鏡野町久田下原	夏栗遺跡	中期中葉～後期中頃		敲打1	剥離?1											6	14			
15	鏡野町布原	大開遺跡	不明															15			
16	鏡野町布原	六番丁場遺跡	不明			剥離?1												15			
17	鏡野町布原	九番丁場遺跡	不明															15			
18	津山市戸島	男戸嶋遺跡	中期後半		敲打1	素材1												19			
19	津山市戸島	荒神峪遺跡	中期後葉～後期後葉															20			
20	津山市大田	大田茶屋遺跡	弥生			剥離1											3	16			
21	津山市大田	大田西奥田遺跡	中期			剥離4											1	16			
22	津山市大田	大田大正間遺跡	中期		敲打1												1	16			
23	津山市大田	大田障子遺跡	弥生														1	16			
24	津山市大田	大田十二社遺跡	後期中葉～末														12	17			
25	津山市下高倉西	ビヤコ谷遺跡	中期後半														1	18			
26	津山市総社ほか	美作国府跡	中期中葉～後期前葉		剥離1												6	21			
27	津山市山北	高橋谷遺跡	(前期後半～中期前半)		○	○	○	○	○								○	22			
28	津山市沼	京免遺跡	後期前葉～後葉														3	12	23		
29	津山市沼	竹ノ下遺跡	中期後葉														2	2	23		
30	津山市沼	沼EⅡ遺跡	中期後半?																24		
31	津山市押入	押入西遺跡	中期後葉																25		
32	津山市日上	日上小深田遺跡	後期後半			剥離?1													26		
33	津山市河辺	天神原遺跡	後期															10	27		
34	津山市河辺	岡田遺跡	後期前半		敲打?1												3	3	28-29		
35	津山市金井	金井別所遺跡	中期後葉			剥離1													30		
36	津山市金井	一貫西遺跡	中期後葉			剥離2													31		
37	津山市小原	樋ノ口遺跡	前期～後期																32		
38	津山市小原	小原遺跡	後期前葉～中葉			剥離1												4	33		
39	津山市小原	瓜生原小原B遺跡	中期後半～後期前葉			剥離1													34		
40	津山市桑下	隠地東遺跡	中期中葉	素材1		剥離?1											1	2	35		
41	津山市桑下	荒神遺跡	中期後半～後期後半																36		
42	津山市久米川南	法事坊遺跡	中～後期?															5	3	36	
43	津山市戸脇	糠山遺跡	中期後葉			剥離2														36	
44	津山市上村	山ノ奥遺跡	中期中葉～後葉	原石1 素材2	剥離6 敲打13 研磨7	素材5 剥離14 敲打13 研磨14	剥離2 敲打4 研磨2	穿孔1												37	
45	奈義町中島	野田遺跡	中期後葉																	38	
46	勝央町福吉	若王寺遺跡	弥生																	39	
47	勝央町植月東	弥平治遺跡	中～後期		敲打1 研磨2	剥離11 敲打1 研磨6														40	
48	勝央町岡	小中遺跡	中期末～後期中葉			剥離4 研磨1														15	27-41
49	勝央町黒土	大河内遺跡	中期中葉			剥離1														43-44	
50	勝央町小矢田	宮ノ上遺跡	中期中葉～後期中葉			3													13	42	
51	美作市古町	八幡山遺跡	中期後半～後期前葉		1	剥離1														5	45
52	美作市古町	尾崎遺跡	中～後期?																	1	45
53	美作市今岡	今岡中山遺跡	後期前葉																	3	45
54	美作市川戸	川戸古墳群	中期?		剥離2 敲打1	素材1 剥離1															46
55	美作市川北	高本遺跡	中期中葉		剥離1	剥離1															47
合 計					4	43	114	8	7	125	-	-	-	60	50	6	4	204	2	-	

※上記のほか、【真庭市】下市瀬遺跡、大旦遺跡、高屋B散布地、【鏡野町】丸ヶ嶋遺跡、竹田遺跡、葡萄田頭遺跡、瀬戸遺跡、野元遺跡、【美咲町】塚の平遺跡、【津山市】小田中遺跡、紫保井遺跡、向林遺跡、東蔵坊遺跡、堀坂星ヶ平遺跡、曾根田遺跡、二宮岡東遺跡、別所谷遺跡、西吉田遺跡、堀坂地区、野村高尾遺跡、沼遺跡、沼EⅠ遺跡、大畑遺跡、領家遺跡、勝負峪遺跡、桑山遺跡、桑山南古墳群、【勝央町】大河内遺跡、小池谷遺跡、国司尾遺跡、坂田遺跡、田井たれをず遺跡、田井ちご池遺跡、【美作市】高岡遺跡、鍛冶屋谷遺跡、鎌倉山遺跡、庵山遺跡、穴が谷遺跡、今岡D遺跡で磨製石器（製品）が出土している。なお、本表は表採資料は対象外とした。合計は高橋谷遺跡の出土数を含まない。○は出土あり。

～後葉は同地域の広い範囲で集落が急増し、荒神風呂遺跡、旦の原遺跡、樋ヶ鼻遺跡、杉遺跡、久田原遺跡、久田堀ノ内遺跡、夏栗遺跡、ビシャコ谷遺跡、男戸嶋遺跡、押入西遺跡、一貫西遺跡、隠地東遺跡、椽山遺跡、山ノ奥遺跡、大河内遺跡などで磨製石器生産が盛行する。これらの遺跡は旭川上流域、吉井川上流域とその支流の加茂川流域、津山盆地、吉野川流域と広範囲に分布する。

後期は堂の前遺跡、上野遺跡、旦山遺跡、樋ヶ鼻遺跡、荒神峪遺跡、天神原遺跡、小原遺跡、弥平治遺跡、八幡山遺跡、今岡中山遺跡などで磨製石器が製作される。遺跡の分布範囲は中期とほぼ同じであるが、吉井川支流の吉野川上流域で新たに遺跡が加わる。ただ、遺跡数や石器の出土数は中期から大幅に減少し、後期末に収束する。

### 3 磨製石器の製作遺構

美作地域で磨製石器未成品が出土した遺構等は、竪穴住居55、掘立柱建物4、段状遺構7、土坑14、墓3、柱穴列1、柱穴・ピット4、溝8、河道1、遺構外45、不明3の145例ある。竪穴住居からの出土例が大半を占めることから、集落内では主に竪穴住居で石器製作を行っていた可能性が高い。

竪穴住居からの出土例では、磨製石器の未成品や製品のみが少数出土する例が多い。そうしたなか、山ノ奥遺跡の竪穴住居4・7・9～11・24、荒神風呂遺跡の竪穴住居1、旦の原遺跡のNo.11・14住居跡、弥平治遺跡の5号住居址群は、磨製石器の未成品や製品だけでなく、石器石材の剝片、砥石や叩石の工具が伴い、石器製作跡として捉えることができる。このうち、山ノ奥遺跡では、石器製作跡の竪穴住居4・9・11の3軒は他の竪穴住居よりも大形であるだけでなく、竪穴住居4・11は大型蛤刃石斧と扁平片刃石斧、竪穴住居9は扁平片刃石斧、竪穴住居10は磨製石包丁、竪穴住居7・24はサヌカイト製打製石器を主体的に製作していた。また、剝片や工具の出土は乏しいものの、上野遺跡の竪穴住居3では扁平片刃石斧と磨製石包丁、ビシャコ谷遺跡の5号長方形住居状遺構、押入西遺跡の段状遺構周辺、一貫西遺跡の住居址1では磨製石包丁、樋ヶ鼻遺跡の竪穴住居15、岡遺跡の竪穴住居1では扁平片刃石斧、八幡山遺跡の段状遺構25では環状石斧の未成品が複数出土し、特定の器種を製作した遺構であった可能性がある。

### 4 磨製石器の組成

次に、美作地域で製作された磨製石器の器種について検討する。第1表に示したように、磨製石器の各種未成品をまとめると、大型蛤刃石斧43点(14.4%)、扁平片刃石斧114点(38.3%)、柱状片刃石斧8点(2.7%)、環状石斧7点(2.3%)、磨製石包丁125点(42.0%)、磨製石剣1点(0.3%)の計298点が出土している。

磨製石器未成品の出土数と器種を遺跡ごとに比べると、生産規模は大まかに3つに分けられる。まず、山ノ奥遺跡では未成品が100点も出土しており、同地域では群を抜いて生産規模が大きい。しかも、製作器種は大型蛤刃石斧、扁平片刃石斧、柱状片刃石斧、環状石斧、磨製石包丁、磨製石剣、打製石器などと多様である。出土数及び規模は明確ではないが、高橋谷遺跡は多種多様な磨製石器を製作する点で、山ノ奥遺跡と共通する。

次いで、弥平治遺跡、西原遺跡、樋ヶ鼻遺跡、上野遺跡では未成品が10～20点とやや多い。いずれの遺跡も扁平片刃石斧を製作する点で共通するが、旭川上流域の西原遺跡、上野遺跡、樋ヶ鼻遺跡では磨製石包丁、吉野川支流の滝川流域の弥平治遺跡では大型蛤刃石斧を重点的に製作しており、主力製品が地域によって異なる。このほか、上記6遺跡以外の遺跡の多くは、磨製石器未成品の出土が10点未満と少なく、小規模な生産である。

磨製石器未成品出土遺跡における完成品・製品の出土数を器種ごとにみると、大型蛤刃石斧は26遺跡で計60点、柱状片刃石斧は6遺跡で計6点、扁平片刃石斧は24遺跡で計50点、環状石斧は5遺跡で計5点以上、磨製石包丁は38遺跡で計204点、磨製石剣は2遺跡で計6点(石包丁の転用)が出土している。

美作地域では、磨製石包丁と扁平片刃石斧、あるいはそのどちらか一方を製作する遺跡が圧倒的に多い。扁平片刃石斧は美作地域で広く普遍的に作られる。それに対し、磨製石包丁は旭川上流域や吉井川上流域、津山盆地の大半の遺跡で多く製作される一方、吉野川流域では尾崎遺跡や川戸古墳群でわずかに製作される程度で、小地域性が認められる。また、大型蛤刃石斧は山ノ奥遺跡で多く製作されるほか、弥平治遺跡、川戸古墳群、樋ヶ鼻遺跡などと製作遺跡は限られる。さらに、環状石斧は吉野川流域や吉井川上流域の遺跡にやや偏在して製作され

ている。このほか、磨製石剣は希少ながら、吉井川上流域の遺跡を中心に認められる。

## 5 磨製石器の製作技術

次に、太型蛤刃石斧、扁平片刃石斧、柱状片刃石斧、環状石斧、磨製石包丁の使用石材や製作技術について検討する。なお、石器の各種分類は註4文献に準ずる。

### (1) 太型蛤刃石斧 (第2図)

未成品は13遺跡で、計43点が認められる。山ノ奥遺跡では剥離工程品6、敲打工程品13点、研磨工程品7点の計26点、弥平治遺跡は敲打工程品1点、研磨工程品2点、川戸古墳群や樋ヶ鼻遺跡はそれぞれ剥離工程品2点と敲打工程品1点の計3点、美作国府跡や高本遺跡は剥離工程品各1点、久田堀ノ内遺跡、夏栗遺跡、岡田遺跡、男戸嶋遺跡は敲打工程品各1点が出土している。特に、山ノ奥遺跡は未成品が多いうえ、各工程の未成品が見られることから、美作地域で最も生産規模が大きく、一貫した生産が行われたと考えられる。次いで、弥平治遺跡、川戸古墳群、樋ヶ鼻遺跡は各工程の未成品が複数認められるが、出土数は少なく、生産規模は小さい。他の遺跡は特定の工程の未成品が1点程度出土しており、単発的な生産であった可能性がある。太型蛤刃石斧の生産は中期に主体的に行われたが、後期は破損品が出土することが多く、縮小したことが推測される。

石材は玄武岩、安山岩、ヒン岩、緑色片岩、砂岩を主体とするほか、角閃石頁岩、角閃石安山岩、斑レイ岩、石英安山岩などがある。

製作は、原石→剥離→敲打→研磨→仕上げの工程をたどる。こうした一連の工程は他の石斧にも共通する。山ノ奥遺跡の事例を基本としつつ、製作工程を復元する。

まず、原石は厚板状の円礫を選択している(1)。山ノ奥遺跡では加茂川流域の玄武岩を主に採取した可能性がある。山ノ奥遺跡出土玄武岩は、白石純氏によって、加茂川上流域の津山市吉見地内の路頭があるカンラン石玄武岩とともに偏光顕微鏡観察による岩石種の同定や蛍光X線分析を実施した結果、各元素の分析値がほぼ一致したことが検証された<sup>(12)</sup>。剥離工程では、原石の周縁をだまかに直接剥離して、棒状に近づくように成形する(2・3)。山ノ奥遺跡出土未成品(2)では接合資料により、長さ6cmの剥片が剥ぎ取られたことが分かる。次

に剥離面の稜線を潰すために敲打を施し、刃部や基部を意識しながら、断面が楕円形になるまで全体を整える(4~7)。続いて、研磨を全面にわたって行い、剥離面や敲打痕を研ぎ消す(8~10)。その後、刃部を研いで完成となる(11~15)。なお、山ノ奥遺跡では太型蛤刃石斧未成品27点が認められるなか、敲打工程13点のうち8点、研磨工程品7点のうち4点が失敗品であることから、敲打・研磨工程で欠損する比率が高かったと推測される。

完成品・製品は35遺跡、計75点が出土している。基部は円基や平基があり、側面が平行で、断面が円形に近い楕円形となるⅢB類が大半を占める。長さ21cm、幅6.5cm、厚さ5cm、重量1,100g前後の大形品(ⅢB類)、長さ15cm前後、幅6~7cm、厚さ4~5cm、重量600~800g前後の中形品がある。また、同形で断面が扁平な両刃石斧(ⅢA類)も散見される。

### (2) 柱状片刃石斧 (第3図)

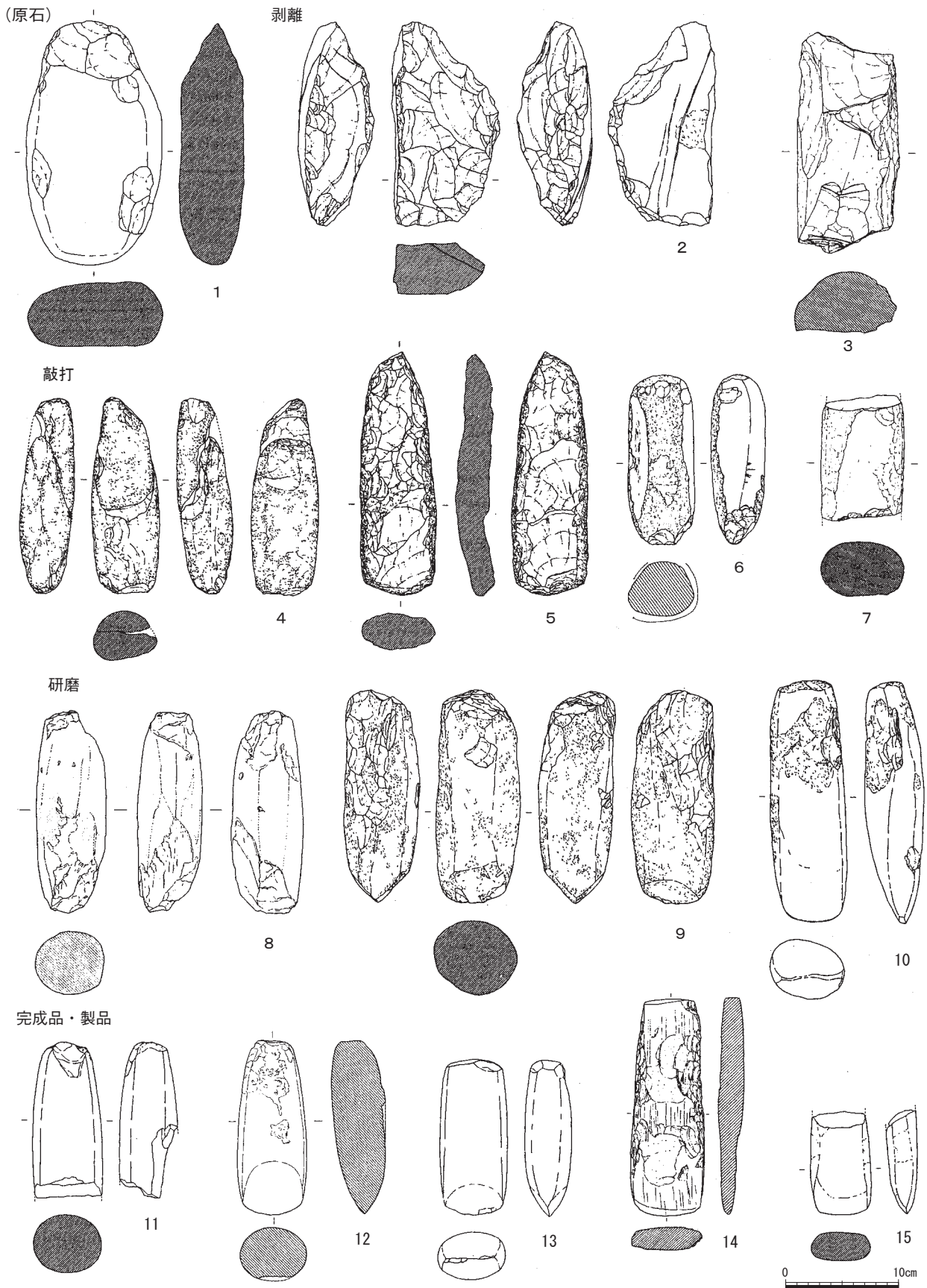
山ノ奥遺跡で8点、高橋谷遺跡で未成品が確認されている。石材は緑色片岩、砂岩、変斑レイ岩、安山岩、石英閃緑岩製など様々である。

製作工程は山ノ奥遺跡の事例から復元できる。柱状片刃石斧は小ぶりの円礫状原石の周りに直接剥離して、断面が方形に近い直方体に成形したものを素材とする。剥離工程では、刃部と基部を意識して調整剥離する(16・17)。続いて、敲打は前主面や側面を中心に行われ、剥離面を平滑にする(18・19)。そして、研磨工程では断面形が長方形や方形、あるいは台形になるように整形する(20)。その後、刃を研いで完成となる(21~25)。

完成品・製品は山ノ奥遺跡、押入西遺跡、椽山遺跡、高本遺跡、田井たれをず遺跡の6遺跡で計6点が出土し、美作地域では希少である。時期は中期中葉~後葉である。製品は、挟りがあって断面が台形を呈するもの(Ⅰ類B)が高橋谷遺跡で認められるほかは、挟りがないⅡ類が多い。Ⅱ類は、田井たれをず遺跡では長さ14cm、断面が長方形で幅が狭いもの(Ⅱ類A)、山ノ奥遺跡では長さ10cm程度、小形で断面が方形のもの(Ⅱ類B)と幅広のもの、椽山遺跡では小形で幅広のものがある。

### (3) 扁平片刃石斧 (第4図)

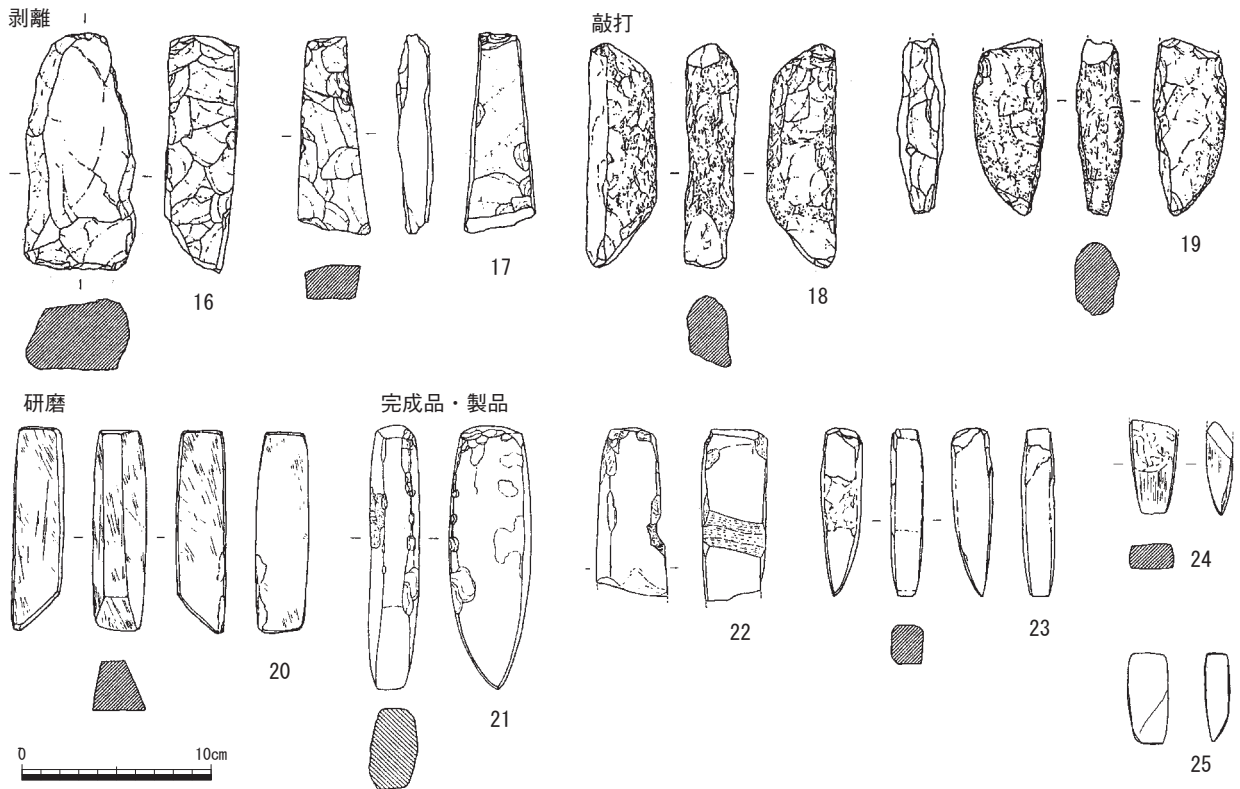
未成品は27遺跡で、計114点と多く出土した。旭川、吉井川、吉野川の各上流域の遺跡で未成品が認められ、



1・2・4・5・9～11・15山ノ奥（中期中葉～後葉）、3・7川戸古墳群（弥生？）、6夏栗（6中期中葉）、  
 8弥平治（中～後期）、12小中遺跡（中期中葉）、13樋ヶ鼻（中期中葉）、14竹田（中期中葉～後期中葉）  
 [1・2・5・10・13玄武岩、14玄武岩？、4・9・11・15綠色片岩、6珩岩、他は不明]

第2図 美作地域の大型蛤刃石斧未・完成品、製品 (S=1/5)





16～20・23・24 山ノ奥（中期中葉～後葉）、21 田井たれをず（中期後半）、22 高橋谷（前期後半～中期前半）、25 椽山（中期後葉）  
 [16～19・23・24 緑色片岩、20 流紋岩・21 流紋岩質溶結凝灰岩、25 変斑レイ岩、他は不明]

第3図 美作地域の柱状片刃石斧未・完成品、製品 (S=1/4)

美作地域で広く製作された。なかでも、山ノ奥遺跡では素材5点、剥離工程品14点、敲打工程品13点、研磨工程品14点の計46点が出土しており、美作地域で最も盛んに作られた。次いで、弥平次遺跡では剥離工程品11点、敲打工程品1点、研磨工程品6点の計18点と多い。続いて、樋ヶ鼻遺跡で6点、小中遺跡で5点の未成品が認められるほかは、未成品が4点以下の遺跡が大多数を占める。

製作は、山ノ奥遺跡や弥平治遺跡の事例から復元できる。原石・石核は明確ではないが、長さ12cm、幅5cm、厚さ2cm前後の板状剥片を素材とする(26～29)。剥離工程では周縁を細かく調整剥離し、平面形が長方形や長台形になるように成形する(30～33)。次に、表裏面に敲打を施し、剥離面の稜線を潰して平滑にする(34～37)。続いて、各面を研磨して整形する(38～43)。その後、片側に刃部を研いで完成させる(44～51)。中期は丁寧に研磨されたものが多いが、時期が下るにつれて研磨を簡略化して刃部のみを研ぐものが見られる。

完成品・製品は31遺跡で計67点が出土している。山ノ奥遺跡で10点、久田原遺跡や小中遺跡で各5点、大河

内遺跡で4点が出土したほか、3点以下の出土遺跡が大多数である。石材は、緑色片岩、流紋岩、玄武岩を主体とし、安山岩、粘板岩、玄武岩質凝灰岩なども認められる。規格は長方形板状で、長さ12cm、幅5cm、厚さ2cm前後の大形品、長さ8～9cm、幅5cm、厚さ1cm前後の中形品、長さ6cm、幅4cm、厚さ0.8cm前後の小形品、長さ10cm、幅2～3cm、厚さ1cm前後の細長形、長さ3～4cm、幅2cm、厚さ0.5cmの極小品がある。また、樋ヶ鼻遺跡では、極小品と同じような規格で、サヌカイト製で刃部を研磨した剥片も認められる。

(4) 環状石斧 (第5図)

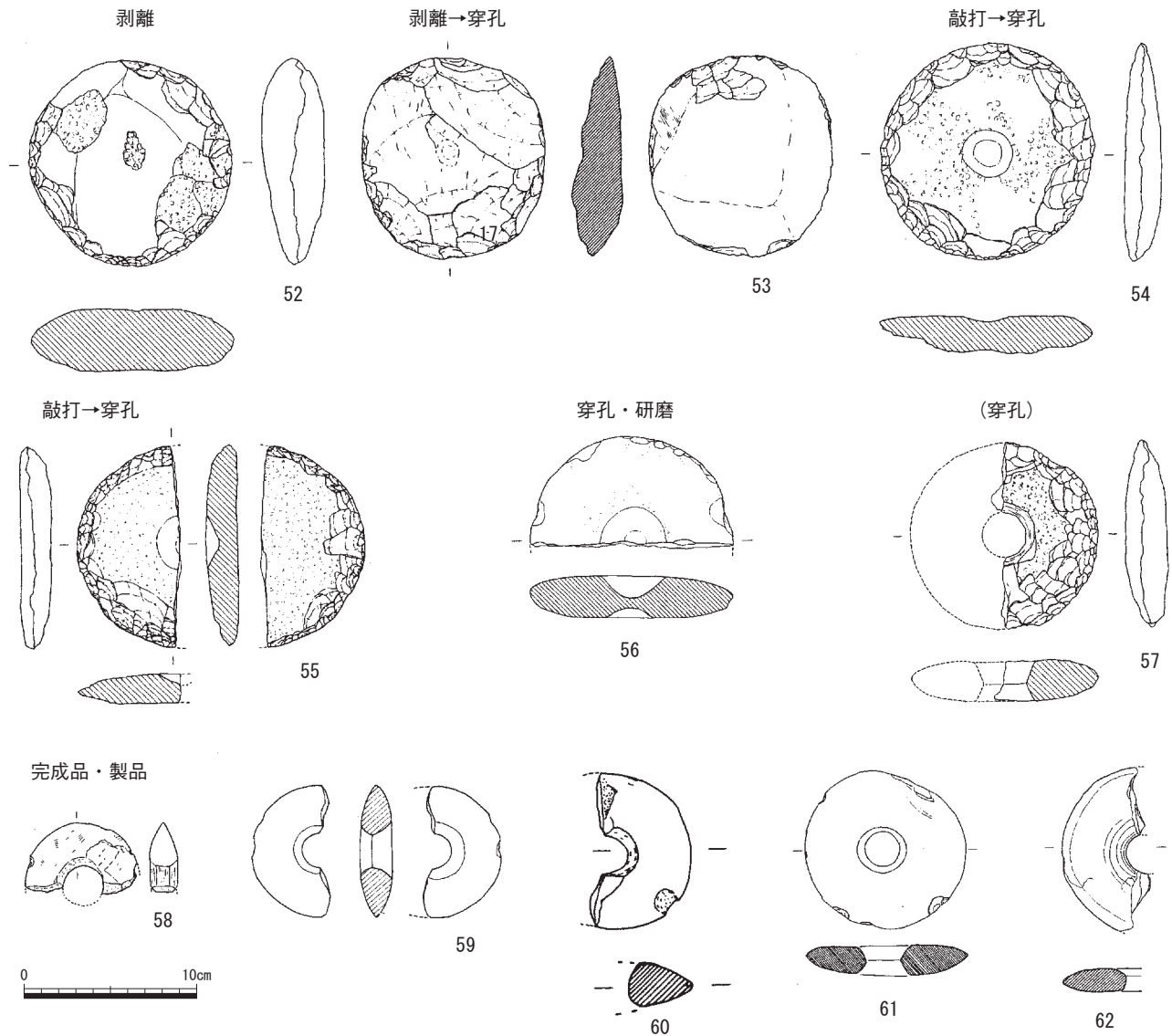
未成品は6遺跡で計7点あり、大田茶屋遺跡で剥離工程品1点、八幡山遺跡で敲打、穿孔、研磨工程品が各1点、美作国府跡、山ノ奥遺跡、八幡山遺跡、今岡中山遺跡で穿孔工程品が各1点、高橋谷遺跡で出土している。石材は安山岩や玄武岩を主体とし、砂岩、細粒閃緑岩、溶結凝灰岩も認められる。

原石は扁平な円礫を用い、側面から半裁して素材とした可能性がある。剥離工程では周縁を大まかに調整剥離して円盤状に成形する(52・53)。敲打は表裏面を重点



26・27・30～32・34～39・42・49・51 山ノ奥 (中期中葉～後葉)、28・33 旦の原 (中期後半～後期初頭)、29・40・41 弥平治 (中～後期)、43・50 樋ヶ鼻 (43 中期後葉、50 後期前葉)、44 八幡山 (中期後半)、45 久田堀ノ内 (中期後葉)、46 高橋谷 (前期後半～中期前半)、47 押入西 (中期後葉)  
 [26・28・30～36・38・39・42・47・49・51 緑色片岩、27・37 玄武岩、43 頁岩、44・45 流紋岩、50 サスカイト、他は不明]

第4図 美作地域の扁平片刃石斧未・完成品、製品 (S=1/4)



52・54・57 八幡山（後期中葉以前）、53 山ノ奥（中期後葉）、55 今岡中山（後期前葉）、56 美作国府跡（不明）、58 高橋谷（前期後半～中期前半）、59 椽山（中期後葉）、60 隠地東（中期中葉）、61 大畑（後期前半）、62 荒神峪（中～後期？）  
[52・54・56・57 安山岩、53・55 玄武岩、59 細粒閃緑岩、他は不明]

第5図 美作地域の環状石斧未・完成品、製品 (S=1/4)

的に行われ、周縁部は剥離面を残した状態で穿孔が始まる (54・55)。山ノ奥遺跡では敲打痕は認められないが、表面中央に初孔部のような窪み、裏面の縁辺に研磨痕が認められる (53)。穿孔は石錐による両面穿孔である (56～58)。孔が貫通した後は、全体を研磨し、側面に刃部が全周するように研いで完成となる (59～63)。

完成品・製品は高橋谷遺跡、椽山遺跡、隠地東遺跡、久田堀ノ内遺跡、荒神峪遺跡、大畑遺跡の6遺跡で各1点、計6点ある。規格は直径6.5～9cm、厚さ1.5～2.3cm、孔径2cm前後であり、半分に欠損したものが顕著である。分布をみると、吉井川上流域や吉野川上流域の遺跡に多く、美作地域中央・東部に偏る。製作や使用の主な時期

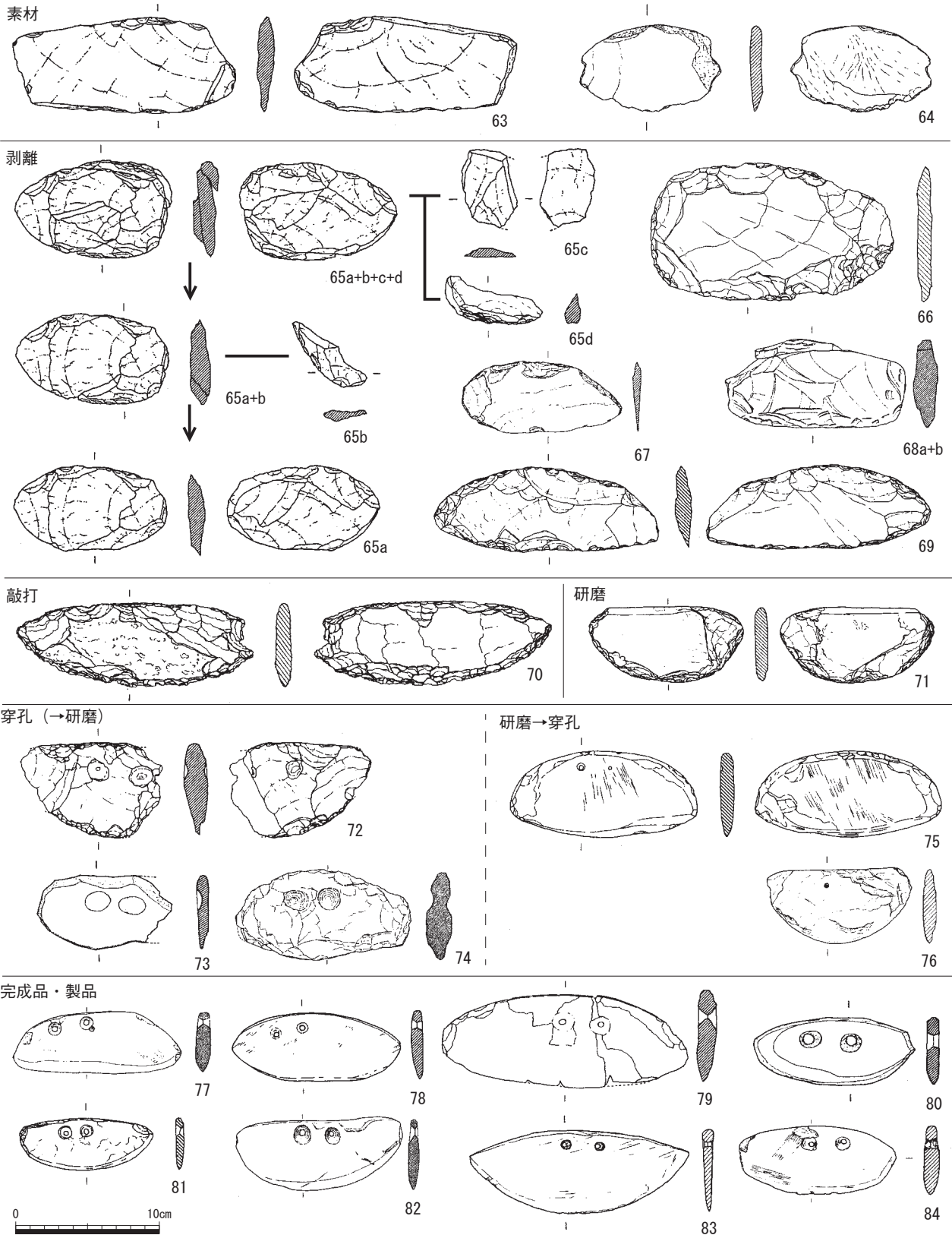
は中期中葉～後期前葉である。

(5) 磨製石包丁 (第6図)

未成品は43遺跡で計125点と多く認められ、美作地域で広く盛んに作られている。西原遺跡で15点、山ノ奥遺跡で10点、上野遺跡で8点、且山遺跡、大田茶屋遺跡、大田障子遺跡、押入西遺跡、法事坊遺跡で各5点、その他は4点以下が21遺跡ある。

石材は緑色片岩を主体としつつ、吉井川上流域では粘板岩、頁岩、結晶片岩、砂質片岩、黒色砂岩、流紋岩などの多様な石材も一定数認められるなか、津山盆地では白雲母石英片岩、吉野川上流域では粘板岩もある。

製作は、原石・石核から素材剥片を剥ぎ取った後、剥



63・65・72・78・79 山ノ奥 (中期中葉～後葉)、64 堂の前遺跡 (後期)、66 八幡山 (後期前葉)、67 荒神風呂 (中期後半)、68 ビシャコ谷 (中期中葉)、69・75・81 樋ヶ鼻 (69・81 後期前葉、75 中～後期)、70 夏栗 (中～後期)、71 大田茶屋 (中期後葉)、73・80 押入西 (中期後葉)、74・77 一貫西 (中期後葉)、76・83 大田十二社 (82 後期中葉、83 後期後葉)、82 小原 (後期中葉)、84 天神原 (後期末) [63・64・67・68・70・71・75・76・81 緑色片岩、65・72・78 黒色砂岩、66 粘板岩状凝灰岩、69 レキ岩、72・79・80 砂質片岩、73・77・83・84 粘板岩、82 白雲母片岩]

第6図 美作地域の磨製石包丁未・完成品、製品 (S=1/4)

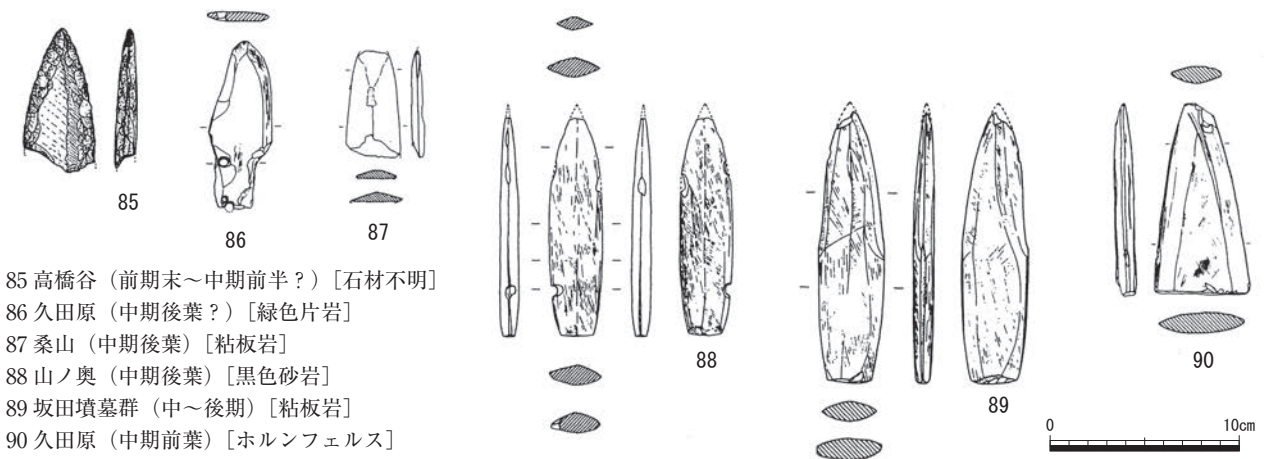
離→(敲打)→研磨・穿孔→仕上げの工程をたどる。石包丁の製作に伴う原石や石核は明確ではないが、山ノ奥遺跡や堂の前遺跡では素材剥片が出土している(63・64)。素材は長さ5~10cm、幅10~17cm、厚さ1cm前後の横長剥片である。剥離工程では、素材剥片の厚さが薄い面を刃部、厚い面を背部となるように意識しながら、周縁をだまかに剥離して成形する(65~69)。山ノ奥遺跡やビシャコ谷遺跡では接合資料が得られ、長さ5~7cmの剥片が連続して剥ぎ取られていることが窺える(65a+b+c+d・68a+b)。その後、細かい調整剥離を周縁に施す。夏栗遺跡(70)や一貫西遺跡では表面を敲打した未成品が見つかるが、美作地域では敲打工程品は極めて少ない。次に、研磨や穿孔が行われるが、遺跡や石材によって順序が異なる。まず、研磨前に敲打や石錐で穿孔を行う未成品は、山ノ奥遺跡(72黒色砂岩製)、押入西遺跡(73)、一貫西遺跡(74)、大田茶屋遺跡で出土しており、穿孔後に研磨を行うことが推測される。それに対して、穿孔前に研磨を行う未成品は、大田茶屋遺跡(71)、荒神峪遺跡、山ノ奥遺跡(緑色片岩製)、押入西遺跡、大田十二社遺跡(緑色片岩製)、京免遺跡、沼E遺跡、天神原遺跡で見つかり、表裏面に研磨を施して平滑に整形している。そして、研磨後に穿孔する未成品、樋ヶ鼻遺跡(75)、大田十二社遺跡(76)、法事坊遺跡などで出土している。このように磨製石包丁の製作工程に研磨→穿孔と穿孔→研磨の2通りがあることは、津山盆地の遺跡出土資料を対象として、佐藤寛介氏(1998)がすでに指摘していることであるが、美作地域全体でも再確認することができた。穿孔は石錐による穿

孔、敲打による穿孔に関係なく、両面穿孔である。研磨・穿孔後の最終工程では刃部を研いで完成となる。

完成品・製品は63遺跡で計280点の出土例がある。領家遺跡や小中遺跡で各15点、久田堀ノ内遺跡で14点、久田原遺跡や宮ノ上遺跡で各13点、荒神峪遺跡で11点、大田十二社遺跡や京免遺跡で各12点、天神原遺跡で10点、椽山遺跡や押入西遺跡で各8点、山ノ奥遺跡や堂の前遺跡で各7点のほか、6点以下は55遺跡ある。地域全体で広く普及し、各小地域では10点以上の石包丁を保有する遺跡が散見される。形態をみると、中期は平面形が直線刃半月形(77)や楕円形(78~80)で、全体的に丸みを帯びて、やや厚みがあるものが多いのに対し、後期は外湾刃半月形(82)や杏仁形(83)が主体となることが佐藤氏によって示唆されている(註7文献)。美作地域では堂の前遺跡、上野遺跡、大田十二社遺跡、天神原遺跡のように後期末まで磨製石包丁が使用された例もある。また、椽山遺跡、向林遺跡では瀬戸内海沿岸で主体的に使われたサヌカイト製の打製石包丁が出土したほか、津山市大畑遺跡では磨製石包丁の主石材として使われた緑色片岩を打製石包丁に代用した例もある。

(6) 磨製石剣・石矛(第7図)

高橋谷遺跡では磨製石剣の研磨工程未成品(85)が出土している。武器形の磨製石器は、桑山古墳群で粘板岩製石剣(87)、山ノ奥遺跡や坂田墳墓群で鉄剣形の石剣(88・89)、久田原遺跡ではホルンフェルス製石矛か石剣(90)が各1点出土している。このうち、山ノ奥遺跡や久田原遺跡の石剣(86)は、石材が磨製石包丁と共通し、不規則な部位に孔が認められることから、石包丁を転用



85 高橋谷(前期末~中期前半?) [石材不明]  
 86 久田原(中期後葉?) [緑色片岩]  
 87 桑山(中期後葉) [粘板岩]  
 88 山ノ奥(中期後葉) [黒色砂岩]  
 89 坂田墳墓群(中~後期) [粘板岩]  
 90 久田原(中期前葉) [ホルンフェルス]

第7図 美作地域の磨製石剣・石矛(S=1/4)

した可能性が高い。

## 6 美作地域における磨製石器生産の特徴

以上の様々な検討をまとめると、次のとおり、美作地域における磨製石器生産の特徴をあげることができる。

①生産規模に関わらず、広域にわたって磨製石包丁と扁平片刃石斧を多くの遺跡で製作する。ただし、磨製石包丁の製作は吉野川上流域では低調である。

②大型蛤刃石斧、柱状片刃石斧、環状石斧は、特定の遺跡で製作され、生産量は限られる。

③環状石斧は津山盆地、吉野川上流域にやや偏る。

④緑色片岩が各種石器に多用されるほか、器種や遺跡に応じて多様な石材が選択される。

⑤磨製石器の生産規模は、A類：多種多様な石器を多量に生産する遺跡（山ノ奥遺跡、高橋谷遺跡）、B類：特定の器種を重点的にやや多く生産する遺跡（弥平治遺跡、西原遺跡、上野遺跡、樋ヶ鼻遺跡、押入西遺跡など）、C類：扁平片刃石斧や磨製石包丁を小規模に生産する遺跡（荒神風呂遺跡、且原遺跡、久田原遺跡、椽山遺跡、一貫西遺跡、小原遺跡など）、D類：扁平片刃石斧あるいは磨製石包丁を小規模に生産する遺跡（堂の前遺跡、且山遺跡、ビシャコ谷遺跡、荒神峪遺跡、法事坊遺跡など）がある。

## 7 美作地域における磨製石器の流通

磨製石器の未成品と製品（完成品を含む）の器種や出土数を第1表及び第8図のように比べると、美作地域における磨製石器の流通は次のI～IV類に大別できる。

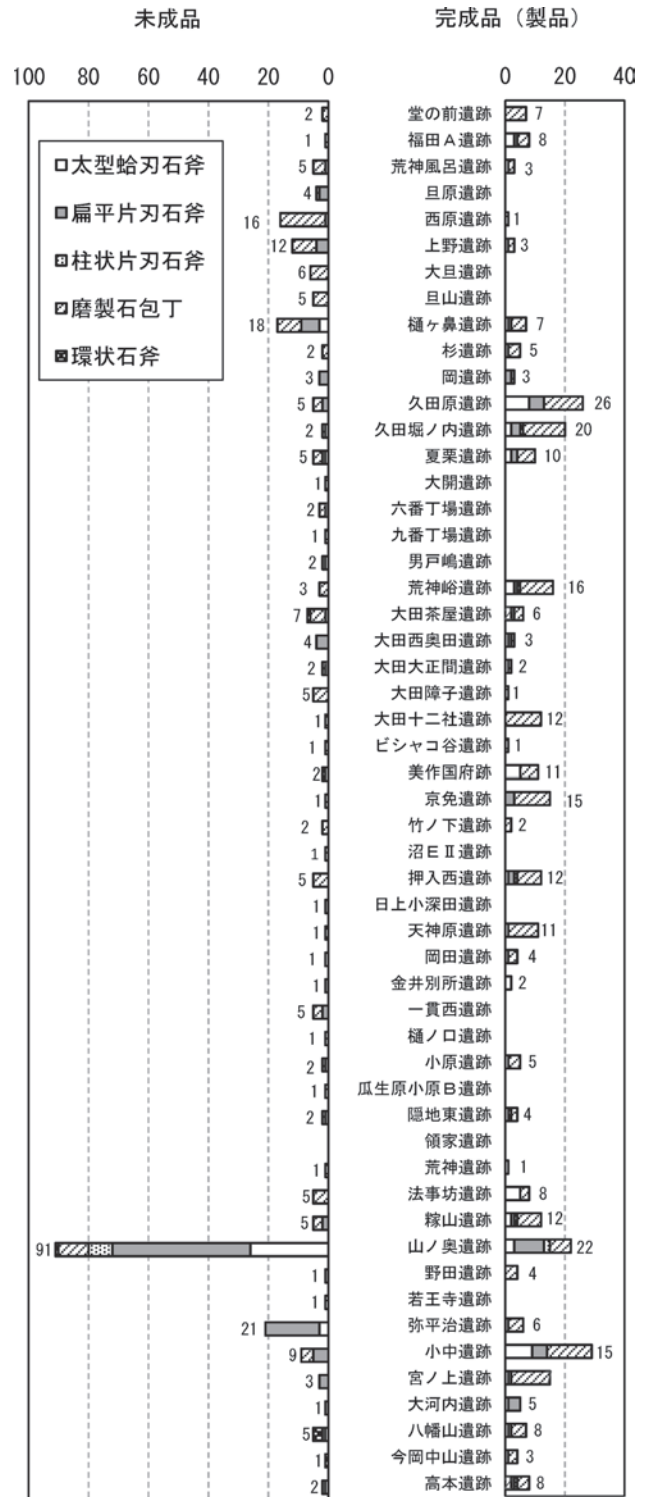
I類は、未成品の出土数が製品よりも圧倒的に多く、磨製石器を大規模に生産して周辺の遺跡に供給した遺跡である。山ノ奥遺跡が該当し、製品の4倍近い未成品が出土したうえ、多種多様な石器を生産していることから、遺跡外に複数器種の磨製石器を供給した可能性が高い。

II類は、未成品の出土数が製品より多く、特定の器種を小規模に生産し、遺跡外へ供給したことが想定される遺跡である。西原遺跡や上野遺跡は磨製石包丁、弥平治遺跡は扁平片刃石斧を小規模に生産した可能性がある。

III類は、未成品と製品の組成や出土数が同じような傾向を示し、自給的な生産を行った可能性がある遺跡である。荒神風呂遺跡、樋ヶ鼻遺跡、押入西遺跡、大田茶屋

遺跡、大田西奥田遺跡、法事坊遺跡、椽山遺跡、が該当し、主に扁平片刃石斧や磨製石包丁を生産して集落内で消費していたことが推測される。

IV類は、未成品よりも製品が多い、あるいは未成品が出土していない遺跡で、他の遺跡で生産された製品を主に入手して消費していたことが想定される。堂の前遺跡、



第8図 美作地域における磨製石器未・完成品、製品の出土数

福田A遺跡、久田原遺跡、久田堀ノ内遺跡、夏栗遺跡、荒神峪遺跡、大田十二社遺跡、美作国府跡、京免遺跡、天神原遺跡、領家遺跡、小中遺跡、宮ノ上遺跡などが該当する。磨製石包丁が極端に多い遺跡が見受けられ、稲作などの農耕を重点的に行った集落や、各小地域の拠点的な集落、後期の集落が目立つ。

### 8 弥生時代の美作地域における利器の鉄器化

弥生時代は武器や農工具などの利器が石器から鉄器に転換された。第9図に美作地域で時期が分かる石器や鉄器を抽出し、時期ごとに出土数を集計して変遷を示した。岡山県域の弥生時代鉄器の様相については佐藤氏が具体像に迫り、本稿でも学ぶところが多い<sup>(13)</sup>。

前期の遺跡が希少で、高橋谷遺跡や大旦遺跡で大陸系磨製石器やサヌカイト製打製石器が出土しているが、具体的な様相は明らかでない。

中期前葉～中葉の久田原遺跡で石器が主体であるなか、鑄造鉄器の破片が出土しており、同地域で最古級の鉄器に位置づけられる。同遺跡では打製石器の狩猟具(鏃)が46%・加工具(錐・楔など)が33%と主体であるのに対し、磨製石器の伐採・加工具は5%、収穫具の磨製石包丁は8%と一定数を保有している。このことから、縄文時代の石器組成を基本としつつ、稲作農耕に必要な石器を選択的に取り入れていたことや、このような組成は津山盆地の遺跡とも共通すること、石包丁の転用

行為が認められることが指摘されている。さらに、同遺跡では石器や管玉を製作した竪穴住居9・15・18などから板状や棒状の鑄造鉄器再加工品が計12点出土しており、同地域における鉄器出現期を考えるうえで重要視されている。入手にあたっては立地や玉生産との結び付きなどから日本海沿岸地域との交流による可能性が高いとされている<sup>(14)</sup>。

美作地域では中期中葉に集落が各地に広がり、後葉には広範囲に急増して磨製石器が盛んに生産・消費された。磨製石器は器種が多様となり、特に大型蛤刃石斧、扁平片刃石斧、磨製石包丁は主体となる。また、中期後葉には板状鉄斧、鏃、鉄鏃が出現する。鉄器は沼遺跡、鮎込遺跡、西吉田遺跡、ビシャコ谷遺跡、葡萄田頭遺跡、久田堀ノ内遺跡などで出土しており、このうち、西吉田遺跡や葡萄田頭遺跡では石斧と鉄斧が共に使用された。鉄器出土遺跡は増加するものの、各遺跡では出土数や器種は限定的である。このほか、山ノ奥遺跡では磨製石包丁を転用した鉄剣形石剣が出土し、石器が主体となる集落であっても鉄器がある程度普及していた可能性がある。

後期前葉によると、石鏃や磨製石包丁以外の石器が急速に衰退する。一方で、鉄器の器種や出土数が増え、鉄鏃、板状鉄斧、鑄造鉄斧、鏃、鑿、刀子、鎌が広く普及するようになった。鉄鏃は有本遺跡、向林遺跡、小原遺跡、大畑遺跡、鏃が二宮岡東遺跡、鑿は椋山遺跡で認められるほか、夏栗遺跡では鉄器や鉄片を再加工した鉄器

器種	武器 狩猟具		伐採具		加工具						農具			工具	その他		
	石鏃	鉄鏃	大型 蛤刃 石斧	板状 鉄斧	柱状 片刃 石斧	扁平 片刃 石斧	鑄造 鉄斧	袋状 鉄斧	ヤリ ガンナ	ノミ	タガネ	磨製 石包丁	鏃	鉄鏃先	刀子	環状 石斧	
前期	■																
中期	前葉	■					/// 1					⋮					
	中葉	■		6	■	4						7				1	
	後葉	■	///	3	21	///	5	4	19		///	3		43			1
後期	前葉	■	///	4	2			2	1	///	2	///	2	22	///	1	
	中葉	■			1			4			///	1		15		///	1
	後葉		///	21	2	///	5		///	1	///	8	///	1	///	1	5
	末葉		///	8					///	1	///	5	///	1		///	2

※1 石器は第1表及び第1表下に記した遺跡のうち、時期が把握できる資料を集計した。

※2 鉄器は【中期】久田原遺跡、久田堀ノ内遺跡、葡萄田頭遺跡、男戸嶋遺跡、ビシャコ谷遺跡、沼遺跡、鮎込遺跡、西吉田遺跡、【後期】ヒロダン・小坂向遺跡、中山遺跡、福田A1遺跡、上野遺跡、旦山遺跡、樋ヶ鼻遺跡、竹田9号墳下層住居跡、有本遺跡、荒神峪遺跡、二宮大成遺跡、大田十二社遺跡、小原遺跡、大畑遺跡、向林遺跡、大開遺跡、椋山遺跡、今岡中山遺跡、高岡遺跡を対象とし、時期が把握できる資料を集計した。

第9図 弥生時代の美作地域における利器の出土数・変遷

製作が行われた。ただし、後期中葉まで各遺跡の鉄器出土数は1点と限られる集落が大半を占める。

後期後葉は鉄器の分布域が美作地域の広範囲に及ぶ。しかも、出土数は大幅に増え、後期前葉～中葉の四倍近くになる。美作地域では津山市荒神峪遺跡、有本遺跡、大田十二社遺跡、大開遺跡、二宮大成遺跡、真庭市旦山遺跡、中山遺跡、上野遺跡、ヒロダン・小坂向遺跡などで鉄器が出土しており、複数の鉄器を保有した集落が多い。鉄器は鏃、板状鉄斧、鉋、刀子が主体であるが、新たに鑿や鍬鋤の刃先が出現する。それに対して、磨製石包丁は後期後葉まで一定数出土し続けていることから、収穫具は磨製石包丁を主体とし、鉄鎌は補助的に使用したことが追認される。そして、磨製石包丁は大田十二社遺跡や上野遺跡のように後期末葉まで使用されるが、収束傾向にある。このほか、弥生時代の遺跡で鉄器が出土していなくても、大開遺跡や樋ヶ鼻遺跡出土例のように、鉄器を研いだ砥石も鉄器の普及を示す指標となろう。

美作地域の磨製石器は、前期後半に出現し、中期後葉に盛行したが、後期になって大半の器種が急速に衰退するなか、磨製石包丁は後期末葉まで使用された。一方、鉄器は中期前葉にわずかに出現し、中期中葉から後葉中葉まで段階的に器種や出土遺跡が増え、武器・狩猟具、伐採・加工具、農具に徐々に普及していった。後期後葉～末葉には生業や手工業生産に鉄器が広く普及するなか、主な収穫具として磨製石包丁が使用され続けたことは美作地域の特徴と言える。

## 9 おわりに

本稿では、美作地域における弥生時代の磨製石器の未成品や製品をもとに、製作遺跡の分布、組成や製作技術を検討することで、磨製石器の生産の特徴や流通について考察した。そのうえで石器と鉄器の出土状況の変遷を整理し、利器の鉄器化についても検討した。

弥生時代集落の発掘調査では、形態が分かりやすい石器（製品）は認定・資料化されやすいが、石器生産を具体的に示す製作途中品や失敗品などの未成品、工具、石器石材の剥片についても的確に認定・資料化する必要があることは言うまでもない。

今後、サヌカイトや黒曜石製の打製石器との検討、石器を使用する生業や手工業生産との関わり、瀬戸内海沿

岸地域や日本海沿岸地域との比較を検討することで、さらに美作地域における弥生社会の地域性が浮き彫りになると考えられるが、別稿に期したい。

## 註

- (1) 中山俊紀 2005『沼遺跡と美作の弥生集落』吉備考古ライブラリー・11 吉備人出版
- (2) 上柁武・河合忍・米田克彦 「第3章 弥生時代」『新修津山市史』通史編 自然風土・原始古代 津山市
- (3) 平井典子 1988「中・四国における弥生時代の石器」『考古学ジャーナル』No.290 ニュー・サイエンス社
- (4) 平井勝 1991『弥生時代の石器』考古ライブラリー64 ニュー・サイエンス社
- (5) 平井勝 1996「岡山県南部の石器組成の変遷」『農耕開始期の石器組成1 近畿（大阪・兵庫）・中国・四国』国立歴史民俗博物館
- (6) 安川豊史 1996「岡山県北部の石器組成の変遷」註5文献
- (7) 佐藤寛介 1998「弥生時代の石器について」文献16
- (8) 高田浩司 2001「吉備における弥生時代中期に石器の生産と流通」『古代吉備』第23集 古代吉備研究会
- (9) 草原孝典 2015「石器組成からみた岡山平野の弥生集落－弥生前期、中期の集落遺跡の動向－」『岡山市埋蔵文化財センター研究紀要』第7号 岡山市教育委員会
- (10) 米田克彦 2004「山ノ奥遺跡における弥生時代中期の石器生産」文献37
- (11) 藤井翔平 2020「吉備南部における縄文－弥生移行期の収穫具」『紀要』第1号 岡山県古代吉備文化財センター
- (12) 白石純 2004「山ノ奥遺跡出土石器の石材について」文献37
- (13) 佐藤寛介 2002「岡山県域における弥生時代鉄器文化の様相」『環瀬戸内海の考古学』下巻 古代吉備研究会
- (14) 佐藤寛介・河合忍 2004「弥生時代の石器・鉄器・玉生産について」文献12

## 文献（第1表・図出典）

- 1 美甘町教育委員会1989『堂の前遺跡』
- 2 落合町教育委員会1983『福田A遺跡 高屋B遺跡』
- 3 岡山県教育委員会1990『荒神風呂遺跡 荒神風呂古墳』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告（以下、県報告）76
- 4 岡山県教育委員会1977「旦の原遺跡」『中国縦貫自動車道



- 建設に伴う発掘調査3』県報告14
- 5 岡山県教育委員会1974「美作国府跡 二宮大成遺跡 西原遺跡」『中国縦貫自動車道建設に伴う発掘調査3』県報告6
- 6 岡山県教育委員会1994「上野遺跡」『中国横断自動車道建設に伴う発掘調査1』県報告91
- 7 久世町教育委員会1975『久世町史』
- 8 岡山県教育委員会1999『旦山遺跡 惣台遺跡 野辺張遺跡 先旦山遺跡 旦山古墳群 奥田古墳 水神ヶ谷遺跡』県報告136
- 9 岡山県教育委員会2004『樋ヶ鼻遺跡』県報告183
- 10 岡山県奥津町教育委員会2000『杉遺跡』奥津町埋蔵文化財発掘調査報告4
- 11 岡山県教育委員会2003『河内構遺跡 河内城跡 河内遺跡 ナル林遺跡 久田上原城跡 北条高下遺跡 峪畑遺跡 岡遺跡 比丘尼ヶ城跡 城峪城跡 札ノ尾遺跡』県報告170
- 12 岡山県教育委員会2004『久田原遺跡 久田原古墳群』県報告184
- 13 岡山県教育委員会2005『久田堀ノ内遺跡』県報告192
- 14 岡山県教育委員会2005『夏栗遺跡』県報告194
- 15 岡山県教育委員会2002『立石遺跡、大開遺跡、六番丁場遺跡、九番丁場遺跡』県報告165
- 16 岡山県教育委員会1998『大田茶屋遺跡2 大田障子遺跡 大田松山久保遺跡 大田大正開遺跡 大田西奥田遺跡』県報告129
- 17 津山市教育委員会1981『大田十二社遺跡』津山市埋蔵文化財発掘調査報告（以下、市報告）10
- 18 津山市教育委員会1984『ビシャコ谷遺跡』市報告16
- 19 津山市教育委員会1999『男戸嶋遺跡』市報告65
- 20 津山市教育委員会1999『荒神峪遺跡』市報告64
- 21 岡山県教育委員会2011『美作国府跡 小田中遺跡 山北遺跡』県報告228
- 22 中山俊紀2020「高橋谷遺跡」『新修津山市史』資料編 考古 津山市
- 23 津山市教育委員会1982『京免・竹ノ下遺跡』市報告11
- 24 津山市教育委員会1981『沼EⅡ遺跡』市報告8
- 25 岡山県教育委員会1974「押入西遺跡」『中国縦貫自動車道建設に伴う発掘調査1』県報告3
- 26 津山市教育委員会2000『日上小深田遺跡』市報告66
- 27 岡山県教育委員会1975「狼谷遺跡 小中古墳群 小中遺跡 天神原遺跡」『中国縦貫自動車道建設に伴う発掘調査4』県報告7
- 28 豊島雪絵2002「岡田遺跡出土遺物について」『年報津山弥生の里』第9号 津山市教育委員会
- 29 宮崎絢子2022「岡田遺跡発掘調査報告」『年報津山弥生の里』第29号 津山市教育委員会
- 30 津山市教育委員会1988『金井別所遺跡』市報告25
- 31 津山市教育委員会1990『一貫西遺跡』県報告33
- 32 津山市教育委員会1986『樋ノ口遺跡』市報告20
- 33 津山市教育委員会1991『小原遺跡』市報告38
- 34 津山市教育委員会1990『小原B・稲荷遺跡』市報告35
- 津山市教育委員会2006『せんご遺跡 隠地東遺跡』市報告77
- 36 久米開発事業に伴う文化財調査委員会1979『椽山遺跡群Ⅰ』
- 37 岡山県教育委員会2004『山ノ奥遺跡 池東・谷田遺跡』県報告180
- 38 野田遺跡調査委員会1984『野田遺跡』
- 39 岡山県勝央町教育委員会2004『若王寺遺跡』勝央町文化財調査報告6
- 40 広域農道美作台地地区勝央町地内埋蔵文化財発掘調査委員会1983『弥平治・能部遺跡』
- 41 岡山県教育委員会1997『小中遺跡 白谷古墳群 小中古墳群 湯ヶ谷古墳』県報告117
- 42 岡山県教育委員会2006『国司尾遺跡 坂田遺跡 坂田墳墓群 宮ノ上遺跡 宮ノ上古墳群』県報告197
- 43 岡山県教育委員会2008『大河内遺跡 稲穂遺跡 下坂遺跡』県報告216
- 44 勝央町教育委員会2009『勝央町内遺跡試掘確認調査報告書（平成15年度～平成17年度）』勝央町文化財調査報告書7
- 45 岡山県教育委員会2008『八幡山遺跡 八幡山南遺跡八幡山門明寺遺跡 尾崎遺跡 中町B遺跡 穴ヶ谷遺跡 穴ヶ谷古墳 今岡D遺跡 今岡中山遺跡 今岡古墳群 高岡遺跡』県報告213
- 46 岡山県大原町教育委員会1995『川戸古墳群発掘調査報告書』
- 47 岡山県教育委員会1975「高本遺跡 平遺跡 沼古墳群 領家遺跡 下河内調査区 穴塚古墳」『中国縦貫自動車道建設に伴う発掘調査5』県報告8
- 48 鏡野町2000「竹田遺跡」『鏡野町史』考古資料編
- 49 岡山県教育委員会2003「田井たれをず遺跡 田井ちご池遺跡 岡東高塚遺跡」県報告171
- 50 岡山県教育委員会2023「勝負峪遺跡 桑山遺跡 桑山古墳群」県報告262

# 雄町遺跡出土の分銅形土製品（資料紹介）

柴田 英樹

## 1 資料紹介にいたる経緯

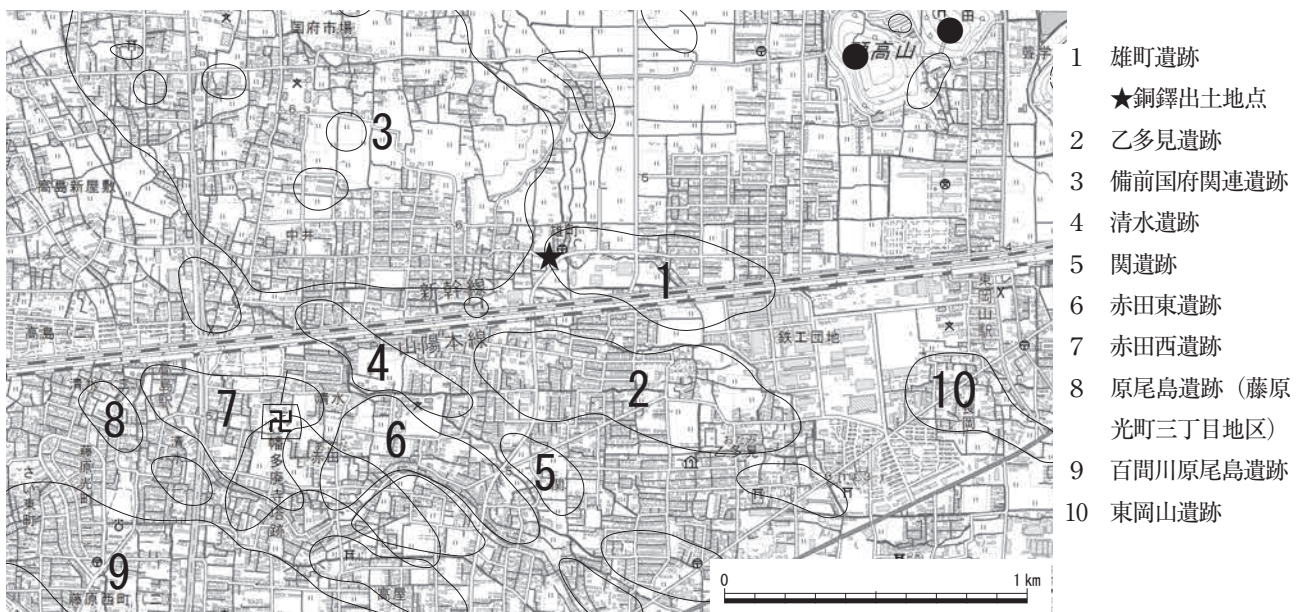
岡山市中区雄町に所在する雄町遺跡は、かつて山陽新幹線の建設に伴い岡山県教育委員会が発掘調査を実施した、弥生時代前期から平安時代にかけての集落遺跡で、中心となる時期は弥生時代中期から古墳時代前期である。検出した竪穴住居24軒のうちで時期の分かるものは、弥生時代9軒、古墳時代10軒を数え、その他にも弥生時代中期の200基近くの土坑墓群や古墳時代の井戸5基や、多数の土坑を検出するなど、当時の拠点集落の一つであることが判明している。

調査は、昭和43（1968）年12月の第1調査区でのボーリング調査を始まりとして、昭和44年1月と11月にはトレンチ調査を行い、同年5月から翌年1月までは軌道敷（第1～4調査区）の発掘調査、昭和45年10月から翌年3月までは側道敷（第1・3・4調査区）の発掘調査を実施している。その調査成果は、昭和47年3月刊行の『埋蔵文化財発掘調査報告－山陽新幹線建設に伴う調査－』で公開された（以下、「報告書」という）<sup>(1)</sup>。また、昭和52年3月には『岡山県埋蔵文化財報告』7において、古代の土器等50点の資料が報告された<sup>(2)</sup>。

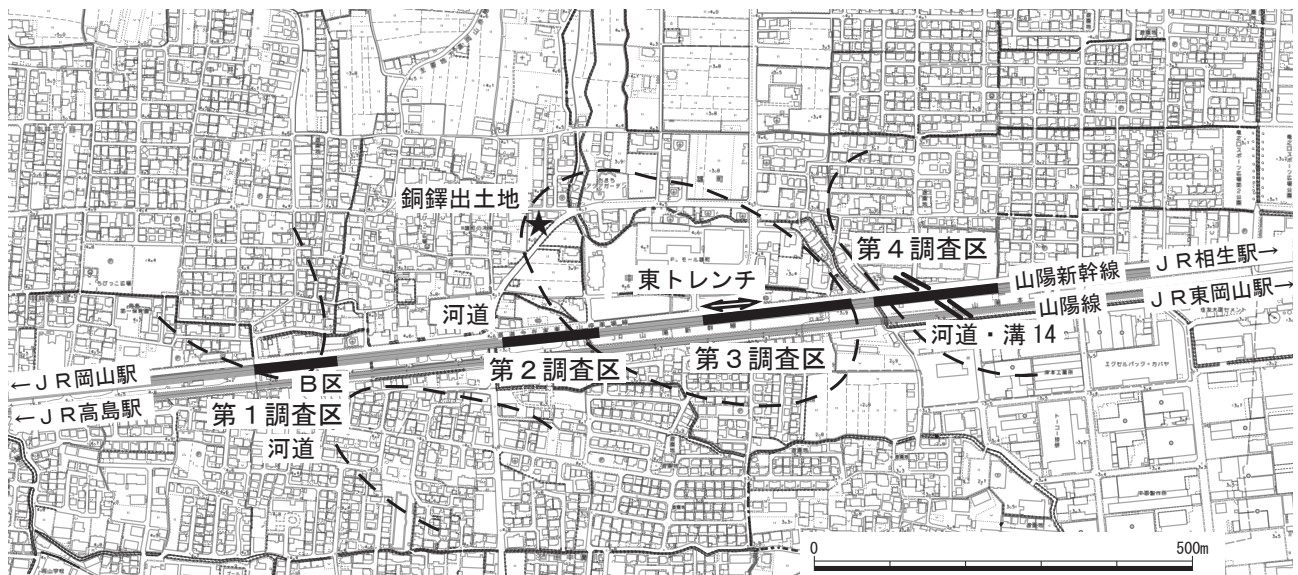
その後、平成21（2009）年の後半から翌年3月までの期間において、筆者は当該調査資料の再整理の機会を与えられ、遺構図や出土遺物を検討しながら必要に応じて遺物の実測等を行った。その中でも、「報告書」で拓本と写真しか掲載されていない分銅形土製品について実測図を作成したので、その時点からかなり時間が経過したが、本書で資料紹介をすることにした。

## 2 遺跡の概要

雄町遺跡は、現在岡山平野を貫流している旭川の東岸域にひろがる沖積平野の中央東寄りに位置する。当地域は、旭川が半田山山塊と龍ノ口山山塊の間を抜け、一気に枝分かれした河川によって形成された肥沃な土地であり、現在よりも瀬戸内海の海岸線に近い場所であったと推定されている。このような地理的条件を生かすことで、さまざまな生産を發展させ、また水上や陸上の東西・南北交通の結節点として物資や情報の収集に有利な位置を占めることができたことから、当遺跡を含めて周辺の微高地には百間川遺跡群、さらに西岸域では南方遺跡や津島遺跡など、弥生時代から古墳時代の拠点集落が展開している。



第1図 周辺遺跡分布図（1/25,000）



第2図 調査区配置図 (1/10,000)

※岡山市発行の岡山市市域図 (2千5百分の1) を使用

発掘調査区は、東西延長約1kmの区間内で断続的に設定され、西から東へ第1～4調査区と称する<sup>(3)</sup>。各調査区内も、断続的に分けられた大小の調査区で細分されており、比較的まとまった調査範囲は、第1調査区B区を中心とする範囲(約450㎡)、第2調査区(約960㎡)、第3調査区東トレンチ(約1,120㎡)、第4調査区(約2,480㎡)である。また、微高地としては、間に低位部を挟むものの、特に第3・4調査区には一体性がある。

弥生時代の遺構としては、第1調査区では、中期後葉の土器棺1基と後期中葉の大形竪穴住居1軒(1号住居址)、第3調査区東トレンチでは中期後葉の竪穴住居1軒(5号住居址)と灰が詰まった土坑多数を検出し、また後期初頭の3軒の竪穴住居(2・3・8号住居址)のうち大形の3号住居址の覆土からは水晶製算盤玉が出土している。第4調査区では、中央の河道東側に中期前葉の竪穴住居2軒(7・8号住居址)、中期中葉～後半の竪穴住居2軒(9・11号住居址)や掘立柱建物など、一方西側では中期前葉の土坑墓群を確認している。

なお、昭和60(1985)年に、第3調査区を含む微高地の想定範囲北西端に当たる地点で、扁平鈕式銅鐸(四区袈裟襷文銅鐸)が不時発見されていることは、当遺跡を考えるうえで重要である<sup>(4)</sup>。

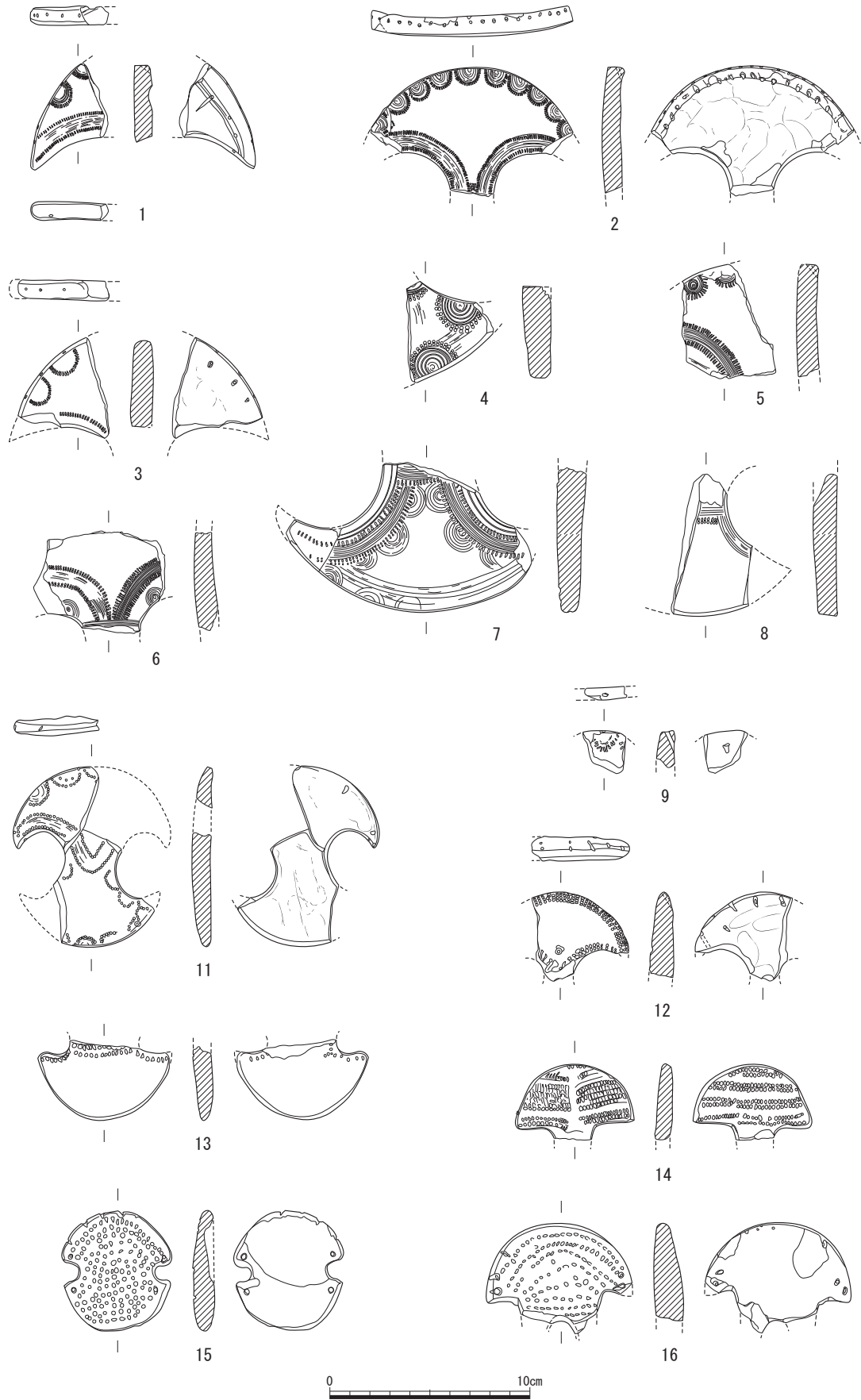
### 3 分銅形土製品の概要

「報告書」には、分銅形土製品16点が掲載されているが、

7と10が接合したため合計15個体が出土したことになる(掲載番号は引き継ぐが、10は欠番とする)。そのうち6点は第3調査区の竪穴住居の覆土から、2点は第4調査区の竪穴住居床面と溝14?上層からの出土で、その他7点は包含層出土のため遺構との関係は不明である。

全体形が不明なものもあるが、すべて円形基調であることはほぼ間違いない。刳込み部の形態では、大きく刳込むA類(1・2・3・4・6・7・8・11・12・14)と、小さく刳込むB類(13・15・16)に分類できる。一部剥離しているものの全体形が分かる15以外は、接合できたものも含めてすべて破片である。施文は、ごく浅い数条の平行沈線と刺突等で構成された重弧文と平行文が多く、他には列をなす刺突文などがある。

1は上半端部の破片で、上縁に沿って重弧文、刳込み部に沿って平行文が施される。上端面から裏面にかけての穿孔が4個残り、端には上端面から刳込み部への穿孔が認められ、裏面には幅5mmの凹線が形成される。2は上半部の破片で、両端は欠損している。表面はミガキが施され、上縁に沿って重弧文10個、刳込み部に沿って平行文が認められるが、これは眉状文の可能性もある。裏面上端はわずかに突出し、上端面から裏面にかけての穿孔が20個残る。3は上半端部の破片で、摩滅により不鮮明だが、上縁に沿って重弧文2個、刳込み部に沿って平行文が認められる。上端面から裏面にかけての穿孔3個が残る。4は下半端部の破片で、下縁と刳込み部に沿っ



第3図 分銅形土製品 (1/3)

て重弧文が施される。5は上半部の破片で、表裏面ともミガキが施され、上縁に沿って重弧文2個、刳込み部に沿って平行文が認められる。裏面上端はわずかに突出し、上端面から裏面にかけての穿孔が1個残る。6は上半部の可能性がある破片で、刳込み部に沿って重弧文と平行文が施され、平行文は横方向の平行文で切られる。刺突文内に赤色顔料が残存している可能性がある。7は下半部の破片で、端部片10と接合した。下縁に沿って2条の凹線と重弧文がみえ、刳込み部に沿って2条の凹線と平行文、さらにその内側に重弧文が施され、刳込み部に横方向の平行文も認められる。8は下半部の破片で、摩滅で不鮮明ながら下縁は無文で、刳込み部に沿って平行文、中央には横方向の平行文が認められる。9は上半部の破片で、上縁に沿って重弧文2個、上端面から裏面にかけての穿孔が1個残る。11は上下の形が分かる資料で、長さ9.0cm、推定最大幅5.2cmを測る。裏面は平らで表面が丸く膨らみ、端面は薄くなる。上半に眉状文、上縁及び刳込み部下半から下縁にかけて重弧文が施され、上端面から裏面にかけての穿孔2個が残り、端には上端面から刳込み部への穿孔が残る。12は上半部の破片で、端面は丸く収まる。刳込み部に沿う文様は眉状文の可能性があり、上縁に沿って刺突列による平行文が施される。中央に文様の可能性もある窪みが認められるが定かではない。上端面から裏面にかけての穿孔4個、端には上端面から刳込み部への穿孔が残る。13は下半部の破片で、端面は丸く収まる。刳込み部から中央にかけて刺突文が施され、裏面にも刳込み部に沿って刺突文が認められる。14は上半部の可能性がある破片で、刳込みは方形を呈するとみ

られ、端面は丸く収まる。表面には中心を挟んで左右に横方向の刺突文の列、裏面は中心で途切れることなく刺突文の列が施される。15は裏面上半が剥離しているが、平面形としてはほぼ完形で、長さ6.0cm、最大幅5.5cmを測り、断面はわずかにレンズ状を呈する。上下端面は丸く収まる。表面全体に刺突文が施され、上端には穿孔を思わせるような切込み（刺突）が認められる。上下の両端には表面から裏面にかけて穿孔が認められる。16は上半部の可能性がある破片で、刳込みは浅く、端面は丸く収まる。両端には表面から裏面にかけての穿孔が2個ずつ認められる。中央には類例のない特異な穿孔があり、表面には刺突文が列状に施される。

以上、個々について記述したが、次に分類を行って編年に位置付けてみる<sup>(5)</sup>。すでに述べた刳込み部形態（A類・B類）に加え、上縁文及び7cmを目安とした長さあるいは幅をみると、A類はほとんどが大形（14のみ小形）と推定される重弧文型、B類は3点中2点（13・15）が小形で、しかも16も大形とはいえ比較的小さい方であり、小形のA・B類は平行文型である。上縁文と大きさに関しては、いずれも全体的な傾向と一致する。

さらに上端孔の有（I類）・無（II類）と眉状文の有（X）・無（Y）で分類すると、A類では2・11・12がI類X、小形の14がII類Y、B類では15・16がII類Yである。2以外は堅穴住居出土で、混入の可能性がある15を除いて考えると、I類Xが中期、II類Yが後期ということ出土した遺構の時期と土製品の編年において矛盾はない。

表1 分銅形土製品観察表

掲載番号	出土地区	掲載遺構名等	計測値 (mm)			色 調	胎 土	焼成	備 考
			最大長	最大幅	最大厚				
1	3区		38	40	9	にぶい黄橙 (10YR7/3)	1mm以下の砂粒少	良好	
2	3区		64	101	9	にぶい黄橙 (10YR7/4)	1mm以下の砂粒少	良好	
3	3区		50	45	11	灰白 (10YR8/2)	1mm以下の砂粒	良好	
4	1区		50	44	14	褐灰 (10YR5/1)	1mm以下の砂粒少	良好	
5	1区		57	47	11	灰白 (10YR8/2)	1mm以下の砂粒	良好	
6	2区		51	65	11	明赤褐 (5YR5/6)	1mm以下の砂粒少	良好	赤色顔料残存か
7	4区	大溝 (溝14?) 上層	74	122	14	明赤褐 (5YR5/6)	1mm以下の砂粒	良好	10と接合
8	3区	5号住居址	71	35	12	灰白 (10YR8/2)	1mm以下の砂粒	良好	
9	3区		21	22	9	浅黄橙 (10YR8/3)	1mm以下の砂粒少	良好	
-	4区		-	-	-	-	-	-	7と接合 ※「報告書」の10
11	4区	9号住居址 床面	90	70	9	にぶい黄橙 (10YR7/2)	1mm以下の砂粒少	良好	
12	3区	5号住居址	45	49	12	灰黄 (2.5Y6/2)	1mm以下の砂粒	良好	眉状文間に刺突?
13	3区	3号住居址	36	66	9	橙 (5YR6/6)	1~2.5mmの砂粒	良好	
14	3区	3号住居址	38	60	8	にぶい黄橙 (10YR7/2)	1mm以下の砂粒少	良好	横に多条の刺突文列
15	3区	5号住居址	60	55	10	にぶい黄橙 (10YR7/2)	1mm以下の砂粒少	良好	刺突充填
16	3区	8号住居址	56	73	14	褐灰 (10YR4/1)	1mm以下の砂粒少	良好	刺突充填、中央に径1cm穿孔

色調は『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修）による

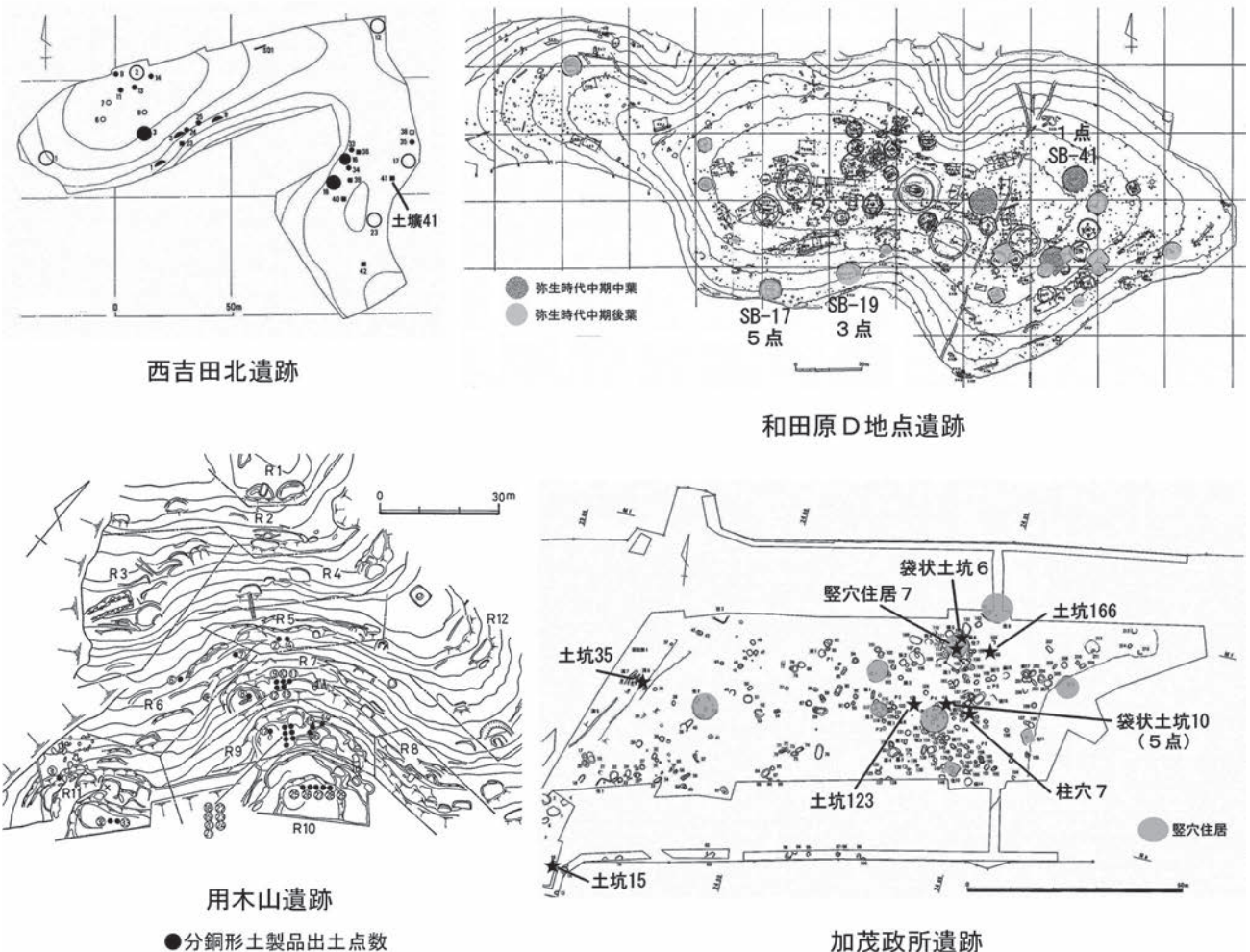
#### 4 出土状況について

分銅形土製品の出土量に関する分析は、赤磐市用木山遺跡等で検出した住居数との対比により「保有量・使用量のおおよそ」は「住居4～6棟に、多くてせいぜい数個」とした東潮氏の指摘<sup>(6)</sup>が挙げられる。その後、筆者が他の遺跡で検討したところ、津山市西吉田北遺跡<sup>(7)</sup>の集落(後期)や広島県庄原市和田原D地点遺跡<sup>(8)</sup>の集落(中期中葉)のように、竪穴住居2～3軒に対して1点程度の出土が最小単位となる可能性が見えてきた。これは東氏の見解と大きな乖離はない。しかし、多くの竪穴住居が検出された場合において、必ずしもその単位に応じたように土製品が集落全体で均等に出土するわけではない。

和田原D地点遺跡の中期中葉の場合では、丘陵全体に展開する16軒の竪穴住居に対し、分銅形土製品は南斜面

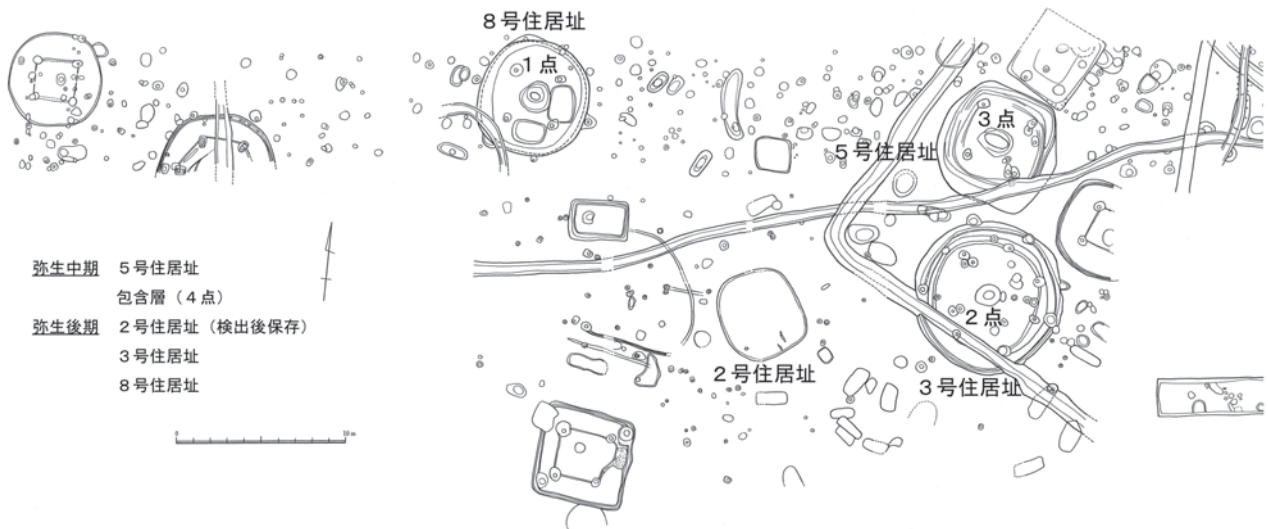
に位置する2軒の竪穴住居(SB-17・19)に集中している。用木山遺跡では、谷状地形になった丘陵斜面下方のため検討が必要ではあるが、そこに位置する第7・9・10支群の遺構埋土に集中している。また、岡山市加茂政所遺跡<sup>(9)</sup>は調査範囲が限られるが、中期では竪穴住居等が集中する範囲の土坑等で多く出土している。このように分銅形土製品の出土は、特定場所あるいは特定遺構へ集中する可能性があることを想定できる。

当遺跡では中期に属する土製品は11点あり、中期後葉の土器棺1基のみを検出した第1調査区で2点、同時期の竪穴住居1軒(5号)と土坑多数を検出した第3調査区東トレンチで7点、中期中葉～後半の竪穴住居2軒(9・11号)を検出した第4調査区で2点となり、総数では第3調査区が圧倒的に多い。さらに第3調査区東トレンチ(約1,120㎡)に比べて第4調査区(約2,480㎡)の面積が広いことなどを勘案すると、第3調査区の点数



第4図 遺跡における分銅形土製品の分布例

※用木山遺跡のみ東氏作成図、それ以外は筆者加筆あり



第5図 雄町遺跡第3調査区東トレンチ遺構配置図（全時期）

※名称未記載の住居は古墳時代

の多さが際立つ。後期の点数はやや少なくなるが、後期初頭の竪穴住居3軒（2・3・8号）を検出した第3調査区で3点、同時期の顕著な遺構が確認できていない第4調査区1点である。ごく限られた調査範囲のために判断は困難であるが、このように第3調査区に集中する傾向があるようにみえ、加茂政所遺跡の例に類似する可能性がある。

竪穴住居でみると、中期中葉～後葉では第3調査区の5号住居址で3点（1点は混入の可能性）、第4調査区の2軒のうち9号住居址で1点、後期初頭では第3調査区の3軒のうち3号住居址で2点、8号住居址で1点が出土している。各時期3軒のうち2軒もの住居から出土していることに加えて、1軒あたりおおむね1～2点であることは、他の遺跡と比較して高い出土率である。

分銅形土製品が出土した中期後葉～後期初頭の4軒の竪穴住居は、やや小形の9号住居址（第4調査区）を除くと比較的大形で、特に3号住居址（第3調査区）は床

面積60㎡を超える。この調査では、他に同時期の竪穴住居がほとんど確認できていないことから断言はできないが、第3調査区東トレンチは大形住居が所在する地点であった可能性がある。その他の出土遺物をみても、床面からサヌカイト片が出土するものや、覆土中からではあるが砥石や石鏃も多く、さらに水晶製算盤玉は特筆すべきものである。これらのことから第3調査区の特異性が指摘できる。

以上のように、遺跡内で分銅形土製品が多数出土する場合、特定場所あるいは特定遺構へ集中する傾向が多い可能性がある<sup>(10)</sup>。出土場所は、使用場所や所有・保管場所の可能性もあるが、現在では最終的な廃棄場所と認識するしかなく、集中傾向の例が、その意図的な限定を示すものとするれば、使用終了や廃棄方法の制約、あるいは集落全体による土製品管理の存在などを推測できる。この件については、本稿で仮定した出土傾向の妥当性を含めて今後の検討課題である。

表2 分銅形土製品出土の竪穴住居

調査区	遺構名	平面形規模 (cm)	土器以外の主な遺物 数字は点数、(数字)は掲載番号	時期	備考
3	3号住居址	円形 887×874	床面：サヌカイト片 覆土：砥石5、石鏃15、紡錘車1、分銅形土製品2 (13・14)	後期初頭	建替3回
3	5号住居址	不整形円形 650×630	床面：太形蛤刃石斧片1、紡錘車1 覆土：砥石3、石鏃44、やりがんな2、分銅形土製品3 (8・12・15)	中期後葉	建替3回
3	8号住居址	不整形円形 664×654	床面：打製石包丁3、サヌカイト片 覆土：砥石8、石鏃83、石錘1、土錘2、水晶製算盤玉1、分銅形土製品1 (16)	後期初頭	建替1回
4	9号住居址	不整形円形 460×420	床面：分銅形土製品1 (11)	後期初頭?	焼失

謝辞

吉田広氏には特別企画展「発掘 文京の顔展」の情報を含め、さまざまな御教示を頂きました。末尾ながら記して厚く御礼申し上げます。

註

- (1) 高橋護・葛原克人・中力昭・正岡睦夫・泉本知秀・栗野克己1972『埋蔵文化財発掘調査報告－山陽新幹線建設に伴う調査－』岡山県教育委員会
- (2) 正岡睦夫1977「資料報告 雄町遺跡出土の硯と歴史時代の須恵器について」『岡山県埋蔵文化財報告』7 岡山県教育委員会
- (3) 第2図に示した調査区位置については、原図等に不明確な点があることから検討を重ねた結果を示したが、必ずしも正しいとは言えない状況である。そのため、草原孝典氏が下記の報告書で、困難ながらも位置を模式的に示しているが、それとも一致しない。  
草原孝典2017『雄町遺跡－弥生時代の拠点集落遺跡の発掘調査報告－』岡山市教育委員会
- (4) 高橋護1990「岡山市雄町遺跡の銅鐸」『考古学雑誌』第75巻第4号
- (5) 柴田英樹2014「円形基調の分銅形土製品の型式編年と地域性」『古代吉備』第26集（下表参照）
- (6) 東潮1977「東高月遺跡群出土の分銅形土製品」『用木山遺跡』岡山県営山陽新住宅市街地開発事業用地内埋蔵文化財発掘調査概報（4）山陽町教育委員会

- (7) 津山市教育委員会1997『西吉田北遺跡』津山市埋蔵文化財発掘調査報告第58集
- (8) 財団法人広島県埋蔵文化財調査センター1999『和田原D地点遺跡発掘調査報告書』広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書第186集
- (9) 日本道路公団中国支社津山工事事務所 岡山県教育委員会1999「加茂政所遺跡 高松原古才遺跡 立田遺跡」山陽自動車道建設に伴う発掘調査17『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』138
- (10) 他にも出土点数が多い遺跡として、南方遺跡、上東遺跡、鳥取県青谷上寺地遺跡、香川県旧練兵場遺跡、愛媛県文京遺跡、同県祝谷六丁場遺跡などがあるが、遺跡の全体像を把握して検討する必要がある。なお、文京遺跡については、愛媛大学・松山市文化・スポーツ振興財団連携事業特別企画展「発掘 文京の顔展 まなざしから弥生人の想いに迫る」（令和5年10～12月）のパネル展示で、大形掘立柱建物周辺には数多く出土する竪穴建物があり、その近くの密集居住域では点在する、という事例が紹介されていたことを記しておく。また、青谷上寺地遺跡については、本稿と視点が異なるが、出土状況について次の論考がある。

京嶋覚2023「青谷上寺地遺跡出土の分銅形土製品－出土状況の検討とその評価－」『島根考古学会誌』第40集 島根考古学会

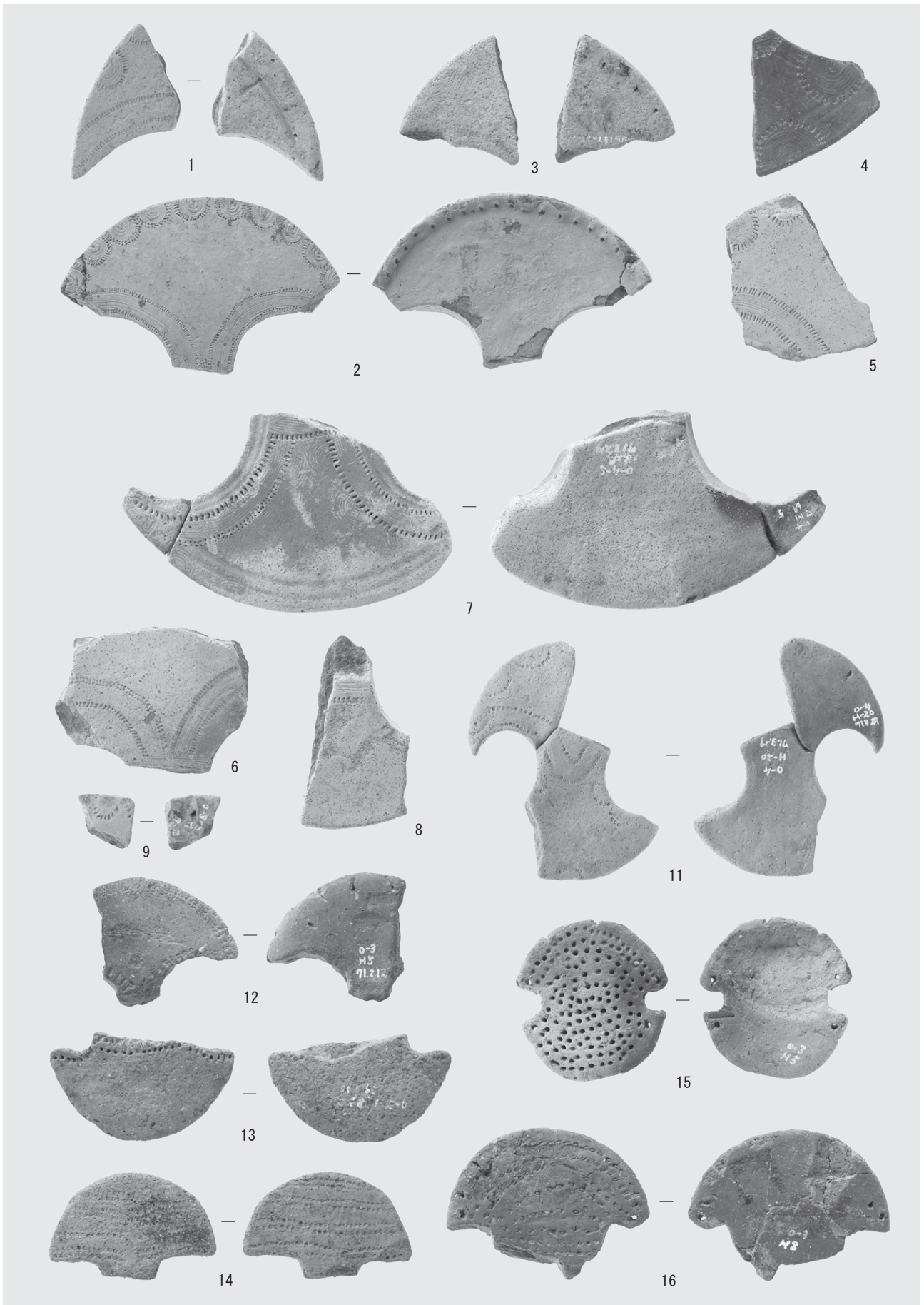
大きさ	刳込み形態	上縁文	上端孔	両端孔	眉状文
大形 (幅7cm以上)	A類 (大きい・深い)	重弧文型 平行文型	I類 (有り)	a類 (有り)	X (有り)
小形 (幅7cm未満)	B類 (小さい・浅い)	無文型	II類 (無し)	b類 (無し)	Y (無し)

分類案

時期	大形A類			小形A類		B類	
	重弧文型 平行文型	重弧文型 (備前・播磨)	無文型	重弧文型 平行文型	無文型	平行文型	無文型
中期中葉	I類X	I b類Y		(II類X)			
中期後葉	I類Y	I b類Y	I・II類Y	I・II類Y		II類Y	
後期前～中葉 (後期後葉)	II類Y		II類Y		II類Y	II類Y	II類Y
						(II類Y)	

編年案





雄町遺跡出土分銅形土製品

## 岡山県における弥生・古墳時代の刀剣類集成

石田 爲成

## 1 はじめに

岡山県は、平成26年度から古代歴史文化協議会に参加し、古代歴史文化の研究・活用に関心のある14県（埼玉県、石川県、福井県、三重県、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、福岡県、佐賀県、宮崎県）と連携して、共同で調査研究を行ってきた。研究テーマとして第1期（平成26年度～平成30年度）は「古墳時代の玉類」、第2期（令和元年度～令和4年度）は「古墳時代の刀剣類」を設定し、各県から出土した刀剣類の集成作業を行った。また、時期別に三つの分科会を設置し、集成を元に刀剣類の分布や消長、副葬の在り方等を比較分析し、当該期の社会構造や地域間交流の実態、各地域の特質の解明を目指して検討を行った<sup>(1)</sup>。共同調査研究の成果については、講演会や展覧会の開催、成果図書の刊行により、これまでも公表してきた<sup>(2)</sup>。また、各県で作成した集成についても古代歴史文化協議会のホームページ上で公開している<sup>(3)</sup>。

本稿では、古代歴史文化協議会による「古墳時代の刀剣類」の共同研究の成果として岡山県内から出土した弥生時代から古墳時代の鉄製刀剣類の集成を掲載する。また、岡山県が所属した弥生・古墳時代前期分科会での共同研究テーマの中から、吉備における弥生時代から古墳時代前期の刀剣類副葬について若干の検討を行う。

## 2 岡山県内出土の刀剣類集成

岡山県内の弥生時代から古墳時代にかけての鉄製刀剣

表1 岡山県内出土の刀剣類総数

	刀	剣	ヤリ	鉾	時期別合計
弥生時代後・終末期	2	15	0	0	17
古墳時代前期	35	103	9	5	152
古墳時代中期	112	122	15	16	265
古墳時代後期	418	12	9	24	463
古墳時代終末期	31	1	0	5	37
時期不明	93	28	0	4	125
器種別合計数	691	281	33	54	1059

類については、弥生時代の鉄製品としてや古墳時代の一部の刀剣類について部分的な集成は存在していたが（文54・87・173・229など）<sup>(4)</sup>、網羅的な集成はこれまで行われていなかった。

集成作業は、発掘調査報告書及び各自治体史、遺跡地図情報等を元に悉皆的に行った。器種別に計測値など詳細な内容を記載した個別一覧表も作成したが、本稿では紙幅の都合もあり、岡山県内の刀剣類出土遺跡一覧（表3）を掲載した<sup>(5)</sup>。また、素環頭大刀や蛇行剣、鹿角装の刀剣、装飾付大刀など県内出土の各種刀剣類についても一覧を作成して掲載した（表4）。

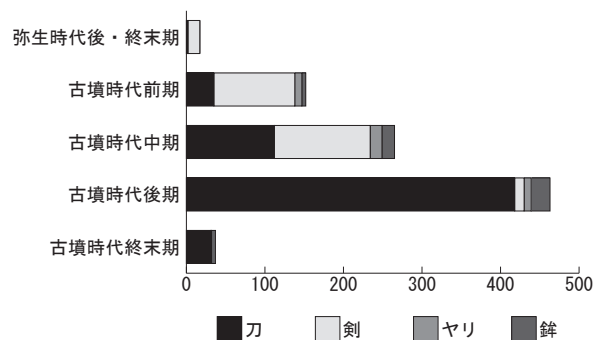
## 集成の概要

集成の結果、岡山県内においては、弥生時代から古墳時代の585遺跡、620遺構<sup>(6)</sup>から1,059点の刀剣類が出土していることが明らかになった。出土遺構の性格をみると、弥生時代は集落が4遺構、墳墓が10遺構、古墳時代は集落が15遺構、古墳若しくは墳墓が588遺構、祭祀が2遺構となり、両時代ともほぼ墳墓及び古墳から出土している。刀剣類の総数については表1に、出土器種の時期別<sup>(7)</sup>の推移を第1図に示した。時期不明のものも含めると器種別では、刀が691点、剣が281点、ヤリが33点、鉾が54点確認されている。

次に、岡山県における鉄製刀剣類の出現と時代・時期別の状況、各種刀剣類について整理する。

## 弥生時代後・終末期（刀2点、剣15点 計17点）

岡山県内で鉄製刀剣類が最初に確認されるのは、弥生時代後期中葉になる。岡山市百間川原尾島遺跡（文40）



第1図 出土器種の時期別推移

の堅穴住居から全長8.5cmの非常に小型の短剣が1点出土している。この住居は焼失住居で、鉄剣は炭化した垂木等の部材上で確認されている。特に小型の鉄剣は、剣の模倣品や代用品として製作されたと考えられ(文79)、住居廃絶儀礼等に使用された可能性もある。

続いて弥生時代後期後葉になると倉敷市榑築墳丘墓(文72・302)で剣が1点出土している。また、同時期の総社市鋳物師谷2号墓(文184)から刀1点の出土が報告されているが、詳細については不明である。

弥生時代終末期(後期末葉)になると、岡山市みそのお42号墳墓(文64)、倉敷市女男岩遺跡(文73)、浅口市城殿山遺跡(文107)などの墳墓で剣の副葬が認められる。岡山県内においては弥生時代に属する刀の確実な出土例は存在しておらず<sup>(8)</sup>、墳墓への副葬は剣が主体を占める。なお、岡山市津島遺跡(文33)の河道からは剣装具が3点出土しており、集成に加えている。

古墳時代前期(刀35点、剣103点、ヤリ9点、鉾5点 計152点)

前方後円墳の出現以後、古墳への副葬品として刀剣類が増加する。器種別では剣が多数を占めるが、刀の出土数が増加し、ヤリ、鉾が初めて確認できる。初期の前方後円(方)墳である岡山市浦間茶臼山古墳(文43)や岡山市備前車塚古墳(文14・30)では刀剣類が多量副葬されていた可能性が高い。前期後半以降になると岡山市神宮寺山古墳(文14・30・36)、岡山市金蔵山古墳(文48)、瀬戸内市花光寺山古墳(文14・209・210)などの大型前方後円墳、備前市鶴山丸山古墳(文14・16)、備前市新庄天神山古墳(文14・16)などの大型円墳から多量の刀剣類の出土が確認されている。特徴的な刀剣類としては、素環頭大刀が井原市山手3号墳(文151)、瀬戸内市花光寺山古墳で確認されている<sup>(9)</sup>。

古墳時代中期(刀112点、剣122点、ヤリ15点、鉾16点 計265点)

前期に比べて、全ての刀剣類の出土数が増加し、剣の出土数は全時期の中で最も多くなる。県北部の美咲町月の輪古墳(文288)は大型の円墳で、刀剣類を含む武器類の多量副葬が認められる。また、県北部を中心に古式群集墳が盛んに築かれるが、津山市長畝山北5号墳・9号墳(文125)、真庭市大木1号墳(文239)など、群内の一部の古墳に刀や剣が1～2点程度副葬される。

一方、県南部では、岡山市造山古墳、総社市作山古墳などの巨大古墳が存在するが、刀剣類の出土については

不明である。周辺の陪塚も含めて主体部の調査例は少なく、今回の集成での刀剣類の出土数や内容は、実態を反映していない可能性が高い。その他、注目される資料として、瀬戸内市我城山6号墳(文207)から銀装素環頭大刀が出土しており、百済からの搬入品との指摘がある(文293)。

古墳時代後期(刀418点、剣12点、ヤリ9点、鉾24点 計463点)

全時期を通じて刀剣類の出土数が最も多く、約9割を刀が占める。剣の出土は、中期に比べて激減する。横穴式石室墳からの出土例が大多数を占めるが、武器類の副葬は大刀と鉄鏃が基本となっており、石室規模の大きな上位の古墳には馬具が伴う。大刀の普遍的な副葬から、横穴式石室を通じてなされた集団の編成は軍事編成の形をもって進められたとの指摘がある(文104)。

また、古墳時代後期になると装飾付大刀が数多く出土する。表4に一覧を示したが、象嵌装大刀<sup>(10)</sup>や単龍・単鳳環頭大刀など多種にわたる。単龍・単鳳環頭大刀、振り環頭大刀は県南部、双龍環頭大刀、頭椎大刀は県北部で出土しており、分布に特徴が認められる<sup>(11)</sup>。

古墳時代終末期(刀31点、剣1点、ヤリ0点、鉾5点 計37点)

いわゆる終末期古墳に刀剣類の副葬が認められるが、出土数自体は少ない。県北部の真庭市大谷1号墳(文234)では金銅装双龍環頭大刀が、美作市外波澄古墳(文262)では金銅装圭頭大刀が出土している。その他、真庭市定北古墳(文237)、美作市大塚5号墳(文265)など県北部の有力古墳で金銅装大刀の出土が目立つ。また、真庭市定東塚古墳(文236)では三角穂式鉄鉾が5点出土しており、畿内の中央政権から地方の有力首長層への配布が想定されている(文87)。

### 3 吉備における弥生時代～古墳時代前期の刀剣類副葬について

ここでは、古代歴史文化協議会の弥生・古墳時代前期分科会における検討テーマの中から、吉備における弥生時代の刀剣類副葬と古墳時代の開始に際しての刀剣類副葬の変化について若干の検討を行う。

#### 弥生時代の刀剣類副葬

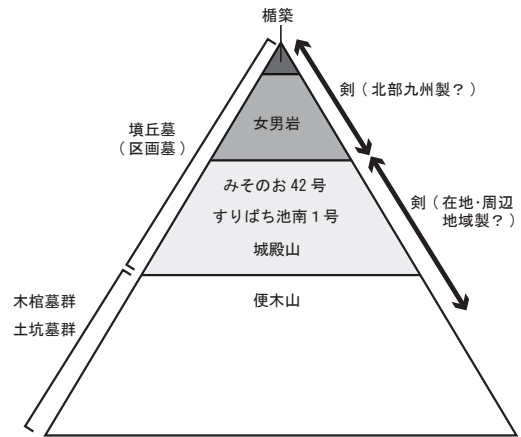
吉備では、弥生時代後期後葉になると墳墓へ刀剣類の副葬が始まる。刀剣類が最初に副葬されたのは倉敷市榑築墳丘墓(文72・302)で、中心主体から玉類とともに全長46.9cmの長剣が1点出土している。刀剣類の墳墓へ

の副葬が普及するのは、弥生時代終末期（後期末葉）以降で、基本的に1～2点の剣が副葬されるが、刀はほぼ認められない。弥生時代終末期になると刀の副葬が主体となる山陰や北陸の日本海沿岸地域とは対照的な様相を呈している（文303）。

吉備では、有力首長層は墳丘墓や区画墓を築く。楯築墳丘墓は、その卓越した墳丘規模や内容から最高首長墓と考えられる。時期は下り、やや下位に位置付けられるのは倉敷市女男岩遺跡（文73）で、後期末葉に築かれた墳丘墓と考えられる。中央部の埋葬主体には、全長38cmと25cmの短剣が2点副葬されていた。これらの上位首長層の墳墓に副葬された鉄剣は、厚手の長剣若しくは短剣で<sup>(12)</sup> 北部九州で製作されたとの指摘がある（文103）。

弥生時代後期末葉になると、規模等が劣る下位首長層の墳墓でも剣副葬が認められる。岡山市みそのお42号墳墓（文64）で、2つの主体部から1点ずつ、全長15～16cm程度の短剣が切断されたり折り曲げられたりした状態で出土している<sup>(13)</sup>。また、総社市すりばち池南1号墓（文159）では全長約17cm、浅口市城殿山遺跡（文107）では全長約21cmの短剣が副葬されている。さらに下位に位置付けられる土坑墓群などの集団墓では、赤磐市便木山遺跡（文218）の土坑墓1基から全長約15cmの短剣が1点出土している。これらの墳墓に副葬された剣は、いずれも薄手の短剣で、在地若しくは北部九州以外の吉備の周辺地域での製作が想定されている（文292）。

このように吉備では、上位の首長層は北部九州製の鉄



第2図 吉備の弥生墳墓と副葬鉄剣の階層性

剣を、下位の首長層や有力家長層は在地若しくは周辺地域で作られた鉄剣を入手し、墓に副葬したと考えられ、第2図に示したように副葬される鉄剣と墳墓の階層にも相関関係を認めることができる。

### 古墳の出現と刀剣類副葬

弥生時代終末から古墳時代初頭にかけての時期に、全長約38mの前方後円形の墳丘をもつ、総社市宮山墳墓群（文14・154）が築かれる。後円部の竪穴式石室からは剣1点、刀1点と共に飛禽鏡・玉類・鉄鏃・銅鏃が出土している。宮山墳墓群に続いて出現するのは、全長約138mを測る大型前方後円墳の岡山市浦間茶臼山古墳（文43）である。後円部の竪穴式石室からは、刀5点以上、剣18点以上と推定される多量の刀剣類と共に細線式獸帯鏡、銅鏃、鉄鏃、鉄製農具などが出土している。また、全長約48mの前方後方墳である岡山市備前車塚古墳

表2 刀剣類が副葬された弥生墳墓と前期古墳の比較

時代	墳墓・古墳名	所在地	時期	墳丘形態	墳長 (m)	中心埋葬	刀	剣	ヤリ	鉾	鏡	玉類	鏃	甲冑	農工具	その他	文献
弥生時代	楯築墳丘墓	倉敷市	後期後葉	双方中円	80	木槨木棺		1				○				特殊器台・特殊壺	文72・302
	鑄物師谷2号墓	総社市	後期後葉	方	30	竪穴式石室	1?					○				特殊器台・特殊壺	文184
	女男岩遺跡	倉敷市	後期末葉	方?	20?	木棺		2								特殊壺	文73
	観音堂弥生墳丘墓	岡山市	後期末葉	方	-	竪穴式石室		1				○					文22
	みそのお42号墳墓第3主体	岡山市	後期末葉	方	21.5	木棺		1				○		○			文64
	みそのお42号墳墓第5主体	岡山市	後期末葉	方	21.5	木棺		1					○	○			文64
	すりばち池南1号墓	総社市	後期末葉	方	14.4	木棺?		1				○					文159
	城殿山遺跡埋葬施設1	浅口市	後期末葉	-	-	木棺		1									文107
	便木山遺跡第26号土坑墓	赤磐市	後期末葉	-	-	土坑		1								遺跡内で特殊器台・特殊壺	文218
	宮山墳墓群	総社市	後期末葉～前期初頭	前方後円	38	竪穴式石室	1	1			○	○	○				特殊器台・特殊壺
古墳時代	浦間茶臼山古墳	岡山市	前期前葉	前方後円	138	竪穴式石室	5～	18～			○	○	○	○	○	特殊器台形埴輪	文43
	備前車塚古墳	岡山市	前期前葉	前方後方	48	竪穴式石室	1～	1～		1	○	○	○	○		特殊器台形埴輪	文14・30
	七つ坑1号墳後方部第1石室	岡山市	前期前葉	前方後方	45	竪穴式石室	1	1		1	○	○		○		特殊器台形埴輪	文27
	みそのお14号墳墓第2主体	岡山市	前期前葉	方	20	木棺		1						○			文64
	用木4号墳 第4主体	赤磐市	前期前葉	方	22	木棺?		1				○		○			文220
	用木1号墳 第1主体	赤磐市	前期中葉	円	31	割竹形木棺	1	3			○		○	○			文220
	殿山10号墳 第1主体	総社市	前期中葉	方	15	木棺		1			○			○			文175
殿山11号墳 第4主体	総社市	前期中葉	方	15	木棺	1	1			○	○				二体埋葬	文175	

(文14・30)では、後方部の竪穴式石室から、刀と剣が複数点、鉾が1点出土し、三角縁神獸鏡11面、内行花文鏡、画文帯神獸鏡、鉄鏃、鉄製農工具等も伴っている。

表2に刀剣類が副葬された弥生墳墓と前期古墳の諸要素の一覧を示した。吉備において浦間茶白山古墳をはじめとする古墳時代前期前葉の前方後円墳や前方後方墳は、弥生時代の墳墓に比べ、墳丘の規模、副葬品の種類や量に至るまで様々な要素が飛躍的に発展した内容となっている。副葬される刀剣類については、刀が新たに加わり、多量に副葬される傾向が認められる。古墳時代になるとヤマト王権の下に集約された刀剣類が、各地の有力首長に配布されたとの見解もある(文271)。一方で、岡山市みそのお14号墳墓(文64)、赤磐市用木4号墳(文220)、総社市殿山10・11号墳(文175)など中・小規模の古墳では前期を通して刀剣類は1～2点のみを副葬するものが多く、弥生時代の様相と大きく変わらないことから、複数器種による刀剣類の多量副葬は、一部の有力首長層に限られていたと考えられる。

#### 4 おわりに

岡山県は、平安時代後期以降の日本刀の一大生産地で、備前長船などの備前刀でも、著名な地域である。

今回の集成で、弥生時代から古墳時代においても、1,000点を超える刀剣類の出土が確認され、各時期にも注目される資料が多く存在していることが明らかになった。今後は、集成を元にして、各種刀剣類についての個別研究を深化し、刀剣類から見た弥生・古墳時代の社会構造や地域的特性、地域間交流の様相などについて解明していく必要があり、検討課題としたい。

集成作業や本稿の作成にあたり、上梶武氏、小林有紀子氏、佐藤寛介氏、関幸代氏、平井典子氏、水田貴士氏、ライアン・ジョセフ氏から多くの助力や教示をいただいた。末筆ながら厚くお礼申し上げます。

#### 註

(1) 各分科会と構成県は次のとおりである。

弥生・古墳時代前期(石川県・福井県・鳥取県・岡山県・福岡県)、古墳時代中期(奈良県・兵庫県・広島県・佐賀県・宮崎県)、古墳時代後期(埼玉県・三重県・和歌山県・鳥根県)

(2) 令和元・3・4年に古代歴史文化講演会、令和4年に展覧会「刀剣～古代の武といのり～」を大阪歴史博物館で開

催した。また、令和4年に共同研究の成果図書として『刀剣－武器から読み解く古代社会－』を刊行した。

(3) 各県の集成や器種別の個別一覧については、古代歴史文化協議会のホームページ(<https://kodairekibunkyo.jp/touken-date.html>)で公開しているので参考にしていただきたい。

(4) 集成及び本稿の参考・引用文献は、表5に文献一覧としてまとめて掲載しており、本文中では(文～)と示した。

(5) 集成は弥生時代から古墳時代の鉄製刀剣類(刀、剣、やり、鉾)を対象とした。刀については、全長20cm程度以下で目釘孔の確認できないものは「刀子」として対象外とした。なお、青銅製品は対象外であるが、百間川原尾島遺跡出土の鉄剣形銅剣1点(文41)を加えた。

(6) 集成は遺構単位で行い、古墳等で複数の主体部から刀剣類が出土している場合は、それぞれ1遺構としてカウントした。また、複数点出土の情報があっても正確に数が把握できず実態不明な場合は、出土数は1点とした。

(7) 時期区分については、基本的に古代歴史文化協議会の方針に従った。弥生時代終末期(後期末葉)はオノ町式に相当する。古墳時代前期は下田所式からで、古墳時代後期はMT15型式併行期から、古墳時代終末期はTK217型式併行期からとなる。

(8) 真庭市巨原遺跡(文244)では、弥生時代終末期の竪穴住居から刀の出土が報告されており集成に加えているが、出土した刀の特徴は新しく、古墳時代以降に混入した可能性もある。

(9) 岡山市みそのお5号墳墓(文64)出土の鉄刀については、素環部切断の可能性が指摘されている(文292)。

(10) 今回の集成作業にあたって一部古墳出土の遺物についてX線写真撮影による再調査を行い、岡山市龍王塚古墳(文5)、新見市道上古墳(文201)、浅口市宮の脇古墳(文268)で新たに象嵌を有する刀装具の存在が明らかになった。

(11) 県南部に単龍・単鳳環頭大刀が、県北部に双龍環頭大刀が特徴的に分布することについては、中央の特定有力氏族と地域首長の関係において大刀を入手したことに起因するとの指摘がある(文236・304)。

(12) 吉備における古墳出現期の刀剣類については、ライアン・ジョセフ氏によって詳細な検討が行われている。刀剣類の製作技術水準に関わる鉄本体の重厚さを重視した厚手・薄手の区分は本稿でも援用した。また、副葬刀剣類に関わる生産・流通の階層的な様相についても、すでに指摘されている(文292)。

(13) 刀剣類も含めた副葬品の破壊は、弥生時代終末期に出現し盛行するが、古墳時代前期の首長墳の儀礼には継承されず、小規模墳で残存するとの指摘がある(文104)。

表3 岡山県内の刀剣類出土遺跡一覧

番号	遺跡名	所在地	遺跡種類	墳形	規模	出土遺構	時期		器種				器種備考	文献番号	備考
							時期	時期細分	刀	剣	ヤリ	鉾			
1	名称未定	岡山市北区粟井	古墳	円墳			古墳		1					文1	伝大刀出土
2	尾籠山古墳(下高田2号墳)	岡山市北区下高田・吉	古墳	前方後円墳	44	第1主体(竪穴式石室)	古墳・前			1				文2・3	
3	塚の上2号墳	岡山市北区三和	古墳	方墳	6.3	箱式石棺	古墳・前 ～中			1				文4	伝鉄剣出土
4	鳩ヶ岩山古墳	岡山市北区三和	古墳	円墳	12.5	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀初頭、TK43～TK209	1					文6	
5	龍王塚古墳	岡山市北区杉谷	古墳	円墳	17	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半	2			銀象嵌装大刀1・金銅装圭頭?大刀1	文5		
6	醫王谷古墳	岡山市北区日近	古墳	円墳	14	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀初頭	1			鏝のみ	文58		
7	南坂1号墳	岡山市北区下足守	古墳	円墳	17	第1主体(木棺)	古墳・中	5世紀前半	1					文7・8	
8	南坂1号墳	岡山市北区下足守	古墳	円墳	17	第3主体(箱形木棺)	古墳・中	5世紀前半		1				文7・8	
9	すくも山遺跡	岡山市北区足守	古墳			南側斜面(箱式石棺?)	古墳・中	5世紀後半		1				文9	箱式石棺の南側より出土
10	長坂1号墳	岡山市北区下足守	古墳	方墳	7.1	箱式石棺	古墳・前	前期後半		1				文10	
11	南坂27号墳	岡山市北区下足守	古墳	方墳	9	箱式石棺	古墳・中			2				文57	
12	一国山1号墳	岡山市北区下足守	古墳	方墳	9以上	石棺1(箱式石棺)	古墳・中	5世紀後半		2				文59	
13	下足守見坂山	岡山市北区下足守	古墳				古墳			2				文2	
14	下足守	岡山市北区下足守	古墳				古墳			1				文2	
15	上土田29号墳	岡山市北区上土田	古墳			箱式石棺	古墳・中 ～	5世紀中葉以降	1	2				文1・11	
16	大崎29号墳	岡山市北区大崎	古墳			横穴式石室?	古墳・終末	7世紀前半、TK217	1					文1・12	
17	堂山2号墳	岡山市北区平山	古墳	方墳	13	竪穴式石室	古墳・中			1				文13	
18	堂山5号墳	岡山市北区平山	古墳	円墳	10	木棺直葬	古墳・中			3	1			文13	
19	榊山古墳(造山第1号古墳)	岡山市北区新庄下	古墳	円墳	35	割竹形木棺	古墳・中	5世紀前半	1	1	1			文14・15	千足古墳と遺物混在の可能性あり
20	千足古墳(造山第5号古墳)	岡山市北区新庄下	古墳	前方後円墳(帆立貝形)	81	第1石室(横穴式石室)	古墳・中	5世紀前半、～TK216	7	4	2			文15・16・17	
21	加茂政所遺跡	岡山市北区加茂	集落			溝34	古墳・終末	7世紀前半	1					文18	
22	足守川加茂A遺跡	岡山市北区加茂	集落			土器溜り	古墳・前	前期初頭		1				文19・292	鑄造鉄剣の可能性あり(文292)
23	足守川加茂B遺跡	岡山市北区加茂	集落			包含層	古墳・前 ～中	古墳時代前半			1	二又鉾1		文19	
24	奥坂遺跡	岡山市北区大内田	集落			A地区 No.140 袋状土坑	弥生・終末	後期末葉		1				文47	
25	前池内3号墳	岡山市北区津寺	古墳	円墳	18	横穴式石室	古墳・後	6世紀第4四半期～7世紀前半、7世紀第3四半期	1					文20	
26	前池内4号墳	岡山市北区津寺	古墳	円墳	15	横穴式石室	古墳・終末	7世紀前半～後半、8世紀初頭		1				文20	
27	雲山5号墳	岡山市北区津寺	古墳	円墳	12	横穴式石室	古墳・後	6世紀末～7世紀後半	2					文20	
28	甫崎天神山8号墳	岡山市北区津寺	古墳	円墳	12.1	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀初頭	2					文20	
29	後池内古墳	岡山市北区津寺	古墳	円墳	10	箱式石棺	古墳・中	5世紀第2四半期		1				文20	
30	郷境2号墓	岡山市北区津寺	古墳	方墳	9.5	主体部(箱式木棺)	古墳・前	前期初頭		1				文20	
31	郷境3号墓	岡山市北区津寺	古墳	方墳	16	第1主体(箱式木棺)	古墳・前	前期前葉		2				文20	
32	杉尾西5号墳	岡山市北区吉備津	古墳	方墳	8	箱式石棺	古墳・中	5世紀末、TK47	1	1				文21	
33	天神山1号墳	岡山市北区辛川市場	古墳	円墳		竪穴式石室	古墳・前	前期前葉		1				文14	
34	天神山2号墳	岡山市北区辛川市場	古墳	前方後円墳	60	A石室(竪穴式石室)	古墳・前	前期後葉		1	1			文14	
35	天神山2号墳	岡山市北区辛川市場	古墳	前方後円墳	60	B石室(竪穴式石室)	古墳・前	前期後葉		1	1			文14	
36	観音堂弥生墳丘墓	岡山市北区大窪	墳墓	方形		第1主体(竪穴式石室)	弥生・終末	後期末葉		1				文22	
37	青谷5号墳	岡山市北区田益	古墳	円墳	15	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀初頭、TK43～TK209	4			金銅装圭頭?大刀1	文23		
38	西山1号墳	岡山市北区栢谷	古墳	円墳	15	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀初頭、TK43～TK209	4			金銅装大刀1	文24		
39	西山2号墳	岡山市北区栢谷	古墳	円墳	15.5	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀初頭、TK43～TK209	2			銀象嵌装大刀1・金銅装大刀1	文24		
40	西山3号墳	岡山市北区栢谷	古墳	円墳	9.5	横穴式石室	古墳・後	6世紀中葉～7世紀初頭、TK10～TK209	2			銀装大刀1	文24・25		
41	西山11号墳	岡山市北区栢谷	古墳	方墳	8	竪穴式石室	古墳・後	6世紀中葉、TK10	1					文24	
42	猪ノ坂東古墳	岡山市北区津高台	古墳	円墳	15	粘土槨(組合せ式木棺)	古墳・中	5世紀		1				文26	
43	七つ坊1号墳	岡山市北区津島西坂・津島笹ヶ瀬	古墳	前方後方墳	45	後方部第1石室(竪穴式石室)	古墳・前	前期前葉	1	1	1			文27・292	刀剣類は壛壕内流入土からの出土、鐵は鉾切先か(文292)

紀要第3号

番号	遺跡名	所在地	遺跡種類	墳形	規模	出土遺構	時期		器種				器種備考	文献番号	備考
							時期	時期細分	刀	剣	ヤリ	鉾			
44	七つ坂1号墳	岡山市北区津島西坂・津島笹ヶ瀬	古墳	前方後方墳	45	後方部第2石室(竪穴式石室)	古墳・前	前期前葉		1				文27	
45	都月坂1号墳	岡山市北区津島本町・津高	古墳	前方後方墳	33	竪穴式石室	古墳・前	前期前葉		1				文14・28	
46	津倉古墳	岡山市北区京山一丁目	古墳	前方後方墳	41.5	西主体部(竪穴式石室)	古墳・前	前期中葉		2	2			文29	
47	お塚様古墳(塚の本古墳)	岡山市北区津島福居	古墳	前方後円墳(帆立貝形)	30	竪穴式石室	古墳・中	5世紀末		1	10			文30・31・32	
48	神宮寺山古墳	岡山市北区中井町	古墳	前方後円墳	150	副室(小竪穴式石室)	古墳・前	前期後葉		1以上	1以上		刀・剣で25点以上	文14・30・36	
49	一本松1号墳	岡山市北区法界院	古墳	前方後円墳(帆立貝形)	65	竪穴式石室	古墳・中	5世紀前半		1	1			文2・30	
50	津島遺跡	岡山市北区いずみ町	集落			河道1 北岸	弥生・後～終末	後期後葉～末葉		3			剣装具のみ(鹿角製装具1含む)	文33	
51	津島遺跡	岡山市北区いずみ町	集落			包含層	古墳			1				文34	
52	津島江道遺跡	岡山市北区津島東	集落			溝9上層	弥生・後～古墳・後			1	1			文35	
53	平瀬2号墳	岡山市北区平瀬	古墳	円墳	14	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀前葉、TK43～TK209		2			銀象嵌装大刀1	文37	
54	名称未定	岡山市北区玉柏	古墳			竪穴式石室	古墳			1				文1	伝刀剣出土
55	林原5号墳	岡山市北区牟佐	古墳	円墳	13	横穴式石室	古墳・後	6世紀末		1			鞘尻のみ	文38	
56	備前車塚古墳	岡山市中区四御神	古墳	前方後方墳	48	竪穴式石室	古墳・前	前期前葉		1以上	1以上	1	刀・剣それぞれ1点以上出土	文14・30	
57	鴨山古墳跡	岡山市中区土田	古墳	円墳		箱式石棺?	古墳			1				文1	伝刀出土
58	上道郡財田村土田出土	岡山市中区土田	古墳				古墳・後			1			獣形?環頭大刀1	文2・44・62	類例不明の獣形?環頭大刀
59	上道郡財田村出土	岡山市中区土田	古墳				古墳・後			1			金銅装圭頭大刀1	文61	
60	金蔵山古墳	岡山市中区沢田	古墳	前方後円墳	165	中央石室(竪穴式石室)	古墳・前	前期後葉		2	2	1	刀・剣それぞれ2点以上出土	文48・49	
61	金蔵山古墳	岡山市中区沢田	古墳	前方後円墳	165	中央石室副室(竪穴式石室)	古墳・前	前期後葉				2	二又鉾1含む	文48・49	
62	金蔵山古墳	岡山市中区沢田	古墳	前方後円墳	165	南石室(竪穴式石室)	古墳・前	前期後葉		3	3		刀・剣それぞれ3点以上出土	文48・49	
63	沢田字東堅石	岡山市中区沢田	古墳				古墳			3				文2	
64	操山14号墳(旗振台古墳)	岡山市中区円山	古墳	方墳	20	南粘土槨(木棺)	古墳・中	5世紀前半		4	4			文30	
65	操山14号墳(旗振台古墳)	岡山市中区円山	古墳	方墳	20	北粘土槨(割竹形木棺)	古墳・中	5世紀前半		1	2	1		文30	
66	操山14号墳(旗振台古墳)	岡山市中区円山	古墳	方墳	20	中央石室(竪穴式石室)	古墳・中	5世紀前半		5	3	2		文30	
67	原尾島遺跡	岡山市中区藤原光町	集落			溝19	古墳・終末	7世紀第1四半期		1				文39	
68	原尾島遺跡	岡山市中区藤原光町	集落			包含層	古墳			1				文39	
69	百間川原尾島遺跡	岡山市中区原尾島	集落			三股ヶ・丸田調査区 竪穴住居6	弥生・後	後期中葉		1				文40	
70	百間川原尾島遺跡	岡山市中区原尾島	集落			竪穴住居9	古墳・前	前期初頭		1			鉄剣形銅剣	文41	青銅製
71	兼基字鳥坂山	岡山市中区兼基	古墳				古墳			1				文2	
72	今谷1号墳(操山128号墳)	岡山市中区今谷	古墳	円墳	9	墳丘外土坑(一括埋納)	古墳・後	6世紀後葉～7世紀前葉		1				文50	
73	北山3号墳	岡山市東区浦間	古墳	方墳	11	南埋葬(粘土槨)	古墳・前～中	4～5世紀			1			文42	
74	北山4号墳	岡山市東区浦間	古墳	方墳	14		古墳・前～中	4～5世紀		1	1			文42	
75	浦間茶臼山古墳	岡山市東区浦間・浅川	古墳	前方後円墳	138	竪穴式石室	古墳・前	前期前葉		5以上	18以上		刀は破片で12点、剣は破片49点	文43	
76	佐古山古墳	岡山市東区竹原	古墳	円墳	15	竪穴式石室	古墳・前			1	1			文1・44	
77	浅川2号墳	岡山市東区浅川・橋原	古墳	円墳	7	箱式石棺	古墳・前	4世紀後半～5世紀初頭			1			文45	
78	浅川3号墳	岡山市東区浅川・橋原	古墳	円墳		箱式石棺	古墳・前	4世紀後半～5世紀初頭			1			文45	
79	寺山7号墳	岡山市東区寺山・内ヶ原	古墳	円墳	9.5	主体部(木棺直葬)	古墳・中	5世紀後半		1				文46	
80	根岸古墳	岡山市東区竹原	古墳	円墳	20.5	横穴式石室	古墳・後	6世紀末～7世紀前葉		2			金銅装大刀1	文45	
81	名称不明	岡山市東区吉井	古墳				古墳				2			文60	
82	高島遺跡	岡山市南区宮浦	祭祀			岩盤山頂上地点	古墳・中	5世紀末～6世紀初頭		1				文14・30・51	
83	八幡大塚2号墳	岡山市南区北浦	古墳	円墳	35	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀前葉、TK43～TK209		1		2	振り環頭大刀1	文14・52・53・54	
84	稲荷山古墳	岡山市南区鮑浦	古墳			横穴式石室	古墳・後			1			鏝のみ	文30	
85	九谷2号墳	岡山市北区御津宇甘	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後			1				文1・63	伝刀出土
86	みそのお3号墳墓	岡山市北区御津高津	古墳	円墳	10	主体部(木棺)	古墳・中	5世紀後半、TK23～TK47			1			文64	
87	みそのお5号墳墓	岡山市北区御津高津	古墳	正方形	10	第1主体部(木棺)	古墳・前	前期前葉		1			素環頭部切断の可能性あり(文292)	文64・292	
88	みそのお14号墳墓	岡山市北区御津高津	古墳	方形	20	第2主体部(木棺)	古墳・前	前期前葉			1			文64	
89	みそのお38号墳墓	岡山市北区御津高津	古墳	長方形	8	第6主体部(木棺)	古墳・前	前期初頭			1			文64	
90	みそのお42号墳墓	岡山市北区御津高津	墳墓	長方形	21.5	第3主体部(木棺)	弥生・終末	後期末葉			1			文64	

番号	遺跡名	所在地	遺跡種類	墳形	規模	出土遺構	時期		器種				器種備考	文献番号	備考
							時期	時期細分	刀	剣	ヤリ	鉾			
91	みそのお42号墳	岡山市北区御津高津	墳墓	長方形	21.5	第5主体部(木棺)	弥生・終末	後期末葉		1				文64	
92	岩井山4号墳	岡山市北区御津伊田	古墳	方墳	12	第2号棺(箱式石棺)	古墳・中	5世紀		1				文63	
93	岩井山6号墳	岡山市北区御津伊田	古墳	方墳	10.8	箱式石棺	古墳・中	5世紀		1				文63	
94	高浜1号墳	岡山市北区建部町川口	古墳	円墳		箱式石棺	古墳			1				文1・65	何号墳出土遺物か不明
95	豊楽寺1号墳	岡山市北区建部町豊楽寺	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後			1				文1・65	何号墳出土遺物か不明
96	松尾11号墳	岡山市北区建部町下神目	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後			1				文1・65	
97	塚の鼻3号墳	岡山市北区建部町大田下	古墳	方墳		箱式石棺	古墳・中			2				文56	葦の1片は刀の可能性あり
98	大田下谷1号墳	岡山市北区建部町大田下	古墳	円墳	10	箱式石棺	古墳			1				文1・65	伝刀出土
99	三ツ星1号墳	岡山市北区建部町吉田	古墳	円墳	14.7		古墳・中	5世紀		1				文1・65	伝刀出土
100	津高郡建部村神力山出土	岡山市北区建部町市場	古墳				古墳・後			1		三葉環頭大刀1	文2・66		
101	辛音口古墳	岡山市東区瀬戸町鍛冶屋	古墳		10	造成土	古墳・後			1			文67	主体部は横穴式石室	
102	上の山1号墳	岡山市東区瀬戸町宗堂	古墳			箱式石棺?	古墳			1			文68	伝刀出土	
103	鎌奥古墳	岡山市東区瀬戸町観音寺	古墳				古墳			1			文68	伝刀出土	
104	竜王1号墳	岡山市東区瀬戸町瀬戸	古墳	円墳	8.5		古墳			1		環頭大刀?	文68・69	伝環頭出土	
105	坂根古墳	岡山市東区瀬戸町坂根	古墳	円墳	13		古墳			1			文1	伝刀出土	
106	鉄砲山下古墳	岡山市東区瀬戸町下	古墳	円墳			古墳			1			文68	伝刀出土	
107	陣場山2号墳	岡山市東区瀬戸町江尻	古墳	円墳	25		古墳			1			文14・68・69	伝刀出土	
108	陣場山D-1号	岡山市東区瀬戸町江尻	古墳	方墳		東土坑墓	古墳・前			1			文14・68・69		
109	陣場山D-1号	岡山市東区瀬戸町江尻	古墳	方墳		中央土坑墓	古墳・前			1			文14・68・69		
110	観音寺奥谷古墳	岡山市東区瀬戸町観音寺	古墳				古墳			1			文68	古墳の詳細不明	
111	郷ノ溝遺跡	岡山市北区納所、倉敷市日畑	集落			溝9	古墳・後	6世紀後半		1			文55		
112	矢部大塚古墳(矢部D17号墳)	倉敷市矢部	古墳	前方後円墳	47	竪穴式石室	古墳・前	前期前葉		1			文3・70		
113	矢部B19号墳	倉敷市矢部	古墳	方墳	10	主体部(木棺直葬)	古墳・前	前期中葉		2			文71		
114	矢部A57号墳	倉敷市矢部	古墳	方墳	10	不明	古墳・前	前期中葉		1			文71		
115	榎築墳丘墓	倉敷市矢部	墳墓	双方中円形	80	中心主体(木棺木槨)	弥生・後	後期後葉		1			文72・302		
116	王墓山半儀4号墳	倉敷市矢部	古墳			横穴式石室	古墳・終末	7世紀末		1			文73		
117	王墓山古墳	倉敷市日畑	古墳	円墳	25以上	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半		3		5	金銅装圭頭様素環頭大刀1	文14・73	
118	王墓山赤井西2号墳	倉敷市日畑	古墳			横穴式石室	古墳・後	6世紀末~7世紀		1			文73		
119	王墓山赤井西4号墳	倉敷市日畑	古墳	円墳	15	横穴式石室	古墳・後	6世紀末~7世紀初		1		1	文73		
120	王墓山赤井南3号墳	倉敷市日畑	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後	6世紀後半~7世紀初		3		1	金銅装大刀1・金銅装円頭?大刀1	文73	
121	王墓山赤井南4号墳	倉敷市日畑	古墳			横穴式石室	古墳・後	6世紀後半~7世紀初		1			文73		
122	女男岩遺跡	倉敷市矢部	墳墓	方形?	10以上	中央土坑墓(木棺)	弥生・終末	後期末葉		2			文73		
123	天王山古墳	倉敷市玉島八島	古墳	前方後円墳	50		古墳・中	5世紀後半		1			文70・74	伝刀出土	
124	ドン・ドン山2号墳	倉敷市藤戸町天城	古墳			横穴式石室	古墳・後			1			文70	伝刀出土	
125	浦田船着古墳	倉敷市福田町福田	古墳			横穴式石室	古墳・後			1			文70	伝刀出土	
126	湾戸7号墳	倉敷市福田町福田	古墳	円墳	13	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半~7世紀		9			文75		
127	金浜古墳	倉敷市児島塩生	古墳	円墳	10	横穴式石室	古墳・後	6世紀中葉		4			文70・76		
128	高島エビス鼻1号墳	倉敷市児島塩生	古墳			横穴式石室	古墳・後			1			文70	伝刀出土	
129	琴海1号墳	倉敷市阿津1丁目	古墳	円墳	12	横穴式石室	古墳・後	6世紀末~7世紀中葉		2		1	金銅装圭頭大刀1	文77	
130	鷺羽山3号墳	倉敷市下津井田之浦	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後	6世紀後半		1			文70		
131	ホネコッサマ古墳	倉敷市児島唐琴町	古墳			箱式石棺	古墳			1			文70	伝刀出土	
132	南山21号墳	倉敷市真備町川辺	古墳	円墳	10	箱式石棺	古墳・前~中	4世紀末~5世紀中葉		1			文78		
133	南山明地4号墳	倉敷市真備町川辺	古墳	円墳	14	主体部2(礫敷木棺)	古墳・前~中	前期後葉~中期前半				1	文80		
134	后王古墳	倉敷市船穂町船穂	古墳	前方後円墳?	20		古墳			1			文81・82	伝大刀出土	
135	前田大塚古墳	倉敷市真備町前田	古墳	円墳(造出し付き)	50	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半~7世紀初頭		3			文2・14・83	単環頭大刀3	
136	竜王塚古墳	倉敷市真備町有井	古墳	円墳	37	竪穴式石室	古墳・中	5世紀末		1			文84・85・86		
137	経塚古墳	倉敷市真備町上二万	古墳	円墳	13	横穴式石室?	古墳・後			1			文81	伝大刀出土し再埋納	
138	二万大塚古墳	倉敷市真備町下二万	古墳	前方後円墳	38	横穴式石室	古墳・後	6世紀中葉、TK10		5			文86		



紀要第3号

番号	遺跡名	所在地	遺跡種類	墳形	規模	出土遺構	時期		器種				器種備考	文献番号	備考
							時期	時期細分	刀	剣	ヤリ	銚			
139	勝負砂古墳	倉敷市真備町下二万	古墳	前方後円墳(帆立貝形)	43	竪穴式石室	古墳・中	5世紀後半	2			2	鹿角製柄縁2・鹿角製柄頭(直弧文あり)1・骨角製板状装具1	文88	
140	天狗山古墳	倉敷市真備町川辺・下二万	古墳	前方後円墳(帆立貝形)	57	竪穴式石室	古墳・中	5世紀後半、TK47	2	1	3	1	鹿角製大刀鞘口1(直弧文あり)・鹿角製剣柄縁1・二本芯並列コイル状二重構造糸巻き1	文2・14・84・85・89・299	
141	古観音寺1号墳	津山市山方	古墳	円墳	12	横穴式石室	古墳・後		1					文90	昭和初期に乱掘、陶棺、須恵器、刀剣、玉類などが出土
142	高倉大門古墳	津山市上高倉	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1				鉄刀片5のみ	文2・90	
143	寺田古墳	津山市綾部	古墳	円墳	10	横穴式石室	古墳・後	6世紀末～7世紀初頭	1					文91	
144	築瀬2号墳	津山市草加部	古墳	円墳	9	第2主体部(木棺直葬)	古墳・後	6世紀後半	1					文92	
145	五反田2号墳	津山市橘	古墳	円墳	11	主体部(木棺直葬)	古墳・中	5世紀末～6世紀初頭		1				文93	
146	田邑丸山1号墳	津山市下田邑	古墳	円墳	36	第1主体(竪穴式石室)	古墳・前	前期後半		2				文2・14・94・95・96	
147	田邑丸山1号墳	津山市下田邑	古墳	円墳	36	第2主体(木棺)	古墳・前	前期後半		1				文2・4・94・95・96	
148	有本2号墳	津山市下田邑	古墳	方墳	9	第1主体(木棺)	古墳・前	前期中葉		1				文97	
149	有本4号墳	津山市下田邑	古墳	方墳	10	第1主体(竪穴式石室)	古墳・前	前期中葉		1				文97	
150	男戸嶋古墳	津山市戸島	古墳	円墳	15	主体部(木棺)	古墳・中	5世紀中頃		2				文98	
151	下田邑二子古墳	津山市下田邑	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1					文90	伝刀出土
152	大開3号墳	津山市二宮	古墳	円墳	13	主体部(木棺直葬)	古墳・後	6世紀前半、MT15	1					文99	
153	大開4号墳	津山市二宮	古墳	円墳	12	主体部(木棺直葬)	古墳・後	6世紀中葉、TK10	1					文99	
154	二宮大成古墳	津山市二宮	古墳	円墳	16	横穴式石室	古墳・後	6世紀末～7世紀前半	1				金銅装頭椎大刀1	文100・101	柄頭は出土していないが鍔の特徴から頭椎大刀と推定(文101)
155	下道山遺跡	津山市総社	墳墓			包含層	古墳			1				文102	
156	桑山1号墳	津山市平福・高尾	古墳	円墳	18	横穴式石室	古墳・後	6世紀中葉、TK10			1		石突1のみ	文105	
157	桑山2号墳	津山市高尾	古墳	円墳	12	横穴式石室	古墳・後	6世紀中葉、TK10	1				素環頭大刀1	文105	
158	桑山3号墳	津山市平福・高尾	古墳	円墳	10	箱式石棺	古墳・後	6世紀中葉、TK10	2				鹿角製柄2	文105	
159	桑山4号墳	津山市平福	古墳	円墳	10	第2主体部(竪穴式石室)	古墳・後	6世紀中葉、TK10	1					文105	
160	桑山5号墳	津山市平福	古墳	円墳	10	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半、TK10～TK43	1					文105	
161	桑山南1号墳	津山市高尾	古墳	円墳	14	横穴式石室	古墳・後	6世紀末葉～7世紀中葉	1				銀象嵌装大刀1	文106	
162	桑山南3号墳	津山市高尾	古墳	円墳	10	横穴式石室	古墳・終末	7世紀前半～中葉	2					文106	
163	細畝3号墳	津山市高尾	古墳	円墳	12	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀中葉	1					文106	
164	高尾ズリ谷1号墳	津山市高尾	古墳	円墳	11	横穴式石室	古墳・後	6世紀中葉	1					文94	
165	丸山1号墳	津山市福田	古墳	円墳	10.8	横穴式石室	古墳・後		2					文108	
166	丸山2号墳	津山市福田	古墳	円墳	10	横穴式石室	古墳・後		1					文108	
167	中宮1号墳	津山市福田	古墳	前方後円墳(帆立貝形)	23	横穴式石室	古墳・後	6世紀中葉、TK10	6				銀装大刀1・鹿角製刀装具2	文108	
168	門の山8号墳	津山市平福	古墳	円墳	9.5	第1主体(木棺直葬)	古墳・中	5世紀末、TK47	1					文109	
169	門の山9号墳	津山市平福	古墳	円墳	8	主体部(木棺直葬)	古墳・後		1					文109	
170	カキ谷B1号墳	津山市種	古墳	円墳	11.5	横穴式石室	古墳・後～終末	6世紀第3四半期～7世紀前半、7世紀第4四半期	1					文110	
171	沼6号墳	津山市沼	古墳	方墳	13.8	粘土槨(割竹形木棺)	古墳・中	5世紀		1				文94・111	
172	沼6号墳	津山市沼	古墳	方墳	13.8	箱式石棺	古墳・中	5世紀		1				文94・111	
173	沼8号墳	津山市沼	古墳	円墳	12	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半	1					文111	
174	六ツ塚1号墳	津山市川崎	古墳	前方後円墳(帆立貝形)	21	木棺直葬	古墳・後	6世紀前半	1	1				文14・94・112	
175	六ツ塚2号墳	津山市川崎	古墳	円墳	10	木棺直葬	古墳・後	6世紀前半	1					文90・112	
176	六ツ塚3号墳	津山市川崎	古墳	円墳	14	木棺直葬	古墳・後	6世紀前半	1					文14・94・112	
177	六ツ塚5号墳	津山市川崎	古墳	円墳	15	礫槨	古墳・後	6世紀前半	1					文14・94・112	
178	兼田丸山古墳	津山市川崎	古墳			箱式石棺	古墳		1					文2・90	
179	押入西1号墳	津山市押入	古墳	円墳	12.5	主体部(箱形木棺)	古墳・中	5世紀前半、TK73	1				素環頭大刀1	文113	
180	橋本塚1号墳	津山市押入	古墳	円墳	30	第1主体(割竹形木棺)	古墳・中	5世紀後半	2	6				文114	
181	橋本塚1号墳	津山市押入	古墳	円墳	30	第2主体(箱形木棺)	古墳・中	5世紀後半	1					文114	
182	能満寺E号墳	津山市押入	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～末	1					文94	
183	正仙塚古墳	津山市高野山西	古墳	前方後円墳	55.5	長持形石棺	古墳・前	4世紀後半	2	1				文14・95・115	
184	天満神社1号墳	津山市河辺	古墳	円墳	12	表土中	古墳・中	5世紀末～6世紀初頭	1					文93	
185	天神原1号墳	津山市河辺	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後	6世紀末、TK209	1				双環頭大刀1	文116	
186	井口車塚古墳	津山市河辺	古墳	前方後円墳(帆立貝形)	35	排土中	古墳・中	5世紀末		2				文117	

番号	遺跡名	所在地	遺跡種類	墳形	規模	出土遺構	時期		器種				器種備考	文献番号	備考
							時期	時期細分	刀	剣	ヤリ	鉞			
187	近長丸山1号墳	津山市近長	古墳	円墳	20	第1主体(割竹形木棺)	古墳・前	前期中葉		1			把頭は木質に黒漆を塗り線刻を施す	文118	
188	近長丸山2号墳	津山市近長	古墳	方墳	12	中心主体(木棺)	古墳・前	前期中葉		1				文118	
189	的場1号墳	津山市金屋	古墳	円墳	13	横穴式石室	古墳・後	6世紀末、TK209古		1				文119	
190	的場2号墳	津山市金屋	古墳	円墳	10	横穴式石室	古墳・後	7世紀初頭～中葉、TK209新～TK217		1				文119	
191	的場3号墳	津山市金屋	古墳	円墳	10	竪穴式石室	古墳・後	6世紀末、TK209古		2			小刀は鹿角装	文119	
192	日上畝山58号墳	津山市日上	古墳	前方後円墳	32	竪穴式石室	古墳・後	6世紀前半～中葉、MT15～TK10		1				文94・120	
193	日上天王山古墳	津山市日上	古墳	前方後円墳	56.9	中心石槨(竪穴式石室)	古墳・前	前期中葉		1				文121	
194	日上天王山古墳	津山市日上	古墳	前方後円墳	56.9	第2石槨(竪穴式石室)	古墳・前	前期中葉		1				文121	
195	日上天王山古墳	津山市日上	古墳	前方後円墳	56.9	箱式石棺B(墳丘裾部)	古墳・前	前期中葉		1				文121・122	石棺内から過去に人骨と短剣が出土
196	日上和田古墳	津山市日上	古墳	円墳	19	礫槨	古墳・後	6世紀前半		1				文115・123	遺物内容は明治期の記述から
197	河边上原1-c号墳	津山市河辺	古墳	円墳	16.5	第4主体(礫槨・木棺)	古墳・後	6世紀中葉、TK10		2				文124	
198	河边上原2号墳	津山市河辺	古墳	円墳	11	第2主体(木棺直葬)	古墳・中	5世紀末、TK47		1				文124	
199	河边上原2号墳	津山市河辺	古墳	円墳	11	第4主体(木棺直葬)	古墳・後	6世紀中葉、MT85		1				文124	
200	名称未定	津山市国分寺	古墳				古墳			1				文90	伝剣出土
201	長畝山北3号墳	津山市国分寺	古墳	円墳	10	主体部(木棺直葬)	古墳・中	5世紀末、TK47		1				文125	
202	長畝山北5号墳	津山市国分寺	古墳	円墳	14.5	第1主体(竪穴式石室・木棺)	古墳・中	5世紀後半、TK23		1				文125	
203	長畝山北7号墳	津山市国分寺	古墳	円墳	9.5	主体部(木棺直葬)	古墳・中	5世紀後半、TK23		1				文125	
204	長畝山北9号墳	津山市国分寺	古墳	円墳	14.5	第1主体(木棺直葬)	古墳・中	5世紀後半、TK23		1			鹿角装柄	文125	
205	長畝山北11号墳	津山市西吉田	古墳	円墳	11	第1主体(木棺直葬)	古墳・中	5世紀後半、TK23		1				文126	
206	長畝山北11号墳	津山市西吉田	古墳	円墳	11	墳丘斜面	古墳・中	5世紀後半、TK23				1		文126	
207	大畑1号墳	津山市瓜生原	古墳	円墳	9.5	A主体(木棺直葬)	古墳・後	6世紀前半～中葉、MT15～TK10		1				文127	鉄剣等はA主体に伴わない可能性あり
208	大畑1号墳	津山市瓜生原	古墳	円墳	9.5	B主体(木棺直葬)	古墳・後	6世紀前半～中葉、MT15～TK10		1			把部に布目を黒漆で固め内面に直弧文	文127	
209	大畑遺跡	津山市瓜生原	集落			住居址9	古墳			1				文127	刀は住居に伴わない
210	大畑遺跡	津山市瓜生原	集落			住居址11	古墳・後			1				文127	
211	大畑遺跡	津山市瓜生原	集落			土坑墓9	古墳?			1				文127	
212	柳谷古墳	津山市瓜生原	古墳	円墳	7.5	横穴式石室	古墳・後	6世紀末～7世紀初頭		1			銀象嵌装頭椎大刀1	文128	
213	一貫東3号墳	津山市金井	古墳	方墳	12.4	主体部(木棺直葬)	古墳・中	5世紀		1				文129	
214	茶山1号墳	津山市瓜生原	古墳	前方後円墳(帆立貝形)	20.6	第4主体(木棺直葬)	古墳・中	5世紀末、TK47		1				文130	
215	根ノ山古墳	津山市中原	古墳	前方後円墳(帆立貝形)	27	箱式石棺	古墳			1				文2・90	
216	日上畝山72号墳	津山市日上	古墳	円墳?		耕作土中	古墳			1				文120	
217	鼓打1号墳	津山市宮部下	古墳	円墳	13	横穴式石室	古墳・後			1				文131・文132	
218	久米三成4号墳	津山市中北下	古墳	前方後方墳	35	後方部第1主体(箱式石棺)	古墳・中	5世紀初		1				文133	
219	鎧塚4号墳	津山市宮尾	古墳	円墳	15.7		古墳			1				文131	伝刀、甲冑等出土
220	大日1号墳	津山市宮尾	古墳	円墳	28		古墳・中	5世紀前半?		1				文131・132・134	かつて盗掘された際、刀と玉類が出土
221	里公文塚の元古墳	津山市里公文	古墳				古墳・後			1				文131	伝槍?出土、南側に存在した別古墳の可能性あり
222	藤蔵池頭古墳	津山市里公文	古墳				古墳			1		蛇行剣1		文131・135	土取り工事中に発見
223	奥の前1号墳(油木高塚)	津山市油木北	古墳	前方後円墳	65	組合せ式石棺	古墳・前	前期後半		1	2			文131・136	
224	足山1号墳	津山市久米川南	古墳	前方後円墳	67		古墳・中	5世紀前半		1				文131	古く盗掘された際、刀・玉類が出土。市指定名称「龍王塚古墳」
225	足山2号墳	津山市久米川南	古墳	円墳	17	横穴式石室	古墳・後			3				文131	別称三劔塚、伝鉄剣(刀)3点出土
226	石ノ才2号墳	津山市桑下	古墳	円墳	10.5	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半		2				文135	
227	コウデン2号墳	津山市戸脇	古墳	円墳	15.5	横穴式石室	古墳・終末	7世紀前半～8世紀		3				文135	
228	九日場4号墳	津山市福田下	古墳	円墳	21	竪穴式石室	古墳・後	6世紀前半		1				文131・137	
229	山田原1号墳	津山市福田下	古墳	円墳?		横穴式石室	古墳・後			1				文131	伝鉄剣出土
230	万燈山古墳	津山市加茂町塔中	古墳	円墳	24	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀前半、TK43～TK217		9			銀象嵌装大刀1・金銅装大刀1	文14・138・296	
231	室尾石生谷口古墳	津山市加茂町青柳	古墳	円墳	14.3	表採	古墳・後	6世紀後半～7世紀前半、TK43～TK217		1				文139	刀は石室外で表採、共伴遺物は横穴式石室内の遺物
232	水原古墳	津山市新野山形	古墳	円墳	16	横穴式石室	古墳・後	6世紀末～7世紀前半		1	1	1		文2・140・141	

紀要第3号

番号	遺跡名	所在地	遺跡種類	墳形	規模	出土遺構	時期		器種				器種備考	文献番号	備考
							時期	時期細分	刀	剣	ヤリ	鉾			
233	丸山塚	津山市市場	古墳				古墳・後			2				文140	伝刀出土、古墳所在不明
234	城平の塚	津山市西中	古墳				古墳・後			1				文140	伝刀出土、古墳所在不明
235	灰出1号墳	玉野市沼	古墳	円墳	12	横穴式石室	古墳・後			1				文142	刀の点数は不明
236	灰出2号墳	玉野市沼	古墳	円墳	13	横穴式石室	古墳・後			1				文142	刀の点数は不明
237	滝・堀の内(先祖山)古墳	玉野市滝	古墳	前方後円墳	30		古墳・前	前期後半		1				文3	鉄剣破片出土
238	高岩の古墳	玉野市田井	古墳				古墳・後			1			金銅装大刀?	文143・144	伝金銅装大刀出土
239	弓場山古墳	笠岡市走出	古墳	円墳	10	箱式石棺	古墳・中			2				文145・146	
240	キスゴダワ古墳	笠岡市走出	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後			1			金銅装大刀1	文146	
241	和田山古墳群	笠岡市甲斐	古墳				古墳			1				文146	伝刀出土
242	押撫二塚古墳	笠岡市押撫	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後			1				文147	伝刀剣?出土
243	長福寺裏山1号墳(東塚)	笠岡市走出	古墳	前方後円墳	50	前方部主体(竪穴式石室)	古墳・中	5世紀後半		5	1			文146・148	
244	長福寺裏山5号墳(七ツ塚古墳群)	笠岡市走出	古墳	方墳	9	箱式石棺	古墳・中			1	1			文146・148	
245	小池原古墳	笠岡市白石島上浦	古墳	円墳		箱式石棺	古墳			1				文147	伝刀出土
246	大飛鳥遺跡	笠岡市大飛鳥	祭祀				古墳・終末~平安			2			方頭大刀1・青銅製刀装具	文14・149・150	祭祀遺跡での出土、方頭大刀は7世紀後半の製作か(文150)
247	久備掛古墳	井原市高屋町野々迫	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後			1				文147	伝刀出土
248	丹生古墳	井原市高屋町丹生	古墳	円墳	10	横穴式石室	古墳・後			1				文147	伝刀出土
249	吉谷古墳	井原市高屋町吉谷	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後			1				文147	伝刀出土
250	山手3号墳	井原市木之子町山手	古墳	円墳	20	竪穴式石室	古墳・前			1			素環頭大刀1	文151	
251	山手5号墳	井原市木之子町山手	古墳	円墳	14.5	横穴式石室	古墳・後			1				文151	
252	砂畑ヶ古墳	井原市木之子町砂畑	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後			1				文151	
253	向中原遺跡	井原市西江原町今市	古墳?				古墳			2				文151	
254	高岩2号墳	井原市東江原町米持	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後			1				文151	
255	吉野古墳	井原市高屋町吉野	古墳	円墳			古墳			1				文147	伝刀出土
256	狼谷古墳	井原市大江町狼谷	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後			1				文147	伝剣出土
257	東大谷1号墳	井原市七日市町東大谷	古墳	円墳	11.4	横穴式石室	古墳・後	6世紀末~7世紀中葉		3			金銅装大刀1	文152	
258	塚原1号墳	井原市岩倉町塚原	古墳	円墳		横穴式石室	古墳			1				文147	伝刀出土
259	石塔山古墳	井原市大江町木田	古墳	円墳	15	竪穴式石室	古墳・中			1				文44・151	
260	塚原4号墳	井原市岩倉町塚原	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後			1				文147	伝刀出土
261	大仙山遺跡	井原市芳井町吉井	墳墓?				弥生~古墳			2				文147・153	
262	若水山1号墳	総社市原	古墳	円墳		箱式石棺	古墳			1				文81	伝刀出土
263	若水山2号墳	総社市原	古墳	円墳		箱式石棺	古墳			1				文81	伝刀出土
264	大迫山2号墳	総社市原	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後			1				文81	伝刀出土
265	日羽大塚古墳	総社市日羽	古墳	円墳	16	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半		2				文154・155	
266	藪田4号墳	総社市見延	古墳	円墳	12	横穴式石室	古墳・終末	7世紀前半~中頃		1				文156	
267	佐野山古墳(井尻野1号墳)	総社市井尻野	古墳	方墳	25	箱式石棺	古墳・中	5世紀		2				文14・154	
268	すりばち池1号墳	総社市小寺	古墳	円墳	8.8	竪穴系横口式石室	古墳・後	6世紀中葉以降		1				文158	
269	すりばち池古墳群	総社市小寺	墳墓			1号棺(箱式石棺)	古墳・後	6世紀前半		1				文158	
270	すりばち池南1号墓	総社市小寺	墳墓	長方形	14.4	第4主体	弥生・終末	後期末葉		1				文159	
271	福井大塚2号墳	総社市福井	古墳	前方後円墳	22	横穴式石室石室外	古墳・後	6世紀後半		1			銀象嵌装大刀1	文160	
272	福井大塚11号墳	総社市福井	古墳	円墳	17	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半		1				文160	
273	福井大塚12号墳	総社市福井	古墳	前方後円墳(帆立貝形)	13	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半		2				文160	方形部には竪穴式石室
274	中山6号墳	総社市福井	古墳	方墳	13	第1主体(竪穴式石室・木棺)	古墳・中	5世紀後半、TK23~TK47		1				文156	
275	千引2号墳	総社市奥坂	古墳	円墳	10	横穴式石室	古墳・後	6世紀末葉		1				文161	
276	随庵古墳	総社市西阿曾	古墳	前方後円墳(帆立貝形)	40	中央石室(竪穴式石室・割竹形木棺)	古墳・中	5世紀後半		2	3	2	2	文14・154・162	
277	随庵古墳	総社市西阿曾	古墳	前方後円墳(帆立貝形)	40	粘土床(木棺)	古墳・中	5世紀後半		1				文14・154・162	
278	久米2号墳	総社市久米	古墳	方墳	14	箱式石棺	古墳・中	5世紀		1				文154・155	
279	西山44号墳(福井8号墳)	総社市総社	古墳	前方後円墳(帆立貝形)	20	竪穴式石室	古墳・中	5世紀		1				文154・155・163	
280	西山2号墳	総社市総社	古墳	円墳	6		古墳			1				文81	伝剣出土
281	西山25号墳	総社市総社	古墳	方墳	11	東トレンチ	古墳・中	5世紀前半		1				文156	
282	西山26号墳	総社市総社	古墳	方墳	20	墳丘	古墳・中	5世紀前半		1				文156	用地外古墳の造出し部分か
283	西山26号墳	総社市総社	古墳	方墳	20	埋葬施設(木棺)	古墳・中	5世紀前半		1				文156	用地外古墳の造出し部分か

番号	遺跡名	所在地	遺跡種類	墳形	規模	出土遺構	時期		器種				器種備考	文献番号	備考
							時期	時期細分	刀	剣	ヤリ	鉾			
284	緑山4号墳	総社市上林	古墳	円墳	24	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀初頭、TK43～TK209	1			1	鉾は石突のみ	文164	
285	緑山6号墳	総社市上林	古墳	円墳	15.6	横穴式石室	古墳・後	6世紀中葉～7世紀初頭、TK10～	2				銀装大刀1	文164	
286	緑山17号墳	総社市上林	古墳	円墳	16	横穴式石室	古墳・後	6世紀末～7世紀中葉	1				銀象嵌装方頭大刀1	文157	
287	江崎古墳	総社市上林	古墳	前方後円墳	45	横穴式石室	古墳・後	6世紀後葉～7世紀初頭、TK209	5				金銅装大刀1	文14・154・155	
288	こうもり塚古墳	総社市上林	古墳	前方後円墳	100	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀前半、TK43～	4				単鳳環頭大刀1	文14・154・155・176・291	
289	江崎箱式棺	総社市上林	古墳			箱式石棺	古墳・前～中			1				文177	
290	法蓮40号墳	総社市下林	古墳	円墳	11	箱式石棺	古墳・中	5世紀後半、TK23	1					文154・155・165	
291	法蓮広堂山1号墳	総社市下林	古墳	方墳	16	第二主体部(箱式石棺)	古墳・中	5世紀中頃		1				文179	
292	法蓮広堂山3号墳	総社市下林	古墳	方墳	10	第二主体部(木棺)	古墳・中			1				文179	
293	法蓮古墳群(L-29)	総社市下林	古墳	円墳		箱式石棺	古墳・前～中		1					文164	伝刀・鏡・玉出土
294	雲上山古墳群(N-5)	総社市赤浜	古墳	円墳	12	箱式石棺	古墳・前～中		1					文164	伝刀等出土
295	旧三須村地区A-8	総社市三須	古墳		11	箱式石棺	古墳・前～中		1					文164	伝刀1・勾玉2出土
296	旧三須村地区A-11	総社市三須	古墳	円墳		箱式石棺	古墳・前～中		1					文164	伝江戸時代に破壊され刀出土
297	窪木薬師遺跡	総社市窪木	集落			塵滓溜まり下層	古墳・後	6世紀中葉	1					文166	
298	窪木薬師遺跡	総社市窪木	集落			包含層	古墳・後		1					文166	
299	砂子山3号墳	総社市山田	古墳	前方後円墳	38	縦穴式石室	古墳・前～中			1				文14・154	
300	狩谷3号墳	総社市山田	古墳	円墳	8.6	第1主体部(木棺)	古墳・中	5世紀前半	1	1				文178	
301	金子石塔塚古墳	総社市奏	古墳	円墳	26	横穴式石室	古墳・後	6世紀末、TK209	1				振り環頭大刀1	文54・154	
302	有安1号墳	総社市新本	古墳	方墳	8	表土中	古墳					1		文167	削平により主体部不明
303	藤原北1号墳	総社市久代	古墳	円墳	9	横穴式石室	古墳・終末	7世紀前半	1					文168	
304	立坂北1号墳	総社市久代	古墳	前方後円墳	26	横穴式石室	古墳・後	6世紀中頃	2					文154・169	
305	立坂北5号墳	総社市久代	古墳	円墳	7	箱式石棺	古墳・中	5世紀後葉		1				文169	
306	又五郎谷2号墳	総社市久代	古墳	円墳	7	横穴式石室	古墳・後	6世紀末、TK209	1					文169	
307	古池奥1号墳	総社市久代	古墳	円墳	10	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半、TK43	1				鞘金具?1のみ	文169	
308	黒谷3号墳	総社市久代	古墳	八角形?	8.5	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半	1					文170	
309	牛塚1号墳	総社市久代	古墳	円墳	22	第1主体(箱式石棺)	古墳・中	5世紀前半		1				文171・172	
310	牛塚1号墳	総社市久代	古墳	円墳	22	第2主体(箱式石棺)	古墳・中	5世紀前半		2	2	1		文171・172	
311	宮山墳墓群	総社市三輪	墳墓	前方後円形	38	縦穴式石室	弥生・終末～古墳・前	後期末葉～前期初頭	1	1				文14・154・173	
312	三輪山6号墳(殿山3号墳)	総社市三輪	古墳	円墳	15	縦穴系横口式石室	古墳・後	6世紀前半、MT15	3				振り環頭大刀1	文14・154・155・174	
313	殿山9号墳	総社市三輪	古墳	方墳	14	第2主体部(箱式石棺)	古墳・前	前期中葉		1				文175	
314	殿山10号墳	総社市三輪	古墳	方墳	15	第1主体部(箱式木棺)	古墳・前	前期中葉		1				文175	
315	殿山11号墳	総社市三輪	古墳	方墳	15	第4主体部(箱式木棺)	古墳・前	前期中葉	1	1				文175	
316	殿山12号墳	総社市三輪	古墳	方墳	13	主体部?(木棺?)	古墳・前	前期前葉		1				文175	主体部流失か
317	持坂20号墳	総社市西郡	古墳	円墳	26	横穴式石室	古墳・後	6世紀中葉、TK10	4					文180	
318	宿寺山古墳	総社市宿	古墳	前方後円墳	116	後円部石室(縦穴式石室)	古墳・中	5世紀後半、TK208	1以上	1以上		1	刀剣10数点出土	文14・181・182・183・300	鉾は、前方部石室出土の可能性あり
319	宿寺山古墳	総社市宿	古墳	前方後円墳	116	前方部石室(縦穴式石室)	古墳・中	5世紀後半、TK208	1以上	1以上			刀剣多数出土	文14・181・182・183・300	
320	龍王山古墳群	総社市宿	古墳	方墳?	16	箱式石棺	古墳・中		3	1			文181・182	墳丘内に3基の箱式石棺、刀剣出土の石棺は不明(竜王11・12・13号墳)	
321	前山北3号墳	総社市宿	古墳	方墳	13	箱式石棺	古墳・中	5世紀後半	1	2				文181・182	
322	辻ノ畑(甚兵衛塚?)	総社市宿	古墳			横穴式石室	古墳・後		1		1		文2・181	甚兵衛塚は東博保管の辻ノ畑所在古墳と同一か	
323	鎬物師谷2号墓	総社市清音三因	墳墓	方形	30	N石室	弥生・後	後期後葉	1					文184	
324	妙蓮寺8号墳	総社市清音三因	古墳	円墳		箱式石棺	古墳		1					文81	伝刀出土

紀要第3号

番号	遺跡名	所在地	遺跡種類	墳形	規模	出土遺構	時期		器種				器種備考	文献番号	備考
							時期	時期細分	刀	剣	ヤリ	銚			
325	鎬物師池奥1号墳	総社市清音三因	古墳	不明		第2主体(箱式石棺)	古墳・中	5世紀後半		1	1			文185	
326	北山古墳群	総社市清音三因	古墳				古墳			1				文186	
327	北山古墳群	総社市清音三因	古墳				古墳			1				文186	
328	古川古墳	高梁市川面町古川	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後			1				文187・188	伝刀出土
329	ツングエ古墳	高梁市巨瀬町塩坪	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後			1				文187・188	伝剣出土
330	赤羽根4号墳	高梁市落合町阿部	古墳			5号石棺	古墳・中～後			1				文188	
331	赤羽根6号墳	高梁市落合町阿部	古墳	不明		8号主体部(箱式石棺)	古墳・中	5世紀後半～6世紀		2				文189・190	
332	公文1号墳	高梁市川上町領家	古墳	円墳	16	横穴式石室	古墳・後			1				文187・191	
333	小原田横穴墓	新見市千屋花見	横穴墓				古墳・後			1				文192	伝刀出土
334	横見4号墓	新見市上市	墳墓	方形	10	第1主体(箱式石棺)	弥生・終末	後期末葉		1				文193	
335	横見1号墳	新見市上市	古墳	方墳	8	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀後半		2				文193	
336	青地遺跡	新見市下熊谷	古墳	円墳	8	周溝2	古墳・後	6世紀前半		1				文194	
337	南高下3号墳(橋本古墳)	新見市新見	古墳			横穴式石室	古墳・後			1				文192	伝刀・須恵器出土
338	垣内1号墳	新見市金谷	古墳			横穴式石室	古墳・後			2			双龍環頭大刀1	文195	
339	石蟹上古墳	新見市石蟹	古墳			箱式石棺	古墳			1				文192	墓地整地中に箱式石棺破壊
340	広瀬3号墳	新見市正田	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後				2			文196・197	
341	脇古墳	新見市大佐小阪部	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後			1				文192	伝刀出土
342	広岩西古墳	新見市大佐小阪部	古墳	円墳			古墳・後			1				文192	伝刀出土
343	円通寺1号墳	新見市大佐永富	古墳	円墳	15	横穴式石室	古墳・後	6世紀末～7世紀前半		1				文198	
344	円通寺2号墳	新見市大佐永富	古墳			横穴式石室	古墳・後			3			方頭大刀1	文196・197	
345	塚の元古墳	新見市大佐永富	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後			1				文137・192	
346	神の峯古墳(王子塚)	新見市大佐永富	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後			1				文192	伝刀出土
347	漆原3号墳	新見市大佐田治部	古墳	円墳			古墳・後			1				文192	
348	塚さま(剣のミサキ)	新見市大佐田治部	古墳?				古墳			1				文192	伝剣出土
349	三ヶ市2号墳(中段墳)	新見市神郷釜村	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後			4				文199	
350	迫三方塚古墳	新見市神郷下神代	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後	6世紀末～7世紀前半		1				文193	
351	三坂古墳	新見市神郷釜村	古墳			横穴式石室?	古墳・後			1			金銅装圭頭大刀1	文199	
352	山根屋7号墳	新見市哲西町上神代	古墳	不明		第2主体(箱式石棺)	古墳・中	5世紀代		1				文200	
353	山根屋12号墓	新見市哲西町上神代	墳墓			箱式石棺	古墳・前	前期前半		1				文200	
354	山根屋1号墳	新見市哲西町上神代	古墳	円墳	10	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半		2				文200	
355	山根屋3号墳	新見市哲西町上神代	古墳			石室直下の住居址上部	古墳・後	6世紀後半		1				文200	
356	道上古墳	新見市哲西町上神代	古墳	円墳	8.5	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀初頭		7	2		銀装大刀2	文201・301	
357	野田畝1号墳	新見市哲西町上神代	古墳	円墳	12.8	竪穴式石室	古墳・後	6世紀中葉		2	1		鹿角装刀1	文202	
358	山形屋古墳(松本塚古墳)	新見市哲西町上神代	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後			1				文192	伝刀出土
359	ひさご塚古墳	新見市哲西町上神代	古墳	前方後円墳	30	箱式石棺?	古墳・中	5世紀末		1				文3・192	伝刀出土
360	大林古墳	新見市哲西町上神代	古墳	円墳			古墳・後			1				文192	伝刀出土
361	西江遺跡	新見市哲西町上神代	集落			包含層	古墳・後	6～7世紀		1				文203	
362	光坊寺2号墳	新見市哲西町矢田	古墳	円墳	9	主体部(木棺直葬)	古墳・前	前期中葉		1				文193	
363	奥1号墳(花田古墳)	新見市哲西町矢田	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後			1				文192	伝刀出土
364	横田東1号墳	新見市哲西町矢田	古墳	円墳	16	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀中頃		3				文201	
365	横田東2号墳	新見市哲西町矢田	古墳	円墳	10	竪穴式石室	古墳・後	6世紀後半		1			銀装大刀1	文201	
366	横田1号墳	新見市哲西町矢田	古墳	円墳	10	主体部(木棺直葬)	古墳・前～中	4世紀後半～5世紀代		1				文201	
367	小松畑古墳	新見市哲西町畑木	古墳	前方後円墳	15.8		古墳			1				文192	伝刀出土
368	日の本6号墳(青嶋古墳)	新見市哲西町大野部	古墳	円墳			古墳			1				文192	伝刀出土
369	鶴山丸山古墳	備前市畠田	古墳	円墳(造出し付き)	64	竪穴式石室	古墳・前	前期後葉		2	5			文14・16	
370	新庄天神山古墳	備前市新庄	古墳	円墳	41.5	竪穴式石室	古墳・前	前期後葉		10				文14・16	
371	御塚	備前市西片上	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後				1			文2	
372	上屋敷古墳	瀬戸内市牛窓町長浜	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後			1			金銅装大刀?	文204・205	伝金銅装大刀出土
373	シクの山古墳群	瀬戸内市牛窓町長浜	古墳			竪穴式石室?	古墳				1			文204・205	伝5基の内の1基から銚出土

番号	遺跡名	所在地	遺跡種類	墳形	規模	出土遺構	時期		器種				器種備考	文献番号	備考
							時期	時期細分	刀	剣	ヤリ	鉞			
374	小丸山古墳	瀬戸内市牛窓町長浜	古墳	円墳	16	箱式石棺	古墳		1					文1・204	伝刀・甲冑出土
375	築塚古墳	瀬戸内市牛窓町牛窓	古墳	円墳	9	横穴式石室	古墳・後		1					文1・204	伝刀出土
376	京塚古墳	瀬戸内市牛窓町鹿忍	古墳	円墳	22	竪穴式石室	古墳		1					文1・204	伝刀出土
377	榎ヶ谷1号墳	瀬戸内市牛窓町鹿忍	古墳	円墳	23	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀前半			1			文206	
378	二塚山古墳	瀬戸内市牛窓町鹿忍	古墳	前方後円墳	55	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀初頭、TK43～TK209	1			倭風大刀1（水島製三輪玉のみ出土）	文206		
379	黒島1号墳	瀬戸内市牛窓町牛窓	古墳	前方後円墳	81	後円部東箱式石棺	古墳・中	5世紀前半、TK73～TK216	2				文206		
380	立石古墳	瀬戸内市牛窓町牛窓	古墳	円墳		箱式石棺	古墳		1				文204	伝刀出土	
381	我城山6号墳	瀬戸内市邑久町上笠加	古墳	円墳	10	木棺直葬	古墳・中	5世紀後半、TK208	2	3		1	銀装素環頭大刀1	文207・210	
382	西郷免古墳	瀬戸内市邑久町山田庄	古墳	円墳	22	木棺直葬	古墳・後	6世紀中葉、TK10			1		文2・208		
383	高砂山古墳群八木山支群2号墳	瀬戸内市邑久町山手	古墳	方墳	11	箱式石棺	古墳		1				文208	伝刀出土	
384	高砂山古墳群尾羽様山支群G2号墳	瀬戸内市邑久町山手	古墳	円墳			古墳		1				文208	伝刀出土	
385	高砂山古墳群尾羽様山支群H13号墳	瀬戸内市邑久町山手	古墳	円墳	15		古墳		1				文208	伝刀出土	
386	花光寺山古墳	瀬戸内市長船町服部	古墳	前方後円墳	86	小石室	古墳・前	前期後葉	4	4	4		素環頭大刀1	文2・14・209・210	
387	金鶏塚古墳	瀬戸内市長船町西須恵	古墳	前方後円墳	35	竪穴系横口式石室？	古墳・後	6世紀前半、MT15	1			1	銀装圭頭様素環頭大刀1	文2・210・211・293	
388	牛文茶白山古墳	瀬戸内市長船町牛文	古墳	前方後円墳（帆立貝形）	48	竪穴式石室	古墳・中	5世紀末	4				文2・14・210・212		
389	築山古墳	瀬戸内市長船町西須恵	古墳	前方後円墳	82	竪穴式石室	古墳・中	5世紀末	1	1	2		文2・14・210・212		
390	名称不明	瀬戸内市長船町西須恵	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1				文2		
391	八塚3号墳	赤磐市山口	古墳	円墳	11	横穴式石室	古墳・後	6世紀中葉	2				文213		
392	平塚古墳	赤磐市斗有	古墳	円墳	15	横穴式石室	古墳・後		1				文214		
393	石塚1号墳	赤磐市斗有	古墳	円墳	15	箱式石棺	古墳		1				文214	伝刀出土	
394	吉原4号墳	赤磐市上二保	古墳	方墳	24	箱式石棺	古墳		2				文215		
395	吉原6号墳	赤磐市上二保	古墳	前方後円墳	52		古墳・前	前期後半	1				文215		
396	正崎2号墳	赤磐市正崎	古墳	円墳	20	第1主体（木槨木棺墓）	古墳・中	5世紀末、TK47	1	2	1		文216		
397	正崎4号墳	赤磐市正崎	古墳	円墳	13	箱式石棺	古墳			1			文216		
398	正崎6号墳	赤磐市正崎	古墳	円墳			古墳		2				文214・217		
399	朱千駄古墳	赤磐市穂崎	古墳	前方後円墳	80	長持形石棺	古墳・中	5世紀末、TK23～TK47			1		文14		
400	さくら山2号墓	赤磐市山陽	古墳	不明		内部主体（木棺？）	古墳・前				1		文214		
401	便木山遺跡	赤磐市山陽	墳墓			第26号土坑墓	弥生・終末	後期末葉			1		文218		
402	四辻1号墳	赤磐市山陽	古墳	円墳	18	内部主体（木棺直葬）	古墳・中			1			文219		
403	四辻2号墳	赤磐市山陽	古墳	円墳	9	墳丘攪乱土	古墳・中			1			文219		
404	四辻5号墳	赤磐市山陽	古墳	円墳	15	B主体（割竹形木棺）	古墳・中		1				文219		
405	四辻6号墳	赤磐市山陽	古墳	円墳	13	表土	古墳・中			1			文219		
406	四辻7号墳	赤磐市山陽	古墳	円墳	15.4	第1主体（箱形木棺）棺外	古墳・中			1			文219		
407	用木1号墳	赤磐市山陽	古墳	円墳	31	第1主体（割竹形木棺）	古墳・前	前期中葉	1	3			文220		
408	用木2号墳	赤磐市山陽	古墳	円墳	22	第5主体	古墳・前			1			文220		
409	用木4号墳	赤磐市山陽	古墳	方墳	22	第4主体	古墳・前	前期前葉		1			文220		
410	用木4号墳	赤磐市山陽	古墳	方墳	22	第5主体	古墳・前	前期前葉		1			文220		
411	用木5号墳	赤磐市山陽	古墳	方墳	15	第1主体	古墳・前			1			文220		
412	用木7号墳	赤磐市山陽	古墳	方墳	15.8	中心主体	古墳・前～中			1			文220		
413	用木8号墳	赤磐市山陽	古墳	円墳	22	中心主体（木棺直葬）	古墳・中			1			文220		
414	用木11号墳	赤磐市山陽	古墳	方墳	13	中心主体（粘土槨）	古墳・中		1				文220		
415	用木12号墳	赤磐市山陽	古墳	方墳	16	中心主体	古墳・前		1				文220		
416	岩田1号墳	赤磐市山陽	古墳	円墳	17	第4主体	古墳・後		1				文221		
417	岩田6号墳	赤磐市山陽	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後	6世紀中葉、TK10新～	1				銀象嵌装大刀1	文221・222	
418	岩田14号墳	赤磐市山陽	古墳	円墳	20	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀前半、TK43～TK217	8		4		単龍環頭大刀2・振り環頭大刀1	文221・223	
419	岩田15号墳	赤磐市岩田	古墳	円墳			古墳・後		1				文217		
420	斎富2号墳	赤磐市斎富	古墳	隅丸長方形墳	23	第1主体部（竪穴式石室）	古墳・後	6世紀中葉、7世紀前葉	1				文224		
421	斎富2号墳	赤磐市斎富	古墳	隅丸長方形墳	23	第4主体部（横穴式石室）	古墳・後	6世紀後半	3				刀は鏝1のみ含む	文224	
422	笹井1号墳	赤磐市由津里	古墳	方墳	14	箱式石棺	古墳		1				文225	伝刀出土	
423	中の佐古1号墳	赤磐市北佐古田	古墳			横穴式石室	古墳・後		1				文225	伝刀出土	

番号	遺跡名	所在地	遺跡種類	墳形	規模	出土遺構	時期		器種				器種備考	文献番号	備考
							時期	時期細分	刀	剣	ヤリ	鉾			
424	塚口古墳	赤磐市西軽部	古墳	円墳	15	横穴式石室	古墳・後			1				文225	伝刀出土
425	城山古墳	赤磐市東軽部	古墳	円墳			古墳			1				文2・217	
426	前内池4号墳	赤磐市可真下	古墳	方墳	11	主体部	古墳・中	5世紀後半		1				文226	
427	前内池古墳群	赤磐市可真下	墳墓			箱式石棺墓7	古墳・後	6世紀前半		1				文226	
428	小丸山古墳	赤磐市弥上	古墳	前方後円墳	33	横穴式石室	古墳・後			3				文227	
429	婦人路2号墳	赤磐市弥上	古墳	円墳	8	横穴式石室	古墳・後	6世紀中葉～後葉、TK10・TK43		1				文228	
430	平岩古墳	赤磐市石	古墳	方墳		横穴式石室	古墳・後	6世紀末～7世紀前半		1			銀象嵌装円頭大刀1	文229	
431	名称不明	赤磐市合田	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後			2				文2	
432	清明塚古墳	真庭市阿口	古墳	円墳	15	横穴式石室	古墳・後			1				文187・230	
433	空古墳	真庭市下皆部	古墳	円墳	11.5	横穴式石室	古墳・後	6世紀中頃		1				文194	
434	丸山1号墳	真庭市下皆部	古墳			横穴式石室	古墳・後			1				文187・230	
435	桃山1号墳	真庭市下皆部	古墳			横穴式石室？	古墳・後	6世紀末～7世紀前半		1				文231	
436	最上寺(長政)古墳	真庭市上水田	古墳			横穴式石室	古墳・後			1				文230	
437	畑中古墳	真庭市上水田	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後	6世紀末～7世紀初頭		1				文187・230	
438	国重古墳	真庭市上水田	古墳	円墳	10	横穴式石室	古墳・後				1			文2・187	
439	山之城1号墳	真庭市五名	古墳	円墳	14	箱式石棺	古墳・中	6世紀末、TK47	2	1				文232	
440	山之城8号墳	真庭市五名	古墳			竪穴式石室	古墳・終末	7世紀～		1				文232	
441	土井2号墳	真庭市下中津井	古墳			横穴式石室	古墳・後	6世紀末～7世紀後半		2			金銅装頭椎大刀1・銀装圭頭？刀1	文233	
442	大谷1号墳	真庭市上中津井	古墳	方墳	22	横穴式石室	古墳・終末	7世紀後葉		1			金銅装双龍環頭大刀1	文234	
443	一十林古墳	真庭市上中津井	古墳			横穴式石室	古墳・後			2				文235	
444	定西塚古墳	真庭市上中津井	古墳	方墳	16	横穴式石室	古墳・終末	7世紀中葉～末		2			鉄製方頭大刀1・銅装方頭大刀1	文236	
445	定東塚古墳	真庭市上中津井	古墳	方墳	25	横穴式石室	古墳・終末	7世紀前葉～中葉		4		5	銀装圭頭？刀1	文236	
446	定北古墳	真庭市上中津井	古墳	方墳	25	横穴式石室	古墳・終末	7世紀中葉		2			金銅装大刀1	文237	
447	大塚古墳	真庭市上中津井	古墳	方墳？		横穴式石室	古墳・後～終末	6世紀末以降		1			金銅装双龍？環頭大刀1	文236	環頭部は不明だが双龍環頭大刀の可能性高い(文236)
448	赤茂1号墳	真庭市上水田	古墳	円墳	16	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀初頭		1				文238	
449	大木1号墳	真庭市宮地	古墳	円墳	9	周堀	古墳・中	5世紀後半、TK208			1			文239	
450	大木1号墳	真庭市宮地	古墳	円墳	9	埋葬施設(箱形木棺)	古墳・中	5世紀後半、TK208		2				文239	
451	大木3号墳	真庭市宮地	古墳	円墳	11	表土	古墳・中	5世紀後半		1				文239	
452	中尾神社裏古墳	真庭市古呂々尾中	古墳	円墳	15		古墳			1				文240	伝刀出土
453	金山谷古墳	真庭市勝山	古墳	円墳		箱式石棺	古墳			1				文240	伝刀出土
454	上井手古墳	真庭市山久世	古墳	円墳			古墳・後			1	1			文240	伝刀・槍？等出土
455	稲荷山古墳(神毛1号墳・日名13号墳)	真庭市日名	古墳	前方後円墳	21	横穴式石室	古墳・後	6世紀中葉・TK10		1	1		刀は鏝1のみ	文3・241	
456	名称未定	真庭市日名	古墳			横穴式石室	古墳・後			1				文242	伝刀出土
457	摺給4号墳	真庭市西河内	古墳	円墳	9	横穴式石室	古墳・後	6世紀末～7世紀前半		1				文243	
458	旦那遺跡	真庭市西河内	集落			No.16住居址	弥生・終末？			1				文244	刀は新しい時期のものか
459	名称不明	真庭市西河内	古墳				古墳・後			1				文2	
460	戸坂1号墳	真庭市古見	古墳	不明		横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀初頭		2				文60	
461	名称未定	真庭市田原	古墳			横穴式石室	古墳・後			1				文242	伝刀出土
462	元定1号墳	真庭市上河内	古墳	円墳	7	周溝	古墳・中	5世紀後半		1				文245	
463	穴塚古墳	真庭市西原	古墳	円墳	20	横穴式石室	古墳・後			1				文246	
464	大坊古墳	真庭市見明戸	古墳				古墳・後				1			文240	伝剣出土
465	福井古墳	真庭市見明戸	古墳			横穴式石室	古墳・後			1				文240・247	
466	玉田1号墳	真庭市本庄	古墳			横穴式石室	古墳・後			1				文240・247	
467	塔壇寺1号墳	真庭市社	古墳	円墳	15	横穴式石室	古墳・後			1		2		文2・240・247	
468	荒田遺跡	真庭市社	古墳			横穴式石室	古墳・後			1			東博記録で鉄剣3とあるが鉄刀片か	文2・240・247	
469	大下4号墳	真庭市草加部	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後			1				文240・248	
470	小谷18号墳	真庭市久世	古墳			横穴式石室	古墳・後			1				文240・248	
471	若宮古墳	真庭市久世	古墳				古墳			1				文240・248	伝刀出土
472	羽庭5号墳	真庭市久世	古墳	円墳	12	横穴式石室	古墳・後			1				文240・248	
473	富尾丸山12号墳	真庭市富尾	古墳	円墳	15	横穴式石室	古墳・後			4			双龍環頭大刀1	文2・66	
474	多田4号墳	真庭市多田	古墳	円墳	8	横穴式石室	古墳・後	6世紀後葉～7世紀前葉		2				文240・249	
475	蛇ノ尾3号墳	真庭市台金屋	古墳	円墳	14	木棺直葬	古墳・後	6世紀中葉		2				文249	
476	木谷6号墳	真庭市目木	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀中葉、TK43～TK209古・TK217新		1				文250	

番号	遺跡名	所在地	遺跡種類	墳形	規模	出土遺構	時期		器種				器種備考	文献番号	備考
							時期	時期細分	刀	剣	ヤリ	鉞			
477	木谷11号墳	真庭市目木	古墳	円墳	10	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀初頭、TK43～TK209古	5				刀は鏝のみ2含む	文250	
478	中原2号墳	真庭市中原	古墳	方墳	9.6	主体部（箱式石棺）墓坑内	古墳・中		1					文250	
479	中原3号墳	真庭市中原	古墳	円墳	16.1	主体部（箱式石棺）	古墳・中		1	1				文250	
480	中原4号墳	真庭市中原	古墳	方墳	10.8	墳丘盛土中	古墳・中		1					文250	
481	中原9号墳	真庭市中原	古墳	方墳	10	主体部（箱式石棺）	古墳・中			1				文250	
482	中原24号墳	真庭市中原	古墳	方墳	17.5	第1主体部（箱式石棺）	古墳・中	5世紀後半、TK208	1					文250	
483	中原25号墳	真庭市中原	古墳	円墳	13.5	横穴式石室	古墳・後	6世紀末、TK209	2				鹿角装柄1	文250	
484	中原28号墳	真庭市中原	古墳	方墳	8	主体部（箱式石棺）墓坑内	古墳・中	5世紀後半、TK208	1					文250	
485	中原35号墳	真庭市中原	古墳	円墳	6～8	排土中	古墳・中			1				文250	
486	中原36号墳	真庭市中原	古墳	方墳	9.5	主体部（箱式石棺）	古墳・中			2			鹿角製装具1	文250	
487	中原39号墳	真庭市中原	古墳	方墳	6	主体部（箱式石棺）	古墳・中			1			鹿角製装具1	文250	
488	奥田古墳	真庭市中原	古墳	円墳	11	横穴式石室	古墳・終末	7世紀前葉～中葉	4				銀象嵌装大刀1	文251	
489	三崎2号墳	真庭市三崎	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1		1			文240・248	
490	奥塚古墳	真庭市美甘	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1					文252	
491	塚ヶ成古墳	真庭市美甘	古墳	円墳	12	横穴式石室	古墳・後		1				鞘尻のみ1	文253	
492	栃木の古墳	真庭市蒜山湯船	古墳			横穴式石室	古墳・後		1					文254	伝刀出土
493	石道山A-1号墳	真庭市蒜山西茅部	古墳	円墳	15	箱式石棺	古墳		1					文254	伝刀出土
494	石道山C-5号墳	真庭市蒜山西茅部	古墳	円墳	10		古墳		1					文254	伝刀出土
495	平林1号墳	真庭市蒜山西茅部	古墳	前方後円墳（帆立貝形）	20		古墳		1					文254	伝刀出土
496	四つ塚1号墳	真庭市蒜山上長田	古墳	円墳	27	横穴式石室	古墳・後	6世紀中葉、TK10	2	1	1		鹿角装柄1	文254・297	
497	四つ塚13号墳	真庭市蒜山上長田	古墳	円墳（造出し付き）	20	中央主体（木棺直葬）	古墳・後	6世紀中葉、TK10	3					文254	
498	四つ塚13号墳	真庭市蒜山上長田	古墳	円墳（造出し付き）	20	南主体（木棺直葬）	古墳・後	6世紀中葉、TK10	2					文254	
499	四つ塚15号墳	真庭市蒜山上長田	古墳	円墳	25		古墳・後		1					文254	伝刀出土
500	水別1号墳	真庭市蒜山下長田	古墳	円墳	7	横穴式石室	古墳・後～終末	6世紀後半、7世紀前半、7世紀後半～8世紀前半	3					文255	
501	大板古墳	真庭市蒜山下長田	古墳	円墳			古墳・後		1					文240・255	伝刀出土
502	仲角古墳	真庭市蒜山別所	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1					文240	伝大刀出土
503	ひじり塚	美作市宗掛	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1					文256	伝刀出土
504	今岡10号墳	美作市今岡	古墳	方墳	10	主体部（割竹形木棺）	古墳・中		1	3				文257	
505	穴が辻古墳	美作市今岡	古墳	円墳	18	横穴式石室	古墳・後	6世紀中葉、TK10～MT85	3				銀装円頭大刀1	文257	
506	釜の口2号墳	美作市今岡	古墳	円墳			古墳		1					文258	伝大刀出土
507	今岡古墳群	美作市今岡	古墳	墳墓		土坑墓3	古墳・中		1					文257	
508	桂坪8号墳	美作市桂坪	古墳	円墳	13		古墳		1					文258	伝刀出土
509	平尾2号墳	美作市宮本	古墳	円墳			古墳			1				文258	伝剣出土
510	川戸1号墳	美作市川戸	古墳	円墳	18	横穴式石室	古墳・終末	7世紀前半、TK217	1					文259	伝刀？出土
511	川戸2号墳	美作市川戸	古墳	方墳	17	横穴式石室	古墳・後	6世紀末～7世紀前半、TK209～TK217	5				銀象嵌装大刀1・銀装大刀装具1	文259	
512	赤田10号墳	美作市赤田	古墳	円墳	15		古墳		1					文258	伝刀出土
513	大原町川上出土	美作市川上	古墳			箱式石棺？	古墳・中			1				文260	圃場整備工事中に出土
514	大原町内出土	美作市旧大原町内	古墳				古墳		9				金銅装大刀装具1含む、3点は鏝のみ	文258	旧大原町内出土を一括
515	四谷古墳	美作市田殿	古墳	円墳	14	横穴式石室	古墳・後		1					文261	伝刀出土
516	餅辻古墳	美作市中尾	古墳	円墳	8		古墳・後		1					文261	伝刀出土
517	長屋古墳	美作市上相	古墳	円墳	9		古墳		1					文261	伝刀？出土
518	北山野神古墳	美作市北山	古墳	円墳	11	第1主体（木棺直葬）	古墳・中	5世紀後半、TK23	1					文262	
519	北山1号墳	美作市北山	古墳	円墳	19.2	第1主体（木棺直葬）	古墳・後	6世紀前葉～中葉	2					文263	
520	北山1号墳	美作市北山	古墳	円墳	19.2	第2主体（木棺直葬）	古墳・後	6世紀前葉～中葉	1					文263	
521	北山2号墳	美作市北山	古墳	円墳	13	主体部（木棺直葬）	古墳・後	6世紀中葉	1					文263	
522	鍛冶屋 辻A3号墳	美作市中尾	古墳	円墳	11.1	主体部（箱形木棺）	古墳・中	5世紀末		1				文264	
523	鍛冶屋 辻B2号墳	美作市中尾	古墳	方墳	8.3	主体部（木棺直葬）	古墳・後	6世紀後半	1					文264	
524	近上池2号墳	美作市檜原上	古墳	円墳	11		古墳		1					文261	伝刀出土
525	向山古墳	美作市檜原上	古墳	円墳	13.8		古墳		1					文261	伝刀出土
526	檜原寺山古墳	美作市檜原下	古墳	前方後方墳	52	豎穴式石室	古墳・前	前期中葉		2	1			文14・262	
527	大塚5号墳	美作市中山	古墳	円墳	10	横穴式石室	古墳・終末	7世紀前葉	1				金銅装大刀1	文265	
528	源大寺古墳	美作市湯郷	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		2					文262	
529	外波辻古墳	美作市海田	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・終末	7世紀前葉	1				金銅装圭頭大刀1	文262	
530	火の釜古墳	美作市奥	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後		1					文256・266	伝刀出土



紀要第3号

番号	遺跡名	所在地	遺跡種類	墳形	規模	出土遺構	時期		器種				器種備考	文献番号	備考
							時期	時期細分	刀	剣	ヤリ	銚			
531	中学裏1号墳	美作市福本	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後			1				文256・266	
532	加賀谷4号墳	浅口市金光町占見新田	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後			1				文147	伝刀出土
533	向山1号墳	浅口市鴨方町小坂東	古墳	円墳		箱式石棺	古墳・中	5世紀		1				文177	
534	奥迫1号墳	浅口市鴨方町本庄	古墳	円墳			古墳			1				文147	伝刀出土
535	塚地古墳	浅口市鴨方町地頭上	古墳	円墳	11	横穴式石室	古墳・終末	7世紀第1四半期～第2四半期		2				文267	
536	宮の脇古墳	浅口市鴨方町地頭上	古墳	円墳	14	横穴式石室	古墳・後	6世紀末～7世紀第1四半期		2		銀象嵌装大刀1・金銅装大刀1	文268		
537	片山塚1号墳	浅口市鴨方町益坂	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後			1			文147		
538	上名口古墳	浅口市鴨方町本庄	古墳	円墳	15	横穴式石室	古墳・後			1			文147・269	伝刀出土	
539	下名口2号墳	浅口市鴨方町本庄	古墳	円墳			古墳・後			1			文147・270	伝刀出土	
540	城殿山遺跡	浅口市鴨方町六条院西	墳墓			埋葬施設1(木棺)	弥生・終末	後期末葉		1			文107		
541	算用ヶ岡塚古墳	浅口市鴨方町六条院中	古墳	円墳		箱式石棺	古墳			1			文147	伝剣出土	
542	真山止山下原塚古墳	浅口市鴨方町六条院中	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後			1			文147・269	伝刀装具出土	
543	タンゴ山古墳	浅口市鴨方町六条院東	古墳	円墳	6	箱式石棺	古墳			1			文147	伝刀剣出土	
544	苦木上古墳	和気郡和気町苦木	古墳	円墳	14	横穴式石室	古墳・後			1		金銅装大刀1・柄銀線	文2・217		
545	藤山古墳	和気郡和気町加三方	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後			1			文217	伝刀出土	
546	金子池1号墳	和気郡和気町小坂	古墳	円墳	11	横穴式石室	古墳・後			1			文217	伝刀出土	
547	新林古墳	和気郡和気町加三方	古墳	円墳	10	横穴式石室	古墳・後			1			文217	伝刀出土	
548	鼓山4号墳	和気郡和気町本	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後			1			文2・217		
549	小塚の谷古墳	和気郡和気町宇生	古墳	方墳	8	墳丘外南東	古墳・終末	7世紀前葉		1		不明鉄器(鞘金具?)のみ	文272		
550	大坊古墳	和気郡和気町日笠下	古墳	円墳	16	横穴式石室	古墳・後			3			文2・273		
551	王子1号墳	和気郡和気町大田原	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後			1			文217	伝刀出土	
552	天王山古墳	和気郡和気町福坪	古墳	円墳			古墳			1			文217	伝刀出土	
553	川田6号墳	小田郡矢掛町西川面	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後			1			文274	伝刀出土	
554	西岡谷2号墳	小田郡矢掛町東川面	古墳	方墳	20		古墳			1			文274	伝刀出土	
555	向山古墳	小田郡矢掛町東川面	古墳	円墳	20	横穴式石室	古墳・後			1			文147・274	伝刀出土	
556	若林3号墳	小田郡矢掛町矢掛	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後			1			文274	伝刀出土	
557	中山5号墳	小田郡矢掛町東三成	古墳	円墳			古墳			1			文274	伝大刀出土	
558	安居寺谷3号墳	小田郡矢掛町中	古墳	円墳	10	横穴式石室	古墳・後			1			文274	伝刀出土	
559	中谷古墳	真庭郡新庄村中谷	古墳			横穴式石室	古墳・後			1			文240	伝刀出土	
560	札幌遺跡	苫田郡鏡野町雷西谷	古墳?				古墳・後			1			文275	道路工事によりかつて遺物出土、古墳が存在か	
561	沼ヶ谷1号墳	苫田郡鏡野町雷東谷	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後	6世紀末～7世紀前半、TK209～TK217		1		鏝のみ	文275		
562	久田原7号墳	苫田郡鏡野町久田下原	古墳	円墳	10.2	竪穴式石室	古墳・後	6世紀前半～中葉、MT15～TK10		1			文276		
563	久田原遺跡	苫田郡鏡野町久田下原	集落			竪穴住居30	古墳・終末	7世紀前半		1			文276		
564	土堂の段古墳	苫田郡鏡野町中谷	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後			1			文2		
565	御能見1号墳	苫田郡鏡野町塚谷	古墳	円墳	12.5	箱式石棺	古墳			1			文277	伝刀出土	
566	上土居古墳	苫田郡鏡野町土居	古墳	円墳	10		古墳			1			文277	伝刀出土	
567	土居天王山古墳	苫田郡鏡野町土居	古墳	前方後円墳	27	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半、TK43		2			文277		
568	竹田9号墳	苫田郡鏡野町竹田	古墳	円墳	14.8	中央棺(粘土槨・割竹形木棺)	古墳・中			1			文277・278		
569	八幡山2号墳	苫田郡鏡野町竹田	古墳	円墳	21		古墳			1			文277	伝刀出土	
570	土居妙見山古墳(土居3号墳)	苫田郡鏡野町土居	古墳	前方後円墳	25	A主体(粘土槨・木棺)	古墳・前	前期後葉		2			文277・279	他に剣状鉄器片2あり	
571	法明寺古墳	苫田郡鏡野町香々美	古墳	円墳	11.8	横穴式石室	古墳・後			1			文277		
572	岡崎4号墳	苫田郡鏡野町香々美	古墳	円墳			古墳			1			文277	伝刀出土	
573	石井谷1号墳	苫田郡鏡野町高山	古墳	円墳			古墳・後			1			文277	伝刀出土	
574	加市1号墳	苫田郡鏡野町沢田	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後			1		東博記録で鉄剣5とあるが鉄刀片か	文2・277		
575	皆徳2号墳	苫田郡鏡野町沢田	古墳	円墳			古墳			1			文277	伝刀出土	
576	東花穴1号墳	苫田郡鏡野町沖	古墳	方墳	14.5	第一主体部(木棺直葬)	古墳・前	前期前葉		1			文277		

番号	遺跡名	所在地	遺跡種類	墳形	規模	出土遺構	時期		器種				器種備考	文献番号	備考
							時期	時期細分	刀	剣	ヤリ	鉾			
577	東花穴2号墳	苫田郡鏡野町沖	古墳	方墳	6.3	第一主体部	古墳・前	前期前葉		1				文277	
578	東花穴4号墳	苫田郡鏡野町沖	古墳	方墳	15.2	第一主体部(箱形木棺)	古墳・前	前期中葉		1				文277	
579	東花穴5号墳	苫田郡鏡野町沖	古墳	方墳	7.5	主体部(木棺直葬)	古墳・前	前期前葉		1				文277	
580	郷観音山古墳	苫田郡鏡野町下原	古墳	前方後円墳	43	竪穴式石室?	古墳・前	前期前葉		1				文16・277	
581	宗枝2号墳	苫田郡鏡野町宗枝	古墳	円墳	22		古墳・前			1				文277	伝刀出土
582	大塚古(宗枝6号墳)	苫田郡鏡野町宗枝	古墳	円墳	38	組合式石棺	古墳・前	~中		1				文277	伝刀出土
583	成段2号墳(狐塚古墳)	苫田郡鏡野町古川	古墳	円墳	7.7		古墳			2				文277	
584	櫛坂古墳	苫田郡鏡野町中谷	古墳			横穴式石室	古墳・後			2				文277	
585	小池谷1号墳	勝田郡勝央町黒土	古墳	円墳	7	主体部(木棺)	古墳・後	6世紀中葉、TK10		1				文280	
586	小池谷2号墳	勝田郡勝央町黒土	古墳	円墳	9	第一主体部(木棺)	古墳・後	6世紀前半、MT15		1				文280	
587	坂田墳墓群	勝田郡勝央町小久田	墳墓			土坑墓53	古墳・中					1		文281	
588	畑ノ平1号墳	勝田郡勝央町植月中	古墳	円墳	12	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半~7世紀初頭、TK43~TK209		1				文282	
589	畑ノ平5号墳	勝田郡勝央町植月中	古墳	円墳	11	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半~7世紀初頭、TK43~TK209		1				文282	
590	勝央工業団地内10号墳	勝田郡勝央町大平台	古墳	円墳	12	横穴式石室	古墳・後	6世紀末~7世紀前半		1				文283	
591	名称不明	勝田郡勝央町岡	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後			1				文2	
592	名称不明	勝田郡勝央町平	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後			1				文2	
593	名称不明	勝田郡勝央町畑屋	古墳	円墳	18	横穴式石室	古墳・後			1	1			文2	
594	広岡1号墳	勝田郡奈義町広岡	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後	6世紀後半、TK43		2				文284	
595	名称不明	勝田郡奈義町広岡	古墳			横穴式石室	古墳・後			1			金銅装大刀1	文284	開鑿時に金銅装大刀片出土
596	霊明塚古墳	勝田郡奈義町中島東	古墳	方墳	15	横穴式石室	古墳・後	6世紀末~7世紀中葉		1				文2・256	
597	頼広古墳	久米郡久米南町南庄	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後			1				文90	伝刀出土
598	鹿堀古墳	久米郡久米南町南庄	古墳	円墳			古墳・後			1				文285	伝刀出土
599	名称未定	久米郡久米南町久保田	古墳	円墳	12	横穴式石室	古墳・後			1				文90	伝刀出土
600	迫田火の釜古墳	久米郡久米南町神目中	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後			1				文90	伝刀出土
601	饅田4号墳	久米郡美咲町錦織	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後			1			文90・286	伝刀出土	
602	名称不明	久米郡美咲町錦織	古墳	円墳	23	横穴式石室	古墳・後			1				文2	召出山古墳群のいづれか
603	ダイダ2号墳	久米郡美咲町打穴西	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後			1				文90	伝刀出土
604	塚の平古墳群	久米郡美咲町打穴里	古墳			1号墳墳端土坑墓	古墳・後	6世紀末、TK209		1				文287	塚の平1号墳の墳丘外土坑墓
605	是久古墳	久米郡美咲町原田	古墳	円墳			古墳・後			1				文90	伝刀出土
606	諏訪神社4号墳	久米郡美咲町原田	古墳	円墳	10	木棺直葬	古墳・後	6世紀?		1				文298	
607	名称未定	久米郡美咲町西幸	古墳	円墳			古墳・後			1				文90	伝刀出土
608	安井古墳	久米郡美咲町安井	古墳	円墳	20	横穴式石室	古墳・後			1				文288	伝刀出土
609	さんざ古墳	久米郡美咲町周佐	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後			1				文288	
610	火の釜古墳	久米郡美咲町連石	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後			1				文90	
611	名称未定	久米郡美咲町吉ヶ原	古墳				古墳			1				文90	伝刀剣出土
612	丸山古墳	久米郡美咲町飯岡	古墳	円墳	14	横穴式石室	古墳・後			1				文2・288	伝刀出土
613	西岡古墳	久米郡美咲町飯岡	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後			1				文90	伝刀出土
614	太郎五郎古墳	久米郡美咲町飯岡	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後			1				文90	伝刀出土
615	月の輪古墳	久米郡美咲町飯岡	古墳	円墳(造出し付き)	60	中央主体(粘土槨、割竹形木棺)	古墳・中	5世紀初		3	13	1	鹿角製装具?1	文288	
616	月の輪古墳	久米郡美咲町飯岡	古墳	円墳(造出し付き)	60	南主体(粘土槨、割竹形木棺)	古墳・中	5世紀初		4	3			文288	
617	月の輪古墳	久米郡美咲町飯岡	古墳	円墳(造出し付き)	60	墳頂部	古墳・中	5世紀初			1			文288	
618	下市大塚古墳	加賀郡吉備中央町豊野	古墳	円墳		横穴式石室	古墳・後			1				文289	伝刀出土
619	大黒山1号墳	加賀郡吉備中央町豊野	古墳	円墳	15		古墳・終末			1				文289	伝刀出土
620	伝岡山県(美作地方出土)		古墳				古墳・後			1			銀象嵌装頭椎大刀1	文290	

表4 岡山県内出土の各種刀剣類

(1) 素環頭大刀

番号	遺跡名	所在地	器種 (報告名称・番号)	出土遺構	時期	時期詳細	文献番号	備考
1	王墓山古墳	倉敷市	金銅製圭頭様素環頭柄頭22	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半	文14・73	金銅製
2	押入西1号墳	津山市	素環頭大刀5	主体部 (箱形木棺)	古墳・中	5世紀前半	文113	
3	桑山2号墳	津山市	素環頭大刀	横穴式石室	古墳・後	6世紀中頃	文105	
4	山手3号墳	井原市	素環頭大刀	竪穴式石室	古墳・前		文151	
5	花光寺山古墳	瀬戸内市	素環頭大刀22	小石室	古墳・前	前期後葉	文2・14・209・210	
6	我城山6号墳	瀬戸内市	刀10・莖部11 (銀装素環頭大刀)	木棺直葬	古墳・中	5世紀後半	文207・208	鉄地銀張
7	金鶏塚古墳	瀬戸内市	環頭柄頭 (銀装圭頭様素環頭大刀)	竪穴系横口式石室?	古墳・後	6世紀前半	文2・210・211・293	鉄地銀張

(2) 蛇行剣

番号	遺跡名	所在地	器種 (報告名称・番号)	出土遺構	時期	時期詳細	集成の文献番号	備考
1	藤蔵池頭古墳	津山市	蛇行剣	不明	古墳		文131・135	土取り工事中に発見

(3) 鹿角装

番号	遺跡名	所在地	器種 (報告名称・番号)	出土遺構	時期	時期詳細	文献番号	備考
1	八幡大塚2号墳	岡山市	鉄刀 (振り環頭大刀)	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀前半	文14・52・53・54	振り環に鹿角付着 (文54)
2	勝負砂古墳	倉敷市	鉄刀1	竪穴式石室	古墳・中	5世紀後半	文88	鹿角製柄縁
3	勝負砂古墳	倉敷市	鉄刀2	竪穴式石室	古墳・中	5世紀後半	文88	鹿角製柄縁、鹿角製把頭 (直弧文あり)、骨角製板状装具
4	天狗山古墳 (1)	倉敷市	鉄刀1	竪穴式石室	古墳・中	5世紀後葉	文2・14・84・85・89・299	鹿角製鞘口 (直弧文あり)
5	天狗山古墳 (2)	倉敷市	鉄剣3	竪穴式石室	古墳・中	5世紀後葉	文2・14・84・85・89・299	剣柄縁鹿角製
6	桑山3号墳 (1)	津山市	短刀	箱式石棺	古墳・後	6世紀中葉	文105	鹿角装柄
7	桑山3号墳 (2)	津山市	短刀	箱式石棺	古墳・後	6世紀中葉	文105	鹿角装柄
8	中宮1号墳 (1)	津山市	直刀E	横穴式石室	古墳・後	6世紀中葉	文108	鹿角製柄縁
9	中宮1号墳 (2)	津山市	直刀A	横穴式石室	古墳・後	6世紀中葉	文108	鹿角装柄
10	的場3号墳	津山市	小刀16	竪穴式石室	古墳・後	6世紀末	文119	鹿角装柄
11	長畝山北9号墳	津山市	鉄刀13	第1主体 (木棺直葬)	古墳・中	5世紀後半	文125	鹿角装柄
12	野田畝1号墳	新見市	大刀13	竪穴式石室	古墳・後	6世紀中葉	文202	関～莖部中程に鹿角装具の痕跡あり
13	中原25号墳	真庭市	刀25	横穴式石室	古墳・後	6世紀末	文250	鹿角装柄
14	中原36号墳	真庭市	鉄剣7	主体部 (箱式石棺)	古墳・中		文250	剣柄縁鹿角製
15	中原39号墳	真庭市	鉄剣9	主体部 (箱式石棺)	古墳・中		文250	剣柄縁鹿角製
16	四つ塚1号墳	真庭市	鹿角装大刀	横穴式石室	古墳・後	6世紀中葉	文254・297	鹿角製鞘口 (直弧文あり)
17	津島遺跡	岡山市	柄B8	河道1 北岸	弥生・後～終末	後期後葉～末葉	文33	鹿角製の剣柄のみ
18	月の輪古墳	美咲町	剣1	中央主体 (粘土柳、割竹形木棺)	古墳・中	5世紀初	文288	剣柄縁鹿角製か

(4) 象嵌装大刀

番号	遺跡名	所在地	器種 (報告名称・番号)	出土遺構	時期	時期詳細	文献番号	備考
1	龍王塚古墳	岡山市	大刀34、刀装具37・40	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半	文5	鏝、鞘尻に銀象嵌
2	西山2号墳	岡山市	鏝102・刀装具?504～506	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀初頭	文24	鏝に銀象嵌
3	平瀬2号墳	岡山市	大刀1・2	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀前半	文37	鏝に銀象嵌
4	桑山南1号墳	津山市	大刀	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀前半	文106	鏝、鏝、柄縁に銀象嵌
5	柳谷古墳	津山市	頭椎大刀柄頭30、鞘尾金具31	横穴式石室	古墳・後	6世紀末～7世紀初頭	文128	頭椎柄頭、鞘尻に銀象嵌
6	万燈山古墳	津山市	直刀	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀前半	文14・138・296	鏝に銀象嵌
7	福井大塚2号墳	総社市	大刀	横穴式石室石室外	古墳・後	6世紀後半	文160	鏝に銀象嵌
8	緑山17号墳	総社市	大刀	横穴式石室	古墳・後	6世紀末～7世紀中葉	文157	方頭柄頭、鏝に銀象嵌
9	道上古墳 (1)	新見市	大刀50・黄金具58	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀初頭	文201・301	鏝、柄縁に銀象嵌
10	道上古墳 (2)	新見市	大刀51	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀初頭	文201	鏝、鏝に銀象嵌
11	岩田6号墳	赤磐市	鏝1・鞘金具2	横穴式石室	古墳・後	6世紀中葉	文221・222	鏝に銀象嵌
12	平岩古墳	赤磐市	柄頭M1・鞘尻M2・刀M3	横穴式石室	古墳・後	6世紀末～7世紀前半	文229	鞘尻に銀象嵌
13	奥田古墳	真庭市	大刀32	横穴式石室	古墳・終末	7世紀前半～中葉	文251	鏝に銀象嵌
14	川戸2号墳	美作市	鏝4	横穴式石室	古墳・後	6世紀末～7世紀前半	文259	鏝に銀象嵌
15	宮の脇古墳	浅口市	大刀1	横穴式石室	古墳・後	6世紀末～7世紀第1四半期	文268	鏝、鏝に銀象嵌
16	伝岡山県 (美作地方出土)		頭椎柄頭	不明	古墳・後		文290	頭椎柄頭に銀象嵌

(5) 単龍・単鳳環頭大刀

番号	遺跡名	所在地	器種 (報告名称・番号)	出土遺構	時期	時期詳細	文献番号	備考
1	箭田大塚古墳	倉敷市	単鳳環頭大刀柄頭	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀初頭	文2・14・83	
2	箭田大塚古墳	倉敷市	単鳳環頭大刀柄頭	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀初頭	文2・14・83	
3	箭田大塚古墳	倉敷市	単鳳環頭大刀柄頭	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀初頭	文2・14・83	
4	こうもり塚古墳	総社市	環頭大刀1 (単鳳環頭大刀)	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀前半	文14・154・155・176・291	
5	岩田14号墳	赤磐市	環頭1・刀2 (単龍環頭大刀)	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀前半	文221・223	
6	岩田14号墳	赤磐市	環頭2 (単龍環頭大刀)	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半～7世紀前半	文221・223	

## (6) 双龍環頭大刀

番号	遺跡名	所在地	器種 (報告名称・番号)	出土遺構	時期	時期詳細	文献番号	備考
1	天神原1号墳	津山市	双龍環頭大刀39-a・39-b	横穴式石室	古墳・後	6世紀末	文116	
2	垣内1号墳	新見市	双龍環頭大刀柄頭	横穴式石室	古墳・後		文195	
3	大谷1号墳	真庭市	双龍環頭大刀	横穴式石室	古墳・終末	7世紀後葉	文234	
4	大塚古墳	真庭市	大刀片1~4、鍔5 (金銅装双龍環頭大刀)	横穴式石室	古墳・後~終末	6世紀末以降	文236	環頭部は不明だが双龍環頭の可能性高い (文236)
5	富尾丸山12号墳	真庭市	双龍環頭大刀柄頭	横穴式石室	古墳・後		文2・66	

## (7) 三葉環頭大刀

No.	遺跡名	所在地	器種 (報告名称・番号)	出土遺構	時期	時期詳細	文献番号	備考
1	津高郡建部村神力山出土	岡山市	三葉環頭大刀	不明	古墳・後		文2・66	

## (8) 円頭大刀

番号	遺跡名	所在地	器種 (報告名称・番号)	出土遺構	時期	時期詳細	文献番号	備考
1	王墓山赤井南3号墳	倉敷市	柄頭 (金銅装円頭? 大刀)	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半~7世紀初頭	文73	
2	平岩古墳	赤磐市	柄頭M1・鞘尻M2・刀M3 (銀象嵌装円頭大刀)	横穴式石室	古墳・後	6世紀末~7世紀前半	文229	
3	穴が澄古墳	美作市	銀装円頭大刀M1	横穴式石室	古墳・後	6世紀中葉	文257	

## (9) 方頭大刀

番号	遺跡名	所在地	器種 (報告名称・番号)	出土遺構	時期	時期詳細	文献番号	備考
1	大飛鳥遺跡	笠岡市	刀装具 (柄頭) 1-④ (方頭大刀)		古墳・終末~平安		文14・149・150	
2	緑山17号墳	総社市	大刀 (銀象嵌装方頭大刀)	横穴式石室	古墳・後	6世紀末~7世紀中葉	文157	
3	円通寺2号墳	新見市	刀1	横穴式石室	古墳・後		文196・197	
4	定西塚古墳(1)	真庭市	鉄製方頭大刀1	横穴式石室	古墳・終末	7世紀中葉~末	文236	
5	定西塚古墳(2)	真庭市	足金具9、鞘尻金具10、黄金具状の金具11~13 (銅装方頭大刀)	横穴式石室	古墳・終末	7世紀中葉~末	文236	

## (10) 圭頭大刀

番号	遺跡名	所在地	器種 (報告名称・番号)	出土遺構	時期	時期詳細	文献番号	備考
1	龍王塚古墳	岡山市	大刀35、刀装具38・39 (金銅装圭頭大刀)	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半	文5	
2	青谷5号墳	岡山市	足金具1・黄金具2~4・懸通孔金具5 (金銅装圭頭? 大刀)	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半~7世紀初頭	文23	
3	上道郡財田村出土	岡山市	圭頭柄頭K	不明	古墳・後		文61	
4	琴海1号墳	倉敷市	柄頭66、懸通孔金具71・72、鞘口金具67、鞘金具69・70 (金銅装圭頭大刀)	横穴式石室	古墳・後	6世紀末~7世紀中葉	文77	
5	三坂古墳	新見市	金銅装圭頭大刀	横穴式石室?	古墳・後		文199	
6	土井2号墳	真庭市	刀1 (銀装圭頭? 刀)	横穴式石室	古墳・後	6世紀末~7世紀後半	文233・236	柄頭不明だが圭頭の可能性あり (文236)
7	定東塚古墳	真庭市	大刀1、足金具1、黄金具5~13、鍔20、鍔21、鞘尻金具24 (銀装圭頭? 大刀)	横穴式石室	古墳・終末	7世紀前葉~中葉	文236	柄頭不明だが圭頭の可能性あり (文236)
8	外波澄古墳	美作市	圭頭柄頭1・切羽2・切羽縁金具3・柄元金具4・六窓鍔5・鍔6 (金銅装圭頭大刀)	横穴式石室	古墳・終末	7世紀前葉	文262	

## (11) 頭椎大刀

番号	遺跡名	所在地	器種 (報告名称・番号)	出土遺構	時期	時期詳細	文献番号	備考
1	二宮大成古墳	津山市	鍔64、鞘尻金具62 (金銅装頭椎大刀)	横穴式石室	古墳・後	6世紀末~7世紀前半	文100・101	柄頭は出土していないが鍔の特徴から頭椎大刀と推定 (文101)
2	柳谷古墳	津山市	頭椎大刀柄頭30、鞘尻金具31 (銀象嵌装頭椎大刀)	横穴式石室	古墳・後	6世紀末~7世紀初頭	文128	
3	土井2号墳	真庭市	金銅装頭椎大刀2	横穴式石室	古墳・後	6世紀末~7世紀後半	文233	
4	伝岡山県 (美作地方出土)		頭椎柄頭	不明	古墳・後		文290	

## (12) 振り環頭大刀

番号	遺跡名	所在地	器種 (報告名称・番号)	出土遺構	時期	時期詳細	文献番号	備考
1	八幡大塚2号墳	岡山市	鉄刀	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半~7世紀前葉	文14・52・53・54	
2	金子石塔塚古墳	総社市	大刀把頭飾り4	横穴式石室	古墳・後	6世紀末	文54・154	
3	三輪山6号墳 (殿山3号墳)	総社市	銀製品3	竪穴系横口式石室	古墳・後	6世紀前半	文14・154・155・174	
4	岩田14号墳	赤磐市	刀1	横穴式石室	古墳・後	6世紀後半~7世紀前半	文221・223	

## (13) その他の装飾付大刀

番号	遺跡名	所在地	器種 (報告名称・番号)	出土遺構	時期	時期詳細	文献番号	備考
1	上道郡財田村土田出土	岡山市	環頭大刀柄頭	不明	古墳・後		文2・44・62	類例不明の獸形? 環頭大刀柄頭

表5 文献一覧

番号	執筆者・編集機関	刊行年	文 献 名	番号	執筆者・編集機関	刊行年	文 献 名
文1	岡山県教育委員会	2003	「改訂 岡山県遺跡地図〈第6分冊 岡山地区〉」	文51	鎌木義昌	1968	「備前高島遺跡について」『サヌカイト』創刊号
文2	本村豪章	1981	「古墳時代の基礎研究稿—資料篇（I）—」『東京国立博物館紀要』第16号	文52	小林青樹・野崎貴博・横田美香	1997	「岡山市八幡大塚2号墳の再検討」『古代吉備』第19集
文3	近藤義郎編	1991	「前方後円墳集成 中国・四国編」	文53	岡山県立博物館	2006	「吉備の渡来文化—渡り来た人々と文化—」
文4	岡山県教育委員会	1991	「岡山県埋蔵文化財報告」21	文54	高松雅文	2006	「振り環頭大刀と古墳時代後期の政治的動向」『川西市勝福寺古墳発掘調査報告』川西市教育委員会
文5	岡山県教育委員会	1984	「龍王塚古墳」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告58	文55	岡山県教育委員会	2004	「新邸遺跡・郷ノ満遺跡・仏生田遺跡・掛無堂遺跡・川入遺跡・中撫川遺跡」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告182
文6	岡山県教育委員会	1988	「鳩ヶ岩山古墳」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告66	文56	岡山市教育委員会	2016	「岡山市埋蔵文化財センター年報」15
文7	岡山市教育委員会	2014	「南坂1号墳・南坂遺跡」	文57	岡山市教育委員会	2009	「南坂古墳群（15号墳他5基）」
文8	岡山市教育委員会	2019	「岡山市埋蔵文化財センター研究紀要」第11号	文58	岡山市教育委員会	2008	「醫王谷古墳・醫王谷遺跡」
文9	岡山市教育委員会	1998	「すくも山遺跡」	文59	岡山市教育委員会	2006	「南坂8号墳・一国山城跡・一国山古墳群」
文10	岡山市教育委員会	1999	「長坂古墳群」	文60	岡山県教育委員会	1973	「岡山県埋蔵文化財報告」3
文11	小郷利幸ほか	1990	「岡山市足守地域の地域史的研究(1)」『古代吉備』第12集	文61	神林淳雄	1939	「金鋼製大刀と金銅製柄頭」『考古学雑誌』第29巻第4号
文12	小郷利幸ほか	1994	「岡山市足守地域の地域史的研究(2)」『古代吉備』第16集	文62	新谷武夫	1977	「環状柄頭研究序説」『考古論集—慶祝松崎寿和先生六十三歳記念論文集—』
文13	西川宏	1964	「岡山県吉備郡佐古田堂山古墳群（第1次調査）」『日本考古学年報』12	文63	御津町教育委員会	1976	「岩井山古墳群」
文14	岡山県史編纂委員会	1986	「岡山県史」第18巻 考古資料	文64	岡山県教育委員会	1993	「みそのお遺跡」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告87
文15	岡山市教育委員会	2000	「造山第2号古墳付千足古墳出土遺物」	文65	建部町	1995	「建部町史」通史編
文16	梅原末治	1938	「近畿地方古墳墓の調査」三	文66	濱田耕作・梅原末治	1923	「近江国高島郡水尾村の古墳 付録 日本発見金製耳飾刀剣環頭同鹿角装具集成」京都帝国大学文学部考古学研究報告第8冊
文17	岡山市教育委員会	2015	「千足古墳第1～第4次発掘調査報告書」	文67	岡山県教育委員会	1993	「岡山県埋蔵文化財報告」23
文18	岡山県教育委員会	1999	「加茂政所遺跡・高松原古才遺跡・立田遺跡」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告138	文68	瀬戸町史編纂委員会	1985	「瀬戸町誌」
文19	岡山県教育委員会	1995	「足守川加茂A遺跡・足守川加茂B遺跡・足守川矢部南向遺跡」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告94	文69	瀬戸町史編纂委員会	1985	「瀬戸町史料集」
文20	岡山県教育委員会	1994	「郷境墳墓群・前池内遺跡・後池内遺跡・黒住・雲山遺跡・青崎天神山遺跡」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告89	文70	倉敷市史研究会	1996	「新修倉敷市史」第一巻 考古
文21	岡山市教育委員会	2010	「吉備津杉西遺跡・吉備津奥田遺跡」	文71	岡山県教育委員会	1993	「矢部古墳群A・矢部古墳群B・矢部大塚遺跡・矢部奥田遺跡・矢部堀越遺跡」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告82
文22	岡山県史編纂委員会	1991	「岡山県史」第2巻 原始・古代 I	文72	近藤義郎編	1992	「橋築弥生墳丘墓の研究」
文23	岡山県教育委員会	1996	「田益新田遺跡・青谷5号墳」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告112	文73	間壁忠彦・間壁霞子・藤田憲司・山本雅晴編	1974	「王墓山遺跡群」『倉敷考古館研究集報』第10号
文24	岡山県教育委員会	1996	「田益新田遺跡・西山古墳群」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告109	文74	岡山県教育委員会	1988	「亀山遺跡・西光坊遺跡・沢寺遺跡・道口遺跡・唐津池北遺跡・上竹西の坊遺跡」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告69
文25	上祐武	2014	「岡山市西山3号墳出土刀装具の装着状況復元」『文化財と技術』第6号	文75	倉敷埋蔵文化財センター	1998	「湾戸7号墳」倉敷市埋蔵文化財発掘調査報告第7集
文26	岡山市教育委員会	2020	「津高団地遺跡群—古墳・生産遺跡—」	文76	間壁忠彦・間壁霞子・藤田憲司・小野一臣	1979	「金浜古墳」『倉敷考古館研究集報』第14号
文27	近藤義郎編	1987	「岡山市七つ坊古墳群」	文77	岡山県教育委員会	1980	「管原・琴海1号墳」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告36
文28	近藤義郎・春成秀爾	1967	「埴輪の起源」『考古学研究』第13巻第3号	文78	倉敷埋蔵文化財センター	2011	「広江・浜遺跡 南山21号墳」倉敷市埋蔵文化財発掘調査報告第14集
文29	岡山大学考古学研究室	2020	「津倉古墳」	文79	杉山和徳	2009	「ミニチュア鉄剣に関する一考察」『静岡県埋蔵文化財調査研究所 研究紀要』第15号（財）静岡県埋蔵文化財調査研究所
文30	岡山市史編纂委員会	1962	「岡山市史」古代編	文80	岡山県教育委員会	2022	「南山城跡・南山明地古墳群・南山明地遺跡」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告257
文31	近藤義郎	1981	「岡山市津島叔父奥古墳」『日本考古学年報』7	文81	岡山県教育委員会	2003	「改訂 岡山県遺跡地図〈第5分冊 倉敷地区〉」
文32	近藤義郎	1988	「岡山市津島の俗称「おつか」と称する前方後円墳についての調査の概略報告」『古代吉備』第10集	文82	倉敷市教育委員会	2015	「倉敷市遺跡地図（真備・船穂地区）」
文33	岡山県教育委員会	2003	「津島遺跡4」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告173	文83	真備町教育委員会	1984	「箭田大塚古墳」
文34	岡山県教育委員会	2000	「津島遺跡2」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告151	文84	真備町史編纂委員会	1979	「真備町史」
文35	岡山市教育委員会	2011	「津島江道（給食棟・南棟校舎）遺跡」	文85	真備町教育委員会	1996	「真備町の文化財」
文36	岡山市教育委員会	2007	「神宮寺山古墳 網浜茶臼山古墳」	文86	岡山大学考古学研究室	2018	「二万大塚古墳」
文37	岡山県教育委員会	1993	「平瀬古墳群・富原西奥古墳・白壁古墳」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告83	文87	高田賢太	1998	「古墳副葬鉄鉢の性格」『考古学研究』第45巻第1号
文38	岡山県教育委員会	1990	「岡山県埋蔵文化財報告」20	文88	岡山大学考古学研究室	2009	「勝負砂古墳—調査概報—」
文39	岡山県教育委員会	1999	「原尾島遺跡（藤原光町3丁目地区）」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告139	文89	岡山大学考古学研究室・天狗山古墳発掘調査団	2014	「天狗山古墳」
文40	岡山県教育委員会	1994	「百間川原尾島遺跡3」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告88	文90	岡山県教育委員会	2003	「改訂 岡山県遺跡地図〈第7分冊 津山地区〉」
文41	岡山県教育委員会	1995	「百間川原尾島遺跡4」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告97	文91	津山市教育委員会	1986	「寺田古墳」津山市埋蔵文化財発掘調査報告第22集
文42	岡山市教育委員会	2018	「岡山市埋蔵文化財センター年報」17	文92	津山市教育委員会	1983	「築瀬古墳群」津山市埋蔵文化財発掘調査報告第13集
文43	近藤義郎編	1991	「岡山市浦間茶臼山古墳」	文93	津山弥生の里文化財センター	1998	「年報津山弥生の里」第5号
文44	鎌木義昌	1964	「岡山の古墳」岡山文庫4	文94	津山市史編さん委員会	1972	「津山市史」第一巻原始・古代
文45	岡山県教育委員会	1998	「高下遺跡・浅川古墳群ほか・楯原古墳群・根岸古墳」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告123	文95	津山市教育委員会	1975	「津山市文化財年報」1
文46	岡山県教育委員会	1997	「寺山古墳群・大日幡山城出丸跡」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告118	文96	津山市教育委員会	2000	「田邑丸山古墳群・田邑丸山遺跡」津山市埋蔵文化財発掘調査報告第67集
文47	岡山県教育委員会	1983	「天神坂遺跡・奥坂遺跡・新屋敷古墳」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告53	文97	津山市教育委員会	1997	「有本古墳群」津山市埋蔵文化財発掘調査報告第59集
文48	西谷眞治・鎌木義昌編	1959	「金蔵山古墳」倉敷考古館研究報告第1冊	文98	津山市教育委員会	1998	「有本遺跡 男戸嶋古墳 上遠戸嶋遺跡」津山市埋蔵文化財発掘調査報告第62集
文49	岡山市教育委員会	2019	「金蔵山古墳—範囲確認発掘調査報告—」	文99	津山市教育委員会	1994	「大開古墳群・大開遺跡」津山市埋蔵文化財発掘調査報告第51集
文50	岡山市教育委員会	1978	「岡山市文化財保護年報（昭和48年度～昭和52年度）」	文100	岡山県教育委員会	1973	「中国縦貫自動車道建設に伴う発掘調査3」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告6

番号	執筆者・編集機関	刊行年	文 献 名	番号	執筆者・編集機関	刊行年	文 献 名
文101	豊島直博	2018	『岡山県北部における古墳時代から古代への転換』〔待兼山考古学論集Ⅲ—大阪大学考古学研究室30周年記念論集—〕	文151	井原市史編纂委員会	2005	『井原市史Ⅰ』自然風土・考古・古代・中世・近世通史編
文102	岡山県教育委員会	1977	『下道山遺跡緊急発掘調査概報』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告17	文152	井原市教育委員会	2003	『東大谷1号墳』井原市埋蔵文化財発掘調査報告1
文103	村上恭通	1999	『鉄製武器形副葬品の成立とその背景—三韓・三国時代と前方後円墳成立期を対象として—』〔先史学・考古学論究Ⅲ 白木原和美先生古稀記念献呈論文集〕龍田考古会	文153	芳井町教育委員会・芳井町文化財保護委員会	1982	『芳井の文化財』第1集
文104	宇垣匡雅	2011	『四山陽』講座日本の考古学7 古墳時代(上) 青木書店	文154	総社市史編さん委員会	1987	『総社市史』考古資料編
文105	岡山県教育委員会	2023	『勝負給遺跡 桑山遺跡 桑山古墳群』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告262	文155	総社市史編さん委員会	1998	『総社市史』通史編
文106	岡山県教育委員会	2022	『桑山南古墳群 細畝古墳群』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告255	文156	岡山県教育委員会	1997	『数田古墳群・金黒池東遺跡・奥ヶ谷竈跡・中山遺跡・中山古墳群・西山遺跡・西山古墳群・服部遺跡・北清手遺跡・窪木遺跡・高松田中遺跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告121
文107	岡山県教育委員会	2022	『城殿山遺跡 和田谷遺跡 マキサヤ遺跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告256	文157	総社市教育委員会	1984	『緑山17号墳・すりばち池3号墳・山津田遺跡・清水角遺跡』総社市埋蔵文化財発掘調査報告1
文108	近藤義郎編	1952	『佐良山古墳群の研究』第1冊	文158	総社市教育委員会	1993	『すりばち池古墳群』総社市埋蔵文化財発掘調査報告13
文109	津山市教育委員会	1992	『門の山古墳群』津山市埋蔵文化財発掘調査報告第46集	文159	総社市教育委員会	1997	『すりばち池南墳墓群』〔総社市埋蔵文化財調査年報7(平成8年度)〕
文110	カキ谷B古墳群1号墳埋蔵文化財発掘調査委員会	1987	『カキ谷B古墳群1号墳』	文160	総社市教育委員会	1994	『総社市埋蔵文化財調査年報4』
文111	今井堯・渡辺健治・神原英朗・河本清	1969	『美作津山市沼6号墳調査報告』『古代吉備』第6集	文161	総社市教育委員会	1999	『奥坂遺跡群』総社市埋蔵文化財発掘調査報告15
文112	津山市教育委員会	1962	『津山市文化財調査略報3』	文162	総社市教育委員会	1965	『総社市随庵古墳』
文113	岡山県教育委員会	1973	『中国縦貫自動車道建設に伴う発掘調査1』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告3	文163	総社市教育委員会	1972	『総社市西山周辺古墳群』総社市埋蔵文化財調査概報Ⅰ
文114	津山市教育委員会	2003	『橋本塚古墳群』津山市埋蔵文化財発掘調査報告第73集	文164	近藤義郎・北條芳隆編	1987	『緑山古墳群』
文115	津山弥生の里文化財センター	1996	『年報津山弥生の里』第3号	文165	総社市教育委員会	1987	『法蓮40号墳』総社市埋蔵文化財発掘調査報告4
文116	行田裕美・保田義治	1989	『津山市天神原1号墳—とくに金銅装双龍環頭大刀と共伴遺物について—』『古代吉備』第11集	文166	岡山県教育委員会	1993	『窪木薬師遺跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告86
文117	津山市教育委員会	1994	『井口車塚古墳』津山市埋蔵文化財発掘調査報告第52集	文167	総社市教育委員会	1995	『総社市埋蔵文化財調査年報5』
文118	津山市教育委員会	1992	『近丸山古墳群』津山市埋蔵文化財発掘調査報告第41集	文168	総社市教育委員会	1993	『藤原北古墳群』総社市埋蔵文化財発掘調査報告11
文119	津山市教育委員会	2001	『的場古墳群』津山市埋蔵文化財発掘調査報告第70集	文169	総社市教育委員会	1991	『水島機械金属工業団地協同組合 西団地内遺跡群』総社市埋蔵文化財発掘調査報告9
文120	津山市教育委員会	2007	『日上畝山古墳群Ⅱ』津山市埋蔵文化財発掘調査報告第78集	文170	総社市教育委員会	1996	『総社市埋蔵文化財調査年報6』
文121	津山市教育委員会	1997	『日上天王山古墳』津山市埋蔵文化財発掘調査報告第60集	文171	総社市教育委員会	2017	『牛塚古墳群』総社市埋蔵文化財発掘調査報告26
文122	今井堯	1970	『日上畝山古墳群』『津山の文化財』津山市教育委員会	文172	総社市教育委員会	2001	『総社市埋蔵文化財調査年報11』
文123	津山市教育委員会	1981	『日上和田古墳』津山市埋蔵文化財発掘調査報告第6集	文173	佐藤寛介	2000	『岡山県域における弥生時代鉄器文化の様相』『環瀬戸内海の考古学』下
文124	津山市教育委員会	1994	『河辺上原遺跡』津山市埋蔵文化財発掘調査報告第54集	文174	西川宏	1963	『備中三輪山第6号墳』『古代吉備』第5集
文125	津山市教育委員会	1992	『長畝山北古墳群』津山市埋蔵文化財発掘調査報告第45集	文175	岡山県教育委員会	1982	『殿山遺跡 殿山古墳群』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告47
文126	津山市教育委員会	1996	『長畝山北11号墳』津山市埋蔵文化財発掘調査報告第57集	文176	岡山県教育委員会	1979	『備中こうもり塚古墳』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告35
文127	津山市教育委員会	1993	『大畑遺跡』津山市埋蔵文化財発掘調査報告第47集	文177	間壁忠彦	1968	『岡山県下の人骨を出土した小古墳六例』〔倉敷考古館研究集報〕第4号
文128	津山市教育委員会	1988	『柳谷古墳』津山市埋蔵文化財発掘調査報告第24集	文178	総社市教育委員会	2018	『狩谷遺跡 狩谷古墳群』総社市埋蔵文化財発掘調査報告28
文129	津山市教育委員会	1992	『一貫東遺跡』津山市埋蔵文化財発掘調査報告第43集	文179	総社市教育委員会	2010	『法蓮堂山古墳群』総社市埋蔵文化財発掘調査報告21
文130	津山市教育委員会	1989	『茶山古墳群』津山市埋蔵文化財発掘調査報告第27集	文180	県道清音真金線建設に伴う文化財調査委員会	2005	『持坂20号古墳』
文131	久米町史編纂委員会	1984	『久米町史』上巻	文181	山手村史刊行委員会	2003	『山手村史』史料編
文132	久米開発事業に伴う文化財調査委員会	1979	『稼山遺跡群Ⅰ 集落遺跡編』	文182	山手村史刊行委員会	2004	『山手村史』本編
文133	岡山県教育委員会	1979	『久米三成4号墳』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告30	文183	宇垣匡雅	2002	『宿寺山古墳の研究(1)』『環瀬戸内海の考古学』下
文134	久米町教育委員会	1973	『久米町の文化財』	文184	小野一臣・間壁忠彦・間壁葎子	1977	『岡山県清音村鍔物師谷2号墳出土の土器』〔倉敷考古館研究集報〕第13号
文135	久米開発事業に伴う文化財調査委員会	1980	『稼山遺跡群Ⅱ 古墳・墳墓編』	文185	総社市教育委員会	2016	『総社市埋蔵文化財調査年報25』
文136	倉林眞砂斗・澤田秀実	2000	『美作の首長墳—墳丘測量調査報告—』	文186	清音村誌編纂委員会	1980	『清音村誌』
文137	岡山県教育委員会	1974	『岡山県埋蔵文化財報告』4	文187	岡山県教育委員会	2003	『改訂 岡山県遺跡地図(第3分冊 高梁地区)』
文138	加茂町文化財保護委員会	1973	『万燈山古墳』	文188	高梁市史編纂委員会	1979	『高梁市史』
文139	岡山県教育委員会	1998	『室尾石生谷口古墳ほか』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告133	文189	高梁市教育委員会	1981	『赤羽根古墳群』高梁市埋蔵文化財発掘調査報告1
文140	勝北町史編纂委員会	1991	『勝北町誌』	文190	岡山県教育委員会	1981	『岡山県埋蔵文化財報告』11
文141	勝北町教育委員会	2000	『西村古墳群』勝北町埋蔵文化財発掘調査報告1	文191	川上町教育委員会	1994	『川上町史』通史編
文142	出崎遺跡緊急発掘調査委員会	1999	『出崎灰出1・2号墳』	文192	岡山県教育委員会	2003	『改訂 岡山県遺跡地図(第1分冊 阿新地区)』
文143	玉野市史編纂委員会	1970	『玉野市史』	文193	岡山県教育委員会	1977	『中国縦貫自動車道建設に伴う発掘調査9』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告15
文144	永山卯三郎	1930	『岡山県通史』	文194	岡山県教育委員会	1976	『中国縦貫自動車道建設に伴う発掘調査6』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告11
文145	間壁忠彦	1973	『笠岡市走出弓場山古墳』〔倉敷考古館研究集報〕第8号	文195	岡田博・三宅博士	1989	『新見市金屋所在の一古墳から出土した双龍環頭大刀と伴出遺物について』『古代吉備』第11集
文146	笠岡市史編さん委員会	1983	『笠岡市史』第1巻	文196	新見市史編纂委員会	1990	『新見市史』史料編
文147	岡山県教育委員会	2003	『改訂 岡山県遺跡地図(第4分冊 井笠地区)』	文197	新見市史編纂委員会	1993	『新見市史』通史編上
文148	鎌木義昌・間壁忠彦・間壁葎子	1965	『長福寺裏山古墳群』	文198	大佐町教育委員会	1978	『円通寺古墳』
文149	笠岡市教育委員会	2010	『大飛鳥の遺跡と砂州』	文199	岡山県教育委員会	1978	『岡山県埋蔵文化財報告』8
文150	豊島直博	2014	『方頭大刀の生産と古代国家』〔考古学雑誌〕第98巻第3号	文200	岡山県教育委員会	1977	『中国縦貫自動車道建設に伴う発掘調査12』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告22

番号	執筆著・編集機関	刊行年	文 献 名	番号	執筆著・編集機関	刊行年	文 献 名
文201	岡山県教育委員会	1978	『中国縦貫自動車道建設に伴う発掘調査13』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告23	文253	近藤義郎編	1994	『美作 塚ヶ成古墳』
文202	岡山県教育委員会	1977	『中国縦貫自動車道建設に伴う発掘調査11』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告21	文254	近藤義郎編	1954	『藤山原一その考古学的調査-第1回』岡山大学医学部第2解剖学教室人類学考古学研究業績第2冊
文203	岡山県教育委員会	1977	『中国縦貫自動車道建設に伴う発掘調査10』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告20	文255	岡山県教育委員会	1998	『水別古墳群・水別遺跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告131
文204	牛窓町教育委員会	2002	『牛窓町古墳図』	文256	岡山県教育委員会	2003	『改訂 岡山県遺跡地図(第8分冊 勝英地区)』
文205	長浜村誌編さん委員会	1977	『長浜村誌 続編』	文257	岡山県教育委員会	2008	『八幡山遺跡・八幡山南遺跡・八幡山明寺遺跡・尾崎遺跡・中町B遺跡・穴が谷遺跡・穴が谷古墳・今岡D遺跡・今岡中山遺跡・今岡古墳群・高岡遺跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告213
文206	牛窓町史編纂委員会	1997	『牛窓町史』資料編Ⅱ 考古・古代・中世・近世	文258	大原町史編纂委員会	2005	『大原町史』史料編(上) 考古
文207	近藤義郎	1969	『備前邑久我城山6号墳』『古代吉備』第6集	文259	大原町教育委員会	1995	『川戸古墳群発掘調査報告書』
文208	邑久町史編纂委員会	2006	『邑久町史』考古編	文260	岡山県教育委員会	1987	『桑瀬遺跡ほか・土佐貝塚ほか・美土路遺跡ほか』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告64
文209	梅原末治	1923	『近畿地方古墳墓の調査』二	文261	美作町教育委員会	2004	『美作町遺跡地図』
文210	長船町史編纂委員会	1998	『長船町史』史料編(上)	文262	美作町史編纂委員会	2006	『美作町史』資料編Ⅰ
文211	平井勝・宇垣匡雅	1990	『岡山県長船町亀ヶ原所在の前方後円墳』『古代吉備』第12集	文263	岡山県教育委員会	1973	『中国縦貫自動車道建設に伴う発掘調査2』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告4
文212	梅原末治	1957	『岡山県下の古墳調査記録』(二)『瀬戸内海研究』9・10号	文264	岡山県教育委員会	2016	『大河内遺跡・及遺跡・小池谷遺跡・小池谷8号墳・小池谷B遺跡・上相遺跡・小中遺跡・小中古墳群・鍛冶屋遺跡・鍛冶屋遺古墳群』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告242
文213	岡山県教育委員会	2009	『八塚古墳群』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告218	文265	美作町教育委員会	2002	『大塚五号墳』美作町埋蔵文化財調査報告第1集
文214	山陽町教育委員会	1975	『山陽町の原始・古代』	文266	英田町史編纂委員会	1996	『英田町史』
文215	岡山県教育委員会	1972	『岡山県埋蔵文化財報告』2	文267	岡山県教育委員会	1999	『道面遺跡・塚地古墳』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告147
文216	山陽町教育委員会	1989	『正崎2・4号古墳』	文268	岡山県教育委員会	1981	『山陽自動車道建設に伴う発掘調査2』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告42
文217	岡山県教育委員会	2003	『改訂 岡山県遺跡地図(第9分冊 東備地区)』	文269	鴨方町史編纂委員会	1990	『鴨方町史』本編
文218	山陽町教育委員会	1971	『便木山遺跡発掘調査報告』『岡山県営山陽新住宅市街地開発事業用地内埋蔵文化財発掘調査概報(2)』	文270	鴨方町教育委員会	1988	『鴨方の埋蔵文化財』
文219	山陽町教育委員会	1973	『四辻土壙墓遺跡・四辻古墳群』岡山県営山陽新住宅市街地開発事業用地内埋蔵文化財発掘調査概報(3)』	文271	豊島直博	2010	『鉄製武器の流通と初期国家形成』塙書房
文220	山陽町教育委員会	1975	『用木古墳群』『岡山県営山陽新住宅市街地開発事業用地内埋蔵文化財発掘調査概報(1)』	文272	岡山県教育委員会	2011	『二本木遺跡・小塚の谷古墳・宇屋遺跡・宇屋古墳・田尻遺跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告229
文221	山陽町教育委員会	1976	『岩田古墳群』『岡山県営山陽新住宅市街地開発事業用地内埋蔵文化財発掘調査概報(6)』	文273	和気町	1968	『和気の歴史』
文222	有賀祐史	2020	『岡山県における象嵌鏝について-赤磐市岩田6号墳出土鉄製板鏝の保存処理を終えて-』『古代吉備』第31集	文274	矢掛町史編纂委員会	1982	『矢掛町史』史料編
文223	大谷晃二	2018	『岩田14号墳と金銀装大刀』『丘の上の遺跡群-山陽団地の発掘から-』赤磐市歴史まなび講座資料	文275	富村史編纂委員会	1989	『富村史』
文224	岡山県教育委員会	1995	『松尾古墳群・斎富古墳群・馬屋遺跡ほか』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告99	文276	岡山県教育委員会	2004	『久田原遺跡・久田原古墳群』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告184
文225	赤坂町教育委員会	1984	『赤坂町誌』	文277	鏡野町史編纂委員会	2000	『鏡野町史』考古資料編
文226	岡山県教育委員会	2003	『前内池遺跡・前内池古墳群・佐古遺跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告174	文278	鏡野町教育委員会	1984	『竹田墳墓群』
文227	熊山町史編纂委員会	1994	『熊山町史』通史編 上巻	文279	土居徹	1969	『美作鏡野町土居妙見山古墳』『古代吉備』第6集
文228	岡山県教育委員会	2010	『婦本路古墳群』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告225	文280	勝央町教育委員会	2010	『小池谷遺跡 小池谷古墳群』勝央町文化財調査報告10
文229	岡山県教育委員会	2006	『来光寺跡・来光寺遺跡・立道遺跡・平岩古墳』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告199	文281	岡山県教育委員会	2006	『国司尾遺跡・坂田遺跡・坂田墳墓群・宮ノ上遺跡・宮ノ上古墳群』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告197
文230	北房町史編纂委員会	1992	『北房町史』通史編上	文282	岡山県教育委員会	1996	『西大沢古墳群・畑ノ平古墳群・黒土中世墓・虫屋遺跡・茂平古墳・茂平城』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告111
文231	岡山県教育委員会	1976	『中国縦貫自動車道建設に伴う発掘調査7』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告12	文283	勝央町教育委員会	1976	『勝央中核工業団地建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告』
文232	北房町教育委員会	1987	『山之城古墳群』北房町埋蔵文化財発掘調査報告6	文284	奈義町教育委員会	1984	『岡・城が端古墳発掘調査報告書』
文233	岡山県教育委員会	1979	『土井2号古墳』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告29	文285	久米南町史編纂委員会	1982	『久米南町誌』
文234	北房町教育委員会	1998	『大谷一号墳』北房町埋蔵文化財発掘調査報告7	文286	美咲町史編さん委員会・中央町誌編纂委員会	2018	『中央町誌』地区誌編
文235	岡山県教育委員会	1977	『岡山県埋蔵文化財報告』7	文287	中央町塚の平古墳埋蔵文化財発掘調査委員会	1992	『塚の平古墳群』
文236	岡山大学考古学研究室	2001	『定東塚・西塚古墳』	文288	近藤義郎編	1960	『月の輪古墳』
文237	岡山大学考古学研究室	1995	『定北古墳』	文289	賀陽町教育委員会	1972	『賀陽町史』
文238	北房町教育委員会	1986	『谷尻遺跡赤茂地区』北房町埋蔵文化財発掘調査報告4	文290	西山要一	1987	『古墳時代の象徴』『考古学雑誌』第72巻第1号
文239	岡山県教育委員会	1996	『宮地遺跡・大木遺跡・大木古墳群・粧田山城跡・大村遺跡ほか』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告113	文291	上橋武	2019	『岡山県総社市こもり塚古墳出土の単鳳環頭大刀』『文化財と技術』第9号
文240	岡山県教育委員会	2003	『改訂 岡山県遺跡地図(第2分冊 真庭地区)』	文292	ライアン・ジョセフ	2019	『古墳出現期における刀剣類の生産と流通の二相-吉備地域を中心に-』『日本考古学』第49号
文241	落合町教育委員会	1969	『神毛1号墳調査報告書 ムスビ山高塚調査報告書』	文293	金宇大	2017	『金工品から読む古代朝鮮と倭』
文242	落合町教育委員会	1995	『落合町埋蔵文化財分布地図』	文294	豊島直博	2004	『弥生時代における鉄剣の流通と把の地域性』『考古学雑誌』第88巻第2号
文243	落合町教育委員会	1986	『西河内上遺跡』	文295	ライアン・ジョセフ	2020	『鉄製武器からみた津倉古墳』『津倉古墳』
文244	岡山県教育委員会	1977	『中国縦貫自動車道建設に伴う発掘調査8』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告14	文296	津山市史編さん委員会	2020	『新修津山市史 資料編「考古」』
文245	岡山県教育委員会	1994	『元定古墳群・上野遺跡・大内原遺跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告91	文297	未永雅雄	1941	『日本上代の武器』
文246	岡山県教育委員会	1975	『中国縦貫自動車道建設に伴う発掘調査5』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告8	文298	美咲町史編さん委員会・中央町誌編纂委員会	2020	『中央町誌』資料編
文247	湯原町	1953	『湯原町史』前編	文299	東京国立博物館	2013	『東京国立博物館所蔵 骨角器集成2 鹿角製刀剣装具篇』
文248	久世町教育委員会	1989	『久世町埋蔵文化財分布地図』	文300	宇垣匡雅	2022	『宿寺山古墳の研究(2)』『岡山県立博物館研究報告』第42号
文249	久世町史編纂委員会	1975	『久世町史』	文301	岡山県古代吉備文化財センター	2008	『所報吉備』44
文250	岡山県教育委員会	1995	『中山西遺跡・城山東遺跡・下郷和田遺跡・下郷原田代遺跡・木谷古墳群・中原古墳群』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告93	文302	宇垣匡雅編	2021	『橋築墳丘墓』岡山大学文明動態学研究所・岡山大学考古学研究室
文251	岡山県教育委員会	1999	『日山遺跡・惣合遺跡・野辺張遺跡・早旦山遺跡・日山古墳群・奥田古墳・水神ヶ谷遺跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告136	文303	古代歴史文化協議会編	2022	『刀剣-武器から読み解く古代社会-』
文252	美甘村誌編纂委員会	1974	『村誌美甘』上巻	文304	新納泉	1992	『巨大墳から巨石墳へ』『新版古代の日本 第4巻 中国・四国』角川書店

## 岡山県内出土古墳時代人骨の集成と子ども墓について

四 田 寛 人

## はじめに

本稿の目的は、これまで岡山県内の遺跡で出土した古墳時代人骨を集成して基礎的な情報を整理することである。また、筆者前稿<sup>(1)</sup>にて、津山市桑山3号墳の幼児埋葬の検討を行った際、人骨の出土遺跡や埋葬施設について、資料の詳細を提示することができなかつたため、本稿をもってデータを示す。加えて、年少者が埋葬されたと考えられる箱式石棺についても、若干の検討を行っていききたい。

## 1 岡山県内出土古墳時代人骨の集成

岡山県内で出土した古墳時代人骨のうち、表1に形質人類学的な検討により性別・年齢が知られているもの、表2は検討が行われていないものを集成した。

記載事項としては、遺跡名、所在地、時期、墳形と規模、埋葬施設の種別、埋葬位置、遺構名称、遺構規模、副葬品、人骨番号、性別、年齢、人骨に関する特記事項、埋葬形態、出典文献を記載した。これらの内、所在地は2023年時の市町村名である。時期及び墳形と規模については、基本的に各報告文献に従っている。埋葬位置は清家章の分類<sup>(2)</sup>に従い、墳丘の中央部に設けられた最も中心的な埋葬を主要埋葬施設(表中「主」)、墳丘の主要平坦面に位置するその他の埋葬施設を副次的埋葬施設

(表中「副」)、墳丘斜面や裾部、周溝の内外に設けられる埋葬施設を周辺埋葬施設(表中「周」とする。被葬者の年齢については松下孝幸による区分<sup>(3)</sup>に従い、乳児(1歳未満)、幼児(1~5歳)、小児(6~15歳)、成年(16~20歳)、壮年(21~39歳)、熟年(40~59歳)、老年(60歳以上)とし、性別・年齢の判定については基本的に各報告に基づいている。

今回の集成では131遺跡186体の出土を確認し、そのうち性別・年齢が検討された人骨は70遺跡115体、不明なものは62遺跡71体であった。時期は古墳時代前期が17遺跡28体、中期が46遺跡61体、後期が25遺跡53体、時期不明が43遺跡51体である。性別や年齢に関する検討が行われた人骨については、男性56体(小児1、成年4、壮年26、熟年17、老年7、不明1)、女性41体(小児1、成年1、壮年20、熟年10、老年7、不明2)、性別不明18体(幼児1、小児5、成年以上1、壮年1、熟年1、老年2、不明7)である。

人骨を出土する埋葬施設については、箱式石棺92例、竪穴式石室13例、木棺墓1例、組合式石棺1例、木棺粘土槨2例、横穴式石室17例、横穴墓1例、不明7例であり、箱式石棺を埋葬施設とするものが全体の68%を占める。これは箱式石棺の構造による密封性によるものと思われる。

表1 性別・年齢が明らかとなっている人骨出土例

遺跡名	所在地	時期	墳形	埋葬施設	埋葬位置	遺構名	遺構規模(cm)	副葬品	人骨番号	性別	年齢区分	その他	埋葬形態	文献
岩井山4号墳	岡山市北区御津伊田	中期	方12m	箱式石棺	?	第1号棺	幅34cm			女性	熟年後半	50~60歳	単独埋葬	1
岩井山6号墳	岡山市北区御津伊田	中期	方11m	箱式石棺	主	第1主体	154×36	直刀・鉞・板状鉄器		女性	壮年		単独埋葬	1
岩井山8号墳	岡山市北区御津伊田	中期	方10m	箱式石棺	主	第1主体	154×36			男性	壮年		単独埋葬	1
宗形神社古墳	岡山市北区大窪	前期~中期	円14m	箱式石棺	主		190×50	方形板刃先1・鉄斧1・刀子2・鎌1・勾玉2・管玉5・小玉4	1号人骨	男性	壮年後半	西頭位	同棺複数埋葬	2
									2号人骨	女性	壮年前半			
長坂1号墳	岡山市北区下足守	前期中葉	方7m	箱式石棺	主		155×32	鉄剣1	東頭位	女性	壮年前半	初葬、片付け	同棺複数埋葬	3
									西頭位	男性	熟年			
長坂3号墳	岡山市北区下足守	前期	方10m	箱式石棺	主	A埋葬	(106)×30			女性	熟年	2基並立	単独埋葬	3
				箱式石棺	主	B埋葬	(78)×28		不明	不明	不明		不明	



紀要第3号

遺跡名	所在地	時期	墳形	埋葬施設	埋葬位置	遺構名	遺構規模 (cm)	副葬品	人骨番号	性別	年齢区分	その他	埋葬形態	文献
南坂16号墳	岡山市北区下足守	前期～中期	楕円17m	箱式石棺	副	主体部1	166×40			女性	成年		単独埋葬	4
南坂27号墳	岡山市北区下足守	前期～中期	方9m		主		170×42	鉄剣2		男性	小児	10代前半か	単独埋葬	4
堂山2号墳	岡山市北区平山	古墳中期	方12m	竪穴式石室	主		不明	剣・刀子・鍬・鋤・鎌・小玉・鉄滓		男性	老年		不明	5
飯盛山東1号墳	岡山市北区芳賀	前期	方9m	箱式石棺	主		180×40			女性	熟年	50代	単独埋葬	6
浅川2号墳	岡山市東区浅川	前期末～中期初頭	円7m	箱式石棺	主		184×43	鉄剣1	1号人骨 2号人骨	男性 男性	熟年 熟年	兄弟か(清家論文)	同棺複数埋葬	7
浅川3号墳	岡山市東区浅川	前期末～中期初頭	不明	箱式石棺	主		170×40	銅鏡1・筒形銅器1・鉄剣1		男性	壮年前半		単独埋葬	7
陣場山6号墳	岡山市東区瀬戸町江尻	中期	方20m	箱式石棺	主		162×30			女性	壮年	赤色顔料、全身骨残存	単独埋葬	8
矢部53号墳	倉敷市矢部	前期	不明	箱式石棺	主	シスト1	160×30			男性	壮年		単独埋葬	9
沼6号墳	津山市沼	中期	方14m	箱式石棺	副		177×38		東枕 西枕	男性 男性	壮年後半 熟年	西枕→東枕 父子もしくは兄弟	同棺複数埋葬	10
下道山南古墳	津山市総社	中期	方20m	箱式石棺	主	第2主体部	190×45	石製紡錘車3	1号 2号	男性 女性	壮年後半 壮年	ほぼ同時に埋葬か	同棺複数埋葬	11
久米三成4号墳	津山市中北字三成	中期	方方35m	箱式石棺	主	第1主体部	190×45	銅鏡・鉄斧・鉄剣・メノウ製勾玉	1号 2号	男性 女性	壮年～熟年 壮年	キョウダイ埋葬(田中1999)	同棺複数埋葬	12・13
				箱式石棺	副	第2主体部	197×40		東頭位 西頭位	女性 女性	熟年 小児	ミトコンドリアDNAが異なる(清家劫・2023)	同棺複数埋葬	
桑山5号墳	津山市平福	後期	円9m	竪穴式石室	主		210×65	鉄鏃4、刀子1		男性	壮年	頭蓋骨、大腿骨	単独埋葬	14
桑山3号墳	津山市平福	後期	円9m	箱式石棺	主		97×30	鹿角装短刀2・鉄鏃19・玉50		不明	幼児	2～4歳の幼児	単独埋葬	15
広浜古墳	笠岡市広浜	不明	不明	箱式石棺	?		155×30			女性	老年		単独埋葬	16
茂平八幡境内1号石棺	笠岡市茂平	不明	不明	箱式石棺	?		164×29			男性	成年		単独埋葬	16
茂平八幡境内2号石棺	笠岡市茂平	不明	不明	箱式石棺	?		152×40			男性	熟年		単独埋葬	16
弓場山古墳	笠岡市走出	前期	円10m	箱式石棺	主		185×39	直刀2・鉄斧・鍬・方形板刃先		男性	成人		単独埋葬	16
岩崎山5号墳	井原市下出部町	前期～中期	不明	箱式石棺	主		180×35	刀子1・鉄鏃1		男性	不明		単独埋葬	16
岩崎山6号墳(岩崎山4号墳)	井原市下出部町	前期～中期	円5m	竪穴式石室	主		260×60	刀子1・鉄鏃1		男性 男性	老年 熟年	老年男性が初葬、半ば腐朽した状態で追葬	同棺複数埋葬	16
石塔山古墳	井原市大江町	前期～中期	円10m	竪穴式石室	主		355×95	鉄剣1・ガラス小玉19		男性	壮年		単独埋葬	18
江崎石棺	総社市上林	前期	円5m	箱式石棺	主		172×42	剣・方形板刃先2・勾玉3	1号 2号	男性 女性	老年 老年		同棺複数埋葬	16
江崎古墳	総社市上林	後期	方円45m	横穴式石室	主		238×125(家形石棺)	飾金具30・刀子・雲珠・鉄鏃1・金環2・ガラス製小玉110(石棺内出土)		男性 女性	壮年前半 壮年後半	家形石棺内出土	同棺複数埋葬	19
殿山9号墳	総社市三輪	前期	方14m	箱式石棺	副	第2主体部	180×44	剣・鏃・鉄鏃		男性	壮年		単独埋葬	20
殿山11号墳	総社市三輪	前期	方15m	箱式石棺	副	第3主体部	168×44	管玉2		不明	不明		単独埋葬	20
殿山21号墳	総社市三輪	前期	方11m	箱式石棺	主	第1主体部	192×48		1号 2号	女性 女性	壮年～熟年 壮年		同棺複数埋葬	20
三輪山6号墳	総社市三輪	後期	円15m	横穴式石室	-		支室長2.4m	銀環2・管玉11・算盤玉41・切子玉3・小玉4・大刀3・刀子6・鉄鏃100以上・轡4・鞍1・鏡1・雲珠3・辻金具2・留金具18・鉸具4・鋤2・鎌1・手鎌3・斧2・鑿2・刀子1		女性 女性	成人以上 老年?		-	21

岡山県内出土古墳時代人骨の集成と子ども墓について

遺跡名	所在地	時期	墳形	埋葬施設	埋葬位置	遺構名	遺構規模 (cm)	副葬品	人骨番号	性別	年齢区分	その他	埋葬形態	文献
長砂 8 号墳	総社市久代	中期前半	方 13m	箱式石棺	主		(120) × 36			男性	壮年前半		単独埋葬	22
長砂 10 号墳	総社市久代	中期前半	円 10m	箱式石棺	主	第 1 主体	172 × 40	滑石製勾玉 15・管玉 4・小玉 8・白玉 140		女性	壮年後半	隣接する第 2 主体は土器棺墓(幼児葬か)	単独埋葬	22
久米 2 号墳	総社市久米	中期	方 14m	箱式石棺	主		160 × 40	鉄刀 1・鉄針 2	第 1 号	男性	壮年	3 体が埋葬、人骨の遺残状態は良好埋葬順序不明	同棺複数埋葬	19・23
									第 2 号	男性	熟年			
									第 3 号	女性	壮年～熟年			
前山 1 号墳	総社市宿	中期前半	方 12m	箱式石棺	主		184 × 33	—		男性	壮年	30 代以降	単独埋葬	24
前山 2 号墳	総社市宿	中期前半	方 7.5m	箱式石棺	主		170 × 40	刀子 1		男性	若年者	歯のみ出土	単独埋葬	
龍王 11 号墳	総社市宿	中期中葉～後半	不明	山頂に 3 基の箱式石棺が並列	?		(130) × 45	横板板鍬留短甲(出土状況不明)	人骨 A	男性	壮年	A・B は 11～13 号のいずれかから出土	単独埋葬?	25
不明			?		175 × 50	人骨 B	女性		熟年	単独埋葬?				
不明			?		184 × 42				単独埋葬?					
赤羽根古墳群	高梁市落合	不明	不明	箱式石棺	?	6 号主体部	185 × 43			男性	壮年	頭部赤彩	単独埋葬	26
赤羽根古墳群	高梁市落合	不明	不明	箱式石棺	?	7 号主体部	165 × 42			男性	壮年	同時埋葬・頭部赤彩 6・7 号主体部は同一墳丘か、ミトコンドリア DNA を共有、母系の血縁を有する(清家ほか 2021)	同棺複数埋葬	
赤羽根古墳群	高梁市落合	不明	不明	箱式石棺	?	8 号主体部	183 × 42	鉄剣		男性	壮年	頭部赤彩、頭部鏝合残る	単独埋葬	
上の山 6 号墳	備前市新庄	前期?	墳丘不明	箱式石棺	?		157 × 39		1 号人骨(北頭位)	女性	壮年前半	同時埋葬、姉妹か(清家 2010)	同棺複数埋葬	27
									2 号人骨(南頭位)	女性	壮年後半			
我城山 7 号墳	瀬戸内市邑久町上笠加	不明	円 5m	小竪穴式石室	主		180 × 50	土師器		女性	成人以上	報告では 2 号墳	同棺複数埋葬	28
安ヶ丸古墳	赤磐市斗有	不明	円 8m	箱式石棺	主		179 × 43			女性	老年		単独埋葬	29
中島 1 号墳	赤磐市中島	前期	方 18m	小竪穴式石室	主		不明	鉄剣・玉類	1 号人骨	男性	壮年	小竪穴式石室・土坑墓など 15 基の埋葬施設	同棺複数埋葬	30
									2 号人骨	女性	壮年前半			
中原 3 号墳	真庭市久世	中期	円 16m	箱式石棺	主		178 × 44	鉄剣・鉄刀		男性	熟年		単独埋葬	31
中原 7 号墳	真庭市久世	中期	方 11m	箱式石棺	主?	第 2 主体部	218 × 42			不明	熟年	頭蓋骨のみ	単独埋葬	
中原 8 号墳	真庭市久世	中期	方 15m	箱式石棺	主	第 2 主体部	198 × 43			女性	壮年後半～熟年前半		単独埋葬	
中原 12 号墳	真庭市久世	中期	円 16m	箱式石棺	主		173 × 43		1 号	男性	壮年	埋葬順 1 号 → 2 号	同棺複数埋葬	
									2 号	男性	熟年			
中原 15 号墳	真庭市久世	中期	方 12m	箱式石棺	主		213 × 62			女性	壮年後半		単独埋葬	
中原 24 号墳	真庭市久世	中期	方 17m	箱式石棺	主	第 1 主体部	246 × 64	鉄刀・刀子・豎櫛 37		男性	壮年後半～熟年前半		単独埋葬	

紀要第3号

遺跡名	所在地	時期	墳形	埋葬施設	埋葬位置	遺構名	遺構規模 (cm)	副葬品	人骨番号	性別	年齢区分	その他	埋葬形態	文献
定西塚古墳	真庭市上中津井	後期	方 16 × 14m	横穴式石室	-		石室全長 10.7 m	耳環 1、玉類 2、方頭大刀 1、青銅製刀装具、鉄鎌 97、両頭金具 12、轡 1、鉸具 3、刀子 5 以上、鉄滓、筭状骨角製品 2、円形穿孔製品 2、鉤形骨角製品 3		男性?	壮年	石室内に人骨集積	-	32
										不明	壮年			
										不明	老年			
										不明	老年			
										不明	若年			
宇月原古墳	浅口市鴨方町宇月原	中期	不明	箱式石棺	?	-	155 × 40	鉋・鎌・剣形品	No.1	男性	熟年		同棺複数埋葬	16
									No.2	不明	不明			
芋岡山 1 号墳	小田郡矢掛町中	中期	不明	箱式石棺	?		160 × 54	竖櫛		男性	老年		単独埋葬	16
芋岡山 2 号墳	小田郡矢掛町中	中期	不明	箱式石棺	?		172 × 35			不明	不明	頭頂骨のみ	単独埋葬	
中ノ谷横穴墓	真庭郡新庄村	飛鳥	横穴墓	-	-	-	横穴墓全長 7 m	鉄刀 1、鉄鎌 1、刀子 1	1 号人骨	女性	老年	12 歳程度	-	33
									2 号人骨	女性	壮年			
									3 号人骨	不明	小児			
竹田 5 号墳	苫田郡鏡野町竹田	前期	方 17m	箱式石棺	主	中央南棺	193 × 44		1 号	不明	成人以上		単独埋葬	34
				箱式石棺	主	中央北棺	193 × 43	鼓形器台(土器枕)・鉄鎌・小刀・刀子	2 号	女性	壮年	同時埋葬	同棺複数埋葬	
								3 号	不明	小児				
				箱式石棺	副	東棺	185 × 38	鉋	4 号	男性	熟年		単独埋葬	
				箱式石棺	副	南棺	163 × 40		5 号	不明	不明		同棺複数埋葬	
								6 号	不明	不明				
スクモ塚 1 号墳	苫田郡鏡野町馬場	中期	方 13m	箱式石棺	主	第 2 主体部	172 × 35			男	成人以上		単独埋葬	35
落山古墳	勝田郡勝央町小矢田	中期前半	円 12m	箱式石棺	主		186 × 44 (小口不明)	鉋 1・不明鉄器 1・刀子 1・方形板刃先 1		男	熟年後半		単独埋葬	36
石井古墳群 1 号墳	岡山市高松?	不明	不明	箱式石棺	不明		不明	不明		男性	壮年	出土遺跡詳細不明	不明	23
浦間北山古墳	不明	不明	不明	不明	不明		不明	不明	136A	女性	壮年	出土遺跡詳細不明	不明	23
北山古墳	上道郡上道町?	不明	不明	不明	不明		不明	不明	136	女性	壮年	出土遺跡詳細不明	不明	23
									136B	男性	熟年			
真備古墳	吉備郡真備町?	不明	不明	箱式石棺	不明		不明	不明		女性	熟年	出土遺跡詳細不明	不明	23
滝古墳	玉野市滝?	不明	不明	不明	不明		不明	不明		男性	壮年	出土遺跡詳細不明	不明	23
久米古墳	総社市阿曾?	不明	不明	不明	不明		不明	不明		男性	熟年	出土遺跡詳細不明	不明	23
笹井古墳	赤磐郡鳥取上?	不明	不明	不明	不明		不明	不明		男性	壮年	出土遺跡詳細不明	不明	23
西軽部古墳群 第 3 号?	赤磐郡赤坂町?	後期	不明	横穴式石室	-		不明	鉄刀 2	128A	女性	老年	1920 年発掘出土遺跡詳細不明	-	23
									129A	女性	老年			
									129B	男性	老年			
									130A	男性	老年			
									130B	女性	壮年			
									131	男性	壮年			
									132	女性	熟年			
									133	女性	壮年			
134	男性	壮年												

遺跡名	所在地	時期	墳形	埋葬施設	埋葬位置	遺構名	遺構規模 (cm)	副葬品	人骨番号	性別	年齢区分	その他	埋葬形態	文献
西軽部古墳群第3号?	赤磐郡赤坂町?	後期	不明	横穴式石室	-		不明	鉄刀2	135	男性	壮年	1920年発掘出土遺跡詳細不明	-	23
										不明	小児			
和気古墳	和気郡和気町?	不明	不明	不明	不明		不明	不明	第1号	男性	老年	出土遺跡詳細不明	不明	23
									第2号	男性	熟年			

表2 性別・年齢が不明な人骨出土例

遺跡名	所在地	時期	墳形	埋葬施設	埋葬位置	遺構名	遺構規模 (cm)	副葬品	人骨番号	性別	年齢区分	その他	埋葬形態	文献
甫崎天神山1号墳	岡山市北区津寺	前期	方10m	木棺	副	第2主体	200 × 42	緑色凝灰岩製管玉1		不明	不明	歯のみ	単独埋葬	37
前池内3号墳	岡山市北区津寺	後期	円18m	横穴式石室	-		全長9m	鉄刀1、鉄鎌1、耳環3、不明鉄製品1		不明	不明	7体分の人骨出土	-	37
後池内古墳	岡山市北区津寺	中期	円10m	箱式石棺	主		180 × 40	鉄剣1、刀子3、鉄鎌6		不明	不明	歯のみ	単独埋葬	37
祇園古墳	岡山市北区御津伊田	不明	不明	不明	?		不明	須恵器、鉄器		不明	不明		不明	38
名称未定	岡山市北区玉柏	不明	不明	竪穴式石室?	?		不明	刀剣?		不明	不明		不明	地
阿保田神社境内	岡山市東区瀬戸町万富	不明	不明	箱式石棺	?		不明	鉄器残片1		不明	不明	1940年出土	不明	39
勝負砂古墳	倉敷市真備町下二万	古墳中期	帆立貝形42m	竪穴式石室	主		360 × 120	鏡1、鉄刀2、鉄鉾2、鉄鎌約100、胡録1、短甲1、両頭金具形骨角製品2、鉄斧5、鉄鎌3、鉄鋤先3、刀子6、鉄鑿9、鉄針1、刺突漁具3以上、轡1、鏡1、杏葉、鞍、雲珠、滑石製白玉178、コハク玉、砥石5		不明	不明		単独埋葬	40
王墓山向山17号墳	倉敷市矢部	後期	不明	横穴式石室	-	-	-	金環、鉄鎌、須恵器、土師器		不明	不明	-	-	地
隠里古墳	津山市瓜生原	古墳	不明	箱式石棺	?		155 × 40	滑石製勾玉3、刀子片	A人骨	不明	不明	成人以上	同棺複数埋葬	41
									B人骨	不明	不明	成人以上		
									C人骨	不明	不明	成人以上		
沼2号墳	津山市沼	不明	不明	箱式石棺	?		不明						不明	10
沼3号墳	津山市沼	不明	円6m	箱式石棺	主		158 × 45	鉄片		不明	不明		不明	
沼4号墳	津山市沼	不明	不明	箱式石棺	主		167 × 42			不明	不明	2体が出土か	不明	
沼5号墳	津山市沼	不明	方9m	箱式石棺	主		不明			不明	不明		単独埋葬	
沼7号墳	津山市沼	不明	不明	箱式石棺	主		不明			不明	不明		不明	
沼14号墳	津山市沼	不明	不明	箱式石棺	主		162 × 36			不明	不明		単独埋葬	
沼斎神社裏2号墳	津山市沼	不明	不明	箱式石棺	主		145 × 30			不明	不明	頭蓋骨のみ	単独埋葬	
奥の前1号墳	津山市油木北	前期	方円65m	組合式石棺	主		不明	銅鏡1、銅鎌23、鉄斧2、鉄剣2、勾玉1、ガラス小玉10、竪矧板革綴短甲1		不明	不明	頭蓋骨	不明	43
押入兼田1号墳	津山市押入	中期	方11m	箱式石棺	主	第1主体	173 × 38	蛇紋岩製勾玉13、蛇紋岩製小玉27		不明	不明	大腿骨のみ枕石が両小口にあることから同棺複数埋葬か	同棺複数埋葬	44
河面丸山2号墳	津山市河面	後期	円13m	横穴式石室	-	陶棺	不明	刀子、鉄鎌		不明	不明	陶棺内に2体の人骨	-	45
										不明	不明			

紀要第3号

遺跡名	所在地	時期	墳形	埋葬施設	埋葬位置	遺構名	遺構規模 (cm)	副葬品	人骨番号	性別	年齢区分	その他	埋葬形態	文献
室尾石生谷口古墳	津山市加茂町青柳	古墳	円 14m	横穴式石室	-		石室全長 8.5 m	須恵器、鉄刀 1、鉄鏃 9、刀子 10、馬具、耳環 9、玉類 125		不明	壮年?	奥壁付近に集中	-	46
小高尾 1 号墳	津山市田熊	不明	円 7m	箱式石棺	-		不明			不明	不明		単独埋葬	地
川崎光学園 1 号墳	津山市川崎	後期	円	横穴式石室	-		不明			不明	不明		-	地
兼田丸山古墳	津山市川崎	不明	不明	箱式石棺	-			四獣鏡		不明	不明	箱式石棺 2 基?		39
足田口 5 号墳	津山市宮部下	不明	不明	箱式石棺	?		不明			不明	不明		単独埋葬	地
大沢 1 号墳	津山市久米川南	後期	円 5m	横穴式石室	-		石室全長 2.4 m			不明	不明		-	47
登峪 9 号墳	津山市くめ	後期	円 8m	横穴式石室	-		不明			不明	不明		-	地
日上畷山 1 号墳	津山市日上	前期	方 20m	箱式石棺	副	第 2 埋葬主体	177 × 44	鏡 1		不明	不明	頭蓋骨、大腿骨	単独埋葬	48
宮の峠古墳	井原市芳井町下鴨	不明	不明	箱式石棺	?		160 × 50			不明	不明	頭蓋骨・大腿骨	単独埋葬	49
亀迫古墳 (城山古墳)	井原市西江原町	不明	不明	箱式石棺	?		不明			不明	不明	昭和 34 年発見	単独埋葬	50
山崎 1 号墳	井原市東江原町	不明	不明	箱式石棺	?		不明			不明	不明	頭蓋骨? 赤色顔料	単独埋葬	50
木田古墳	井原市大江町	後期	円 10m	横穴式石室	-		石室全長 3.1m	鉄器?		不明	不明		-	50
狼谷古墳	井原市大江町	後期	不明	横穴式石室	-		石室全長 4.1m	剣		不明	不明		-	50
佐野山古墳	総社市井尻野	中期	方 25m	箱式石棺	主		272 × 43	碧玉製管玉 26・滑石製小玉多数・櫛 2・針 2・鉄剣 2・鉄鏃 47・刀子 1・鏡 2 (棺外に長方形草綴短甲)		不明	不明	頭蓋骨、大腿骨ほか 2 体が対置埋葬	同棺複数埋葬	19
若水山 5 号墳 (若水山古墳)	総社市原	不明	不明	箱式石棺	主		不明	管玉・ガラス玉		女性	不明	女性が初葬、女性の赤色顔料	同棺複数埋葬	地
横田東 2 号墳	新見市哲西町矢田	後期	円 10m	竪穴式石室	主		232 × 60	鉄刀 1・刀装具 (銀装)・鉄鏃 12・刀子		不明	不明	頭蓋骨片	単独埋葬	51
惣田奥 4 号墳	備前市佐山	後期	円 6m?	横穴式石室	-	陶棺	石室全長 3.6m					陶棺内、火葬骨	-	52
船山古墳	瀬戸内市長船町長船	後期	方 60m	箱式石棺	周		不明	刀子 1		不明	不明	後円部墳端付近、全身骨	単独埋葬	53
横山 2 号墳	瀬戸内市牛窓町鹿忍	不明	不明	箱式石棺?	?	-	194 × 48			不明	不明		不明	地
虫明長島古墳	瀬戸内市邑久町虫明	中期	不明	箱式石棺	?	第 1 号箱式石棺	不明	鉄鏃 3・骨鏃? 4		不明	不明	頭蓋骨、大腿骨	単独埋葬	54
				小竪穴式石室	?	第 2 号竪穴式石室	170 × 34			不明	不明	頭蓋骨	単独埋葬	
陣屋 6 号墳	赤磐市斗有	不明	円 6m	箱式石棺	主		174 × 44		No.1	不明	不明		同棺複数埋葬	28
									No.2	不明	不明			
笹井 1 号墳	赤磐市由津里	不明	方 14m	箱式石棺	?	第一主体	180 × 30	鉄刀		不明	不明		不明	55
森古墳	赤磐市由津里		円 10m	箱式石棺	主?		不明	銅鏡		不明	不明		不明	55
吉原 4 号墳	赤磐市上仁保	前～中期	方 22m	箱式石棺	?		不明	鉄剣		不明	不明		単独埋葬	56
野山 2 号墳	赤磐市山陽団地 2 丁目	中期	円 14m	箱式石棺	?		不明	ガラス小玉?		不明	不明		不明	56
岩内 4 号墳	真庭市草加部	後期	円 12m	横穴式石室	-		不明	須恵器		不明	不明		-	地
宮山 2 号墳	真庭市森山下和	前～中期	方 15m	竪穴式石室?	?		不明			不明	不明		不明	地
宮山 3 号墳	真庭市森山下和	前～中期	円 6m	箱式石棺	?		不明			不明	不明	頭骨が残存	不明	地
石路山 A- 1 号墳	真庭市森山西茅部	不明	円 15m	箱式石棺	?		不明	鉄刀?		不明	不明	赤色顔料	不明	地
定北古墳	真庭市上中津井	後期	方 25 × 21m	横穴式石室	-	3 号陶棺	178 × 44	銅椀蓋 (陶棺内)		不明	不明	頭蓋骨布で遺体を包む	単独埋葬	57
						木棺	180 × 44			不明	不明	歯、腕骨	単独埋葬	

遺跡名	所在地	時期	墳形	埋葬施設	埋葬位置	遺構名	遺構規模 (cm)	副葬品	人骨番号	性別	年齢区分	その他	埋葬形態	文献
定東塚古墳	真庭市上中津井	古墳後期	方25×18m	横穴式石室	-		石室全長11.6m	金製環2・金糸40・耳環3・歩挿2・ガラス玉片20・鉄刀3・刀装具・鉾4・鉄鎌12・環付足金具1・両頭金具5・花形鏡板付釦1・花形杏葉2・心葉形杏葉7・鞍5・辻金具5・鉸具2・飾金具1・鋤先2・刀子4・斧状鉄製品2・鉄滓(石室内出土)		不明	不明	1片のみ	-	32
橋原寺山古墳(寺山1号墳)	美作市橋原下	前期	方方52m	竖穴式石室	主		380×97	銅鏡1、勾玉1、土師器、鉄劍2、ヤリ1、鉄鎌1、鉄鎌1、鉄斧2		不明	不明		単独埋葬	58
鏡山古墳	美作市橋原下	中期?	方9m	箱式石棺	?		170×44			不明	不明		不明	58
名称未定	浅口市金光町古見	不明	不明	箱式石棺				刀剣				2体が向き合って埋葬	同棺複数埋葬	39
宗枝8号墳(大塚)	苫田郡鏡野町宗枝	中期?	円38m	箱式石棺	主		163×50	鏡・玉・刀		不明	不明	嘉永6(1853)年に乱掘	不明	59
半峪1号墳(半峪8号墳)	苫田郡鏡野町下原	後期	円10m	箱式石棺	?		180×60	鉄斧1・鏡1・管玉2		不明	不明			59
上畑2号墳	苫田郡鏡野町和田	不明	不明	箱式石棺	?		不明			不明	不明		不明	59
月の輪古墳	久米郡美咲町飯岡	前期	円60m	木棺粘土槨	主	中央棺	565×55	珠文鏡1、玉類18、鉄刀3、鉄劍13、鉄鎌50、銅鏡83、短甲1、槍1、刀子4、工具12		不明	不明	頭蓋骨片、歯数本	単独埋葬	60
				木棺粘土槨	副	南棺	310×48	内行花文鏡1、玉類41、小玉1359、石釧1、鉄刀4、鉄劍3、刀子1、鉄鎌1、堅櫛8、針状鉄製品22、環状金具1		不明	不明	頭蓋骨片	単独埋葬	
合葬古墳	久米郡美咲町飯岡	不明	不明	箱式石棺	?					不明	不明	男女2体の人骨出土	不明	地
合葬上古墳	久米郡美咲町飯岡	不明	不明	箱式石棺	?					不明	不明		不明	地
台古墳	吉備中央町下加茂	不明	不明	竖穴式石室	?					不明	不明		不明	地

遺跡文献一覧 1.『岩井山古墳群』御津町教育委員会 1976 2.『宗形神社古墳』岡山市教育委員会 1999 3.『長坂古墳群』岡山市教育委員会 1999 4.『南坂古墳群(15号墳他5基)』岡山市教育委員会 2009 5.西川宏 1964『岡山県吉備郡佐古田堂山古墳群(第一次調査)』『日本考古学年報』12 6.清家章・清山隆福『飯盛山東1号墳-墳丘測量調査・石棺発掘調査報告-』岡山大学大学院社会文化科学研究科考古学研究室 2022 7.『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』93 岡山県教育委員会 1998 8.瀬戸町史編纂委員会編『瀬戸町史』瀬戸町 1985 9.『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』82 岡山県教育委員会 1993 10.今井堯ほか 1968『美作津山市沼六号墳調査報告』『古代古備』第6集 古代古備研究会 11.『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』17 岡山県教育委員会 1977 12.『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』30 岡山県教育委員会 1979 13.川中健二 1982『鑑定結果報告』『岡山県埋蔵文化財報告』12 岡山県教育委員会 14.『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』255 岡山県教育委員会 2022 15.『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』262 岡山県教育委員会 2023 16.間壁忠彦 1968『岡山県下の人骨を出土した小古墳六例』『倉敷考古館集報』4 倉敷考古館 17.間壁忠彦 1973『笠岡市走出弓場山古墳』『倉敷考古館集報』8 倉敷考古館 18.井原市史編纂委員会『井原市史Ⅰ』井原市 2005 19.総社市史編さん委員会『総社市史 考古資料編』総社市 1987 20.『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』47 岡山県教育委員会 1982 21.西川宏『備中三輪山第6号古墳』『古代古備』第5集 古代古備研究会 1963 22.『長砂古墳群』総社市埋蔵文化財発掘調査報告5 総社市教育委員会 1987 23.川中健二『岡山県出土の古墳時代人頭蓋骨』『考古学と関連科学』鎌木義昌先生古希記念論集 鎌木義昌先生古希記念論文集刊行会 1988 24.『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』115 岡山県教育委員会 1997 25.『龍王山古墳(宿)』『山手村史』資料編 山手村 2003 26.岡山県教育委員会編『赤羽根古墳群』高梁市埋蔵文化財発掘調査報告書1 高梁市教育委員会 1981 27.『備前市文化財調査年報(1)』備前市埋蔵文化財調査報告4 備前市教育委員会 1988 28.中島寿雄・近藤義郎 1952『岡山県邑久郡笠加村所在我城山古墳発掘調査報告』『瀬戸内海研究』第3号 瀬戸内海総合研究会 29.近藤義郎 1953『備前赤磐郡西山村所在の二、三の古墳について』『瀬戸内海研究』第4・5合併号 瀬戸内海総合研究会 30.山陽町史編纂委員会『山陽町史』山陽町 1986 31.『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』93 岡山県教育委員会 1995 32.新納泉・光本順編『定東塚・西塚古墳』北房町教育委員会 2001 33.『中ノ谷横穴墓』『新庄村埋蔵文化財発掘調査報告』新庄村教育委員会 2023 34.『竹田墳墓群』竹田遺跡発掘調査報告第1集 鏡野町教育委員会 1984 35.『鏡野町史』考古資料編 鏡野町 2000 36.『岡山県埋蔵文化財報告』13 岡山県教育委員会 1983 37.『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』89 岡山県教育委員会 1994 38.御津町史編纂委員会編『御津町史』御津町 1985 39.本村豪章 1981『古墳時代の基礎研究稿-資料篇Ⅰ-』『東京国立博物館紀要』第16号 東京国立博物館 40.岡山大学考古学研究室編 2009『勝負砂古墳調査概報』学生社 41.渡辺健治 1958『美作隠里箱式石棺調査報告』『古代古備』第2集 『古代古備』編集部 42.『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』8 岡山県教育委員会 1975 43.倉林眞砂斗・近藤義郎編『美作の首長墳-墳丘測量調査報告-』美作地域における前方後円墳秩序の構造的研究Ⅰ 吉備人出版 2000 44.津山市教育委員会『押入兼田遺跡』津山市埋蔵文化財発掘調査報告第69集 2000 45.津山市史編さん委員会『津山市史』津山市 1972 46.『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』133 岡山県教育委員会 1998 47.『椋山古墳群Ⅱ』久米開発事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告2 久米開発事業に伴う文化財調査委員会 1980 48.『日上畝山古墳』津山市埋蔵文化財発掘調査報告第63集 津山市教育委員会 1998 49.芳井町教育委員会編『芳井の文化財』第7集 芳井町教育委員会 1994 50.井原市史編纂委員会『井原市史Ⅰ』井原市 2005 51.『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』23 岡山県教育委員会 1978 52.間壁忠彦・間壁霞子『惣田奥4号墳』『倉敷考古館集報』17 1982 53.『長船町史 史料編(上)』長船町史編纂委員会 1998 54.『邑久町史 考古編』邑久町史編纂委員会 2006 55.赤坂町教育委員会『赤坂町誌』赤坂町 1984 56.山陽町史編纂委員会編『山陽町史』山陽町 1986 57.新納泉・尾上元規編『定北古墳』北房町教育委員会 1995 58.『美作町史』資料編Ⅰ 美作市 2006 59.『鏡野町史』考古資料編 鏡野町 2000 60.『月の輪古墳』月の輪古墳刊行会 1960

・「地」としているものは、古代古備文化財センター編『改訂 岡山県遺跡地図』岡山県教育委員会 2003 及びおかやま全県統合型 GIS の「埋蔵文化財(遺跡)」(<http://www.gis.pref.okayama.jp/pref-okayama/Portal?mid=15>)に基づく。

## 2 古墳時代の子ども墓について

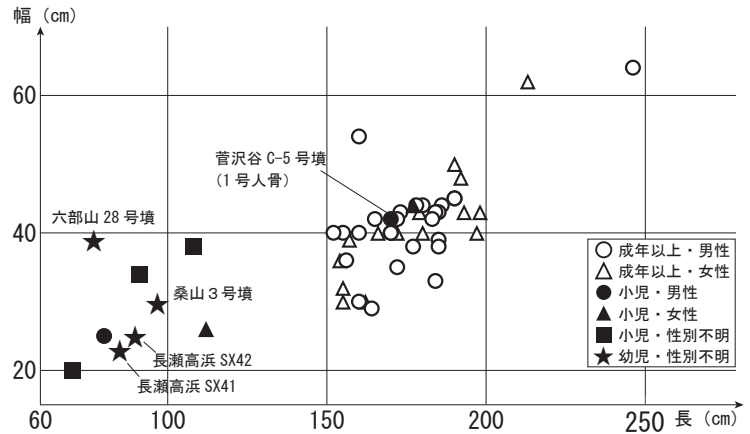
本節では、箱式石棺の規模から推定される子どもの埋葬とその埋葬位置について検討する。第1図に岡山県内における古墳時代の箱式石棺出土人骨のうち、初葬者の性別・年齢と箱式石棺の内法を示した。ただし幼児・小児が初葬者である埋葬は、岡山県内では3例が認められるのみであるため、比較のために島根県（菅沢谷C-5号墳）・鳥取県（六部山28号墳・長瀬高浜遺跡）の事例を加えている<sup>(4)</sup>。

箱式石棺の内法は、成年以上とそれ以下で明確に分かれており、被葬者の身体に合わせて石棺の規模が決定されることを示す。ここでは、内法が120cm以下で再葬墓と考えられないものを幼児～小児前半の埋葬と考え、一括して「子ども墓」と呼びたい。総社市佐野山古墳や真庭市中原24号墳など、身体より大きい内法2mを超える箱式石棺も存在するが、こうした箱式石棺には短甲や装飾品など多量の副葬品を有するものが多いことが指摘できるため、身体を超える規模の埋葬施設は一定以上の地位にあった被葬者のみが使用できたものと考えられる。

表3に岡山県内の内法120cm以下の箱式石棺の一覧を示した。本表は暫定的な集成であり、今後事例が増加する可能性がある。年少者の埋葬と思われる石棺は31例があり、弥生末～古墳時代前期が10例、中期が9例、後期が12例である。

弥生末～古墳時代前期の例では、鋳物師谷1号墳D主体部や七つ坑5号墳第2主体部、久米三成4号墳第3～5主体部など大規模な古墳の副次的・周辺埋葬施設として子ども墓が設けられる例が目立つ。山根屋古墳群など小規模ないし無墳丘と思われる事例においても、成人の埋葬と思われる箱式石棺に隣接するなど、埋葬空間における主体的な位置にある例は認められない。また土器以外の副葬品をもたないことが指摘できる。

中期の事例では、墳丘の主要埋葬施設であるものや玉類を中心とした副葬品を有するものが出現する。5世紀中頃～後半に位置づけられる中原古墳群では、子どもの埋葬が10m未満の円墳・方墳の主要埋葬施設となるほか、中原19・29号墳例では玉類をはじめとする副葬品を有



第1図 箱式石棺の内法と初葬者の性別・年齢

する。また中原古墳群の成人と考えられる埋葬（28号墳など）には刀剣や鉄鏃束などが伴う一方で、子ども墓には武器類が副葬されない点にも注意しておきたい。

後期では、2～4歳の幼児が主要埋葬施設に埋葬された桑山3号墳がある。桑山3号墳の箱式石棺は、墳丘築造途中の整地段階に構築されており、幼児の埋葬が古墳築造の契機となったことが判明している。石棺内の副葬品は鹿角装短刀2、鉄鏃2束19本、玉類50以上があり、成人の埋葬と遜色なく、玉類では上回っている。時期は土器枕である須恵器杯蓋・杯身からTK10型式段階、6世紀中葉である。また墳丘外には周辺埋葬として同時期の子ども墓と思われる箱式石棺と土器棺墓が隣接して築かれている。この箱式石棺は土器器碗1点のみが副葬されていた。桑山古墳群での状況は、①子どもの埋葬が一つの古墳とその周辺に集められた可能性がある、②埋葬や副葬品の差異から、子どものなかでも明確な階層差が生じている、③上位階層にある子どもが鉄鏃束など実戦的な武器を有している、といった点が注目される。隣接する桑山南古墳群でも、墳丘を持たない子ども墓と思われる箱式石棺が周辺埋葬施設として存在する。これらは桑山3号墳の周辺埋葬施設と同様に、土器以外の副葬品は認められない。

横田東古墳群は丘陵上に所在する2基の古墳とその間にある14基の小墳墓群からなる。このうち小型箱式石棺は小墳墓群の2基（4号墓、15号墓）で認められる。小墳墓群には箱式石棺のほか、土坑墓・石蓋土坑墓・横穴

表3 幼児～小児前半の埋葬と考えられる箱式石棺の例

遺跡名	所在地	時期	墳形	埋葬位置	遺構名	石棺内法 (cm)	副葬品	その他	文献
七つ坑5号墳	岡山市北区笹が瀬	前期	方方 25m	周?	第2主体部	120×40		側石に古銅輝石安山岩使用	1
久米三成4号墳	津山市中北下	前期	方方 35m	周	第3主体部	63×27		枕石	2
				周	第4主体部	66×24			
				周	第5主体部	63×18		枕石	
桑山南古墳群	津山市平福	後期	-	周	箱式石棺墓1	104×28	須恵器杯身2		3
				周	箱式石棺墓2	114×37	須恵器杯蓋・杯身	土器枕	
桑山3号墳	津山市平福	後期	円9.5m	主		97×30	鹿角装短刀2・鉄鎌 19・玉50	2～4歳の幼児骨出土	4
				周	箱式石棺墓1	110×45	土師器椀	土器枕(須恵器甍片)、土器棺 墓が隣接	
鑄師師谷1号墳	総社市清音三因	弥生末	方?	副	D主体部	65×25	鉢形土器	箱式石棺状の石組み	5
山根屋3号墓	新見市哲西町上神代	前期	不明	副?		38×16		1・2号墓に隣接	6
山根屋4号墓	新見市哲西町上神代	前期	不明	副?		76×24		2号墓に隣接、枕石	
山根屋6号墳	新見市哲西町上神代	前期	方6m	周	第2主体部	80×18			
山根屋14号墓	新見市哲西町上神代	後期	不明	主?		100×28	鉄鎌1・刀子1(棺外)		
山根屋15号墓	新見市哲西町上神代	後期	不明	周		96×30	須恵器高杯1	1号墳に隣接	
山根屋19号墓	新見市哲西町上神代	後期	不明	周		104×48			
山根屋20号墓	新見市哲西町上神代	後期	不明	周		68×36		2号墳周溝内	
山根屋22号墓	新見市哲西町上神代	後期	不明	周		60×28		2号墳周溝に隣接	
光坊寺1号墳	新見市哲西町矢田	前期	円14m	副	第Ⅲ主体部	120×34			7
横田東4号墓	新見市哲西町矢田	後期	不明	周		105×30		2号墳に隣接	8
横田東15号墓	新見市哲西町矢田	後期	不明	周		80×40		2号墳に隣接	
野山第5号墳	赤磐市山陽2丁目	中期	円10m	副	第2号棺	81×29	滑石製勾玉1・ガラス 小玉1		9
前内池7号墳	赤磐市可真下	中期	方10m	周	石棺1	87×33		枕石	10
宮の前遺跡C-3墓	真庭市一色	前期	方13m	周	シスト3	60×15		墳丘外埋葬	11
中原5号墳	真庭市久世	中期	方9m	主		113×22			12
中原16号墳	真庭市久世	中期	円6m	主		109×35		床面に礫敷き	
中原19号墳	真庭市久世	中期	方11m	周	第2主体部	58×33	堅櫛4・硬玉製勾玉1・ 蛇紋岩製管玉7・刀子 2・鉄釧	周溝内	
中原29号墳	真庭市久世	中期	円6m	主		102×32	蛇紋岩製勾玉2・蛇紋 岩製管玉9	枕石	
山之城2号墳	真庭市五名	中期	円10m	副	第2主体部	80×14			13
				副	第3主体部	85×18		枕石	
下湯原B遺跡	真庭市下湯原	後期～ 飛鳥	不明	副?	石棺墓2	50×30		石棺墓1に隣接	13
荒神風呂古墳	真庭市西河内	中期	円13m	周	2号箱式石棺	88×15		板石敷き	14

1. 近藤義郎・高井健司編『七つ坑古墳群』七つ坑古墳群発掘調査団1987 2. 『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』30 岡山県教育委員会1979 3. 『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』255 岡山県教育委員会 4. 『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』262 岡山県教育委員会2023 5. 春成秀爾ほか『備中清音村鑄師師谷1号墳墓調査報告』『古代吉備』第6集1969 6. 『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』22 岡山県教育委員会1977 7. 『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』15 岡山県教育委員会1977 8. 『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』23 岡山県教育委員会1978 9. 山陽町教育委員会『岩田古墳群』岡山県営山陽新住宅市街地開発事業用地内埋蔵文化財発掘調査概報(6) 山陽町教育委員会1976 10. 『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』174 岡山県教育委員会2003 11. 『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』12 岡山県教育委員会1976 12. 『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』93 岡山県教育委員会1995 13. 北房町教育委員会『山之城古墳群』北房町埋蔵文化財発掘調査報告6 1987 14. 『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』166 岡山県教育委員会2002 15. 『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』76 岡山県教育委員会1990

状石蓋土坑墓があり、土坑墓2基(14・16号墓)を除く14基は床面の内法は120cm以下である。これらは子どもの埋葬と考えたい。人骨が出土していないため再葬墓の可能性が残るが、横穴状石蓋土坑墓の7・10号墓をみると、副葬品である須恵器杯身・杯蓋と鉄鎌などの金属

器は床面の両端にそれぞれ置かれている。これは被葬者の頭部と脚部付近に供えられたものと考えられるので、埋葬時に腐朽・骨化はしていなかったと思われる。

横田東古墳群の小墳墓群は、位置から多くは2号墳に伴うものと思われる。特に7～9・11号墓は周溝の方向



から2号墳の周辺埋葬とみてよい。2号墳の埋葬施設は竪穴式石室で、内部に人骨、鉄刀1、鉄鏃12（平根式1、長頸鏃11）、刀子1、須恵器が出土している。周辺の小墳墓群は2号墳とほぼ時間差なく埋葬が行われており、横穴状石蓋土坑墓である7・10号墓の墓室内から鉄鏃が複数出土しているほか、石蓋土坑墓である5号墳からガラス小玉6点が出土している。いずれも子ども墓と考えられるため、桑山3号墳の事例と同様に子どもに実戦的な武器が伴うこと、副葬品の有無から子ども間にも階層差が存在する状況が見て取れる。

### 3 まとめ

本稿では岡山県内の古墳時代人骨の出土遺跡について集成を行ったほか、古墳時代の子ども墓について若干の検討を試みた。

人骨出土遺跡の集成では、岡山県内131遺跡186体分の人骨出土例を確認した。このうち性別・年齢が検討されたものは115例であった。

子ども墓については、古墳時代全体で認められることが分かった。弥生時代後期には、胎児・乳児を埋葬した土器棺墓については墓域が区別されることが指摘されているが<sup>(5)</sup>、土坑墓群（津山市勝負峪遺跡など）の事例でも分かるように、子どもの埋葬の位置は成人と区別されていない。一方で、古墳時代前期には子どもは古墳の主要平坦面に単独では埋葬されず、周辺埋葬ないし成人の埋葬に伴う形でしか認められない。また土器を除く副葬品を持たず、成人と子どもは明確に区別されていることが分かる。5世紀中葉～後半はこうした区別に変化がみられ、子ども墓が中心埋葬となる古墳や玉類をはじめとした副葬品をもつ例が出現する。また6世紀中葉以降、鉄鏃を中心とする実戦的な武器の副葬や、玉類などの副葬品を多量にもつ事例がみられるようになる。

古墳時代中期後半～後期における子どもの地位の変化は、子ども墓への武器類の副葬からみても集団の軍事編成とそれに伴う父系化と関連していると思われる。本論で例として挙げた桑山古墳群や横田東古墳群では、成人の埋葬に大刀・多量の鉄鏃・馬具などが副葬されており、軍事的な性格を強く示している。軍事編成の中で地位を確立した男性有力者（家長）の近親者であることが子どもの地位を高めたのであれば、それは集団の父系化と直

系卑属への地位継承を示すといえよう。

今後の課題として、本論では小型の箱式石棺のある遺跡を中心に検討したため、今後は土坑墓なども含めて事例を集成することが求められる。また人骨出土事例から認識できる子どもの埋葬は、成人（とくに女性）の埋葬へ追葬される事例が多くみられるのであり、単独の埋葬施設をもつ子どもは、全体の中でもごく一部であったと思われる。こうしたバイアスには注意する必要がある。

集団における子どもや未成年者の地位は、その社会の性格をよく反映すると思われる。本論では岡山県内のみでの検討に留まったため、より広範な地域・時代を通じた分析を行っていきたい。

### 註

- (1) 四田寛人2023「桑山3号墳箱式石棺の幼児埋葬について」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』262 岡山県教育委員会
- (2) 清家章『古墳時代の埋葬原理と親族構造』大阪大学出版会 2010
- (3) 松下孝幸1996「土井ヶ浜遺跡第14次調査出土の中世・弥生人骨」『土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査報告書』山口県豊北町埋蔵文化財調査報告書第12集 豊北町教育委員会
- (4) これらの詳細については、註(1)文献で示している。
- (5) 亀山行雄「土器棺墓について」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』98 岡山県教育委員会 1994

### 人骨に関する参考文献

- 田中良之『古墳時代親族構造の研究』柏書房 1995
- 清家章『古墳時代の埋葬原理と親族構造』大阪大学出版会 2010
- 清家章・篠田謙一・神澤秀明・角田恒雄・安達登2021「岡山県内古墳出土人骨のミトコンドリアDNA分析」『国立歴史民俗博物館研究報告』229号 国立歴史民俗博物館
- 清家章・篠田謙一・神澤秀明・安達登・角田恒雄2023「ゲノム解析による岡山県久米三成4号墳被葬者の親族関係」『日本考古学協会第89回総会研究発表要旨』日本考古学協会

## 総社市こうもり塚古墳出土の金属製品（補遺）

藤井 雅大・金田 善敬

### 1 はじめに

こうもり塚古墳は総社市上林の丘陵尾根先端部に立地する6世紀第3四半期に築造された全長約96mの前方後円墳である。墳丘の構築方法は尾根を切断し、その上に盛土を施すが、北側については墳丘の簡略化を確認した。これは後に整備される古代山陽道が東西に通る南側からの眺望を意識して築造されたことを表す。墳丘内に造られた横穴式石室は全長19.9mを測り、県下最大の石室で、中四国地方でも最大級の石室規模となる。石室内は攪乱を受けていたが、副葬品として単鳳環頭大刀柄頭をはじめ、武器、馬具、須恵器、土師器等が出土し、棺は石棺と陶棺が納められていた。

岡山県古代吉備文化財センターでは、令和4年度に総合調査報告書（以下報告書と呼ぶ）を刊行した<sup>(1)</sup>。報告書では、昭和42年の岡山大学・岡山理科大学による調査<sup>(2)</sup>、昭和53年度の岡山県教育委員会による調査<sup>(3)</sup>、令和3・4年度の当センターで実施した墳丘の発掘調査成果を総括した。このうち、過去の調査の再整理にあたっては、実測図は存在するものの所在が確認できなかった遺物について原図をそのままトレースして掲載した。このたび報告書の脱稿後に、それら遺物の一部について所在が判明し、あわせて未報告の金属製品も確認したことから、本稿では報告書で掲載できなかった遺物について追加報告する。

### 2 既報告の金属製品

本節では、報告書で実測図のみ確認した遺物について実物が見つかったので再度報告する。報告書と内容が異なる部分については、本稿の記述を優先する。なお、遺物番号については報告書と同じ番号を使用している。

馬具（第1図）（報告書 pp.92-94）

M5は心葉形十字文透鏡板である。4片（A～D）に分かれており、報告書ではDの所在が不明であった<sup>(4)</sup>。Dは、厚さが約0.3cmの扁平な鉄片である。Aの左側からBの上部に繋がる部分の下地であると考えられる。し

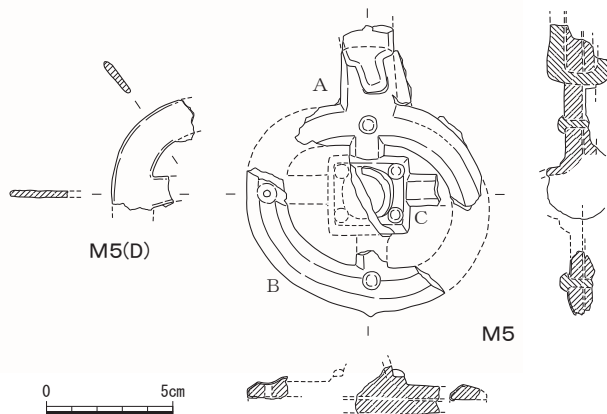
かしX線透過写真に鋌留めを示す孔の痕跡は認められなかった。孔が穿たれていなかったのか、鉄鋌のため写真に描出されなかったのか、両方を考えておきたい。

農工具ほか（第2図）（報告書 pp.100-101）

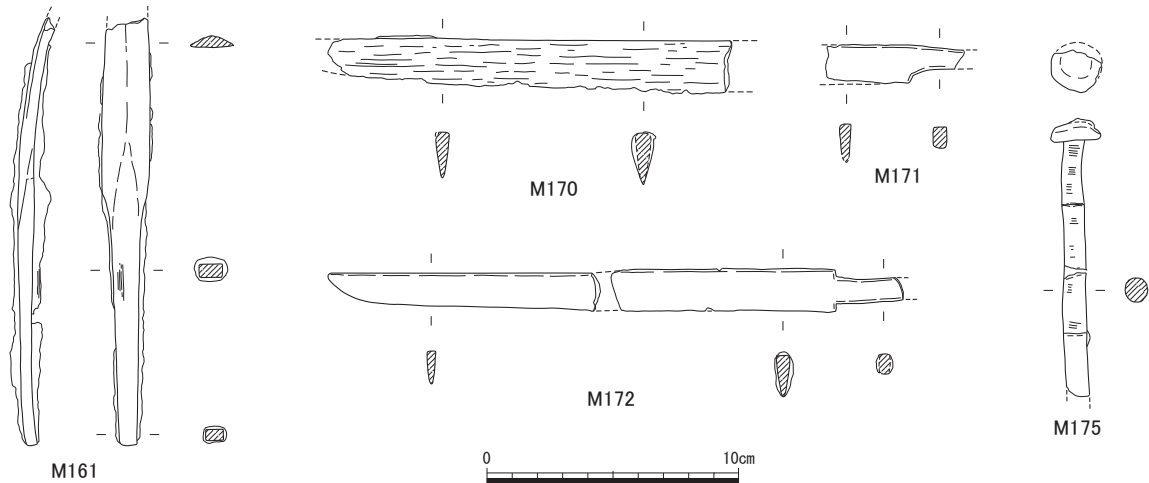
M161は鉋である。切っ先が欠損した刃部の先端付近は鑄側に湾曲している。関は報告書では実測図より直角両関であると報告したが、実物のX線透過写真を撮影した結果、関の形状は直角関ではなく、撫角関であることがわかった。茎には木質の痕跡がわずかに残る。

M170～M172は刀子である。M170は切っ先や茎が欠損する。佩裏側と棟側に木質が付着し、佩表側にも木質痕跡があることから、鞘に収められて副葬されたと考えられる。M171は関付近が残存する。M172は切っ先側と関側に分かれ、報告書では関側のみを報告した。切っ先はフクラ切っ先で、関は均等両関である。目釘穴はX線透過写真でも確認できず、茎尻は欠損している。

M175は鉄釘である。報告書では実測図から方形の頭部としたが、実見した資料では頭部は円形を呈していた。また軸部の表面には木質が残存しており、上半部・下半部ともに横方向の木目が認められる。報告書では、頭部が方形とし、類例に奈良県平城宮出土の鉄釘をあげたが、報告書の記述は取り消すことにする。しかし、報告書で記述したとおり、今回の再整理で確認した釘の本数や形態を根拠に木棺の存在を証明するのは難しいと考える。ただし、石室内が攪乱を受けている状況を考慮すると、木棺の存在を完全に否定するものではない。



第1図 出土遺物（馬具）（S=1/3）



第2図 出土遺物（農工具ほか）（S=1/3）

### 3 新規報告の金属製品

本節では、報告書作成時では確認できなかった資料について報告する。遺物番号については報告書の続き番号を割り振っている。

#### 鉄鎌（第3図）

M203～M225は鉄鎌である。長頸鎌の総破片数は報告書の整理で301点、今回の整理で62点があり、図面のみが残されている12点を合わせると375点が確認されている。長頸鎌片で茎関が残存している点数を数えると長頸鎌の総点数は、少なくとも105本以上は副葬されていたことがわかった。平根鎌は新たにM222を確認し、報告書で確認した12点を合わせ、少なくとも13点が出土している。また『総社市史』<sup>(5)</sup>において鉄鎌の可能性が指摘されている「エンピツのキャップ形の鉄器」を新たに3点確認した。報告書では20点を実見しており、『総社市史』で記載がある23本すべてを確認できた。

M203～M221は長頸鎌である。M203～M210は柳葉形の鉄鎌である。鎌身部はM206を除き片切刃造であるが、稜が不明瞭なものも含まれる。M206は断面形から両丸造と考えられるが、錆膨れが起こっていることが確認でき、元は片切刃造の断面形であった可能性もある。

M222は平根鎌である。現状は2片に分れており、茎尻は遺存していない。残存長は刃部側が約5.5cm、関部側が3.9cmである。茎の鎌身は柳葉形であり、頸部は丸

く緩やかに曲がる。関は棘関である。

M223～M225は『総社市史』において鉄鎌の可能性が指摘されている「エンピツのキャップ形の鉄器」である。基部の袋部は両側から閉じており、3点とも閉じ合わせ部分を観察できる。先端付近の断面は、M224は隅丸方形で、M223・M225は先端は方形を意識しているようである。概ね袋部の閉じ合わせが観察できる部分は断面が円形であり、それより先端に近づくにつれて方形に変化している。

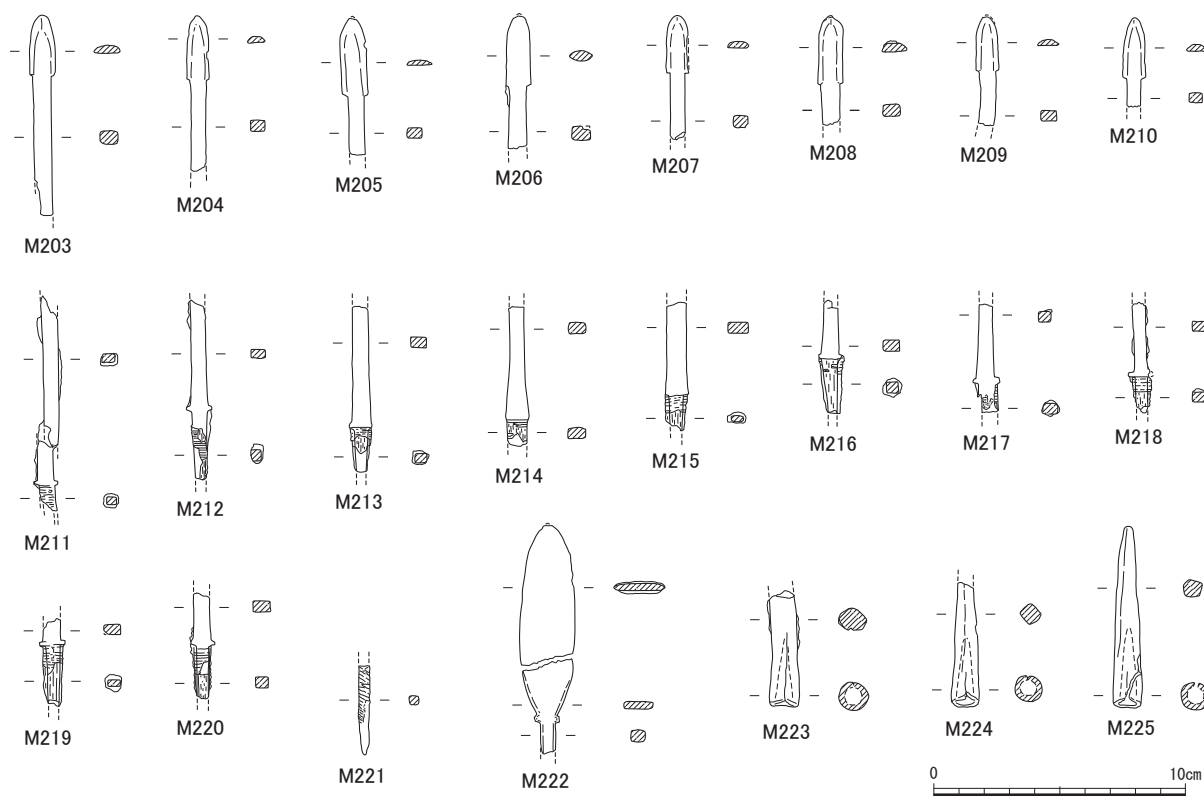
#### 弓金具（第4図）

M226～M228は弓金具である。報告書では3点を確認し、今回新たに3点を実見した。『総社市史』では5点を確認されているが、1点増え、計6点となった。

M226は芯金だけの遺存で、頭部の片側も失われている。残存長は3.5cm、頭部を除いた長さが2.4cm、厚みは5mmで、断面は頭部と軸部ともに方形で扁平な形状である。M227は全長3.5cmを測る完形で、断面は頭部・軸部ともに円形を呈する。頭部を除いた中央部の長さは2.1cmで、木質が残存する。M228は両端の頭部が欠損し、2.3cmが遺存する。軸部の長さは2cmで、表面にはわずかに木片が付着している。断面は円形である。

#### 農工具ほか（第5図）

M229～M235は刀子である。M229は切っ先に近い部分のみが約4.3cm残存している。M230も切っ先側のみが2片に分れて遺存している。2片を合わせた残存長

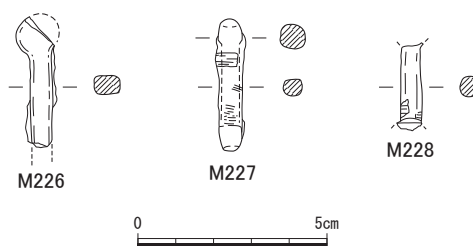


第3図 出土遺物（鉄鏃）（S=1/3）

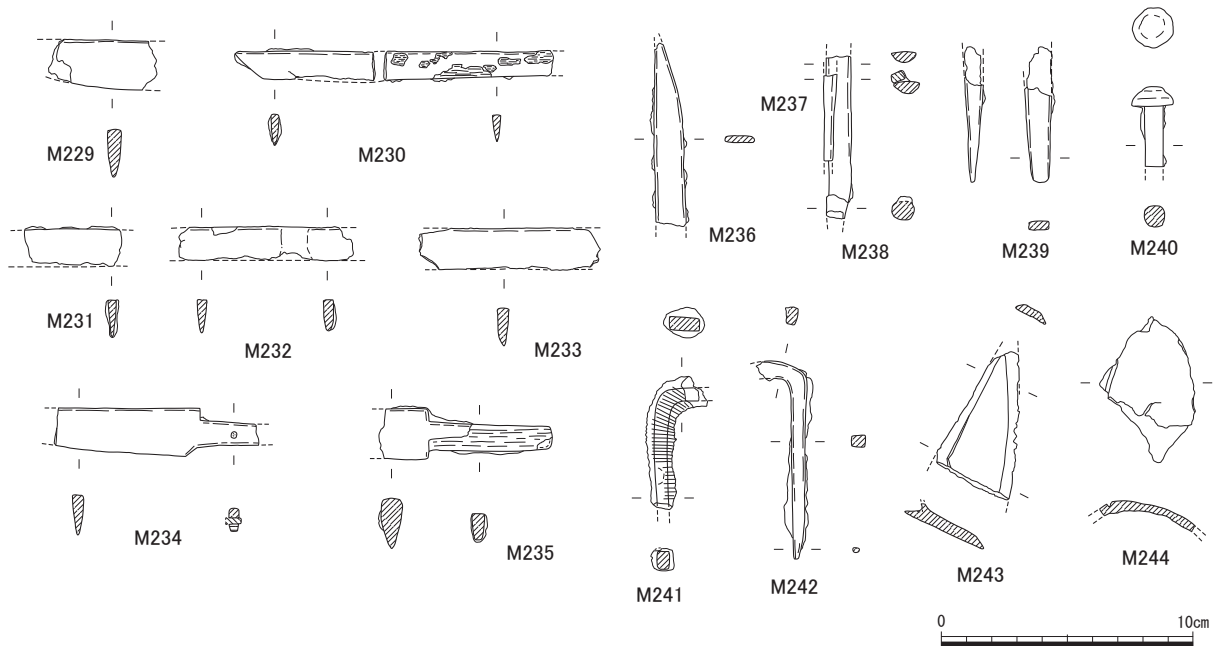
は約12.4cmである。切っ先はカマス切先である。刀身の表面には木質が付着している。M231は刃部の3.9cmが残存しているのみであり、刃部の欠損は著しい。刃部の幅は1.7cmである。M232も刃部のみの残存で残存長は6.9cmである。刃部は欠損している部分が多く、刃幅は1.4cmを測る。M233も刃部のみで7.2cmが残存する。M234は残存長8.2cmで、切っ先と茎尻が欠損する。最大幅は刃部が1.9cm、茎部が1cmである。関は両関で、茎部には目釘が1つ残っている。M235は6.9cmが現存しており、刃部の大部分は失われている。関は両関で、茎部には木質が残る。目釘孔は肉眼・X線写真の双方で観察を行ったが確認できなかった。

M236～M239は用途不明の鉄製品である。M236は残存長7.2cm、幅が1.3cmで細長い形状を呈する。幅は先端に近づくにつれて片側が幅を減じ、細くなる。厚み約4mmで扁平である。M237は棒状を呈する。両端は欠損しており、残存長は3.4cmである。形状から鉄鏃の茎の可能性も考えられるが、表面には木質や糸巻きなどは遺存していない。M238も両端が欠損している棒状で、残存長6.4cm、幅1.2cmである。断面形は半円形だが、下部は円形になる。M239は楔形で、残存長5.4cm、残存

最大幅は1.1cmを測る。厚みは両側から徐々に減じて、先端が薄くなる。この形状から楔や鏃である可能性が考えられる。M240は、釘の頭部である。下半部は失われており、3.2cmのみが残存する。円形の頭部の周囲が4方向に張り出している。M241は鏃で、一部のみが遺存している。断面は長方形を呈し、扁平である。表面には木質の痕跡が残る。M242も鏃である。長さは7.9cmで、断面形は長方形を呈する。M243はU字形鋤先である。端部のみが遺存で、刃の欠損は著しい。腐食の状態から鑄造の可能性が考えられ、中近世以降の遺物であるかもしれない。M244は不明鉄器である。丸く湾曲した板状の形状を呈するが、元は半球形をしていたと推定される。腐食の状態から鑄造製品であると考えられる。



第4図 出土遺物（弓金具）（S=1/2）



第5図 出土遺物（農工具ほか）（S=1/3）

#### 4 こうもり塚古墳の金属製品の総点数

本報告では、報告書で実見できなかった横穴式石室出土の遺物について報告した。それにより、鉄鎌や弓金具などは点数が大きく増加した。そこで現在までに遺物または実測図において確認できた金属製品の点数を表1にまとめた。破片で出土した遺物に関しては、鉄鎌や刀子は関が確認できる点数、釘は頭部が残る点数といたように確実に別個体であるものを計測した。古墳時代の葬送儀礼に伴わない可能性が高いと考えられる遺物に関しては備考に記している。

#### 註

- (1) 金田善敬編2023『史跡こうもり塚古墳「吉備路の歴史遺産」魅力発信事業に伴う保存活用総合調査』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告266 岡山県教育委員会
- (2) 近藤義郎1987「こうもり塚古墳」『総社市史』考古資料編 総社市史編さん委員会
- (3) 葛原克人1979『備中こうもり塚古墳－「吉備路風土記の丘」環境整備に伴う調査－』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告35 岡山県教育委員会  
葛原克人・近藤義郎・鎌木義昌1986「こうもり塚古墳」『岡山県史』第18巻 考古資料 岡山県史編纂委員会
- (4) A～Cに関しては註1文献を参照いただきたい。
- (5) 註2文献 以下『総社市史』はこの文献を示す。

表1 こうもり塚古墳横穴式石室出土金属製品点数

品目	点数	備考		
馬具	鏡板（轡）	心葉形十字文透鏡板1点 引手1点		
	鞍	鞍4点		
	障泥	障泥金具3点		
	その他	辻金具	2点	
		鉸具	1点	
		飾り金具	15点	
不明		2点		
武器	刀	装飾付大刀	単鳳環頭大刀1点	
		刀	2点以上	
	鎌	長頸	105点以上	
		内 片刃形	5点	
		柳葉形	52点	
		平根	13点	
		内 長三角形	3点	
		柳葉形	10点	
キャップ形	23点			
弓金具	6点			
農工具	鈍	1点		
	鑿	3点以上		
	錐	2点		
	鎌	2点		
	刀子	5点以上（関の数）		
	釘	4点以上（頭部の数）		
	U字形鋤先	1点	中世か	
鉄滓	鍛冶滓	1点（245g）		
装身具	耳環	4点		
銭	寛永通宝	5点	江戸時代	
用途不明鉄器		14点	古墳以降も含む	

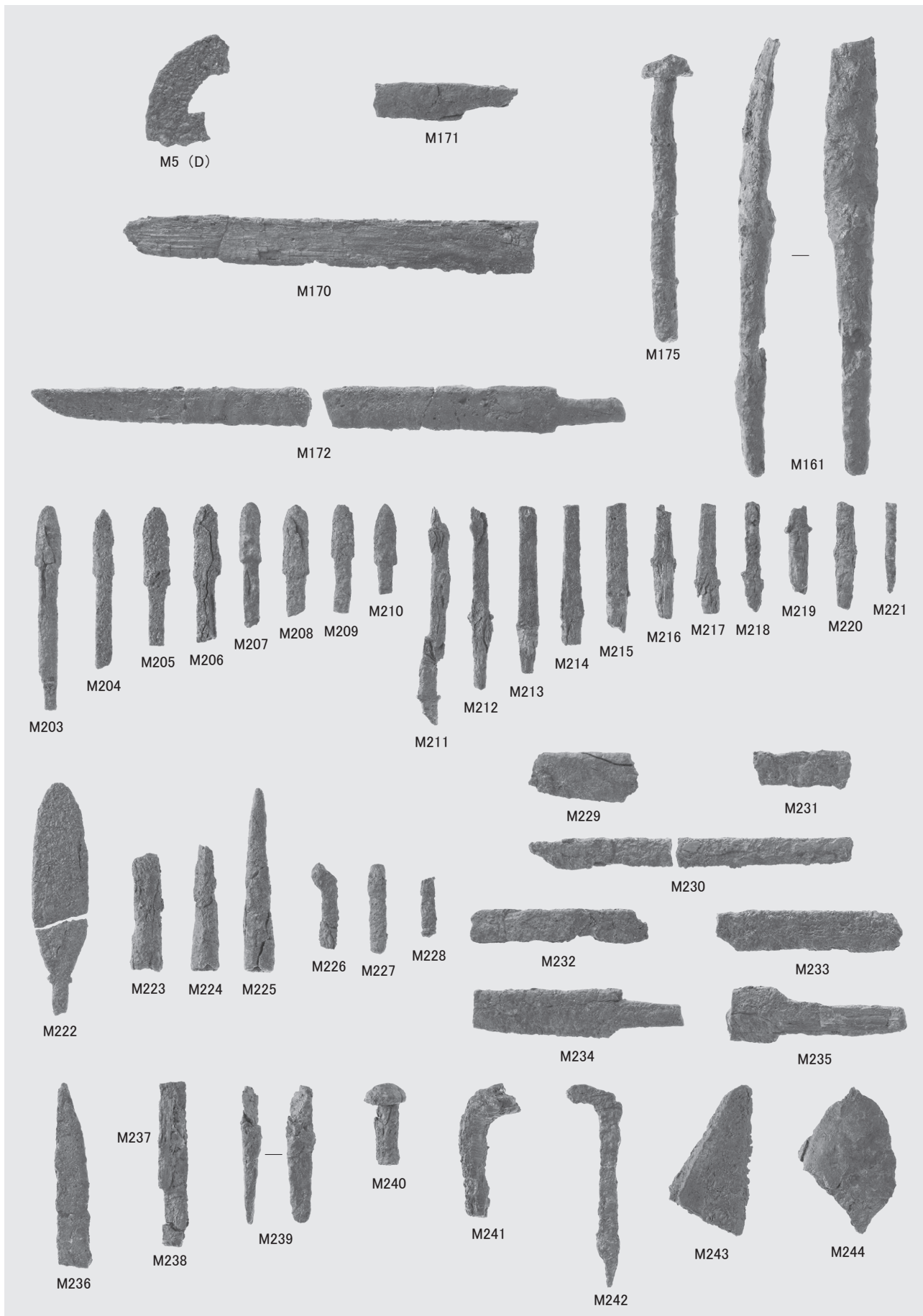
表2 金属製品観察表

掲載番号	出土地区	器種	計測値 (mm)			重量 (g)	分類	材質	残存状況	特徴	備考
			長さ	幅	厚さ						
M5	玄室	鏡板	(116)	(93)	25	88.9		鉄		鉄地金銅張, 4片	テ 304・テ 394
M161	玄室	鉈	(170)	19	5	48.5		鉄		木質残存	市史図 180-5
M170	玄室	刀子	(160)	21	8	41.9		鉄		木質残存	テ 399
M171	玄室	刀子	(55)	15	7	11.2		鉄		木質残存	テ 405
M172	玄室	刀子	(224)	18	8	41.9		鉄		木質残存	市史図 180-6
M175	玄室	釘	(110)	9	10	27.5		鉄		木質残存	テ 396
M203		鏃	(79)	11	6	8.3	長頸柳葉	鉄			
M204		鏃	(65)	8	5	5.0	長頸柳葉	鉄			
M205		鏃	(54)	11	5	3.6	長頸柳葉	鉄			
M206		鏃	(54)	11	6	5.9	長頸柳葉	鉄			
M207		鏃	(49)	9	6	4.4	長頸柳葉	鉄			
M208		鏃	(44)	10	5	4.7	長頸柳葉	鉄			
M209		鏃	(43)	9	5	3.7	長頸柳葉	鉄			
M210		鏃	(36)	9	4	2.2	長頸柳葉	鉄			
M211		鏃	(85)	10	6	8.3	長頸	鉄		樹皮残存	
M212		鏃	(71)	11	8	5.8	長頸	鉄		木質・樹皮残存	
M213		鏃	(65)	9	7	6.4	長頸	鉄		木質・樹皮残存	
M214		鏃	(55)	10	11	6.5	長頸	鉄		木質・樹皮残存	
M215		鏃	(51)	9	4	5.8	長頸	鉄		木質・樹皮残存	
M216		鏃	(45)	11	8	4.3	長頸	鉄		木質・樹皮残存	
M217		鏃	(43)	10	7	4.7	長頸	鉄		木質・樹皮残存	
M218		鏃	(43)	8	6	3.5	長頸	鉄		木質・樹皮残存	
M219		鏃	(35)	10	4	3.4	長頸	鉄		木質・樹皮残存	
M220		鏃	(41)	9	8	4.2	長頸	鉄		木質・樹皮残存	
M221		鏃	(35)	5	4	1.3		鉄		糸巻残存	
M222		鏃	(94)	22	6	15.3	平根柳葉	鉄			
M223		鏃	(46)	13	12	10.5	キャップ形	鉄			
M224		鏃	(49)	11	10	13.2	キャップ形	鉄			
M225		鏃	72	12	12	10.5	キャップ形	鉄	完形		
M226		弓金具	(35)	6	5	3.4		鉄			
M227		弓金具	35	8	8	3.4		鉄	完形	木質残存	
M228		弓金具	(23)	7	6	1.8		鉄		木質残存	
M229		刀子	(43)	20	7	12.1		鉄			
M230	玄室?	刀子	(124)	13	5	14.5		鉄		木質残存	テ 366
M231		刀子	(39)	17	6	7.0		鉄			
M232		刀子	(69)	14	5	11.1		鉄			
M233	玄室	刀子	(72)	16	5	14.5		鉄			2区
M234	玄室	刀子	(82)	19	5	20.0		鉄		目釘残存	テ 301
M235		刀子	(69)	21	8	19.7		鉄		木質残存	
M236		不明鉄器	(72)	13	4	6.4		鉄			
M237		不明鉄器	(34)	6	4	13.9		鉄		M238 と銹着	
M238		不明鉄器	(64)	12	9	13.9		鉄		M237 と銹着	
M239		不明鉄器	(54)	11	8	7.8		鉄			
M240		釘	(32)	8	9	8.0		鉄			
M241		鏃	(53)	11	13	15.0		鉄		木質残存	
M242		鏃	79	9	6	9.5		鉄			
M243		鋤先	(59)	33	8	16.3		鉄			
M244		不明鉄器	(58)	(38)	4	15.3		鉄			

1 (数値) は残存値である。

2 「重量」は、クリーニング後、含浸処理後の数値である。

3 「備考」の項目で、「市史」は『総社市史』、その他、記号・番号(テ〇〇など)は対象遺物の注記を示す。



こうもり塚古墳出土遺物（金属製品）

# 倉敷市矢部南向遺跡の発掘調査

澤 山 孝 之

## はじめに

今回報告するのは、一般県道高松下庄線道路改築工事に伴い、岡山県倉敷地方振興局（当時）の依頼を受け、岡山県教育委員会が昭和57年度に発掘調査を実施した倉敷市矢部に所在する矢部南向遺跡（第1図）の発掘調査の成果である。発掘調査は昭和58年1月19日～2月18日に岡山県教育庁文化課（当時）職員 岡田博・中野雅美が担当して、実施した。調査面積は120㎡である。岡山市北区高松と倉敷市下庄とを結ぶ一般県道高松下庄線の改築工事は、交通混雑の緩和及び交通安全の確保などを目的として計画され、現在は主要地方道箕島高松線の区間の一部となっている。調査の結果、本遺跡は弥生時代～中世の集落跡であることが明らかとなった<sup>(1)</sup>。

## 1 調査対象地の概要

今回報告する矢部南向遺跡は、倉敷市の東端に当たり、岡山市北区加茂と接している。地勢的には、西方の日差山山塊、東方の吉備中山山塊に挟まれた足守川左岸の沖積平野に位置し、当地は自然堤防と後背湿地で形成された同川の氾濫原であったと推定され、多くの集落がこの自然堤防（微高地）上に営まれたと考えられる<sup>(2)</sup>。

発掘調査は先述した道路改築工事に伴うボックス建設部分について記録保存を目的として実施した。調査対象地は、現在の県道73号（主要地方道）箕島高松線の矢部橋の北東端に位置し（第2図、網掛け部）、現在もその周辺は、発掘当時とあまり変わらない田園風景が広がっている。本遺跡の西方約10mには、足守川河川改修工事に伴い発掘調査を実施した足守川矢部南向遺跡<sup>(3)</sup>が位置しており、その成果から、現在ではこの周辺の地表下には、弥生時代後期～古墳時代前期の極めて高い遺構密度をもつ集落遺跡の存在が周知されている。

## 2 発掘調査の成果

### (1) 竪穴住居

竪穴住居1（第4・5図、写真1、図版1）

調査時はSH02と称していた。なお、図面・資料などの散逸のため、詳細は不明である。記録写真から、平面形は隅丸方形であり、残存状況は調査区境のため遺構の2隅を欠損している。また、床面では中央穴、その壁際には土坑（ポケット）や壁体溝が確認でき、コの字状を呈する高床部も有する。主柱穴は2本検出している。出土遺物は、土師器の甕1～14、高杯15～21、鉢22～24や小型丸底壺25、小型器台26・27、製塩土器28などが認められる。時期は古墳時代前期初頭と推定される。



写真1 竪穴住居1



第1図 遺跡位置図 (1/1,500,000)



竪穴住居2 (第3・6図、図版1)

調査区東側に位置する。調査時はSH01と称していた。なお、図面・資料などの散逸のため、詳細は不明である。調査記録から平面形は方形であり、残存状況は調査区境のため遺構の2隅を欠損している。規模は1辺約5m、床面積は約25㎡と推定される。ただし、床面構造は判然とせず、この遺構を竪穴住居と評価することは難しい。

出土遺物は、須恵器の杯蓋29~35、杯身36~38、高台杯身39~42、高杯43~46、壺蓋47、壺48・49、甕50、横瓶51、鉢52や土師器の甕53・54、杯身55、高台杯身56、皿57~59などが認められる。なお、杯蓋29・30、壺蓋47は杯身の可能性がある。時期は7世紀後半~8世紀初頭の範囲と推定される。

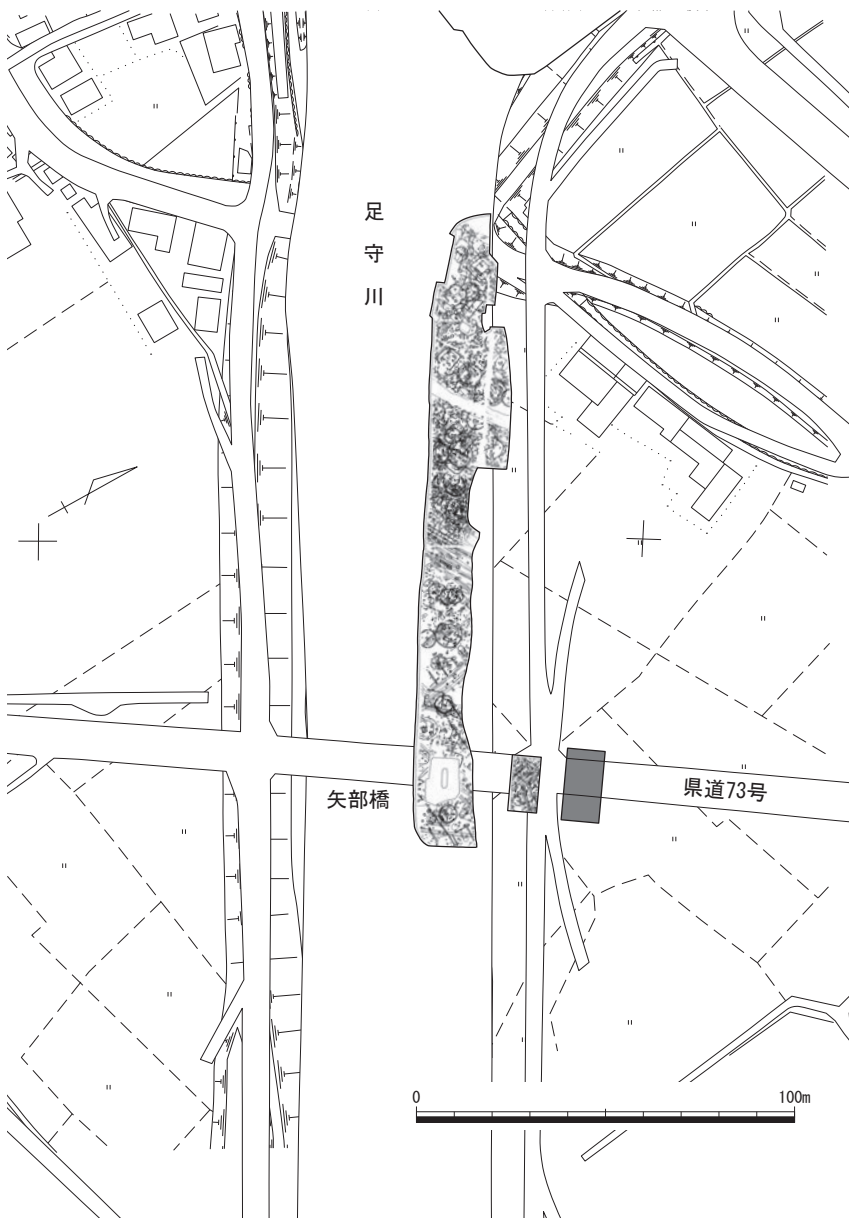
(2) 掘立柱建物

掘立柱建物1 (第3・7図)

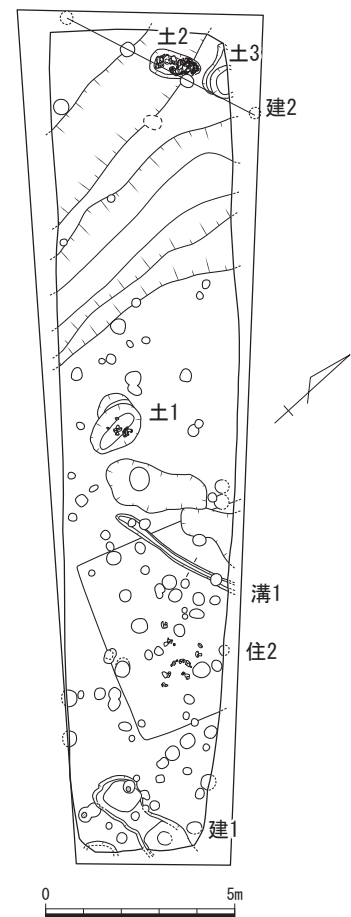
調査区南東端に位置する。建物規模は判然としないが、柱穴は1辺約90cm、深さ約20cmを測る2基を検出しており、掘り方は方形である。柱間寸法は約180cmである。出土遺物は確認できなかった。時期は調査時の所見により、8世紀代と推定される。

掘立柱建物2 (第3・8図)

調査区北西端に位置する。建物規模は判然としないが、柱穴は直径約40cm、深さ約30cmを測る4基を検出しており、掘り方は円形である。柱間寸法は約180・201cmである。出土遺物は確認できなかった。時期は調査時の所見により、中世と推定される。



第2図 調査区位置図 (1/2,000)



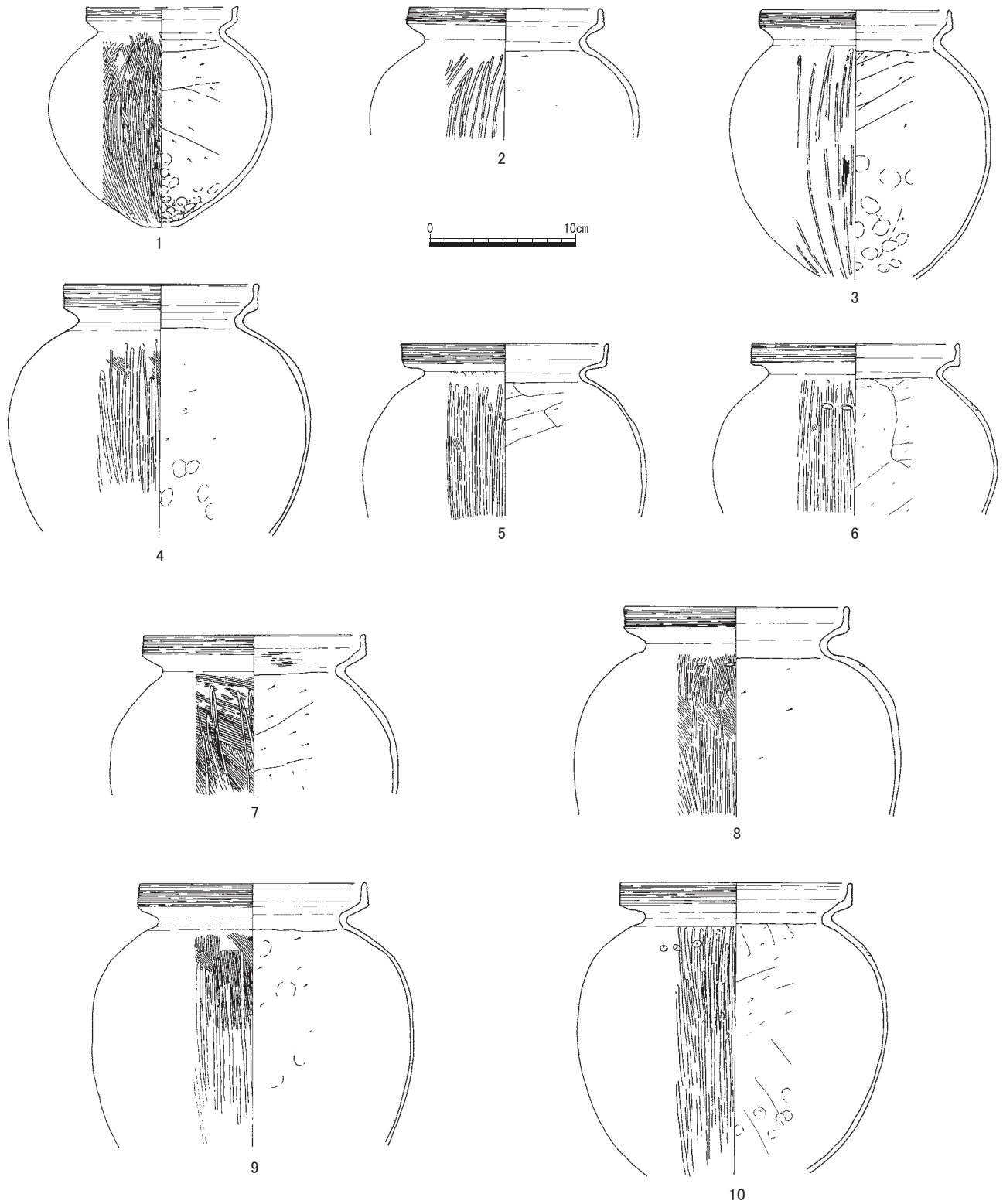
第3図 調査区全体図 (1/200)

(3) 土坑

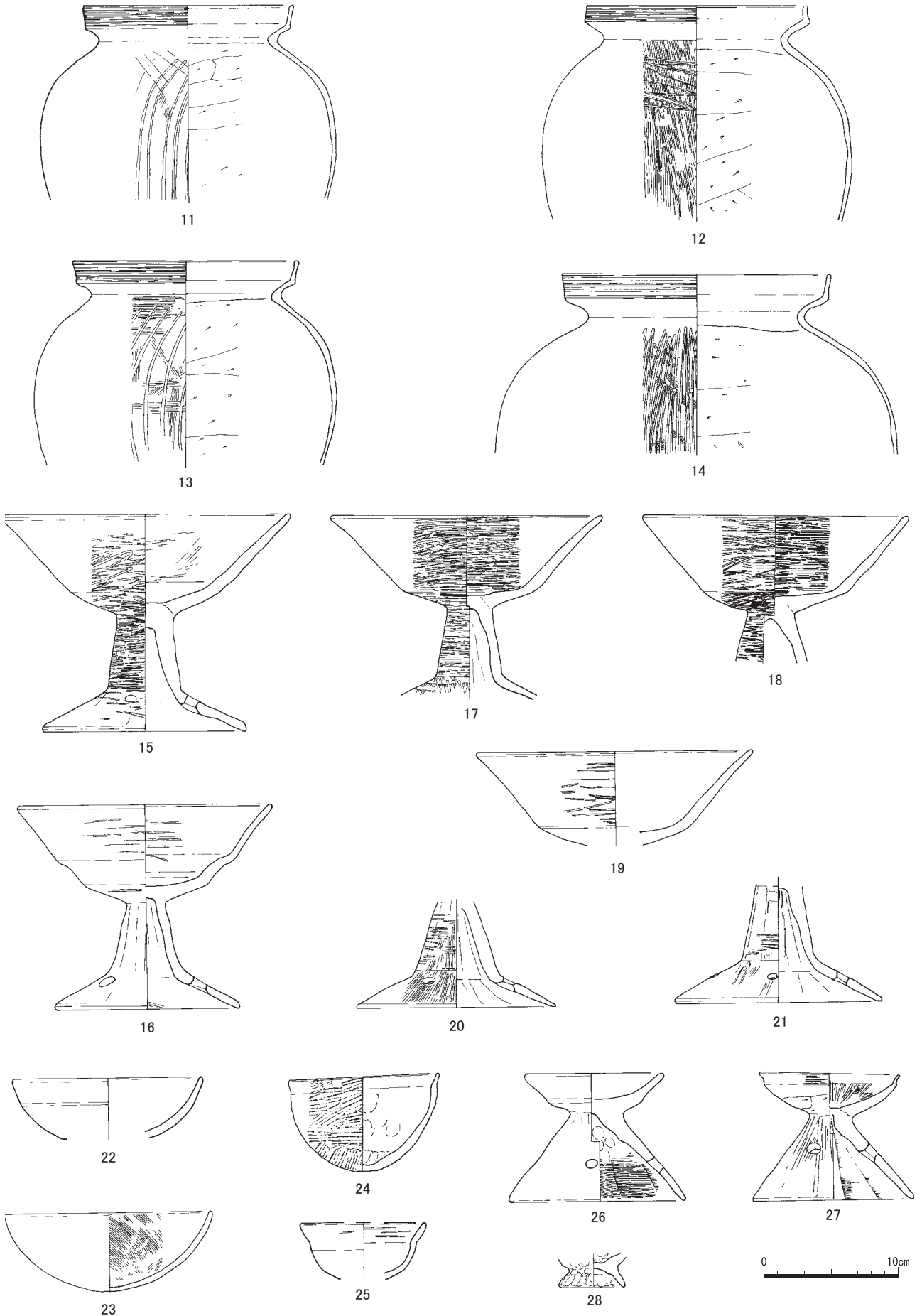
土坑1 (第3・9図、図版1)

調査区中央付近に位置する。調査時はSK03と称していた。平面形は楕円形、断面形は逆台形を呈しており、

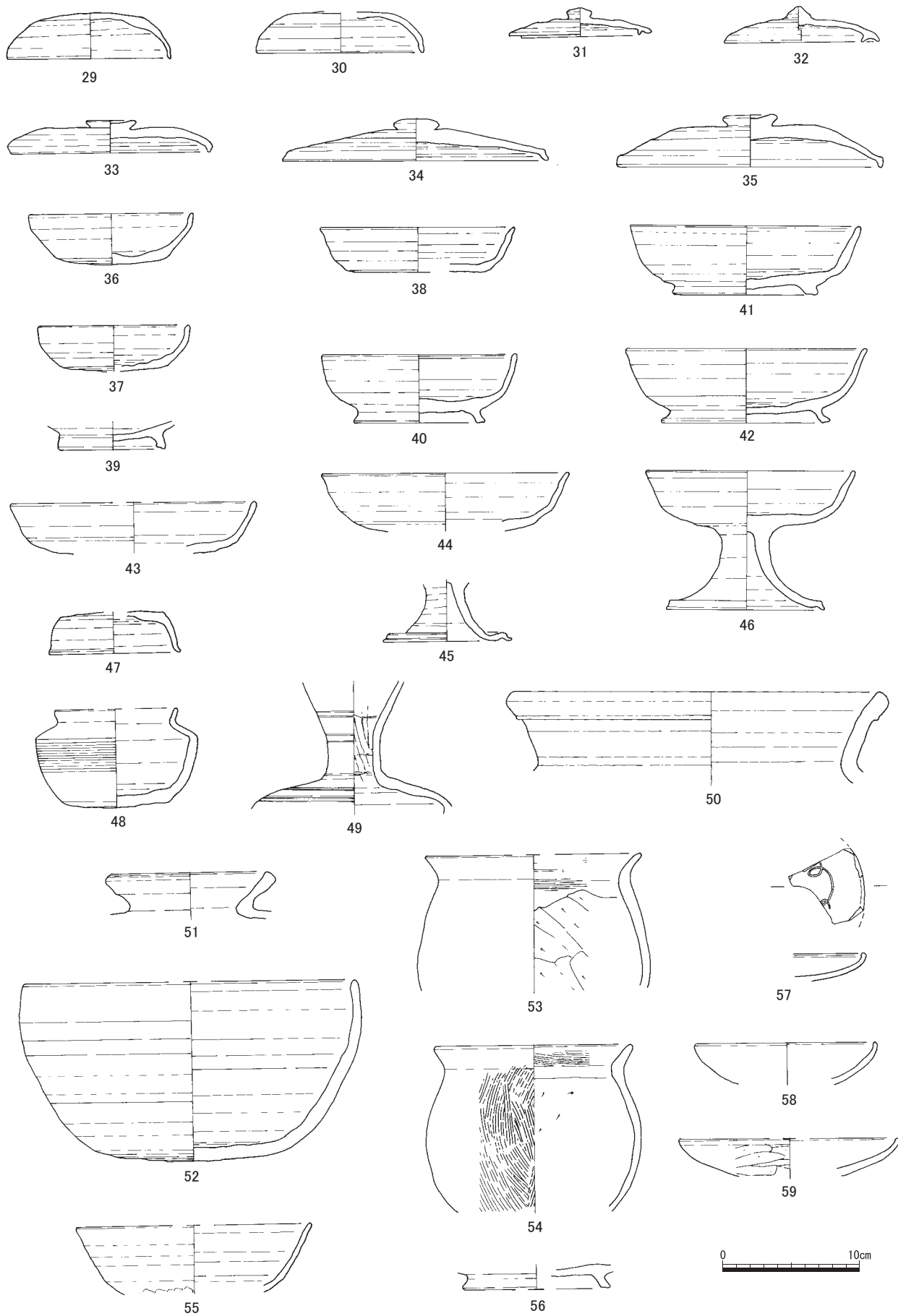
規模は長軸153cm、短軸108cm、深さ15cm、底面標高は262cmを測る。出土遺物は、弥生土器の壺60、甕61・62、鉢63などが認められる。時期は弥生時代後期中葉と推定される。



第4図 竪穴住居1出土遺物① (1/4)



第5図 竪穴住居1出土遺物② (1/4)

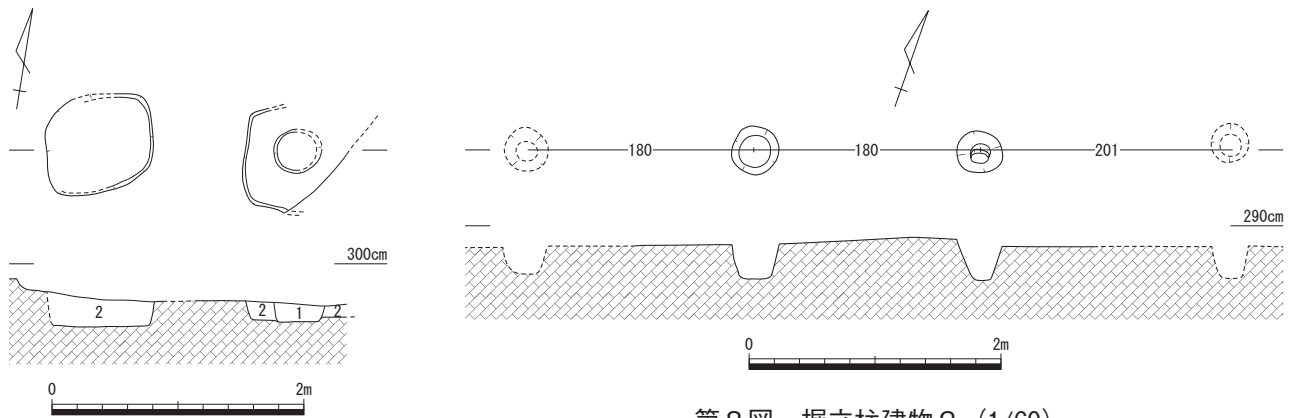


第6図 竪穴住居2出土遺物 (1/4)

土坑2 (第3・10~12図、図版1~3)

調査区北西端に位置する。調査時はS X01と称していた。平面形は楕円形、断面形は逆台形を呈しており、規

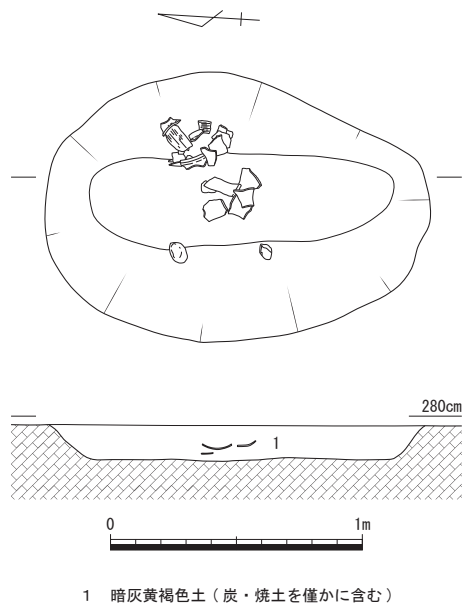
模は長軸135cm、短軸75cm、深さ52cm、底面標高は226cmを測る。特に、上層を中心に土器溜りの状況である。出土遺物は、弥生土器の壺64~72、甕73~78、高杯79



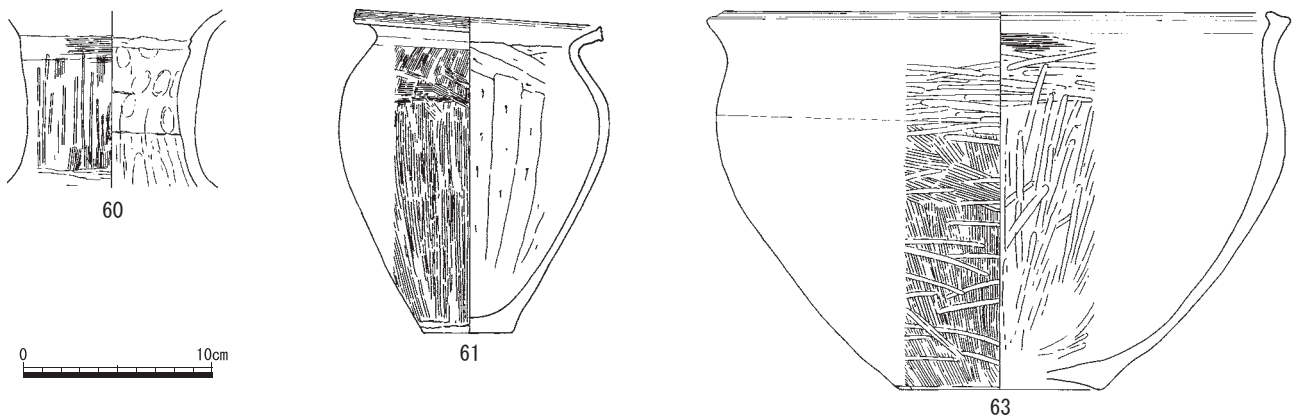
第8図 掘立柱建物2 (1/60)

- 1 灰褐色土 (ブロック少)
- 2 暗褐色土 (青色変帯びる)

第7図 掘立柱建物1 (1/60)



- 1 暗灰黄褐色土 (炭・焼土を僅かに含む)



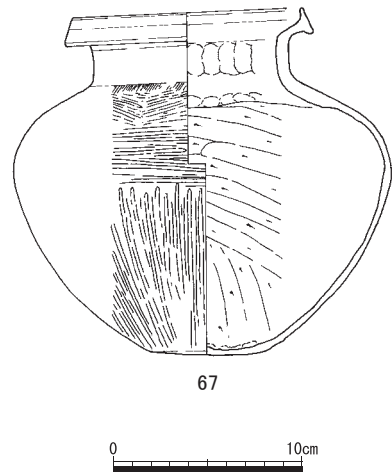
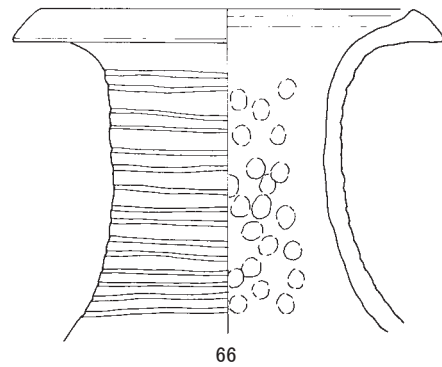
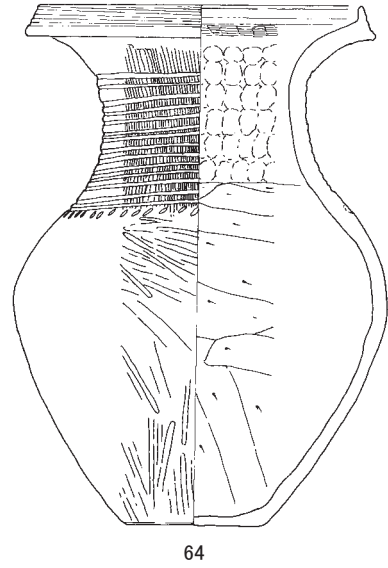
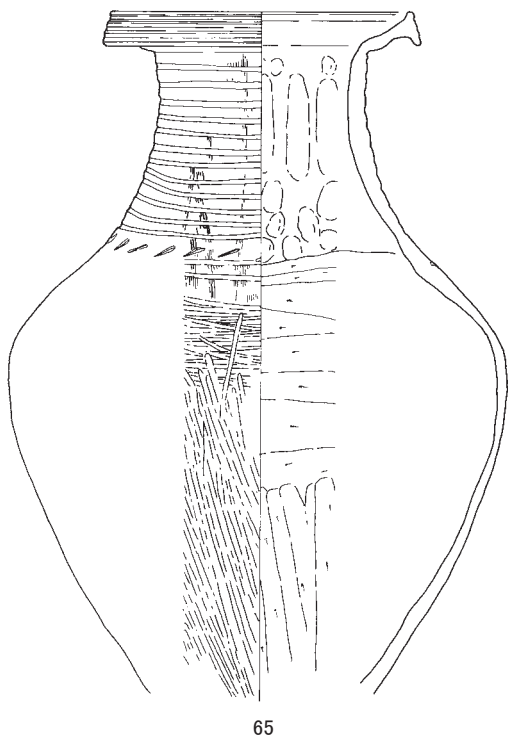
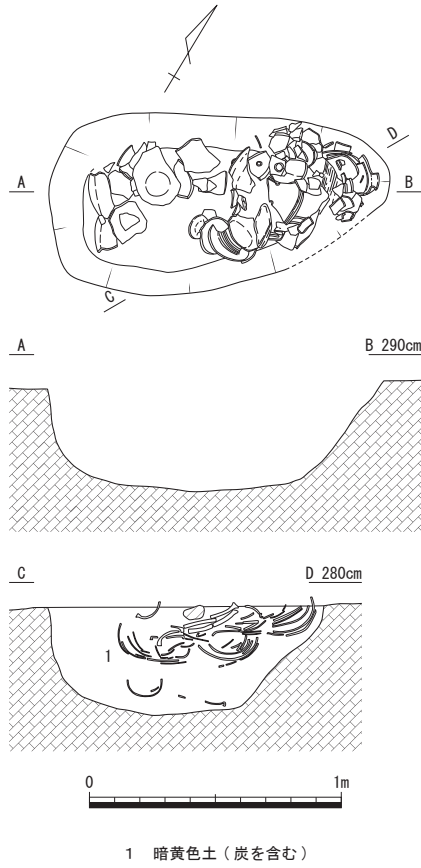
第9図 土坑1 (1/30)・出土遺物 (1/4)

～81、鉢82～86、台付鉢87などが認められる。時期は弥生時代後期中葉と推定される。

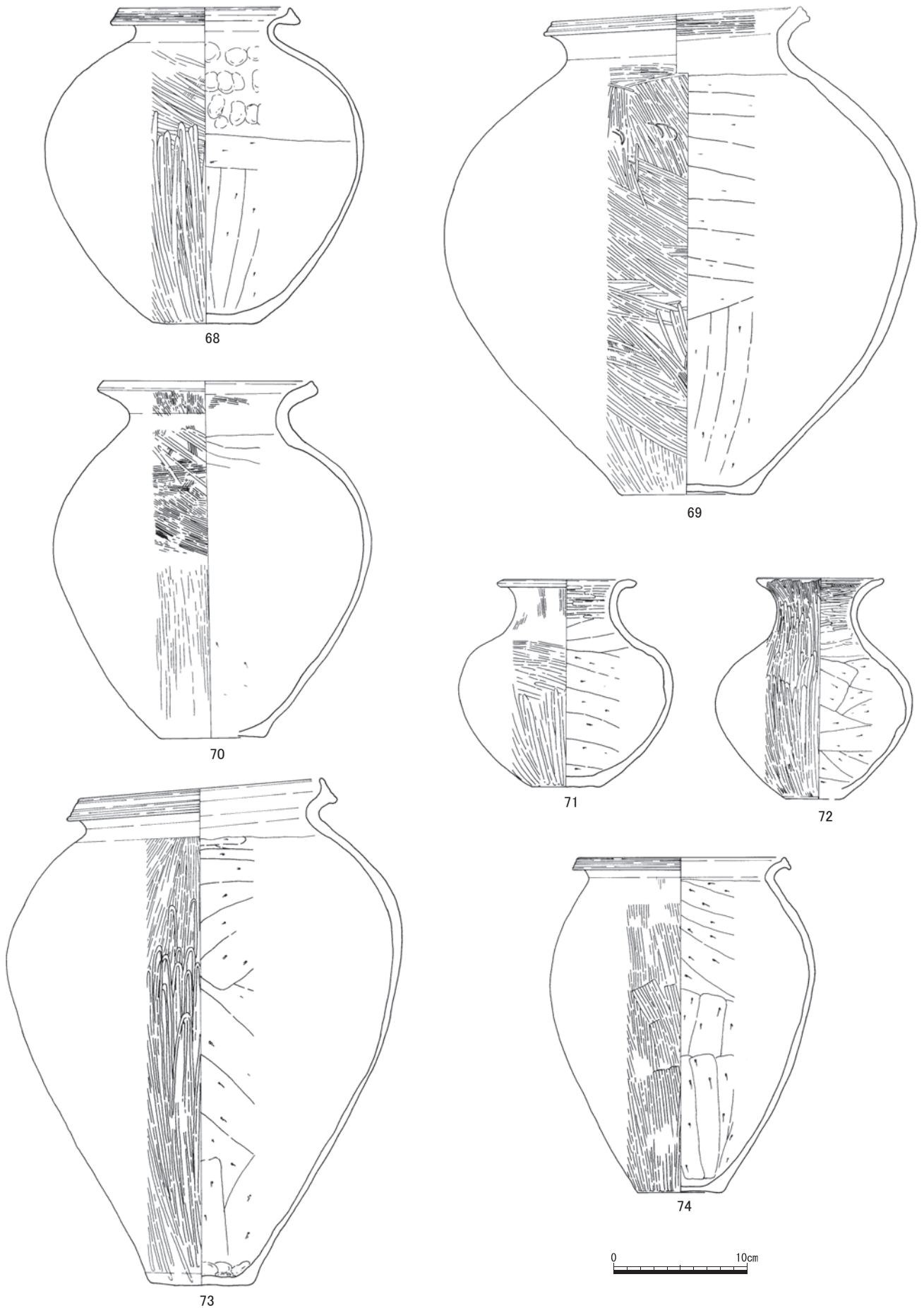
土坑3 (第3・13図)

調査区北西端に位置する。調査時はS K02と称してい

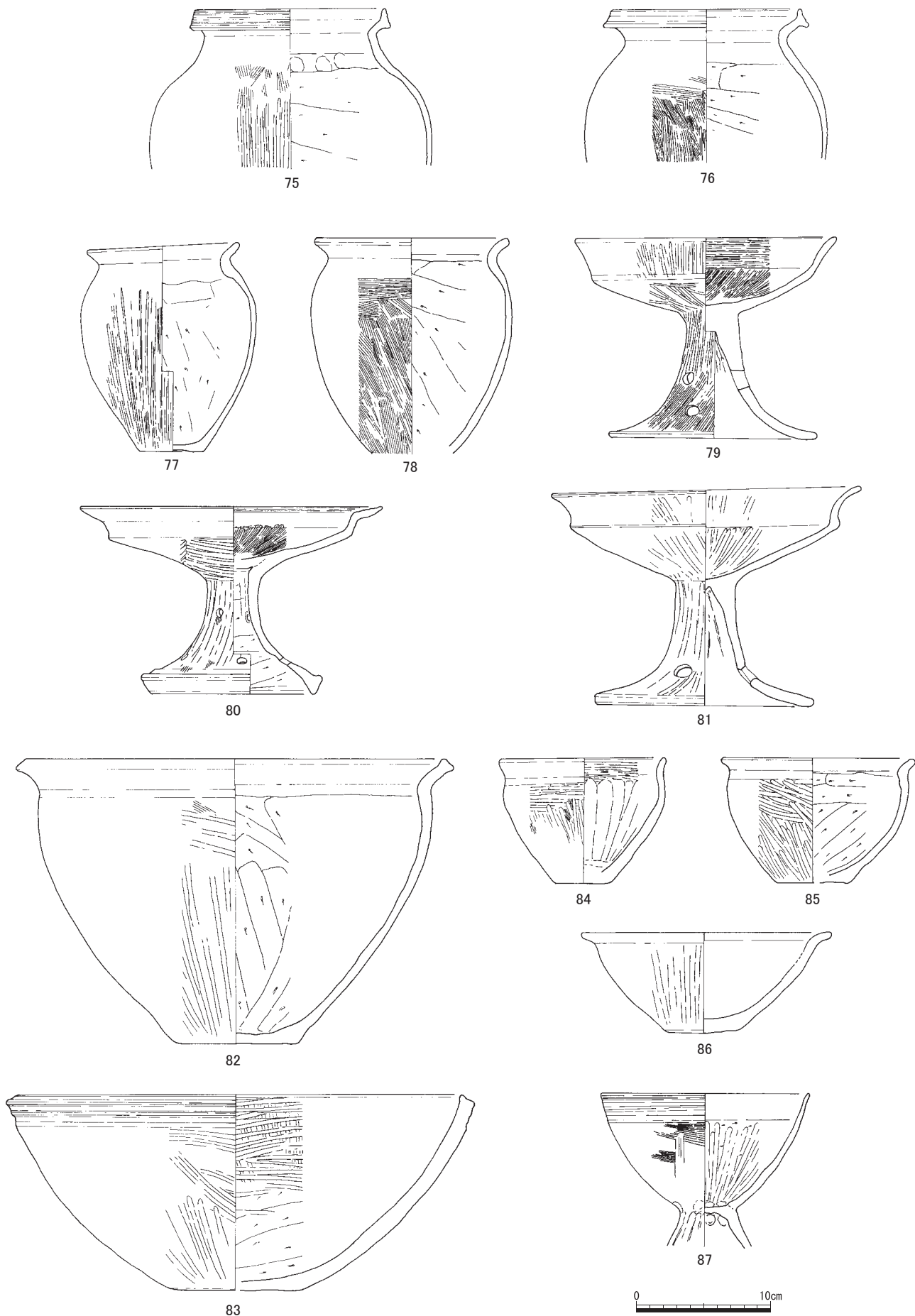
た。残存状況は調査区境のため北東側を欠損している。平面形は楕円形、断面形は二段掘りの逆台形を呈しており、規模は長軸147cm以上、短軸69cm以上、深さ51cm、底面標高は246cmを測る。出土遺物は、須恵器の杯蓋



第10図 土坑2 (1/30)・出土遺物① (1/4)



第11図 土坑2出土遺物② (1/4)



第12図 土坑2出土遺物③ (1/4)



88、高台杯身89、高杯90などが認められる。時期は7世紀後半と推定される。

(4) 溝

溝1 (第3図)

調査区中央付近に位置する。調査時はSD01と称していた。流路は東-西方向であり、西端は留まる。断面形は逆台形であり、規模は上端幅15cm、深さ6cm、底面標高は298cmを測る。図化し得る遺物はないが、時期は調査時に所見により、中世と推定される。

(5) 柱穴 (第3・14・15図、図版3)

調査の状況から、古墳時代後期~中世を中心に数十基程度の柱穴を検出している。このうち、調査時にP22と称していた柱穴からは、須恵器杯身91、P11・17・10と称していた柱穴からは、順に土師器皿92・93・94などが認められた。一方、P122と称していた柱穴からは土錘C1、P24と称していた柱穴からは土製円板C2や土錘C3~C6などの土製品が出土している。

(6) 遺構に伴わない遺物 (第16~18図、図版3)

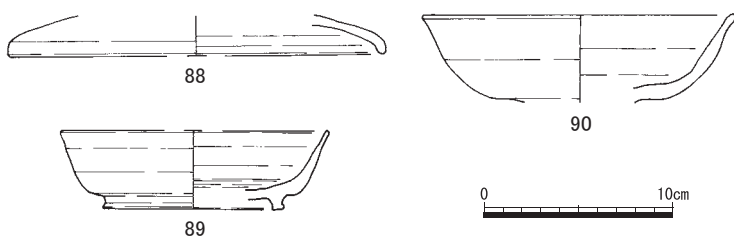
遺構に伴わない遺物としては、弥生土器の鉢95、台付鉢96や土師器の甕97・98、把手鉢99、高台碗100や須恵器の杯蓋101~103、杯身104、高台杯身105、甕106、捏鉢107、鉢108・109、把手鉢110や土師質高台碗111、須恵質播鉢112や丸瓦113、平瓦114~116などが認められる。なお、杯蓋101は杯身の可能性がある。

また、轆羽口C7・C8、土製円板C9~C14、土錘C15などの土製品、流紋岩~ディサイト (角閃石の結晶あり) 製 (鈴木茂之 (岡山大学) 鑑定) の砥石S1などの石器、釘M1などの鉄器も出土している。

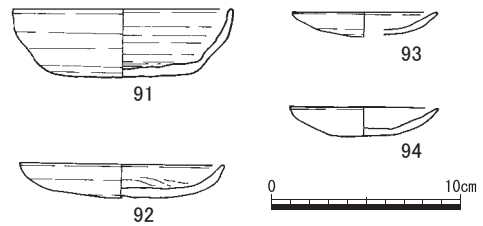
3 まとめ

矢部南向遺跡は、弥生時代後期~古墳時代前期及び古代・中世の時期を主体に、足守川の自然堤防 (微高地) 上で営まれた集落跡である。吉備の中核地域として、弥生時代後期集落 (高塚遺跡<sup>(4)</sup>、津寺遺跡<sup>(5)</sup>、加茂政所遺跡<sup>(6)</sup>、足守川加茂A・加茂B・矢部南向遺跡<sup>(7)</sup> など) のあり方は、洪水等の自然環境の変化も考慮すべきであるが、流域一帯を統括する政治的な要因から集合体への何らかの移動の働きかけがなされたことを暗示しており、微高地 (各遺跡・ムラ) 間相互の再編状況は、いずれはクニへの統合に繋がるとする見方がある<sup>(8)</sup>。弥生時代後期後葉になると、足守川右岸丘陵に位置する楯築遺跡<sup>(9)</sup> やこれに後続する鯉喰神社遺跡<sup>(10)</sup> の墳丘墓が築造される。このことから、同遺跡は首長継承の新たな祭祀形態の出現を契機とした足守川流域の集落の大改編・統合によって誕生した集落の1つと捉えることもできる<sup>(11)</sup>。

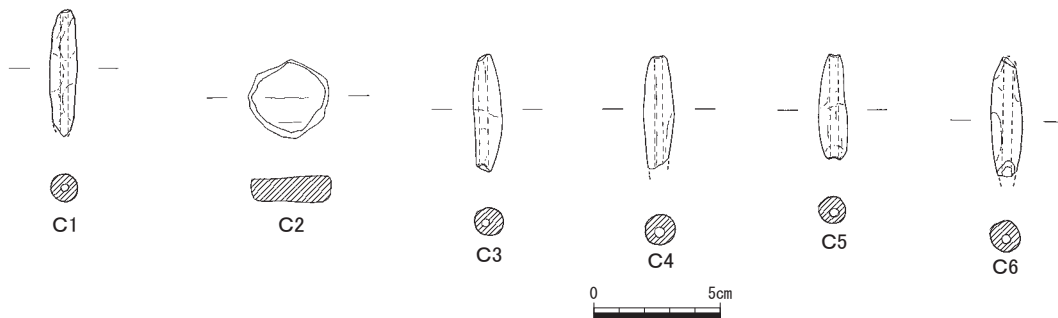
一方、7世紀代の出土遺物を見ると、杯H (奈文研分類) に比べて、出土量も少なく流通も限定された器種であった杯G (同)<sup>(12)</sup> の杯蓋31・32は注目される。同遺



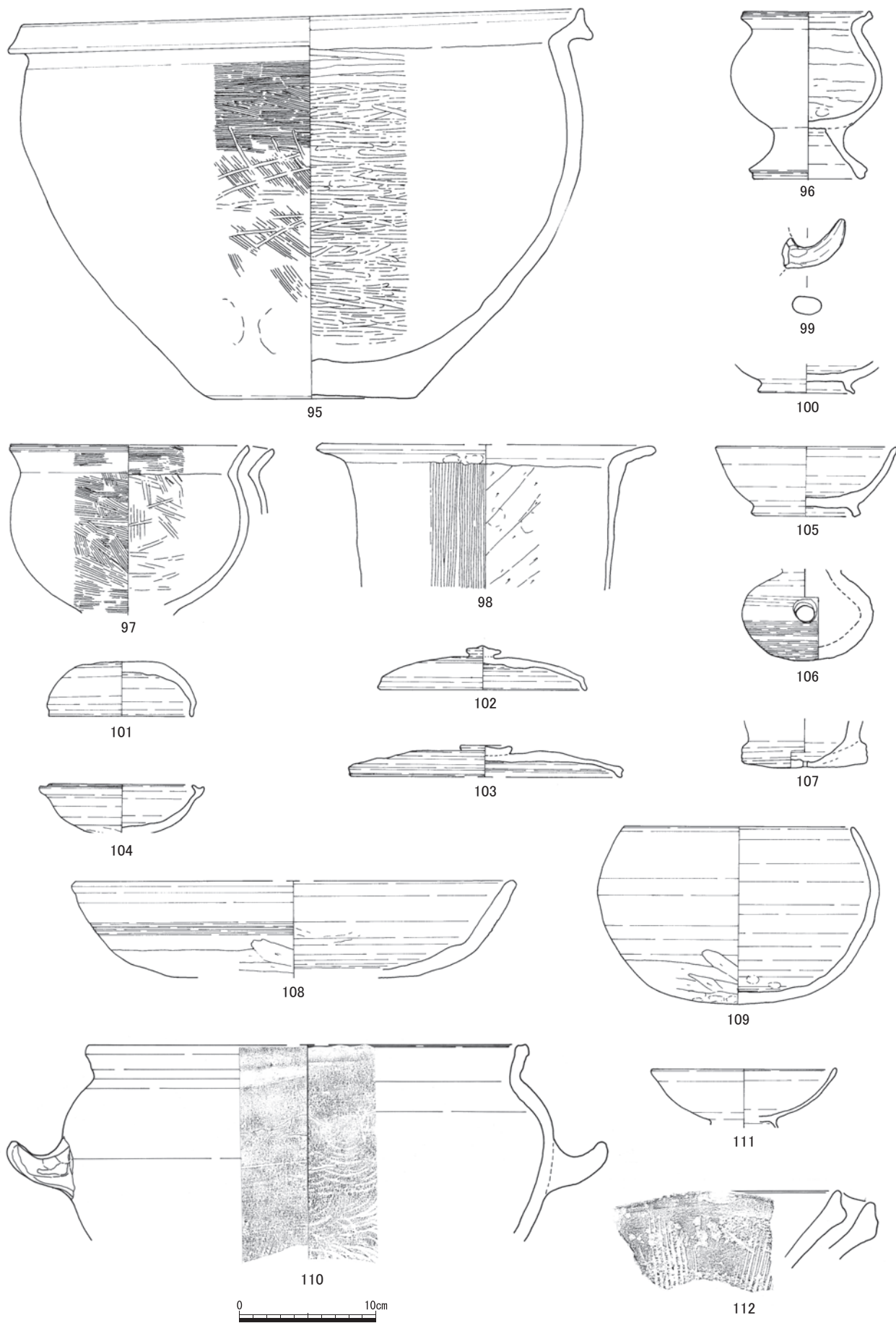
第13図 土坑3出土遺物 (1/4)



第14図 柱穴出土遺物① (1/4)



第15図 柱穴出土遺物② (1/3)



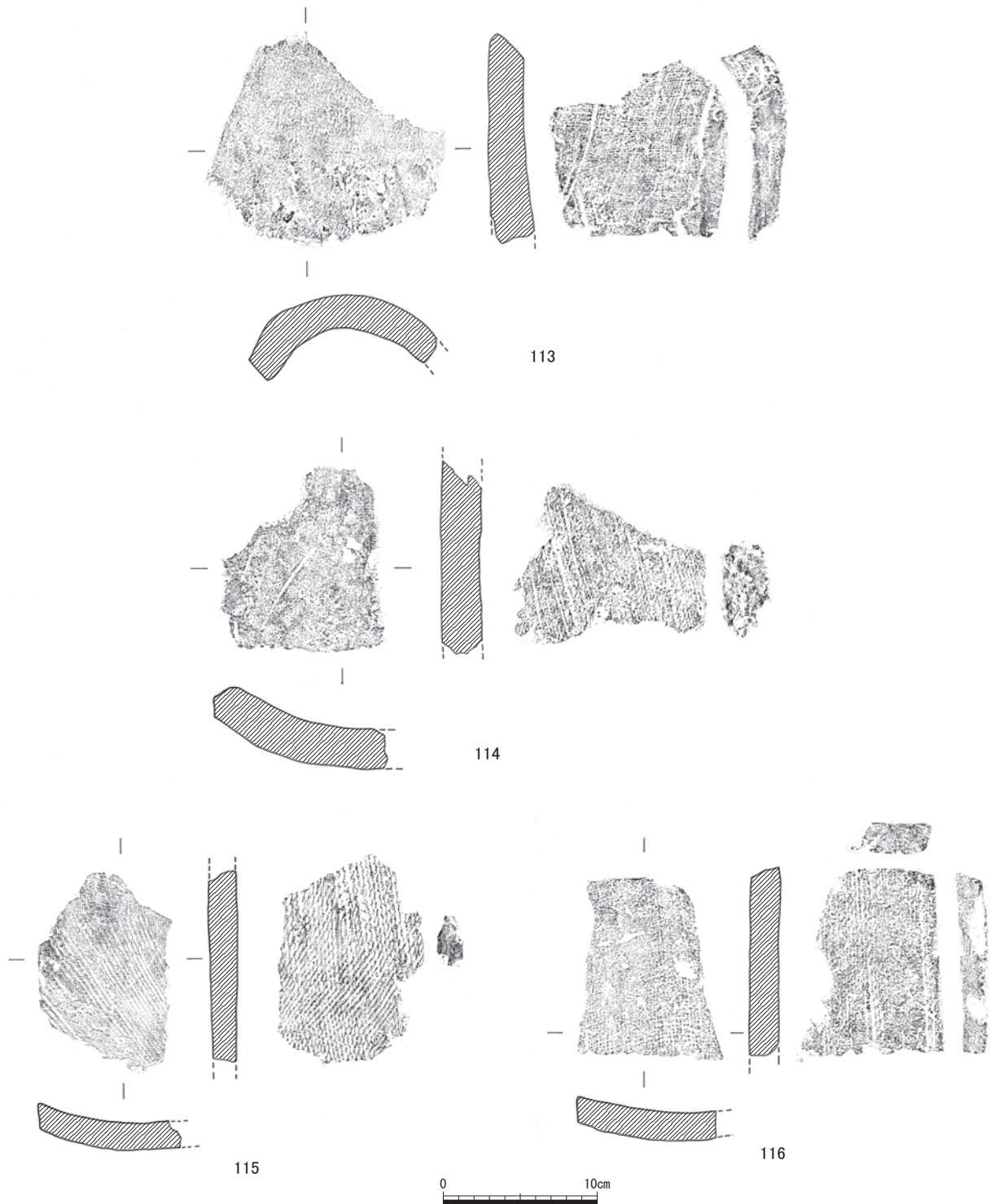
第16図 遺構に伴わない遺物① (1/4)

跡周辺では都宇郡の官衙（津寺遺跡）や駅家（矢部遺跡）等の律令体制を担う公的施設の整備が進むが、その前段階にあたる当地の位置づけやこの器種を志向した需要層の存在・性格を考える上で示唆に富む資料と言える。

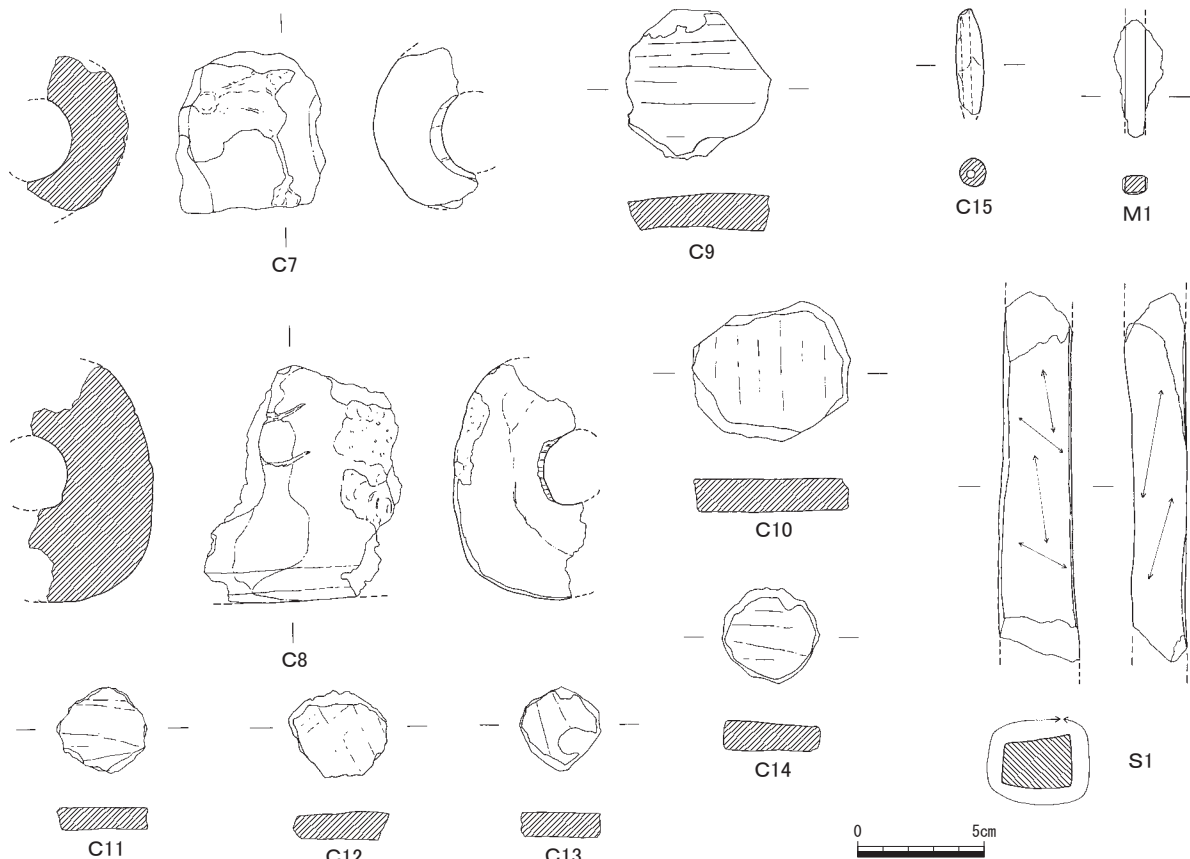
おわりに

当センターでは、過去に県事業関係で発掘調査を実施

して未報告であった遺跡に対して、整理・公開することをこの数年間積極的に取り組んでおり、一部は報告書の刊行を行っている。この度の調査成果の公開は、発掘調査から約40年の月日が過ぎてしまい、また、諸事情により必要十分な体裁とはいえないものの、本誌での報告が地域の歴史研究に寄与するとともに、学術研究の資料として広く役立つならば幸いである。



第17図 遺構に伴わない遺物② (1/4)



第18図 遺構に伴わない遺物③ (1/3)

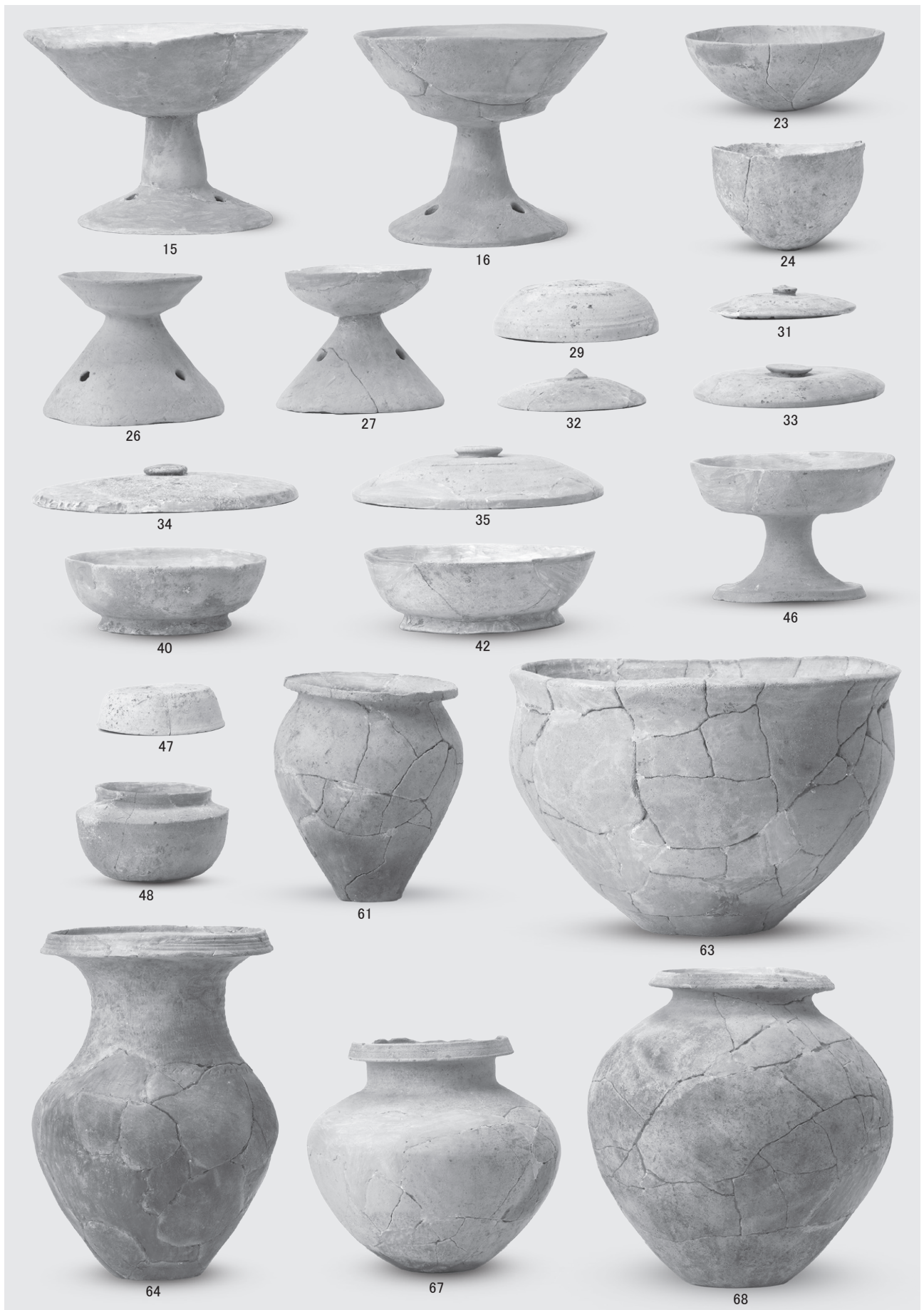
## 註

- (1) 岡山県教育委員会1983「10 矢部南向遺跡」『岡山県埋蔵文化財報告』13
- (2) 澤山孝之2022「第1章地理的・歴史的環境」「西加茂遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』260 岡山県教育委員会
- (3) 岡山県教育委員会1995「足守川加茂A遺跡・足守川加茂B遺跡・足守川矢部南向遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』94
- (4) 岡山県教育委員会2000「高塚遺跡・三手遺跡2」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』150
- (5) 岡山県教育委員会1998「津寺遺跡5」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』127
- (6) 岡山県教育委員会1999「加茂政所遺跡・高松原古才遺跡・立田遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』138
- (7) 註(3)文献
- (8) 江見正己2000「第3章高塚遺跡 第4節まとめ 1 弥生時代の集落変遷」「高塚遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』150岡山県教育委員会
- (9) 近藤義郎編1992『楯築弥生墳丘墓の研究』楯築刊行会
- (10) 平野泰司・岸本道昭2000「鯉喰神社弥生墳丘墓の弧帯石と特殊器台・壺」『古代吉備』第22集
- (11) 註(8)文献
- (12) 金田善敬2013「第4章総括 第5節鬼城山から出土した土器について」「史跡 鬼城山2」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』236岡山県教育委員会

※遺物写真の撮影については、江尻泰幸の協力と援助を得た。

※掲載した遺物の図面・写真等は、岡山県古代吉備文化財センター（岡山市北区西花尻1325-3）に保管している。

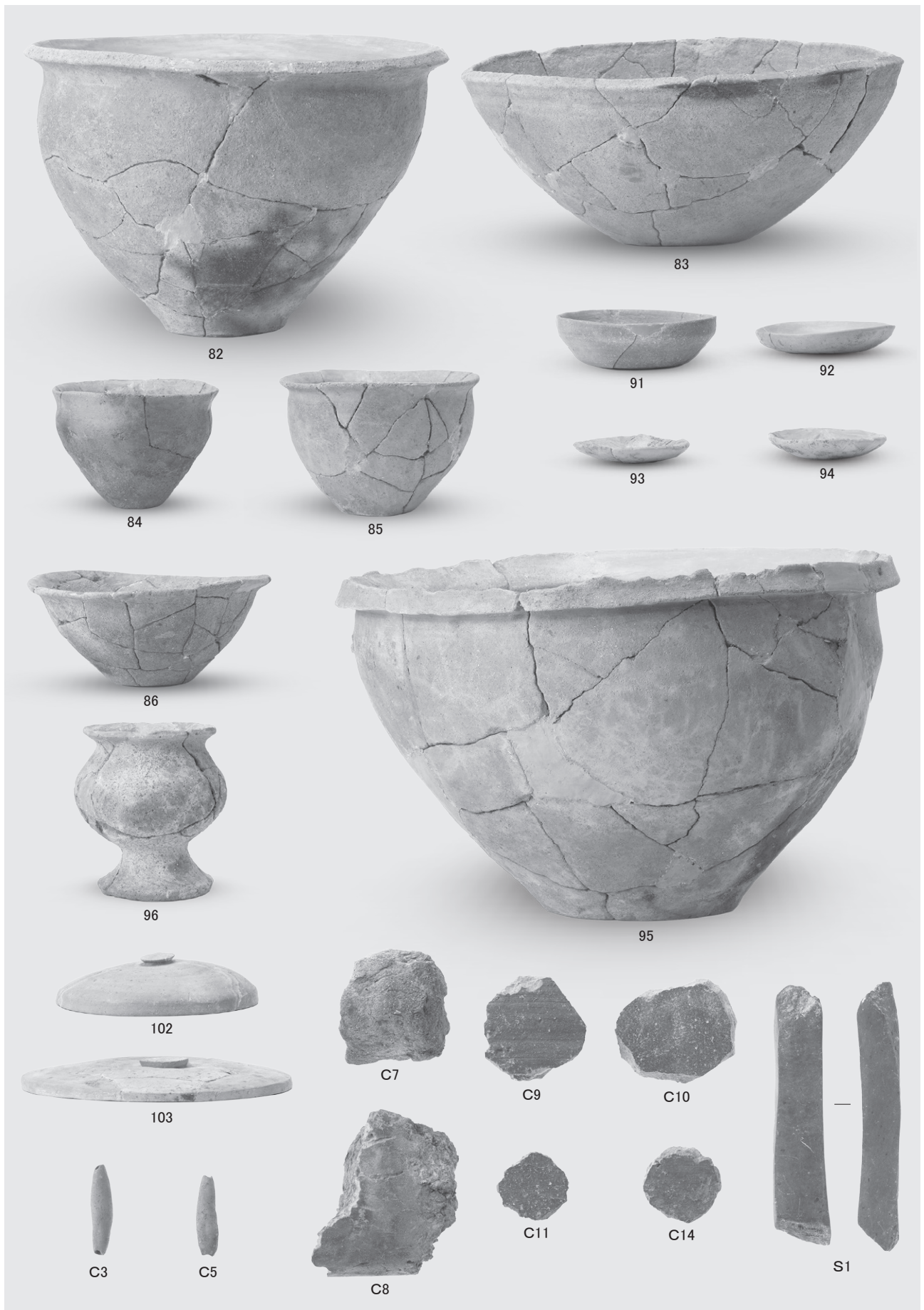
※第2図は、「おかやま全県統合型GIS」の「数値地図（国土基本情報）」のシステム共通番号 測量法に基づく国土地理院承認（使用）R3JHs1を使用し、これに註(3)文献の同遺跡周辺地形図・遺構全体図を加筆したものである。



図版1 豎穴住居1・2、土坑1・2出土遺物



図版2 土坑2出土遺物



図版3 土坑2・柱穴出土遺物、遺構に伴わない遺物、土製品・石器

## 岡山市百間川原尾島遺跡の発掘調査

山磨 康平・高田恭一郎

## 1 調査の概要

調査位置は、国道250号線百間川橋下流150mの百間川右岸堤防表法面に設置された階段の基礎部分である。百間川原尾島遺跡と同沢田遺跡の境に当たり、百間川緑地整備事業に伴い岡山県古代吉備文化財センターが発掘調査を実施した。調査期間は平成4年4月28日～5月17日、調査面積は8㎡である。

調査の結果、微高地上で弥生時代の前期の溝3条と古墳時代前半の柱穴複数を確認した。周辺の調査状況等と併せ、沢田遺跡の弥生時代前期の環壕集落が検出された微高地の一部と想定され、その西端がこの付近にまで達する可能性が強まった。(山磨康平・高田恭一郎)

## 2 遺構と遺物

溝1 調査区の北西端に南西から北東方向に検出した。北端は溝3により上面が削平されている。検出大幅は1.2m、最大深さ65cmを測る。断面はU字形をなし、溝底面は海拔1.45m付近である。埋土は第1層中に炭、焼土粒

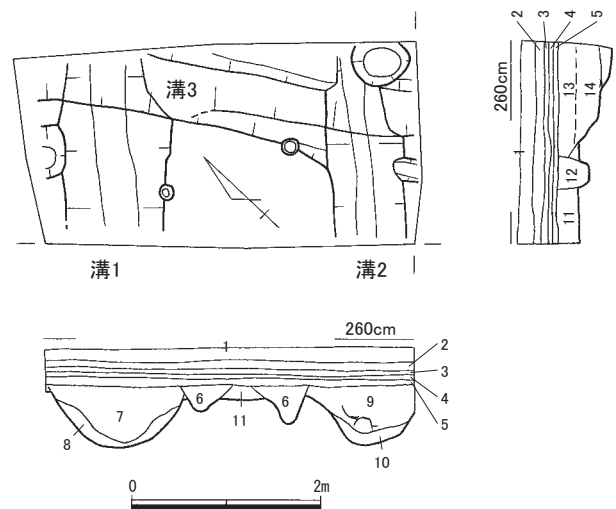
を多く含んでいる。土器の出土も第1層中からが大半を占める。

1～15・26は壺形土器、16～25・27は甕形土器、28～31は蓋形土器である。壺形土器1は頸部に2本の沈線を、4にも沈線が認められる。2は頸部に貼り付け突帯を巡らし、内外ともに丁寧なヘラミガキである。5は頸部下端に段を有す大形品である。6は同下部にヘラ描き平行線と重弧文の沈線を、8・9・10にも複数の沈線を施す。7は体部外面に段を有し、外面のヘラミガキが顕著である。11は体部に縦にヘラ描き文を施している。26は頸部とみられる。甕形土器16は外反気味の、20は内反気味の口縁に貼り付け突帯を有し、突帯面に刻み目を施す。16では口縁端部にも認められる。突帯のない17・18は端部に刻み目を、18では頸部に3条のヘラ描



1 百間川原尾島遺跡 2 百間川沢田遺跡

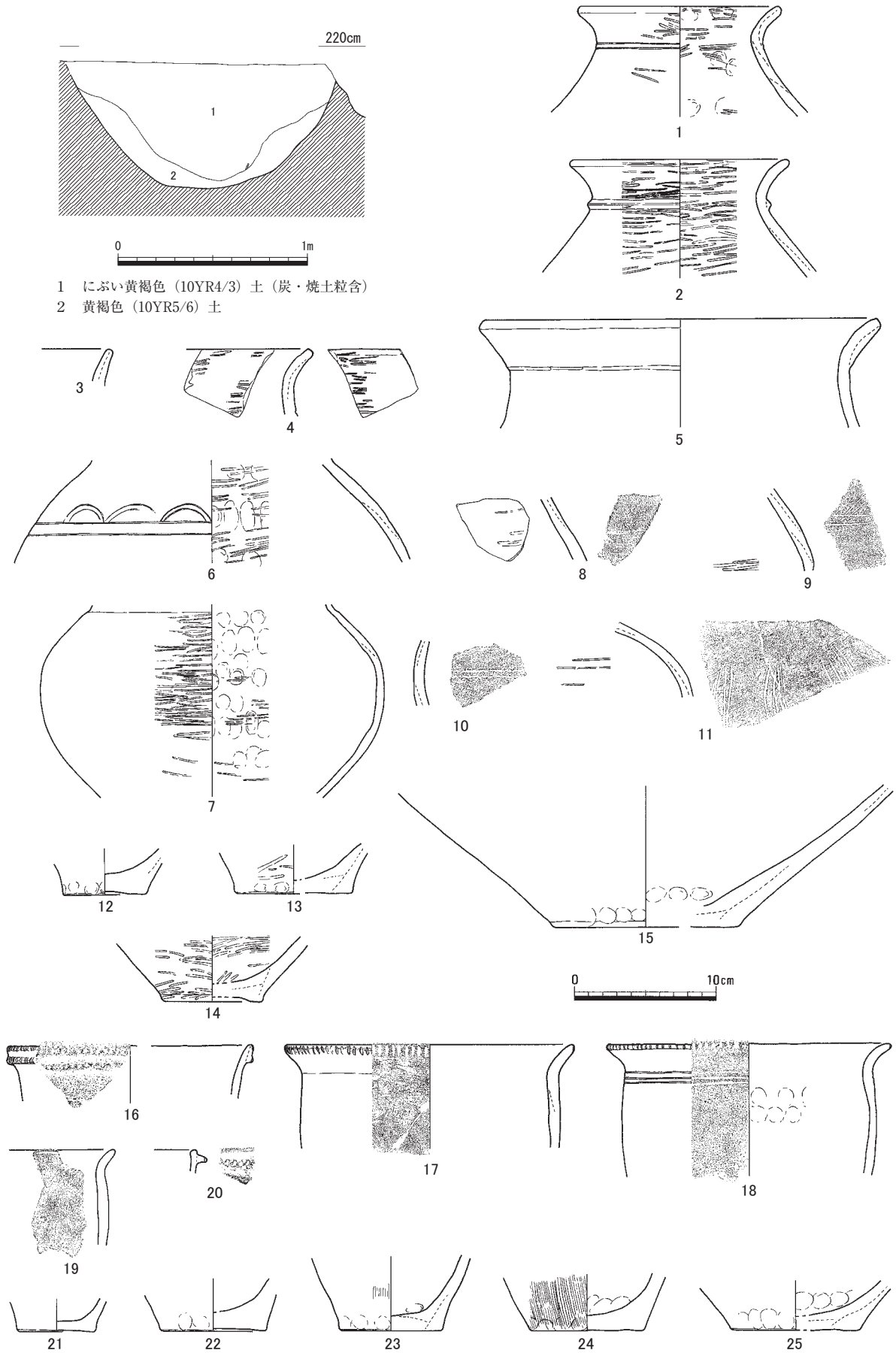
第1図 調査位置図 (1/25,000)



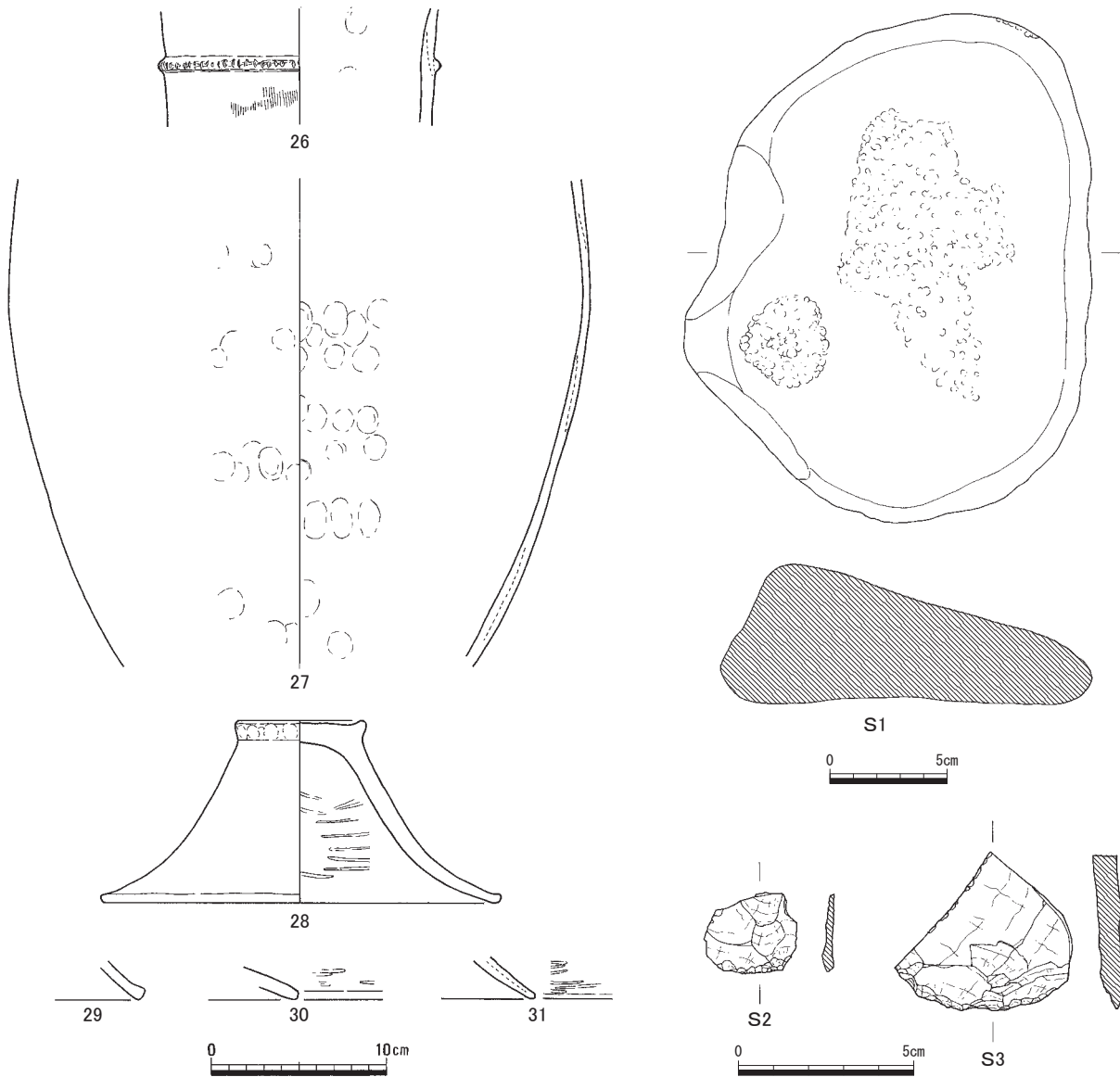
- 1 現代耕作土
- 2 淡黄色 (5Y7/3) 砂
- 3 灰色 (10YR7/1) 粘質土 ※中世包含層
- 4 灰黄褐色 (10YR6/2) 粘質土 (Fe沈着)
- 5 にぶい黄褐色 (10YR3/3) 土 (下部Fe沈着)
- 6 褐色 (10YR4/4) 土 ※柱穴
- 7 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土 (炭・焼土粒含)
- 8 黄褐色 (10YR5/6) 土
- 9 暗褐色 (10YR3/4) 土 (炭・焼土粒含)
- 10 褐色 (10YR4/6) 土
- 11 黄褐色土
- 12 暗褐色 (10YR3/4) 土 ※柱穴
- 13 灰黄褐色 (10YR3/3) 粘土 (Mn沈着顕著)
- 14 灰黄褐色 (10YR3/3) 粘土 (粘質強)
- 15 黄褐色 (10YR5/6) 粘土

第2図 調査区全体図 (1/80)





第3図 溝1 (1/30)・出土遺物① (1/4)



第4図 溝1出土遺物② (1/4・1/3・1/2)

き沈線を施している。蓋形土器はいずれも内面に煤が付着している。

石器は凹石、サヌカイト製のスクレイパー等である。百・前・IIと考えられる。

溝2 溝1と1.7mほどの間隔を置きほぼ平行する溝で、調査区南東端で検出した。溝1と同様に北端が溝3により削平されている。検出最大幅は85cm、最大深さ60cmを測り、U字形の断面をなす。溝底部レベルは海拔1.5m付近である。埋土は溝1と同様に2層に分離でき、第1層中に焼土、炭を多く含み土器片の出土もこの下層中からが多い。

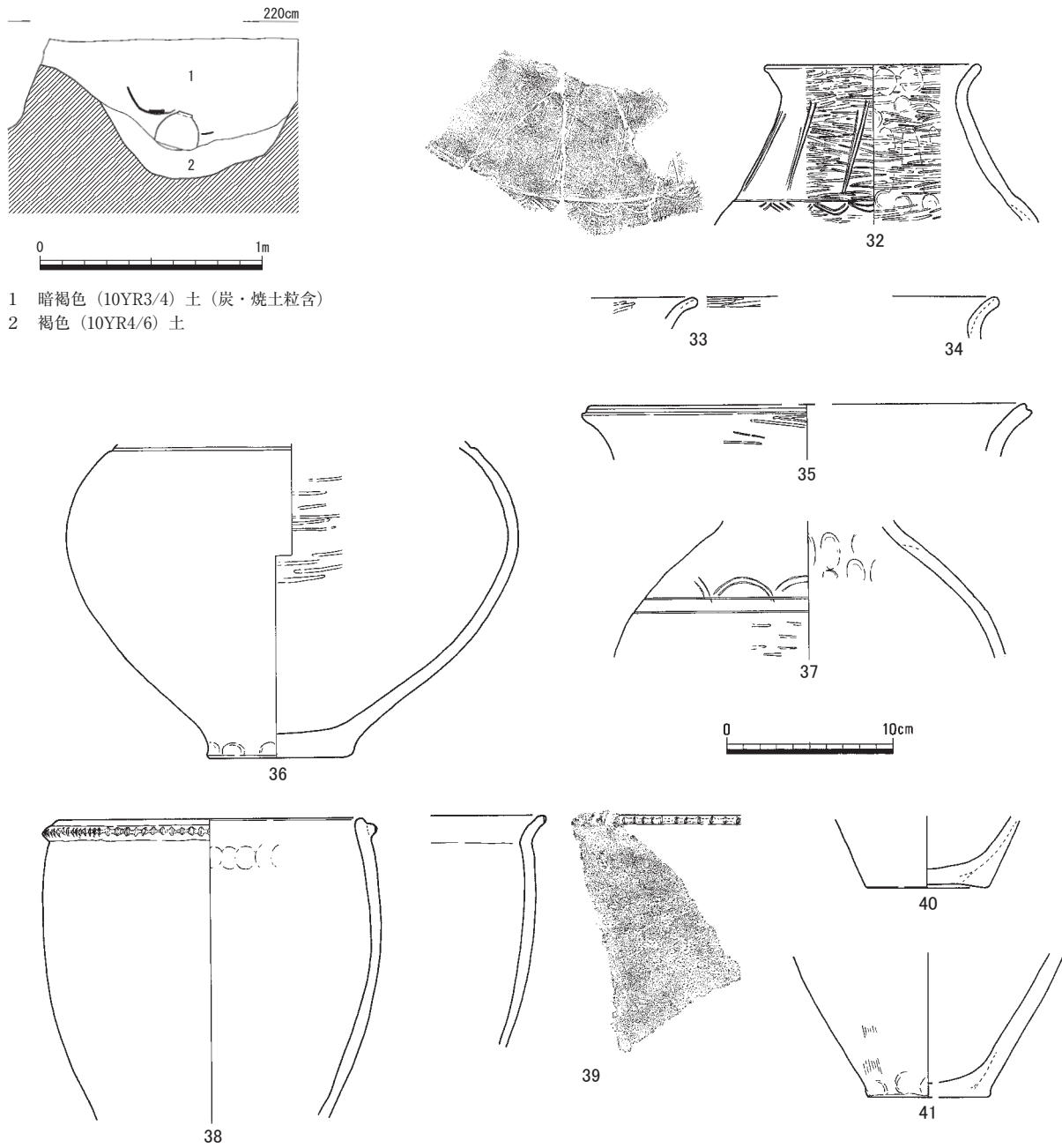
32～37は壺形土器、38～41は甕形土器である。壺形土器32は体部に段を有し段を境に上に3本単位の縦方

向の、下に重弧文の沈線を施す。内外綿ともにヘラミガキが顕著である。37は体部に2本の沈線とこの上部に重弧文の沈線を施す。36も体部に沈線が認められる。甕形土器38は口縁部に貼り付け突帯を突帯面にヘラ刻み目を施す。39は無帯で口縁端部に刻み目を施す。

石器はサヌカイト製のスクレイパーが出土している。百・前・IIと考えられる。

溝3 調査区北東端で検出し、溝1・2を削平し直交する。北側肩が未検出で微高地端部の段状遺構の可能性もある。断面は途中に段をなし平坦な底面である。最大深さ55cmを測り、底部レベルは海拔1.55m付近である。埋土は2・3層間にマンガンの集積が顕著であった。

壺形土器42は溝2・3の交点出土で頸部に2本の沈

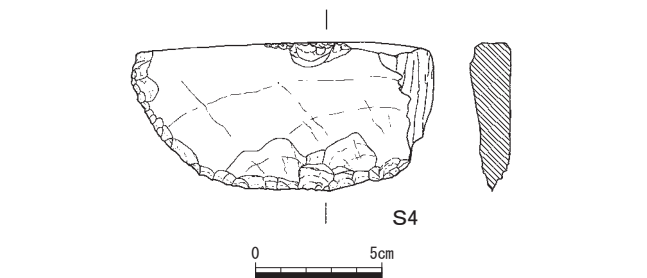


1 暗褐色 (10YR3/4) 土 (炭・焼土粒含)  
2 褐色 (10YR4/6) 土

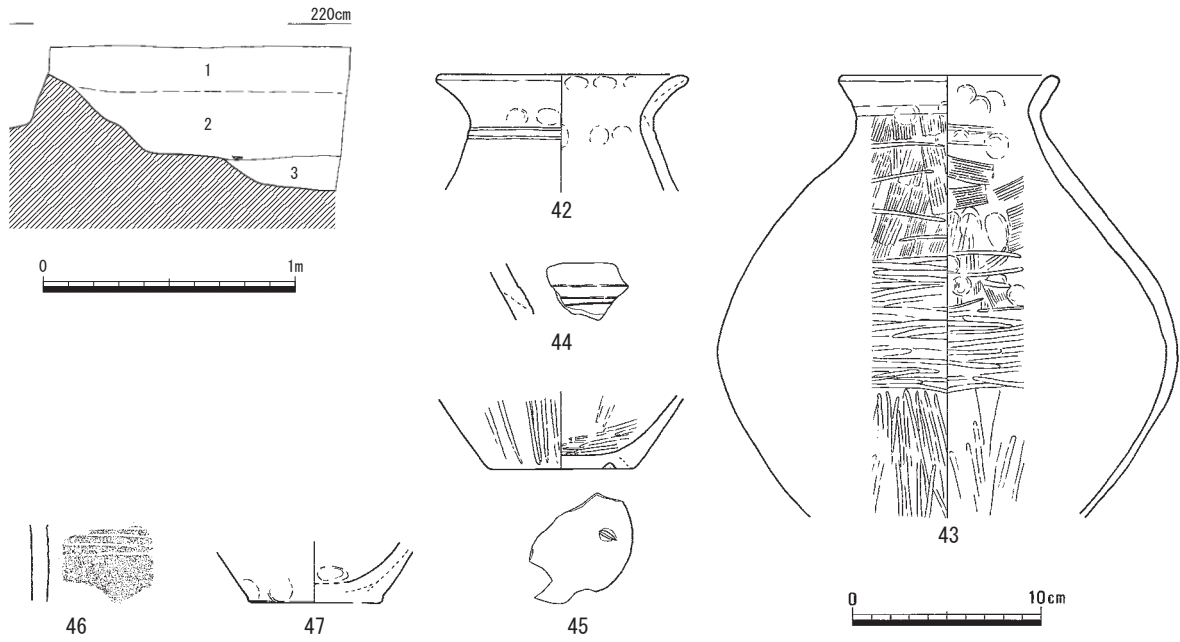
第5図 溝2 (1/30)・出土遺物 (1/4・1/2)

線を施す。44は削り出し突帯である。甕形土器46は櫛描き沈線か。45の底部には粉痕がある。出土土器に弥生時代前期以外は認められないものの、遺構の新旧や埋土の堆積状況等から弥生時代前期以降の後期までの範囲と考えられる。

その他の出土遺物 検出中や掘り下げ等の出土で所属の不明確なものを掲載した。いずれも弥生時代前期の遺物である。ただ48～50・52・56・60は溝1と3の交差した付近からの出土でいずれかの遺構に属す土器である。



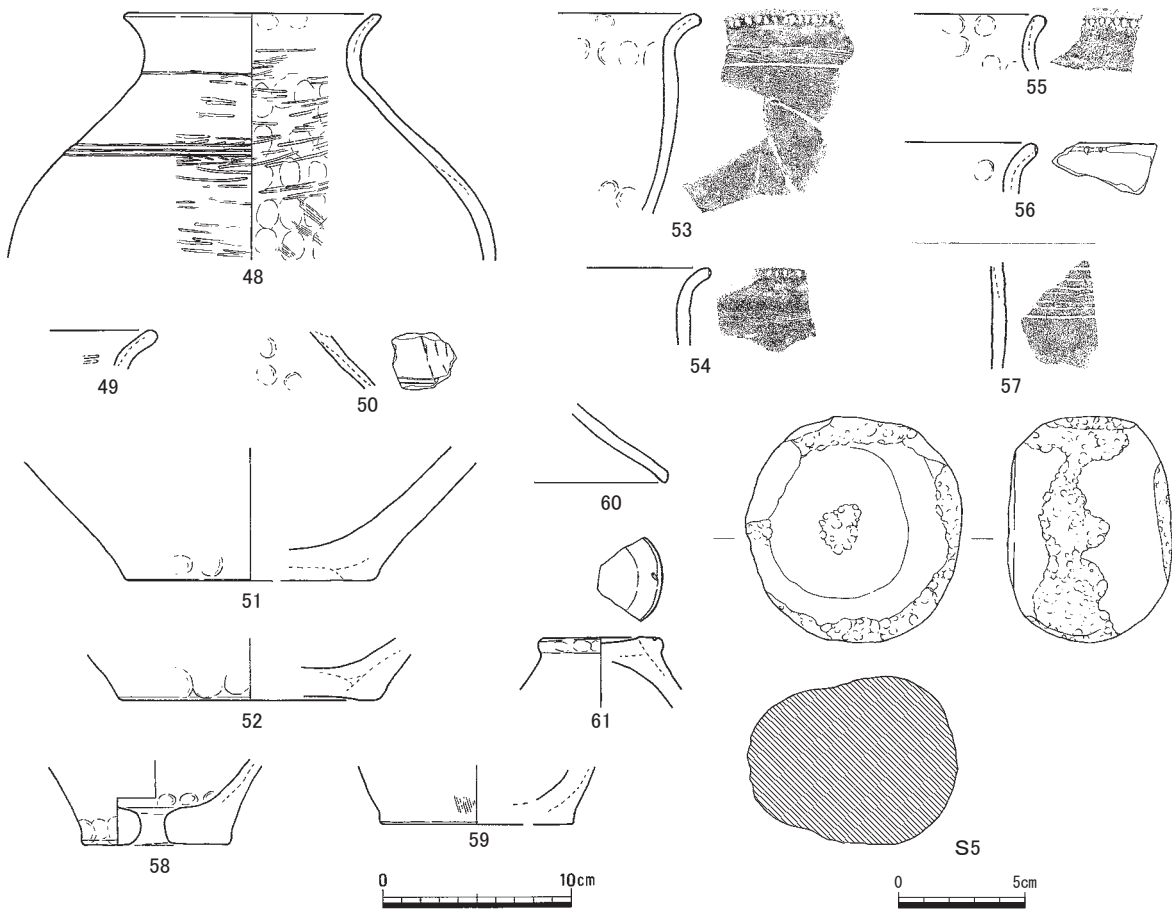
壺形土器48は頸部に段を有し、体部に3本の沈線を施す。内外面にヘラミガキが認められる。50は体部上半に縦方向のヘラ描き沈線を複数施している。58は底部に焼成後穿孔がある。甕形土器53～56はいずれも外反



第6図 溝3 (1/30)・出土遺物 (1/4)

する口縁部をなし端部に刻み目を施す。53はヘラ描き沈線を体部上半に1本施す。頸部付近の横方向のハケメが顕著である。57は現状で7本の櫛描く状の沈線が認

められる。60・61は蓋形土器の天井部と裾部で、61の天井部上面に糊痕がある。敲き石S5は周囲および側面に使用の痕跡が認められる。(山磨)



第7図 その他の出土遺物 (1/4・1/3)



1 調査地（南東から）



2 調査区全景（北西から）



3 出土遺物

# 紀 要

第3号

令和6年3月21日 印刷

令和6年3月21日 発行

発 行 岡山県古代吉備文化財センター  
岡山市北区西花尻1325-3

印 刷 株式会社印刷工房フジワラ  
岡山市北区丸の内2-11-18